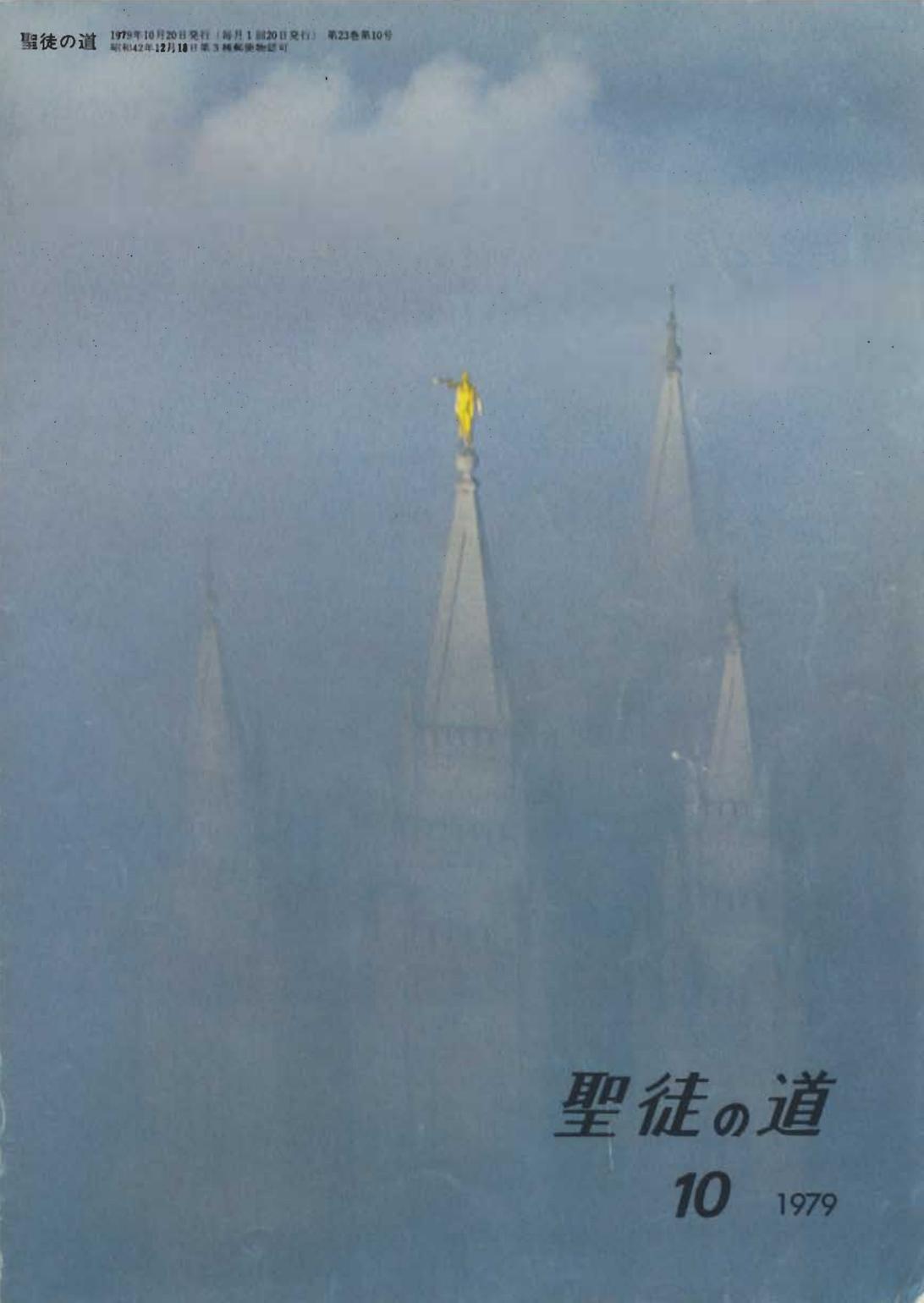


聖徒の道

1979年10月20日発行（毎月1回20日発行）第23巻第10号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可



聖徒の道

10 1979

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト
ジェームズ・E・ファウスト

顧 問

M・ラッセル・バラード・ジュニア
レックス・D・ピネガー
ヒュー・W・ピノック

教会誌編集主幹

M・ラッセル・バラード・ジュニア

国際機関誌

ラリー・ヒラー (編集主幹)
キャロル・ラーセン (編集副主幹)
ロジャー・ギリング (デザイナー)

「聖徒の道」

赤松成次郎 (翻訳部長)

聖徒の道 10月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30
印刷所 株式会社 精興社
配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4-9-19
定 価 年間予約1,700円 1部300円
海外予約1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE PBMA 0620 JA Printed in Japan

郵便振替口座番号 東京0-41512

口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

悪に対して家庭を堅固に築く……	スペンサー・W・キンボール……	2
「だって、お父さんが 教えてくれたんだもの」……	ポール・H・ダン……	7
家庭は教育の場である……	G・ホーマー・ダラム……	12
神の王国……	L・トム・ペリー……	15
幸福を求めている方々へ……	N・エルドン・タナー……	19
まことの教会のしるし……	マーク・E・ピーターセン……	28
霊性を培う……	ハワード・W・ハンター……	33
王国の家族の受け継ぎ……	ロイデン・G・デリック……	37
キリストの模範に従う……	ハートマン・レクター・ジュニア……	41
今日は犠牲の日……	エズラ・タフト・ベンソン……	46
主の軍勢……	トーマス・S・モンソン……	51
個人と家族の経済的な備え……	フランクリン・D・リチャーズ……	56
主に頼りなさい……	マリオン・G・ロムニー……	59
「神の武具で身を固めなさい」……	N・エルドン・タナー……	64
教会で奉仕するための備え……	スペンサー・W・キンボール……	69
私たちの教会、 末日聖徒イエス・キリスト教会……	マリオン・G・ロムニー……	73
金をふきわける者の火……	ジェームズ・E・ファウスト……	77
個人の決意……	ジェームズ・M・パラモア……	81
「わたしの羊を養いなさい」……	デビッド・B・ヘイト……	85
ベテロは外に出て激しく泣いた……	ゴードン・B・ヒンクレー……	89
進歩を阻む障害……	マービン・J・アシュトン……	93
みたまは生命を与える……	ローレン・C・ダン……	97
愛が必要である……	セオドア・M・バートン……	101
私のことじゃないのよ……	マリオン・D・ハンクス……	104
「あなたがたはキリストをどう 思うか」「あなたがたはわたし をだれと言うか」……	ロバート・D・ヘイルズ……	108
「うわべて人をさばかないで」……	ボイド・K・パッカー……	112
より高い地点に向かって……	スペンサー・W・キンボール……	116
教会の評議会……	N・エルドン・タナー……	121
評議会による教会管理……	エズラ・タフト・ベンソン……	123
実務面の計画と優先順位……	ビクター・L・ブラウン……	128
一切の生くる者の上に自立せん……	ブルース・R・マッコンキー……	133
教会福祉の基本……	マリオン・G・ロムニー……	136
福祉活動の原則を適用する……	スペンサー・W・キンボール……	141

表紙の説明

雲間に見えるソルトレーク神殿のモロナイ像

末日聖徒イエス・キリスト教会 第149回年次総大会報告

1979年3月31日、4月1日の両日、ユタ州ソルトレーク・シティー
のテンプルスクエアにあるタバナクルにおいて催された大会の報告

1836年、予言者ジョセフ・スミスは主に向かってこう祈った。「主よ、汝のすべての教会員を、そのすべての家族と直接縁故あるものと、すべてその病める者と、苦しめる者と、またすべて世の貧しき者柔かなる者たちと共に憶えたまい、以て汝が手を用いずして建てたまいし王国が大いなる山となりて全地を充たさんことを。

また、汝の教会暗き荒野より出で来て、月の如くうららかに、日の如くあざやかに輝き出で、旗指物を持ちたる軍勢の如く怖るべきものとならしめたまわんことを。」(教義と聖約109:72-73)

大いなる予言の展望と教会の使命に関する象徴的な記述がことのほか増加している状況にあって、スペンサー・W・キンボール大管長は教会の指導者や会員たちに、1979年4月の総大会への参加を呼びかけて、こう評された。「教会はすでに成長と円熟の域に突入し、私たちがさらに前進を遂げるために最後の準備をする時に来ている。このような印象を私はどうしても拭い去ることができない。これまでに数々の事項が決定されてきた。またほかにも懸案事項が残されているが、それもやがて組織的に明確にされてくることだろう。しかし、私たちがひとつの民として前進を遂げるために必要な基本的決定は、教会員一人一人が行なわなければならない。」

このキンボール大管長の言葉は、大会での発表によってはっきりと裏付けられた。評議会によって運営される教会政体について、福祉部会で包括的な説明が行なわれた。(p.141

参照)すなわち、教会の必要をさらに的確に満たすために、教会指導者の地区、複合地区、地域評議会が設けられた。

大会のすべての部会はキンボール大管長によって管理され、また大管長会のふたりの副管長、N・エルドン・タナー第一副管長およびマリオン・G・ロムニー第二副管長も司会者を務めた。大会には、教会幹部全員が出席した。

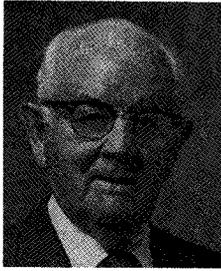
大会は、3月31日(土)、4月1日(日)の両日、テンプルスクエアのタバナクルで開かれ、25名の教会幹部が話をした。

大会の様子は、合衆国とカナダのテレビ局180局、7局のテレビ衛星中継放送、800の有線テレビ放送、さらに2局の有線ビデオテープシステムを使って放送された。また、ラジオ放送は中南米74局、合衆国65局、オーストラリア44局、ニュージーランド30局、さらに電話回線を使って合衆国の567カ所の礼拝堂に流された。ヨーロッパではフランス語、ドイツ語、オランダ語で81カ所の礼拝堂に放送され、合衆国内でも5カ所の礼拝堂でスペイン語の放送を聴くことができた。そのほかFM放送局7局から放送された。さらに、神権部会については、合衆国をはじめ、カナダ、プエルトリコ、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、韓国の1599カ所で電話回線による放送が行なわれた。

また、2日間にわたる一般大会とは別に、3月30日(金)に教会本部ビルで地区代表セミナーが催された。(詳細については、p.147参照)

悪に対して家庭を堅固に築く

現在、悪の軍勢が私たちを取り囲んでいる。私たちは信仰と日常生活を切り離して考えることはできない情勢にある



大管長
スベンサー・W・キンボール

愛する兄弟姉妹の皆さん、このように主の教会、末日聖徒イエス・キリスト教会の大会を開催するにあたり、心からの愛と感謝の気持ちを皆さんにお伝えしたいと思う。これは、神が定めたもうた世界大会である。

私は、全世界のすべての聖徒、数限りない友人、ならびに福音を求めておられる方々に私の祝福を送り、歓迎の言葉を述べたいと思う。それと同時に、全世界の心の正しい人々が私たちの主であり救い主であるイエス・キリストを礼拝する場に、私たちと共に加わって下さるようお招きする次第である。

前回ソルトレーク・シティのこのテンプルスクエアで総大会が開かれてから、この6カ月間に、主の王国は著しい発展と成長を遂げた。神殿の儀式を行なうために、ブラジルのサンパウロで南アメリカ最初の美しい神殿が献堂され、さらにユタ州のローガン神殿が主のみ業のために再献堂された。

そして現在、さらに5つの神殿が建設中であり、ほかにも各地に神殿を建てる計画が進められている。これはすべて、末日の予言者たちが、やがて聖なる神殿がこの地だけでな

く、世界各地に建てられ、主のみ業が確立されると述べた予言を成就するものである。

宣教師の数も増加の一途をたどり、現在、約28,000人の宣教師がいる。ユタ州を初めとする世界各地には、監督が召すならば専任宣教師として十分にその責任を果たせる、ふさわしくかつ有能な兄弟、姉妹が何万といる。しかもこれらの宣教師が皆様に若い男性、女性であり、その数は年を追って増えている。彼らは、それぞれの伝道地で2年間、最も価値ある非利己的な奉仕活動に就き、回復されたイエス・キリストの福音のメッセージを世界の国々に携えて行くのである。その数は驚異的である。しかし私たちはそれで満足してはならない。宣教師がもっと必要である。働き手は全世界でますます大勢必要となってくるであろう。

新しい伝道部が設立され、教会は自由世界のほとんど全域を覆うようになった。また現在私たちは、いわゆる鉄のカーテンや竹のカーテンの背後に住む天父の子供たちに福音を宣べ伝える日の来るのを心待ちにしている。私たちはその日のために備えをする必要がある。その準備を急がなければならない。その日は、予想以上に速やかに訪れることだろう。

現在教会では、毎年約100のステーク部が新設されている。これらのステーク部はそれぞれ幾つかのワード部や支部から成り、地元の教会員によって管理されている宗務上のユニットである。数週間前に、私たちは1,000番目のステーク部を教会歴史ゆかりの地、イリノイ州のノーグーに設立した。

兄弟姉妹の皆さん、私はこのような統計にはっきりと見られる全世界のシオンの進歩と発展を非常にうれしく思っている。会員数は

400万を越え、多くの人々が続々と教会に入っている。また神殿が建設され、方々の地に人々の礼拝する集会所が建てられ、青少年や成人のために充実した教育と訓練のプログラムが実施されている。

さらに教会福祉プログラムの伸展と共に、貧しい人々を助けるための監督の倉庫や生産工場も新たに建てられている。救い主は教会の初期の時代から、貧しい人々に手を差し伸べるように命じ、その責任を私たちに課せられた。そして、その責任を果たす方法までも示して下さった。それは、困っている人々に働く機会を与え、社会復帰の必要がある人々に指針を与えることによって、個人の自立を促すプログラムである。ほかにも数多くの点で、私たちが訪れる各地の教会の著しい発展を目にすることができた。私たちはそのことを非常に喜んでいる。

各神権定員会は着実に会員を増やし、補助組織も、特に教会の子供たちや青少年、女性たちの間で多大な貢献をしている。

このような発展があるならば、私たちはもっと喜んでよいはずである。しかし、不幸にも私たちはまだ、「シオンの中では万事よろしい」と宣言するほどにはなっていない。この悪のはびこった世の中であって、私たち末日聖徒までも強力な悪魔の軍勢の攻撃にさらされていることを、私たちはよく知っている。しかも悪魔の最大の関心事は、私たちの家庭と家族を崩壊させることである。

私たちはこれまで教会員に呼びかけ、繰り返し、家の内外、納屋、物置き、垣根、仕事を美しくするように、また私たちが住んでいる地域社会を魅力的で住みよい町にするように述べてきた。また、樹木やかん木を植え、家庭菜園を造り、敷地を美しくし、さらに食物の必要を満たすようにと、呼びかけてきたが、ここでもう一度皆さんにそのことをお勧めしたいと思う。また皆さんがこの呼びかけに喜んで応えて下さり心から感謝している。このことを実践しているという便りもたくさ

ん寄せられており、私はそのような方々を誇りに思っている。

現状に満足してはならない。継続していただきたい。そして、家の外観をきれいにすることに加えて、家の内部にももっと気を配るように皆さんにお願いしたい。それも、ただ部屋の中や家具をきれいで魅力的にしたいというのではない。もちろん、そのことも大切かもしれないが、私が申し上げたいのは、家族一人一人の清さと霊性、またその家庭内にただよう家族の雰囲気、に気を配るようにしてほしいということである。

教会は長年、絶えず子供たちに関心を寄せてきた。時間と精力と資材を投じて子供たちの育成にあたってきた。そのことはだれの日にも明らかである。そして今後も、私たちは家族を強め、子供たちに祝福を与える方法を求め続けるだろう。この決意は今年も、またこれから後も持ち続け、さらに強めて行くつもりである。

教会はまた、このような有益な目的を正しい方法で達成するために、大勢の人々が関心を示して下さることを非常に喜んでいる。しかし、繰り返し申し上げるが、私たちが自分の子供たちに与えることのできる最大の祝福、しかも全世界の子供たちに広めることのできる祝福は、主の方法によって子供たちを教え、訓練することからもたらされるのである。

家庭生活、家庭における正しい教育、両親の指導、これこそ世界を悩ます難病から子供たちを救う特効薬である。それは、人々の霊的、情緒的な病気を癒し、問題を解決してくれる。両親は、子供たちの教育を決して他人に委ねてはならないのである。

しかし、近年この責任を学校や教会などの外部の力、さらに心配なことには、種々の養育施設に転嫁しようとする傾向が見られる。確かに、このような外部の力も重要かもしれない。しかし、母親や父親の影響に代わることは決してできないのである。家庭を完全に保つために、また主の方法によって子供た

ちに祝福を授けるために、常日頃から子供たちを訓練し、注意を払い、よく交わり、子供たちを見守る必要がある。

そのことは教義と聖約の中にはっきりと述べられている。子供を教えるのは両親の責任である。その他はすべてそれを補うものでしかない。自分の子供たちを正しく教えない両親は、責めを負うことになる。

私たちは、家庭と家族を堅固にして、離婚や家族の崩壊、妻子に対する虐待や残忍な行為、いわゆる家庭内暴力から家族を守る必要がある。さらに、老若を問わず家族の貞節を失わせる不道徳やポルノ、性の解放などと戦っていかなければならない。

このような邪悪はすでに由々しい現実の問題として、人々の脅威となっている。新聞や雑誌の見出しに目を通すだけで、私たちを取り巻く破壊力の大きさを知って身震いを覚えるほどである。

私の声が警報機のベルのように聞こえるかもしれない。それは、私がこれまでそのような警告を受けてきたからである。私はこのことを非常に心配している。恐らく、副管長や十二使徒評議員会をはじめとする他の教会幹部の方々も同じ意見であると思う。

もし皆さんがこれから家に戻って、窓や戸を閉め、しっかりと鍵をかけてこのような邪悪を閉め出すことができるならば、事は簡単である。

しかし、そのような防衛手段では、私が今述べているような邪悪に抗することはできないのである。悪の力はラジオやテレビの電波に乗って家庭に侵入してくる。しかも、これらの軍勢は、私たちが行く先々に見受けられる。肉体を露出することが今では当たり前になっている。しかもそれが学校をはじめ、公園、劇場、会社、マーケット、どこを見てもあふれている。日々の生活の中でこれから逃れられる所はほとんどないような状態である。

それに対して、私たちはどのような助けを与え、何をする必要はあるだろうか。まず家

庭の中に悪の力が侵入することに絶えず注意を払い、病原菌や細菌をできるだけ撲滅してしまうことである。私たちは自分の心からそのような邪悪を閉め出し、世の汚れを一掃し、それらが人を焼き尽くす大きな炎となる前の種火の間に消してしまうことである。

このような恐るべき悪魔の攻撃を回避し、私たちを取り囲む破壊の力に対して堅固な防備を固め、家庭と家族を守るためには、この家族の計画を考案し、組織立てて下さった創造主御自身の助けを得る必要がある。確実な方法はただひとつしかない。すなわち、主イエス・キリストの福音を受け入れ、しかもその靈感された深遠な教えに忠実に従うことである。私たちは、このような邪悪の力から家族を守るには、神の戒めに従うしかないことをはっきりと自覚する必要がある。

結婚、特に誉れある結婚は神の定められた制度である。神は、家庭が社会の基本単位であるように定められた。しかし、私たちが気を付けなければならないのは、現代の教育、文化が神の定められた計画から逸脱しつつあることである。

主はこの靈感された計画をこう宣言しておられる。

「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ1:39)

またヘブル人への手紙にはこう記されている。「すべての人は、結婚を重んずべきである。また寝床を汚してはならない。神は、不品行な者や姦淫する者をさばかれる。」(ヘブル13:4)

このようにして、「昨日も今日も、いつまでも同じに」(モルモン9:9)まします主は、この神聖な計画に従い、子供をもうけ、育てるように、いつの時代にも人々に求めてこられたのである。

この福音の神権時代の初期に与えられた次の聖句も、時の初めに教えられた基本的な教えを繰り返すものであり、その教えは今後も

時の終わりに至るまで存続することだろう。

「また、シオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親あらば、その子供八才の時、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば、罪その両親の頭に留るべし。」(教義と聖約68：25)

私は8歳という年齢をもう一度強調しておきたい。私たちは、彼らが青少年になる時代や、彼らが自分で神の律法を教えられるようになるまで待つ必要はない。彼らは8歳の時に、あるいは8歳になるまでに、バプテスマと確認の儀式についてすべてを理解する必要があるのである。

この命令はシオンに住む者たちに与えられた律法である。単なる希望や提案ではない。今日、シオンのステーキ部は世界各地の民の間にますます広がっている。したがって、その責任もまた、かつてないほどに大きくなっていく。

主は、シオンに住む両親たちに、繰り返しこう勧告しておられる。

「また両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず。」(教義と聖約68：28)

この戒めはただ単に祈りのことだけを述べているのではない。教会のすべての教義、また生活自体を表わす言葉である。

子供を教えるようにという命令は、子供をもうけるようにという命令とまったく同等の力を持っている。神はエデンの園でこう命じられた。「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。」(創世1：28)

この神聖な結婚生活を腐敗させ、破壊する要因が利己主義である。利己主義は個人の生活だけでなく、すべての善を破壊する。結婚した夫婦が健康であるにもかかわらず、子供をもうけようとしないのは、極めて身勝手な行為である。母親の命を危うくするような重大な理由がない限り、墮胎をすることは殺人に

次ぐ大罪である。

これまでも機会あるごとにしばしば述べてきたように、天父の子供たちの中に、姦淫、私通、同性愛、墮胎、アルコール中毒、不正直、その他諸々の犯罪を含む恐るべき罪が蔓延しつつあることを、天父は確かに嘆いておられる。このような罪は間違いなく、家族と家庭の崩壊を招くものである。

愛する若人の皆さんに、結婚生活に伴う責任についてもう少し述べておきたいと思う。生涯の伴侶を選択したならば、適切な時に、若人は聖なる神殿で結婚し、家族を持つようにすべきである。教育を終え、有益で誉れある、しかも価値ある仕事に就き、また自分自身を家族と福音と教会に捧げるようにしなければならない。

永遠の結婚について私たちが語っていることは私の独断的な考えではないし、今日の教会の指導者の考えでもない。これは神の言葉であり、他のいかなる人々の考えをも凌駕するものである。

世の退廃した地域では結婚に反対する人々が増大し、また結婚しても子供をもうけようとしない夫婦も急激に増えている。そして次の過程として、「なぜ結婚するんだろう」と彼らは疑問を持つ。さらに「反結婚革命」なるものが人々にもはやされるようになる。子供は重荷だ、かすがいだ、責任だといった論議が展開される。そして、多くの人は教育を受け、制約や責任のない生活を送ることこそよい生活であると信じている。不幸にも一部の末日聖徒は、このような暗愚で退廃的な考えに染まりつつある。

結婚は神が定めたもうた制度である。結婚は欠くことのできない、喜ばしい制度である。それは不変の真理であり、たとえ挫折する結婚生活がどんなに多くても、結婚の正当性を変えることはできない。

私たちが永遠の結婚をし、無上の幸福を破壊するものから家族を守ろうとする時、主は決して私たちが孤独のまま放置なされないこ

とを覚えておいていただきたい。

主は私たちが艱難や苦難に遭わないようにしようとは約束して下さっていない。むしろ、私たちに祈りという交通の手段を与え、私たちが謙遜に神の助けと導きを求められるようにして下さっている。つまり、私たちが祈りの家を築けるようにして下さっているのである。以前にも申し上げたように、静けさの中で神のみ声を聞くことのできるような人生の深みに到達した人は、苦難の嵐の中にあっても落ち着いて前進できる安定した力を持っている。そのことを、ハロルド・B・リー大管長は次のように述べている。「照明の光を受けた神殿はひどい嵐や濃い霧の中ほど際立って美しく見える。それとまったく同じように、イエス・キリストの福音も、心の悩みや個人的な悲しみ、苦しみが深い時ほど一層輝きを増すものである。」(Conference Report 「大会報告」1965年4月, p.16)

今日ほど、私たちを神と深く結びつけ、親しい交流の道を開いてくれる祈りを必要としている時はない。いかなる人も、生活に追われ忙しいからと言って、祈りや熟考をする時間がないということはないはずである。祈りは霊的な力を得るためのパスポートのようなものである。

世界の歴史の中で今日ほど、主の健全かつ神聖な教えをよく理解し、私たちの生活や隣人との交わりの中に生かしていくことが必要とされている時はないと、私は感じている。今、私の声に耳を傾けている皆さんに、「主を失望させてはならない」と申し上げたい。福音の原則は試行段階のものではない。現実私たちが守っていかなければならない原則である。古代や近代の予言者を通して明らかにされてきたイエス・キリストの教えは、いつの時代にも一貫した不変の原則である。

人類の歴史は、これらの教えが真実であることをはっきりと告げている。人類が正義と邪悪の間を往来する時に文明は栄枯盛衰を繰り返している。このことは、人々が救い主の

神聖な教えに耳を傾ける必要のあることを物語っている。私たちは個人として、また教会として、なお一層自己の備えをして、無神論や不信心のはびこる世から福音の真理を守るようにしなければならない。私たちは、理屈ですべての答えを割り出そうとするいわゆるインテリに反対するものである。また私たちは、権力と世の富におぼれ、善悪の感覚が麻痺してしまっている人々と断固戦ってゆかなければならない。

キリストのまことの教会の会員である私たちは、今こそしっかりと立って、文字通り神の子供である人類の権利と威厳を守ることが必要である。私たちは信仰と日常生活を切り離して考えることはできない。正義こそ、私たちの生活や家庭を貫く原則とならなければならないのである。

私たちはキリストへの愛を育み、神の王国の建設のために完全な忠誠と奉仕を捧げなければならない。これは私たちに不可欠である。善良なクリスチャンであるためには、自分が住む国の良い公民であることが必要である。隣人との交わりの中で常に人々から尊敬され、愛される人とならなければならない。心から主を礼拝し、主の戒めをすべて守る必要がある。また、自己の資質を伸ばし、世の人々が正義と神の純粋な愛に立ち返るように感化を与える必要がある。

願わくは、主の祝福が皆さんの家庭と家族の上にあって、なお一層神に近づき、神の戒めを守ることができるよう、イエス・キリストのみ名によりへりくだり祈るものである。アーメン。

「だって、お父さんが教えてくれたんだもの」

私たちが神のみ手に委ねようとする時、主はその問題を解決できるよう手助けをしたいと待っておられるのである



七十人第一定員会会長
ポール・H・ダン

世 界中の数百万の人々が、キンボール大管長を主の予言者として支持し、「感謝を神にささげん、予言者の導き」（讚美歌170番）と歌う。長い歴史を通じて、これまで予言者は私たちのために数多くのことをなしてきた。そしてスペンサー・W・キンボール大管長もまた実にその予言者のひとりであることを私は証したい。

長い間私は人々を観察してきた。私は人を観察するのが好きであり、多くの人々に興味を抱いてきた。皆それぞれの顔に教訓を秘めている。にこにこ顔、しかめっ面、怒った顔、穏やかな顔、不愉快そうな顔、満足した顔、丸顔、角顔、卵形の顔、えくぼのある顔、美しい顔、不器量な顔、目立つ顔、平凡な顔、年寄の顔、若々しい顔などいろいろある。

誕生日を迎えた少年の顔、婚約したばかりの若い男女の顔、初めて子供を抱く夫婦の顔、息子や娘の卒業式に出席した誇らしげな両親の顔、金婚式を迎えた夫婦の顔、これほど生き生きとした顔がほかにあるだろうか。

またおかしな顔もある。風船ガムが破裂して、顔一面にガムがくっついた6歳の坊やの

顔、一晩にふたつのデートの約束をして困っている少女の顔、何も知らずにさやのついた豆をそのまま煮る花嫁の顔、子供の名前を呼んで捜し回る親の顔、そして歯が抜けてしまったおじいさんの顔。

しかし、人々の心を動かさずにはおかない顔もある。転校してきたばかりで友達もいなくてさびしそうな中学生の顔、初めての子供を亡くした夫婦の顔、親のいうことを聞かない子供に手を焼いている両親の顔、訪れる人のいない老人の顔、熱心に神に祈っている子供の顔。

顔、これほど多くのことを語ってくれるものはない。そこには物語がある。ここで顔について、私のささやかな経験をお話したいと思う。

ある日、私は子供たちとの対話を放送するラジオ番組の録音をしていた。スタジオには、5、6人の子供たちがよそ行きの新しい服を着て集まっていた。私はひとりずつ対話を始めることにした。聴衆に受けるように子供たちとのやりとりの中におもしろさを出していかなければならない。最初の相手は、5歳の女の子だった。彼女をひざの上のせてこう言った。

「どう、教会は好きですか。」

「ううん。」

「どうして。」

「つまらないもの。」

私はその子をおろして言った。「次の人、どうぞ。」

これ以上家庭のことを詮索するのは良くないと思ったからである。それから2、3人の子供たちと話をした後、最後にドアをあけて入ってきたのはよちよち歩きの女の子であった。

きちんとアイロンのかかった洋服を着たその子は本当にかわいかった。その子がスタジオに来るまでに母親はその仕度でどんなに忙しかったかはお察しいただけると思う。なんという汚れを知らない顔をしているのだろう。私はその子を抱き上げて尋ねた。「名前は何ですか。」

「コリー」

「いくつですか。」

「3つ」と指を出してみせた。

ほかの子供たちにいろいろな質問をしたので、もう尋ねることがなかった。そこで私は言った。

「何か歌を知っていますか。」

「うん。」

「じゃあ、何か歌ってくれますか。」

「うん。」

すぐにその子は、初等協会の歌を何曲か歌ってくれた。そして最後に「わたしは神の子」歌ってくれたのである。皆さんはどのように思われるか知らないが、私は何とも言えない愛を感じた。ガラスの向こうでは、放送技術者たちが涙を押さえていた。

「コリー、神様を知っているように歌うんだね。」

「うん。」

「まだ3歳でしょう。それなのにどうして神様を知っているの。」

その子は私をじっと見て言った。その答えを私は一生忘れないであろう。

「だって、お父さんが教えてくれたんだもの。」

「家庭における父親の影響のなんと大きなことか」と私は思った。

「それじゃ、イエス様は知ってるかい。」

「うん。」

「イエス様ってだれのこと。」

「私たちの一番上のお兄さん。」

「イエス様が好きかい。」

「うん。」

「どうして。」

「だって、イエス様はみんなのためによいことをしてくれたんでしょ。」

「イエス様は何をして下さったの。」

コリーはすぐに答えた。「死んでくれたの。」

「なぜ死んで下さったのかな。」

するとコリーは、「おじさん、そんなことも知らないの」と言わんばかりに答えた。

「私たちがもう一度生きられるようにでしょう。」

何と驚くべきことであろうか。

33歳や53歳の大人に理解できないようなことをわずか3歳の子供が知っている。まさに驚異である。その子は、父なる神がこの世においても私たちをお忘れになっていないことを話してくれた。天父は、宇宙のはるかかなたに隠れて、さも自分には関係ないかのように人間の行ないを見ておられるのではない。

しかし、大勢の人々はそのように考えている。大勢の人々には、神が宇宙を創造し、何十億という人を地球に住ませ、しかもその一人一人に起こる事柄を詳細にわたって心をかけておられるということが信じられないのである。彼らはまた、自分たちがそれほど大切なのだと信じられないので、自分を万物の創造主に託すこともできないのである。

私は神が生きておられ、私たちを心にかけて、一人一人を個人名で知っておられることをはっきりと申し上げる。多くの人々は、子供から大人へと成長する過程で、子供の時の純粋な信仰をどこかへ置いてきてしまう。一体だけれが、あの目の輝きを取り去ってしまったのだろう。そしてなぜほとんどの人は曇った目でしか世の中や自分の立場を見なくなったのだろうか。自分には耐えられないと思われる不満がつのことがあるかもしれない。また、ささいなことに心を奪われてしまっているからかもしれない。

ある人がこのように言っていた。「時折、素晴らしい話を聴き、精神を鼓舞する書物を読んで、気持ちを奮い立たせるようにしていま

す。そうすると、私の心の中の眠れる獅子が目覚ますように感じられます。

しかし、仕事に行く途中で車がパンクしたり、予期しない高額な請求書が送られてきたり、子供たちが長電話をしたり、会社でだれかが昇進したりするようなことがあると、それまでの良い気持ちはいっぺんに吹き飛んでしまいます。」

私たちは皆、人種や国籍、地位、富に関係なく同じように生活し、生きている。皆、毎日を生き抜くために精一杯努力している。不満や圧力がわずかなこともある。しかし逆に、することが多い割には人に認められていないと感じたりして、どうしても俗世の事柄に心が奪われてしまうこともある。いつもこのように悩まされているわけではないが、これが毎日重なるまさに老朽化したモーターのようになってしまう。先日、近所の家の皿洗い機につまようじがつままって修理代が50ドルかかったという話を聞いたが、まさにそのような状態になってしまう。

本当の悲劇や試練に立ち向かわなければならぬ時がある。人生の光とも言える愛する人を亡くした人もいれば、病にむしばまれている人もいる。私の話に耳を傾けておられる皆さんの中には、生活が苦しく、十分な食物を買えない人がいるかもしれない。ベトナム戦争で捕虜になった青年が脚気からくる痛みで眠れない夜が1カ月も続いたという話を以前に読んだことがある。彼の心が休まるのは痛みがひどくなり、耐えられなくなって気を失った時だけだったという。もしあなたがそのような状態になったらどうするだろうか。

時折、私たちの心にある疑問が生じることがある。私はもっと強くなれなかったのだろうか。もっと何とかできたはずではないか。気づかずに幸福になるチャンスを逃がしたのではないだろうか。このような疑問にどう対処したらよいだろうか。

御存じのように、すでに大勢の人々がこの答えを見いだし、永遠のメッセージとして人

類にそれを伝えようとしてきた。そのメッセージとは、神が実際に生きておられ、イエスがキリストであり、神は末日に御自身を現わし、予言者を通して今も人々に語りかけておられるということである。私たちは今朝、その予言者の話を聴いた。私たちは近代の予言者を通して、真理と神の原則を知ることができる。私たちが生活を正しく営めるように助け、人生を意義付け、指示を与える原則である。これらの原則に従って生活する時、私たちは何ものにも打ち負かされないであろう。

人の心を射し貫く神の鋭い眼の前には、だれも自分の本心を覆い隠すことはできない。皆さんがだれであろうと、どのような人であろうと、もし望むならば、神はそのままを受け入れて下さるであろう。

ウェリントン公爵は、ワーテルローの戦いでイギリスが勝利を収めたのはイギリス軍の兵士がフランス軍の兵士よりも勇敢であったからではないと語っている。イギリス軍の兵士の方が5分間だけ長く勇敢であったからに過ぎないのである。

私たち個人の問題についても同じことが言える。すべてが挫折へと傾いている時、その時こそもう5分間勇気を持ち続けること、もう少し熱心に努力してみること、そして決してあきらめないことが大切である。

全身が麻痺していたひとりの青年がいた。手足は全く動かず、死んだも同然であった。動き回るためには、特別製の車に横になり、あごでそれを操縦するしかない状態であった。しかし、素晴らしいことに、彼は決して希望を失わなかった。この若者は動かない足に時折赤い靴下をはいていた。それはあたかも、ハンディキャップに対する彼の挑戦のしるしであり、そのしるしはあたかも車椅子に乗った彼を見る人々に向かってこう叫んでいるようである。「見て下さい。僕は決してあきらめませんから。」

数年前に父は私にひとつの言葉を教えてく

れた。「自分で何度もやってみて失敗するのなら構わない。しかし、一度失敗したからといって、二度と努力しようとしたくないのは大きな問題だ。」皆さんはどうだろうか。私の知っている人の中に笑顔のよいことで評判の女性がいた。彼女はほとんどいつも笑顔を絶やしたことがない。私は彼女に、日々の生活の中でいらいらすることもあらずなのに、どうしていつもそのように明るく振る舞えるのか尋ねたことがある。彼女は次のように話してくれた。「子供の時、大切な手紙を届けようと、有刺鉄線の向こう側に立っていた父のところにかけて行きました。ところが、早く父のところに行こうと思って気ばかりせいたものですから、石につまずき、有刺鉄線の方に倒れてしまいました。そして額から頬にかけて顔を大きく切ってしまったのです。そして、一生消えない傷跡が残ってしまいました。そのために、いつも不機嫌でしかめっつらをしているように見られました。そこで、人々にいつもむずかしい顔ばかりをしていると思われないようにしようと、笑顔をつくることにしたのです。」

どんなに苦しくても、私たちはあきらめてはならない。私たちは怖れを抱く者であっても、逆に人を打ち負かすものであってもならない。心の奥深くで、「私たちはもっと崇高なものに帰属しているはずだ」と呼ぶ声がある。そしてその崇高なものが永遠の家族である。

この地上における私たちの問題は取るに足らない問題であり、主とは関係のないことであると思ってはならない。天文学の進歩に関心のある人ならば、最近科学界で大きな論争があったことを覚えていると思う。この銀河系は天の川の10倍もあり、そこには数十億にのぼる、誕生したばかりの熱い星が散在しているといわれている。主がそれらのすべてを創造し、まさに驚異的な広さの宇宙の隅々まで知り尽くしておられることを考えると、主が私たち人間のささいな苦しみとか問題にま

で関心を示して下さっているとは信じられないかもしれない。

しかし、この地上におけるキリストの生涯の記録が示す通り、キリストは、地上の人々の必要を満たし、怖れを取り除くことに心を砕いて下さった。マリヤとマルタの兄弟であるラザロが死んだ時のことを覚えているだろうか。マリヤとマルタは、悲しみを打ち明け、慰めを得るためにキリストのもとへ走り寄り、そして言った。「主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。」(ヨハネ11:21, 32)ところで、万物には復活があり、ラザロも生き返るということ、イエス・キリスト以上に知っている者がほかにいただろうか。しかしキリストは、ふたりに向かって、「元気を出さない。またすぐに兄弟に会えるだろう」と慰めの言葉をかけてはおられない。聖典には、「イエスは涙を流された」(ヨハネ11:35)と記されている。イエスはこの姉妹の心痛に同情し、涙を流されたのである。それから墓に急いで行き、ラザロをよみがえらせたもうたのである。

また、キリストが群衆に教えを宣べ伝え、奇跡によって、魚とパンで彼らの空腹を満たされたことを思い出しただきたい。その時、主は地を震わせたり、特に高尚なことをされたわけではない。人々が空腹で飢えているのを見て神の力を使って、その必要を満たされたのである。

私たちの煩いや苦難は永遠の計画から見れば針の穴のように小さいことかも知れない。しかし、私たちはそうは思わない。主もそのように考えておられないと思う。明日になれば問題は解決される。明日になれば生活も良くなるだろうといった考えなどはやめてもらいたい。皆さんが主のみ手に委ねようとする時、主は皆さんがその問題を今すぐにも解決できるよう手助けをしたいと待っておられるのである。問題の大小に関係なく、あなたの成長を妨げ、夢を打ち砕くような問題に

ついて具体的に主に祈っていただきたい。門をたたき、求めなさい。そうすれば必ず祈りに答えて下さるはずである。皆さんは神の子供である。したがって、私はそのことをお約束する。神は私たちに必要な慰めと助言を与え、私たちが信仰と希望を持って胸をはり、雄々しく生きてゆけるように勇気を与えて下さるのである。

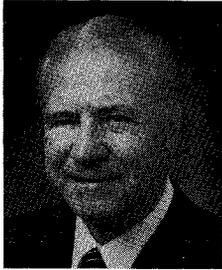
明るい目をした3歳の女の子の言うことに間違いはなかった。私たちが今日の世を立派に生きて行けるのはなぜだろうか。問題を解決して行く力があるのはなぜだろうか。それはコリーの言う通り、「お父さんが教えてくれた」からである。このことをイエス・キリストの聖なるみ名により証申し上げる。アーメン。



七十人第一委員会会長のニール・A・マックスウェル、マリオン・D・ハンクス、ポール・H・ダン、W・グラント・バンガーターの各長老（左より）

家庭は教育の場である

悔い改め、キリストを信じる信仰、バプテスマ、聖霊の賜、祈り、安息日の遵守、忠実に働くことが、家庭教育の基本概念である



七十人第一定員会会員
G・ホーマー・ダラム

主の導きをいただいて、私は今、キンボール大管長がきょうお話しになった、福音を中心とした家庭に求められる基本的な教育についてお話ししたいと思います。

家庭に問題があれば世の中は混乱する。キンボール大管長が述べられたように、末日聖徒イエス・キリスト教会の第一の目的は、家庭を強めることである。家庭と家族は、最も重要かつ影響力の大きい宗教上、教育上の組織である。大学や学校、またそこで働く教師も大切である。しかし、もっと大切なのは、そのような専門の教師を送り出す家庭である。学校の友達も大きな影響力を持っている。しかし、さらに大きな影響力を持っているのは、それらの友達を送り出す家庭である。回復された教会では、家族は永遠に続くものであると宣言されている。福音中心の家庭生活は、私たちがそのような目標を達成できるように助けてくれる。

子供が生後2年間に受ける教育ほど重要なものはない。この重要な期間に身につける仕草、言葉、話し方、表現方法、彼らが見よう見まねで覚えた敬虔さ、親切、あるいは残忍

な心などはすべて将来に影響を及ぼす。家庭ではプラズマ物理学の教育は行なわれない。そのようなことは大学に任せておけばよい。しかし、人間が神の子供であることを自覚するように教える第一の場は、家庭でなければならない。讚美歌の中に、「祈りは子どもも言い得る言葉」（讚美歌176番）という歌詞がある。そのような教えを受けた子供こそ、大きくなって箴言の中に述べられている祝福を刈り取ることができるのである。

「口と舌とを守る者はその魂を守って、悩みにあわせない。」（箴言21：23）

モルモン経の冒頭に述べられた言葉ほどチャレンジに満ち、しかも私たちに多くのことを教えている聖句はない。

「私すなわちニーファイは善い父母から生れたので、父の知っていたすべての学問の中からいくらかの教えを受けた。……

……それはユダヤ人の学問とエジプト人の言葉から成っている。」（Iニーファイ1：1-2）

「父の知っていたすべての学問の中からいくらかの教えを受けた。」私たちの子供はこのような記録を残すことができるだろうか。ユダヤ人の学問では、その子供たちの心に、申命記に記されている予言者モーセの教えを刻むことが要求されていた。

「あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。

きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。」（申命

1775年、ジョン・アダムスはフィラデルフィアで新国家建設の構想をまとめていた時、将来の国の指導者について憂う気持ちを妻のアビゲイルに書き送った。それに対して、アビゲイルはこう返事した。「もし本当に英雄や大政治家、大哲学者が必要ならば、知性のある女性を育てることです。」(ページ・スミス, *John Adams* 「ジョン・アダムス」より) ユタ州ドライバーのクララ・ホーン・パークという人が93歳の時に書いた詩にも同じようなことを言われている。

ピルグリム・ファーザーズ、
その偉業を数々耳にした。
私は思いをはせる。
彼らに飲食を与えたのはだれかと。
彼らが物思いにふけていた時、
子供を静かにさせていたのはだれか。
不思議でならないのは、
だれもピルグリム・マザーズの存在に気づいていないことだ。

私たちは子供に何を教えればよいのだろうか。今朝、大管長が引用して下さったように、主は教義と聖約68：25—30の中で、子供に対する基本的な教育について述べておられる。そのことについて少し考えてみよう。

まず第1は、「悔い改めの教義」を教えることである。この言葉を快く思わない人がいるかもしれないが、だれも恐れる必要はない。悔い改めは進歩の道である。真の喜びと幸福を得る最も栄えある機会、この教えの中に見いだされる。

第2は、「生ける神の子キリストを信じる信仰」を教えることである。キリストを信じる信仰を持つように教えられた子供は、キリストの模範に従ってすべての人々に善を行なうことができる。このような子供は、同胞に心から仕えることができる。

アーノルド・トインビー氏は、10巻から成

る歴史研究書の中で、社会が崩壊し始めると次のような現象が表われると述べている。世界は偶然によって支配されていると人々が考えるようになる。俗悪で野蛮な行為が目立ってくる。伝統的な価値観が失われ、因習打破の気運が高まる。人々は解決策を求めて奔走する。いわゆる天才といわれる人、武力、擬古主義、未来主義、あるいはプラトンのような偉大な哲学者の思想に頼ろうとする。トインビー氏は、このような人々は皆落伍者であると言っている。そして「洪水の中から突如現われたひとりの人が、水平線のかなたに広がっていく」と記している。その人こそ、救い主、すなわち主イエス・キリストである。

クリストファー・コロンブスの最初の航海日誌の冒頭に「イエス・キリストのみ名によりて」とつづられている。(ビョン・ランドストーム, *Columbus* 「コロンブス」 p. 54) 歴史記録はこの言葉で始まっていた。コロンブスの息子、フェルジナンドの助けを得てこの航海日誌を要約したバルトロム・ラ・カサス一行は1492年10月12日にアメリカ大陸に上陸し、その時コロンブスはひざまずいて祈り、それから立ち上がって最初に上陸したその地をサン・サルバドル、すなわち「聖き救い主」と名付けたと記している。それは、ヨーロッパ人が最初に名付けた地名であった。

私たちは、主イエス・キリストを信じる信仰こそ、人類を救う原則であると宣言する。しかもこの救いは、子供を教えることから始まるのである。

第3は、子供にバプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えることである。これによって、子供は実際に教会という大きな家族の輪に加わるのである。聖霊の賜は、私たちをすべての真理へ導く手段として与えられる。

教義と聖約68：25—28には、家庭で教えるべき事柄が記されている。「シオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親あらば、……教義を教えて理解

せしめざれば、罪その両親の頭に留るべし。」

第4に、この教えをさらに確かなものとするために、主は同じ章の中でこう言われた。

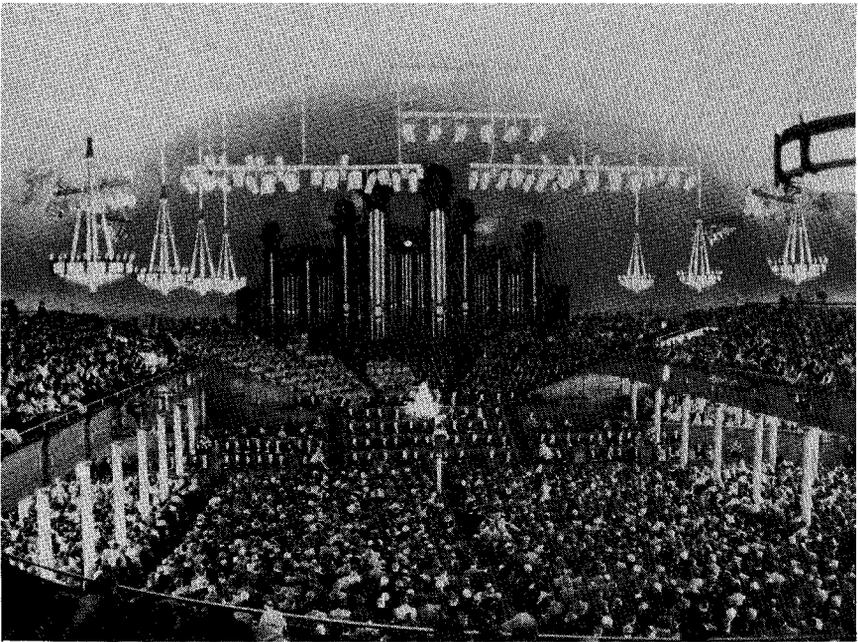
「また両親はその子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むことを教えざるべからず。

シオンに住む民は、また安息日を守りてこれを聖くすべし。」(教義と聖約68：28—29)

最後に、熱心に努力することを教えなければならぬ。これこそ、すべてのことを成し遂げる鍵である。シオンに住む者は皆、「全く忠実に務むべし」と戒められている。(教義と聖約68：30) 労働の習慣を植え付ける最良の場は家庭である。

私は、父親である皆さんが、真の神権指導

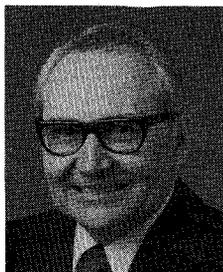
者としてその召しを全力を尽くして遂行し、これらの原則を学ぶことを模範によって家族に教えて下さるように祈っている。母親の皆さん、母親にしかできない方法で子供を愛し、慈しみ、励まし、人を敬うことの大切さを教え、鼓舞していただきたい。ジョセフ・スミスは、昔も今も予言者である。永遠の父なる神の御子、イエス・キリストは生きておられ、この回復された教会の頭である。スペンサー・W・キンボール大管長は、主の生ける予言者として、今日この教会を管理しておられる。これらのことをイエス・キリストの聖なるみ名によって証申し上げる。アーメン。



大会の光景

神の王国

神の王国の民にはその容貌と行動と奉仕に、それとわかる変化、目に見える違いがあつてしかるべきである



十二使徒評議員会会員
L・トム・ペリー

数週間前、家に帰る途中の飛行機の中でのことである。隣の座席に無造作に開かれて置かれていたニュース雑誌の記事が私の目にとまった。「疑い深いアメリカ人——台頭する世代」という題であった。(U. S. News and World Report「USニュース・アンド・ワールド・レポート」1979年2月26日, p. 74) それは、有史以来、進歩の活力あるいは文明を結ぶ絆となってきた信頼が、最近失われ始めたという内容であった。人々はもはや政府指導者を信頼せず、仕事にかつてのような尊厳を感じなくなってきた。さらに恐るべきことは、ある調査によると、宗教意識も失われつつあるということである。

またその記事は、宗教に対する様々な疑問を投げかけた後にこう結んでいた。つまり既存の宗教ではすでに宗教から離反している人人の生活の中心を占めることはできない、と。多くの人々はだれの援助も受けずにすべて自分でやってゆけると思っているのである。

その記事はさらに、次のような若者の言葉を載せ、実情を訴えていた。「私たちはなぜ他人のために何かをする必要があるのですか。

なぜ盗むことがいけないのですか。なぜ姦淫してはならないのですか。なぜ両親を敬わなければならないのですか。私たちにはそのわけがわかりません。」

次々と大きな問題が生じ、それに悩まされている世界にあって、恐れと疑いが人類の心をむしばんできたとしても無理からぬことであろう。しかし、そうした事実とは裏腹に、歴史は人間が独力でそのような問題を解決できないことをはっきりと教えている。人が自分に合った自分勝手な律法を定められると考えること自体、不合理なことである。各自が勝手に自分の道徳律を定め、正直の基準を決め、原則を取り決めてよいと考えることは間違っている。私は過去の歴史を振り返ってみても、そのような秩序の下で成功を収めた人を見たためしがない。むしろ歴史は、ひとつのはっきりとした価値標準、中心思想、結束を持った文明ほど大きく発展していることを物語っている。

宗教の歴史をとってみても、人が定めた標準以上のものに雄々しく従った人々の成功が数多く述べられている。時の初めより予言者たちは、より高度な王国、神の王国を求めるといって人々を励ますことを教えられてきた。モルモン経の初めに、ニーファイはこう警告している。

「神はすべての人に向って、汝らはイスラエルの聖者を全く信仰して悔い改め、神の御名によってバプテスマを受けよ。さもなければ神の王国には救われないと仰せになる。」

(II ニーファイ 9 : 23)

バプテスマのヨハネは救い主がこの地上でみ業を行なわれる道を備えるために、ユダヤの荒野で福音を宣べ伝えていた時、人々に向

かってこう叫んだ。「悔い改めよ、天国は近づいた。」(マタイ3:2)

この神権時代に教会が回復されると、主なる救い主の再臨に備えてこの地上に神の王国を建設するよにという勧告が人々に与えられた。ブリガム・ヤングは1847年に、ウィンタークォーターズで聖徒たちに向かってこう語った。

「私たちが建設している王国はこの世の王国ではない。大いなる神の王国である。それは、アダムからアダムの最後の子孫に至るまでそれを受け入れるすべての人々にとって、正義と平安と、救いをもたらす所である。私たちの善意は万人に及び、私たちはすべての人が今も永世にも救いを得られるよう願っている。そして私たちは神から力をたまわる限り彼らに善を行なうつもりである。そして人は私たちにその特権があることを認めるようになるであろう。……

来れ、聖徒たちよ。来れ、地の誉れある人々よ。来れ、賢き者、学識ある者、富める者、高貴なる者よ、大いなるエホバの富と知恵と知識を受ける者たちよ。あらゆる王国、血族、王国、国語の民、全地のあらゆる言語を話す人々の中から出て来たりて、インマヌエルの旗下に参じて、私たちと共に神の王国を築き、真理と生命と救いの原則を打ち建てようではないか。そうすれば主なるイエス・キリストが来たりて宝を集めたもう時、あなた方は清められた者の中であってその報いを受けるであろう。その時にいかなる地上の力、地獄の力もあなたを打ち砕くことはできないであろう。」(Millennial Star「ミレニアル・スター」1848年3月15日、p.87)

神の王国の民として生活しようと努める者と、人の標準によって生きようとする者には確かに明らかな違いがある。人がより高い律法に従って生きようと決意する時、その容貌と行動、人と接する態度や隣人、神に対する奉仕の姿にそれとわかる変化、目に見える違いがある。聖典には、主の律法に改宗した人

人の生活に劇的な変化のあったことが、数多く記されている。

モルモン経には、信仰を持つように努めた人々と不信者たちとの間にあつれきのあったことが記されている。

「無信者たちが教会員に加える迫害が非常にひどくなったので、教会の聖徒たちがつぶやいてこれを司たちに訴え、またアルマにもこれを訴えた。それでアルマはこの事件をモーサヤ王に告げた……

その結果モーサヤ王は全国にふれを廻し、無信者が神の教会に属する者を迫害することを禁じた。……」

特にこの話の中でも悲しいところであるが、「モーサヤの息子たちは無信者の仲間に入っていた。またアルマの息子の一人もそうであった。この息子は父の名をとってアルマと呼ばれたが、かれは非常に罪深い男で邪神を信じ、言葉が多くてよく人にへつらい、多くの者をまどわして自分のしているような罪悪を犯させた。

この男は人の心をいざなう民の間にいざこぎを起し、神の仇に民の心を司どらせたから神の教会が盛さかんになることを非常にさまたげた。

また神の命令にも王の命令にも逆さからってモーサヤの息子たちと共に神の教会を亡ほろぼし、主の聖徒らをまどわすために、ひそかに歩きまわっていた。」(モーサヤ27:1-2, 8-10)

アルマの息子が悪を働いて歩き回っていた時、主の使いが彼とモーサヤの息子たちに現われ、雷のような声で叫んだ。

「かれらは地上に倒れるばかりに驚いた。」そこでみ使いはアルマにこう命じた。「『アルマよ、起きてわが前に立て。汝は何故に神の教会を迫害するか。主は「これわが教会なり、われはこれを立てて守るべし。さればわが聖徒らの罪悪のほかこれを覆すものなかるべし」と仰せになった』と言い、

また『見よ、主はすでにその聖徒らの祈り

も神の僕である汝の父アルマの祈りも聞きとどけたもうた。汝の父は汝に真理を知らせようとして堅い信仰をもって汝のために祈った。それであるから、神の僕たちの祈りがそれぞれの信仰に応じて聞きとどけられるよう、われは神の権能と威力とを汝に認めさせるために来たのである。』(モーサヤ27：12—14)

天使の現われはアルマの息子に非常な衝撃を与え、そのためアルマは口がきけなくなった。口を開くことも、手足を動かすこともできないので、人々はアルマの息子を担いで父の前に連れていき、一部始終を話して聞かせた。アルマの父は、主が自分の祈りに答えて下さったことを知って喜び、祭司たちを集めて、アルマが手足の力と言葉を取り戻すことができるように断食をして祈った。その祈りと断食は2日2晩続いた。このような人々の信仰によってアルマは力を取り戻し、立ち上がって人々に語り始めた。「私はすでに罪を悔い改めて主に贖われた。ごらん、私は『みたま』によって生れた。

……天下の万民は男女を問わず、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる人々にいたるまでみな新に生れざるべからざることを怪しむなかれ。人はみな神によりて生れ、その墮落したる肉欲の有様より義しき有様に移り、神に贖われて神の息子または神の娘とならざるべからず。

かくて人は新なる者となる。しからざれば決して神の王国に住むことを得ず。』(モーサヤ27：24—26)

アルマの生活は変わった。この時から、アルマは教会を滅ぼすのではなく、教会を築くために働くようになり、やがてこの国の偉大な指導者になったと聖典には記録されている。アルマ自身、次のように語っている。

「私は主が私に下したもうた命令を悟り、これに誇りを感じている。私は自分に誇りを感じずるのではない。主が私に命じたもうたことを誇りに思うのである。すなわち、私は神の御手に使われて誰かを悔い改めさせられる

かと思って誇りを感じまた喜ぶのである。』(アルマ29：9)

イエス・キリストの福音に改宗すると、より高い律法に従った生活をするのが要求される。その時から、私たちは神の王国の民としてふさわしい生活をしなければならない。スティーブン・L・リチャーズ副管長は、かつて神の王国に住む民の特質を次のように定義した。

「イエスの属性こそ、人間生活における完全な姿である。親切、思いやり、寛容、慈悲、自制、温情ある裁き、誠実、正義、正直、揺るぎない愛、これらはみな民族の理想の根底に横たわるキリスト教の美德である。これらの徳に加えて、自分にしてほしいと思うことを人にも行なえという良き隣人になる教えやあるいは人のために自分の命を失う人はそれを得るという満ち足りた生活を送る考えなどは人間社会の中で最も健全で正しい哲学であり、幸福に至る道なのである。』(Where Is Wisdom? 「知恵はいずこに」 p. 324)

福音の教えを受け入れたならば、私たちはそれを生活の中に取り入れる義務がある。つまり、確実に神の戒めを守ることである。私たちは、神の御子イエス・キリストがこの教会の頭として立っておられ、人類はこの苦難の世界をひとりて歩く必要のないことを知っている。神がこれまで告げられた律法、そして今後も地上の神の子らに告げられる神の律法を守って生活するならば、必ず大きな喜びと満足と成功があるはずである。

聖典は、より高い律法に従って生活する模範を示すようにと私たちに教えている。ニーファイはこう述べている。

「それであるから、あなたたちはこれからもキリストを確く信じて疑わず、完全な希望の光を抱き、神とすべての人とを愛して強く進まなければならない。それであるから、この後もたえずキリストの言葉をよく味わいながら強く進み、終りまで堪え忍ぶならば『永遠の生命を受ける』、かくの如く天の御父が言

いたもうた。

さてごらん私の兄弟たちよ。これがすなわち道である。このほかには、人を神の王国に救う道も名も天下にない。」(Ⅱニーファイ31：20—21)

神は生きておられ、イエスはキリストであ

り、世の救い主である。神の王国は必ず世に広がってゆくであろう。この地上で見いだすことのできる最高の喜びは、私たちの生活を主の律法に一致させることである。

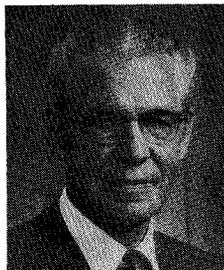
これが皆さんへの私の証である。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



大会の開場を待つ聖徒たち

幸福を求めている方々へ

皆さんは教えている原則や儀式によって、イエス・キリストの教会を見分けることができるはずである



第一副管長
N・エルドン・タナー

私 が生まれる2年前の1896年のことである。

英国のロンドンからR・M・ブライス・トーマスという人がユタ州のソルトレーク・シティーを訪れ、そこで初めて、末日聖徒イエス・キリスト教会のことを知った。

この旅行から帰ると、トーマス氏は早速教会の儀式と教義を徹底的に研究し、イエス・キリスト御自身が建てられた初期の教会の教えと、さらに自分が所属している英国の教会とを比較検討した。その結果、彼はバプテスマを受けてこの教会に入った。

その後、彼は1897年5月24日に英国のロンドンで、「私が末日聖徒イエス・キリスト教会に加入した理由」と題する小論文を書いた。その論文の初版の序文にこう記されている。

「そもそもこの小論文を著わし、私が英国の教会を離れて末日聖徒イエス・キリスト教会に加わった理由を説明しようと考えたのは、私が先祖代々の信仰を捨てるに至った経緯と、末日聖徒の教えを知りたいと思っている親戚や友人の要望にできる限り応えようと思ったからです。」

そして、最後に次のような言葉を結んでい

る。「この論文を書くに当たって、私は神の御子、主イエスのみ名により天父をお願いしたいと思います。神の祝福があって、私が書いたことが真理と、さらに神の聖なるみ言葉やみことと完全に一致するようにと。」

1904年12月9日、アメリカで出版された第2版の序文には次のように記されている。

「私はこの小論文を書いてから、2回ほどユタを訪れ、ソルトレーク・シティーやユタ州の幾つかの町で末日聖徒の方々と個人的に交わる機会を持ちました。最初の旅行では、聖徒たちの間でよく知られた2つの家庭に滞在し、モルモン社会の人々と自由に交際して、彼らを正しくかつ公平に評価する絶好の機会を得ることができました。もちろん彼らとても人間としての弱点はあり、失敗することがあります。中には、末日聖徒の名前がそぐわないような人もいます。しかし全体的には、彼らは本質的に神を畏れ、正直で公正であり、天父に対して堅い信仰を持っています。そして自分たちが携わっている末日の偉大なみ業が神からのものであるという強い証を持ち、自分たちには大いなる行く末が待ち受けていることを強く信じています。

他のキリスト教徒に見られるように、聖徒たちの中には学識のある聡明な人々が大勢います。教育は彼らにとって特別な意味があり、彼らの社会には、ヨーロッパの芸術の中心地や合衆国の東部で声楽や器楽、また絵画などを学んできた人や現在学んでいる人は決して珍しくありません。音楽的才能は特に顕著のようです。教育、学識、才能、正直などの資質を要求される合衆国内の数多くの要職に就いている末日聖徒も大勢います。そのほか法律、医療、報道、商業などの領域でも実力を

備え、いろいろな仕事に就き、自分だけでなく、ユタ州の人々にも大きな恵みをもたらしています。

今回で3度目のユタ州訪問ですが、1901年の訪問の時に持った聖徒たちに対する私の考え方が何ら間違っていなかったことを改めて認識した次第です。」

もしトーマス氏があれから70余年たった今日のユタ州を訪れたとして、多分彼の考えは変わらないことだろう。私はこのことを自慢するつもりもないし、人々の感情を害するつもりもない。ただ心からへりくだり、この福音が民の生活に及ぼす恵みを評価して、このようにはっきりと申し上げることができるのである。

この教会は今もなお同じ組織、同じ理想と目的を持っている。そして教会員は、立派な教育を受け、様々な職業に就き、政界、財界、地域社会また、今では世界的な教会にまで成長したこの教会の中で、正直かつ効率よく奉仕するようにと勧められている。

ブライス・トーマス氏が初めて小論文を書いた1897年には、ステーク部はわずか37、伝道部は18しかなかった。それが現在では、ステーク部は1,000を越え、伝道部は160以上に増え、当時222,334名であった教会員数は400万を越えている。

ここで再びトーマス氏の論文から引用してみたい。

「この民は美しい神殿と見事なタバナクルを持ち、しかもその敷地はよく整備され、手入れが行き届いている。彼らが住んでいる家がまたきれいで、絵になるほどの美しさである。そしてどの家にも立派な庭がついている。さらに彼らの自慢のタバナクル合唱団がある。私がこれまでに聴いた中で、最高の合唱団である。この民に関することはすべて、最も効率よく管理運営されているようである。宣教師は、世界の多くの地域で福音を宣べ伝えており、しかも彼らは自費で多大の犠牲を払って出かけている。教会の組織は完璧で、非の

打ちどころがないように思われる。私はこの民の特徴や教義についてもっと知りたいと思い、この教会の書物、特にモルモン経を買い求めた。」(トーマス、初版、p. 3)

早速、彼はそれを実行し、教会の教義を研究した。その結果、イエス・キリストが設立した教会からの背教が実際にあったことを確信するに至った。彼は、旧約聖書や新約聖書にある通りのイエス・キリストの教えや組織を持つ教会を見つけることができなかったと述べている。

またその研究を通して、主が民を通して、主が民を導くために啓示を伝える予言者が必要であり、また現に予言者がいて、神が人間に与える啓示を絶えず与えて下さっていることを確信した。そして、聖霊を受け、みたまの賜を通して啓示を受けることの必要性、あるいは重要性を理解するようになった。

また、イエスが御自身と天父がひとつであるように、すべての神の子らが皆ひとつになるようにと祈られた祈りの言葉が理解できるようになって、強い感銘を受けた。(ヨハネ17:11参照) その時の気持ちを彼はこう語っている。

「そうしてみると、この一致のみたま、すなわちイエス・キリストが弟子たちに御自分のようになる方法を示し、あらゆる真理に導くために送って下さった慰め主が、互いに恨みと憎悪をむき出しにし、最近では流血の惨事まで引き起こしたキリスト教世界のおびただしい争いと対立を鎮める光になり得たと考えても不思議ではない。」(トーマス、初版、p. 11)

またその研究から、多くの教会ではかつてイエス・キリストと弟子たちが受け、現在も末日聖徒イエス・キリスト教会で行なわれているような水に沈めるバプテスマの儀式までも変えられていることを知った。

幼児のバプテスマに関しては、3世紀までそのようなことが行なわれた形跡はなく、したがってそれはキリストの設立された初期の教

会にはなかったことであることもわかった。トーマス氏は、幼児はイエス・キリストにあって完全であり、悔い改めるべき罪はないと感じていたので、幼な子がアダムの罪を負っているという教義を受け入れることができなかった。

末日聖徒イエス・キリスト教会では、子供は自ら責任を取ることでできる8歳という年齢になるまでバプテスマを受けない。

さらにトーマス氏は聖書から、初期の教会では死者のためのバプテスマが行なわれていたが、後年これが廃止されたことを知った。そしてこの教義を裏付ける証拠を捜してみた。パウロはコリント人への書簡の中でこう書いている。

「そうでないとすれば、死者のためにバプテスマを受ける人々は、なぜそれをするのだろうか。もし死者が全くよみがえらんとすれば、なぜ人々が死者のためにバプテスマを受けるのか。」(1コリント15:29)

ペテロはこの問いに次のように答えている。「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは、彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが、霊においては神に従って生きるようになるためである。」(1ペテロ4:6)

この聖句から、福音が死者に宣べ伝えられ、死者は肉においては人間として裁きを受けるが、霊においては神に従って生きるということを知った。このように、この世の一生の間に、罪の赦しを伴う水に沈めるバプテスマの儀式を受ける機会がなかった人々も、バプテスマを受ける必要があるのである。

イエス・キリスト教会では、生者のためだけでなく、死者のためにも代理で神殿の儀式が行なわれている。キリストが私たち自身でできないことを行なって下さったように、自分ではできない人々のために私たちが代わってその儀式を受けるのである。

主は死者のためのバプテスマに関して次のように言われた。「死者なくばわれら完うせらるるを得ず。またわれらなくば死者もまた全

うせらるるを得ず。」(教義と聖約128:18)

神は、糸図および神殿活動を通じてその全きを得る方法を備えられ、私たちが先祖をさかのぼってアダムまで家系をたどれるようにして下さった。現在、このみ業は教会の神殿の中で行なわれているが、それはまたマラキの予言を成就するものでもあった。

「見よ、主の大きいなる恐るべき日が来る前に、わたしは預言者エライジャをあなたがたにつかわす。

彼は父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる。これはわたしが来て、のろいをもって地を撃つことのないようにするためである。」(マラキ4:5-6 欽定訳より和訳)

キリストと使徒たちの死後に起こった様々な教会が真理から離れ、初期の教会の儀式を変更したことを示す数多くの証拠を見れば、旧約や新約の予言者たちが予言していた背教が実際に起きた事実も容易に理解できる。

暗黒時代と言われる時期に、地上に神の言葉を伝える予言者がおらず、人々は真の福音からますます離れ、初期の教会で行なわれていた儀式はさらに変えられて行った。

そしてやがて黙示者ヨハネの予言通りに、回復の鍵と、この末日に地上に教会を設立する鍵を託されたジョセフ・スミスにより、福音が地上に再び回復されたのである。

私は皆さんに、ジョセフ・スミスの話や、父なる神と御子イエス・キリストが実際に姿を現わされた話、また聖書と対をなすアメリカにおけるキリストの新しい証言の書であるモルモン経の由来について、読むようにお勧めしたいと思う。

エゼキエルは、このふたつの書をユダの木、ヨセフの木と称して、これらがやがてひとつになる、すなわち同じ福音を宣言し、同じ教義を教えると予言した。(エゼキエル37:16-19参照)

ここで、トーマス氏が教会に加わった理由の幾つかを要約してみたいと思う。

1. 教会員全体に感じられる心の持ち方。
すなわち神を信じる信仰や、携わっているみ
業が神聖なものであるという証

2. イエス・キリストが設けられた教会と
同じ儀式を持つ教会の完全で、しかも効果的
な組織

3. 背教後の福音の回復、さらに神の言葉
を明らかにして人々を導く生ける予言者が必
要であること

4. 罪の赦しを得るための水に沈めるバプ
テスマ、死者のためのバプテスマ、幼児のバ
プテスマがないこと。これらはすべて初期の
キリスト教会で教えられていた教義である。

5. 生者と死者のための系図および神殿活
動。このことは旧約聖書および新約聖書にも
述べられている。

教会に加入する人々が挙げる改宗の理由は
様々であるが、どれも一様に末日聖徒イエス・
キリスト教会は真理を求める人々に霊的な必
要だけでなくこの世的な必要も満たしてくれ
ると言っている。

ここで幾人かの人々の個人的な証と教会に
改宗した理由を御紹介したい。

フロリダ州のある若い夫婦は、いろいろな
宗派を訪ね歩いた末に末日聖徒イエス・キリ
スト教会の集会に出席した。彼らはこう語っ
ている。

「この教会は、以前に訪れた多くの教会と
違っていました。レッスンを受け、教会に行
ってみて、これこそ私たちが今まで捜してい
た教会だと思いました。」その母親は、聖書と
イエス・キリストについて子供たちが学んで
いる教えを知り、また子供同士の関係が良
くなって、家でもよく手伝いをするよ
うになったことに驚いていると語った。

さらに、夫が神権を受けると、それが家庭
生活や家族関係をより良くしたいという望
みや自信につながって、家の中が一段と
変わってきた。

また、エクアドルに住むひとりの男性は、
家の近くの通りで宣教師に会い、彼らを家

招いた。そして、宣教師が置いて行った
ちらしやパンフレット、モルモン経を
読んで、それにとっても心を引かれた。
後に彼は宣教師についてこう語っている。

「私は彼らの教えが好きでした。それは
自分の教会では教えてくれなかったこと
でした。宣教師の言う戒めは守らな
ければならないと思いました。知恵の
言葉は私に新しい人生を開いてくれ
ました。タバコや茶やコーヒー、酒を
飲まないようにというのが確かに主の
みこころであることを知っています。
長老たちからこの戒めを教えてい
ただいた時、良い人生を送るため
には是非ともこれを守らなければ
ならないと思いました。長老たちは
このことについて祈るように私に
言いました。そして祈り方も教
えてくれました。」

フィンランドのある女性は夫の死後、
孤独な毎日を送っていた。そんな時
に宣教師に会い、彼らから自分が抱
えていた疑問の答えを得ることが
できたのである。彼女は次のよう
に語っている。

「私は宣教師の答えに驚きました。夫と
再会できるということです。私たち
の結婚生活はそれは素晴らしいもの
でしたから、死んでそれきりだ
なんてとても考えられなかったの
です。牧師様は何とも答えて下さ
らなかったのに、あの若い宣教師
たちは永遠の生命という素晴らしい
教えを与えて下さいました。聞い
ているうちに涙がこみあげてきて、
もっと聞きたいと思ったほど
でした。」

彼女はモルモン経を読み、勉強し、
そして証を得てバプテスマを受けた。

イギリスでのある改宗者は、以前の
教会で、洗礼を受けないうちに亡
くなった子供を教会の墓地に埋葬
することを断られるという苦い
経験を経たことがきっかけで、
妻が招いた宣教師たちの話を聞
く気持ちになったという。彼は
最初に、幼児のバプテスマにつ
いて教会ではどう教えているか
質問した。

すると長老たちはモルモン経を
引用して、幼児は罪を犯さないし、
すでに救われている

のでバプテスマを受ける必要がないと教えてくれた。

続いて彼は次のように述べている。「キリストの教えはそのはずだと思いました。愛の神が子供たちに対してそれ以外の方法をとるとは考えられなかったからです。それから長老たちはその証を得るためにはどうすればよいかレッスンをして下さいました。私はそれを実行し、神に祈りました。そして確信を得たのです。聖典で言われているように心に熱いものを感じました。そして、それが正しいことをはっきりと知ったのです。」

彼はさらにこう語った。「私にとって本当にうれしい教えのひとつは日の光栄の結婚です。夫や妻を心から愛している人がこの原則を知ったら、それだけでこの教会に入るのではないかと思います。素晴らしい原則ですから。」

最後に、以前プロテスタントの牧師であった人のことをお話したいと思う。彼はこの教会に入ろうと決心してから、牧師仲間や友人たちから多くの非難と迫害を受けた。その彼が次のように証している。

「私がこれを書くのは、聖書にあるように、『高価な真珠』を見つけた者はそれを得るために、必要とあらばすべてのものを売り払うということをはっきりとすることを明らかにするためです。(マタイ 13:46参照) 私は12年以上も求め続けていた平安と真理をこのモルモン教会で見いだしたのです。」

まだモルモン経を読み終えてはいませんが、予言者ジョセフ・スミスが明らかにした豊かな真理は、すでに私ども家族の霊的生活に欠かせないものとなっております。神の力によらなければ、人間にこの書物が書けるはずはありません。私どもがこれまで受けてきた憎しみの数々は、私どもが真心から神を求めているかどうかの試しであると思っています。

かたくなに目を閉じ、モルモン経を読んで福音を学ぼうとしない人々の心がかいつか開かれるようにと私は祈っています。この本を読む人は必ずや生活を変えないではいられませ

ん。私とて一夜にしてモルモン信仰に通じた訳ではありません。しかし、熱心に学ぼうと努力していますし、主が権威を授けられた人々を通じて聖霊が教えることを進んで学ぶつもりです。

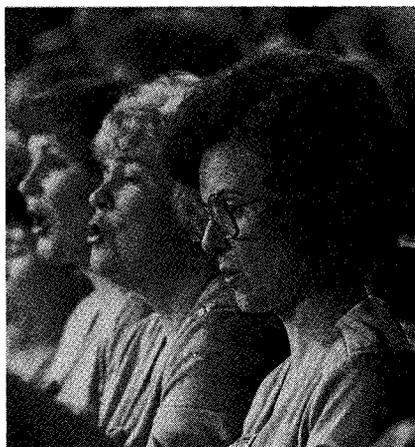
プロテスタントの牧師であった私にとって悔まれることは、いかに想像を働かせても、とてもキリストのみ業を行なっているとは思われない組織の維持のために貴重な時間をたくさん浪費してきたことです。」

私はすべての方々に、永遠の生命の言葉と昇栄への道が記された聖典を研究するようにお勧めしたいと思う。

イエスは言われた。「これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ 1:39)

このみ業は非常に大切で、主は私たちが復活できるように御自分の命を捧げ、生命と救いを得させる計画を与えて下さった。きょう私がお話したことを証する聖書とモルモン経を是非ともお読みいただきたい。

この世で幸福を得、来るべき世で父なる神と御子イエス・キリストと共に永遠の生命を得たいと思うならば、どうか道であり、真理であり、生命である御方を見いだしていただきたい。そしてその御方は末日聖徒イエス・キリスト教会で見いだせることを、イエス・キリストのみ名によりて証申し上げる。アーメン。



1978年度統計報告

大管長会書記
フランシス・M・ギボンズ

大 管長会は、1978年12月31日現在の教会員に関する統計記録を以下のように発表しました。

教会ユニット

ステーキ部数……………990
伝道部数……………166
ワード部数……………6,731
ステーキ部内の独立支部数……………1,333
伝道部内の支部数……………1,790
ワード部または支部の組織されている国…60
(1978年度内に、694のワード部と支部が増加したことになる)

教会員数

教会員総数……………4,160,000
(1978年度末の人数。ステーキ部、伝道部、ならびに教会事務局からの報告による)

1978年内の会員数の増加

幼児の祝福数……………97,000
子供のバプテスマ数……………63,000
改宗者のバプテスマ数……………152,000
(改宗者のバプテスマ数は、大会までに教会本部に届いた1978年度報告書に基づく概算による)

一般統計

出生率(1,000人当り)……………30.7
結婚率(1,000人当り)……………13.1
死亡率(1,000人当り)……………4.1

神権者

執事……………145,000

教師……………114,000
祭司……………211,000
長老……………351,000
七十人……………29,000
大祭司……………137,000
(1978年度内に、37,000人の神権者が増えたことになる)
専任宣教師……………27,669

教会の学校

1977—78年、在籍者数：
セミナー、インスティテュート
(特別プログラムを含む)……………301,000
教会の学校、大学、継続教育……………70,000

福祉活動

現金または日用品の援助を受けた人 111,500
末日聖徒社会福祉機関の
援助を受けた人……………18,000
有給の職業に就いた人……………21,000
労働奉仕日数累計……………443,500
倉庫からの支給日用品(キログラム) …8,586,000

系図

神殿儀式のために処理した名前の数 5,120,000
(年度内に43カ国において、マイクロフィルムに収録した系図記録は、100フィートのロールで983,000巻にのぼる。これは300ページの本で4,679,000冊分に相当する)

神殿

1978年度内に執行されたエンダウメント数
生者……………50,400
死者……………3,756,600

儀式を行なっている神殿……………16
建築中、または計画中の神殿……………5
改築工事中の神殿……………1
(エンダウメント数は、1977年度よりも
204,900増加している)

死亡者

十二使徒評議員会会員デルバート・L・ステ
イブレー長老、大管長会マリオン・G・ロムニ

一第二副管長夫人アイダ・ジェンセン・ロム
ニー姉妹、元ブリガム・ヤング大学学長アー
ネスト・L・ウイルキンソン博士、ニュージ
ーランド・ウェリントン伝道部ドルフ・H・ル
ッカウ部長、ユタ州センタービル南ステーク
部ロバート・オースティン・トランプ部長、
元教会中央伝道委員会会員・地区代表レイモ
ンド・J・ベイス長老、元教会建築委員会委員
長ウェンデル・B・メンデンホール兄弟

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会への 教会財務委員会報告

委員長

ウイルフォード・G・エドリング

私たちは、1978年12月31日現在の教会の年次財政報告書、ならびに年間の業務状況を検査致しました。当委員会は、教会の中央基金およびその他関連組織の基金、教会財務部の保持する報告書等、すべての財政報告書と運用状況を検査致しました。また、予算編成、会計、監査の手続き、ならびに基金の受領方法と支払いの処理方法についても調べました。その結果、教会の中央基金の支出が大管長会の承認の下に、予算手続きを踏んで行なわれていると判断致します。予算編成は、大管長会ならびに十二使徒評議員会、管理監督会より構成された什分の一分評議会で承認されています。そして、支出承認委員会が毎週開かれる会合において、その予算の下で基金の支出を管理運営しています。

現在、教会の急速な発展に立ち遅れることのないよう、財政部やその他の部門に最新の会計技術と設備を導入して、資料の処理を的確に行なっています。また財務部と法務部は、連邦政府ならびに州政府、諸外国の政府による課税問題を共同で適切に処理しています。

監査部は、他のあらゆる部門から独立しており、財政監査、運営監査、教会が利用しているコンピューターシステムの監査という3

つの監査を実施しています。また監査は、教会の全部門、および教会財務部が報告書を保持するその他の教会関連組織、ならびに伝道部、財務センター、合衆国外教会部門についても実施します。教会の発展と活動の拡大に伴って、教会の資産を保護する監査部の運営規模も大きくなっています。ワード部とステーク部の基金の監査は、ステーク部監査委員に割り当てられています。また、教会が所有あるいは管理している法人組織の事業については、財務部がその報告書を保管せずに、公認の会計検査員が監査を行なっています。

当委員会は、年次財政報告書、その他の会計資料、ならびに財政業務の管理の基となる会計および監査方法を検討し、さらに財務部、監査部、法務部の職員と会合を持って調べました。その結果、1978年度の教会中央基金の収支は適切に会計処理されていました。

教会財務委員会

ウイルフォード・G・エドリング

ハロルド・H・ベネット

ウェストン・E・ハミルトン

デビッド・M・ケネディー

ウォーレン・E・ピュー

教会役員の支持

第一副管長

N・エルドン・タナー

私たちは予言者、聖見者、啓示を受ける者、末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてスペンサー・W・キンボールを支持して下さるよう提議致します。この提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

大管長会第一副管長としてナサン・エルドン・タナーを、第二副管長としてマリオン・G・ロムニーを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会長としてエズラ・タフト・ベンソンを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

私たちは十二使徒評議員会会員として、エズラ・タフト・ベンソン、マーク・E・ピーターセン、リグランド・リチャーズ、ハワード・W・ハンター、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、ブルース・R・マッコンキー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウストを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

教会の大祝福師としてエルドレッド・G・スミスを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

大管長会副管長、十二使徒、大祝福師を予

言者、聖見者、啓示を受ける者として支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

私たちはスペンサー・W・キンボールを末日聖徒イエス・キリスト教会信託管理人として支持するよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

七十人第一定会会会長ならびに七十人第一定会会会員として、フランクリン・D・リチャーズ、J・トーマス・ファイアーズ、A・セオドア・タトル、ニール・A・マックスウェル、マリオン・D・ハンクス、ポール・H・ダン、W・グラント・バンガーターを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

その他の七十人第一定会会会員として、セオドア・M・バートン、バーナード・P・ブロックバンク、ロバート・L・シンプソン、O・レスリー・ストーン、ロバート・D・ヘイルズ、アドニー・Y・小松、ジョセフ・B・ワースリン、ハートマン・レクター・ジュニア、ローレン・C・ダン、レックス・D・ピネガー、ジーン・R・クック、チャールズ・A・ディディエ、ウィリアム・R・ブラッドフォード、ジョージ・P・リー、カーロス・E・エイシー、M・ラッセル・バラード・ジュニア、ジョン・H・グローバーク、ジェイコブ・ディエガー、ボーン・J・フェザーストン、ディーン・L・ラーセン、ロイデン・G・デリック、ロバート・E・ウエルズ、G・ホーマー・ダラム、ジェームズ・M・パラモ

ア、リチャード・G・スコット、ヒュー・W・ピノック、F・エンツィオ・ブッシュ、菊地良彦、ロナルド・E・ポールマン、デリック・A・カスバート、ロバート・L・バックマン、レックス・C・リーブ・シニア、F・バートン・ハワード、テディー・E・ブルーアートン、ジャック・H・ゴースリンド・ジュニアを、また七十人第一定員会名誉会員としてジョセフ・アンダーソン、ウィリアム・H・ベネット、ジェームズ・A・カリモア、スターリング・W・シル、ヘンリー・D・テイラー、ジョン・H・バンデンバーグ、S・デルワース・ヤングを、それぞれ支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

管理監督会の管理監督としてビクター・L・ブラウンを、第一副監督としてH・バーク・ピーターソンを、第二副監督としてJ・リチャード・クラークを支持して下さるよう提議致します。賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

地区代表として、全地区代表を現状のまま支持して下さるよう。

扶助協会、会長としてバーバラ・ブラッドショー・スミスを、第一副会長としてマリアン・リチャーズ・ボイヤーを、第二副会長としてシャーレー・ウィルクス・トーマスを、その他管理会員を現状のまま支持して下さるよう。

日曜学校、会長としてラッセル・M・ネルソンを、第一副会長としてジョー・J・クリステンセンを、第二副会長としてウィリアム・D・オズワルドを、その他管理会員を現状のまま支持して下さるよう。

若い男性、会長としてニール・D・シェイラーを、第一副会長としてグラハム・W・ドクシーを、第二副会長としてクイン・G・マッケイを、その他管理会員を現状のまま支持して下さるよう。

若い女性、会長としてエレイン・A・キャ

ノン、第一副会長としてアーリン・B・ダガーを、第二副会長としてノーマ・B・スミス、その他管理会員を現状のまま支持して下さるよう。

初等協会、会長としてナオミ・マックスフィールド・シャムウェイを、第一副会長としてコーリン・ブッシュマン・レモンを、第二副会長としてドロシア・ルー・クリスチャンセン・マードックを、その他管理会員を現状のまま支持して下さるよう。

以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。反対の方も同じようにその意を表わして下さい。

教会教育委員会、委員としてスペンサー・W・キンボール、N・エルドン・タナー、マリオン・G・ロムニー、エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレイ、トーマス・S・モンソン、ボイド・K・パッカー、マービン・J・アシュトン、ニール・A・マックスウェル、マリオン・D・ハンクス、ビクター・L・ブラウン、バーバラ・B・スミスを支持して下さるよう提議致します。

賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

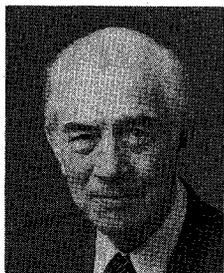
教会財務委員会、委員としてウィルフォード・G・エドリング、ハロルド・H・ベネット、ウェストン・E・ハミルトン、デビッド・M・ケネディー、ウォーレン・E・ピューを支持して下さるよう。

タバナクル合唱団、団長としてオークレイ・S・エバンズを、指揮者としてジェラルド・D・オタリーを、准指揮者としてドナルド・H・リプリンガーを、タバナクルオルガニストとしてロバート・カンディック、ロイ・M・ダーリー、ジョン・ロングハーストを支持して下さるよう。以上の提議に賛成の方はその意を表わして下さい。もし反対の方があれば、同じようにその意を表わして下さい。

キンボール大管長、以上の役員および教会幹部に対して全会一致の支持が得られたようです。

まことの教会のしるし

この教会はこの世に天から遣わされた春のいぶきであり、やがて夏になれば見事な霊性の花を咲かせてくれる、そのような所である



十二使徒評議員会会員
マーク・E・ピーターセン

もしひとつとならずば、汝らはわがものにあらず。」(教義と聖約38：27)

このひとつとなること、すなわち行動と目的における一致は、主のみ業を遂行する上で、欠くことのできないものである。弟子たちには、争い、論争する余地はまったく与えられていない。パウロは分争するコリント人のように詰問している。「キリストはいくつにも分けられたのか。」(Iコリント1：13)

約2,000年前、イエスが教会を設立された時、すべての人が神の子を信じる信仰の一致と知識の一致とに到達し、全き人となり、ついには実際にキリストのような人になるよう期待されていた。(エペソ4：13参照)

しかし、御存じのように、現在キリスト教の諸教派は一致していない。キリストを信じると公言している人々の中に意見の相違や争い、論争があり、時には敵意さえも見られる。これらはキリストが十字架にかかる前に、一致を求めてへりくだり祈ったこととはまったくかけ離れたことである。

それでは再び使徒パウロの言葉「キリストはいくつにも分けられたのか」という問いについて考えてみよう。主の教えから遠ざかっていったコリント人に対して、パウロはこう願っている。「さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧める。みな語ることを一つにし、お互いの中に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい。」(Iコリント1：10)

パウロはコリントですでに4つの教派が生じていることを指摘し、そのことを強く非難した。(Iコリント1：12-15参照) その町の改宗者たちはキリストの教義を変え、キリス

— 年のうちで、春ほど人々が待ちこがれる季節はない。万物が更新され、未来の約束が開け、希望は頂点に達する。春は勇氣と信頼を覚醒させる季節である。

春。更新の季節、生命の本質がよみがえる季節、特に永遠の生命への神聖な約束を再確認する時である。このことを可能にするために救い主が自ら犠牲を捧げ、そして復活されたのも春であった。

イエスが弟子たちを集め、自分が十字架にかけられたことを忘れないために主の聖餐をいただくように教えられたのも春である。

キリストがゲッセマネの園で心からへりくだり、「わたしの思いのままではなく、みこころのままになさって下さい」(マタイ26：39)と祈り、尊い模範を示して下さったのも春である。

またキリストは、天父とキリストがひとつであるように、弟子たちも神のみ業を推し進めるためにひとつとなるようにと祈られた。(ヨハネ17：11参照) これも春のことである。

教会の初期の時代にキリストは聖徒たちに向かってこう言われた。「汝らひとつとなれ。

トの復活さえ否定し始めていた。(Iコリント15:12参照)

それだけでおさまらなかつた。分裂はさらに続き、紀元1世紀内にクリスチャンの間に広く及んだのである。新約聖書の中の手紙はその大半が、この分裂を抑えるために書かれたものである。パウロは、コリント人のみならず、ガラテヤ人にも手紙を書き送って分争を非難している。「あなたがたがこんなにも早く、あなたがたをキリストの恵みの内へお招きになったかたから離れて、違った福音に落ちていくことが、わたしには不思議でならない。それは福音というべきものではなく、……」(ガラテヤ1:6-7)

パウロはこのような不和について次のように予言している。「わたしが去った後、狂暴なおおかみが、あなたがたの中にはいり込んできて、容赦なく群れを荒すようになることを、わたしは知っている。また、……いろいろ曲ったことを言って弟子たちを自分の方に、ひっぱり込もうとする者らが起るであろう。」(使徒20:29-30)

ペテロはまたにせ教師が現われ、「大ぜいの人が彼らの放縦を見習うようになるであろうと予言している。(IIペテロ2:1-2参照)

パウロはテトスに「法に服さない者、空論に走る者、人の心を惑わす者が多くおり」(テトス1:10)と語っている。さらにユダは、神の教会から分かれて「自分の不信心な欲のままに生活する」者が現われるであろうと書き記している。(ユダ18-19参照)

このような分裂は、使徒の死後も続いた。歴史家は、第1世紀にキリスト教界に少なくとも30の相対立する教派が起り、初期の教会は勝手に自分たちの信条を唱える教派へと分裂して行ったと述べている。キリスト教界にもはや一致が見られなくなっていた。

このような初期の時代に起こった教会には、次のようなものがある。

ユダヤ・キリスト教。キリスト教に割礼などモーセの時代の儀式を取り入れ、ユダヤ人

的に変えていった教派。

千年期教会派。

エンクラティス派。主の晩餐の聖餐でブドウ液の代わりに水を用いた。

エビオン派。

グノーシス派。福音の真理にギリシャ哲学を加えて、福音を難しくした。

アルコン派。天国は7つあり、それぞれに君主がいて統治していると信じていた。また天に至高の御母がおられることを信じ、エレミヤ書7章と44章を否定した。

コプト派。現在でもエジプトに存続する。

シリア・キリスト教。当時の中東における主要都市であり、また異教の町のひとつであったグマスカスを中心に広がっていた。

マンダヤ教。水をふりかけるバプテスマの様式が起こってきたことに反対したバプテスマ派のひとつ。

マニ教。

十四日教。

そのほかギリシャ文化の影響を受けた数多くの教派が起こった。

第1世紀末までには、キリスト教界に使徒や予言者たちは存在しなくなってしまった。その上、対立する教派の人々は、もはや使徒や予言者は必要ない、啓示も不要であると言言するようになった。また真実の教えに代わって、ギリシャの学問や哲学が幅をきかせるようになった。このようにして教会の柱となる人々はどこにも存在しなくなってしまったのである。

そして現在でも、人々は教会の柱となる人人の必要を認めようとしない。聖書に神の完全な言葉が記されていると考えているからである。悲しいことながら、霊の暗黒が世を覆っていることがこのことから明らかである。

しかし、予言されていた新しい日、神がかつて授けて下さったすべてのものが更新される時が再びこの地上に訪れた。使徒パウロは、世の初めから予言者の口を通して語られてきたすべてのことが末の日に回復されると告げ

ている。(使徒3:21参照)

つまり、キリストの教会は地上に回復されるように定められていた。しかも、そのことは教派間の争いの真っ最中に起こると言われていた。そしてこの教派間の争いは、今日もお続けている。

では、この教会の回復はいつ起こったのだろうか。回復されたキリストの教会を他の教派と見分けるにはどうすればよいのだろうか。まことの教会はどのようにしてわかるのだろうか。

まことの教会を知りたいと願うすべての人が混乱することのないように、教会を見分けるしるしが聖典にはっきりと述べられている。そのしるしについて少し考えてみたいと思う。

昔、まことの教会の会員は自分たちをクリスチャンとは呼ばなかった。なぜなら、それはキリストを憎んだ人々があざけるために用いた呼び名だからである。教会の会員たちは、新約聖書の随所(ローマ16:2; Iコリント1:2参照)に見られるように、自分たちを「聖徒」と称していた。これがまことの教会を見分けるひとつのしるしである。すなわち、教会員は「聖徒」と呼ばれるのである。

もうひとつの大切なしるしは、生ける予言者に絶えず啓示が下されて導かれているということである。アモスが語っているように、主は御自分の認めた予言者に知らせることなしには、何事もなされない。(アモス3:7参照)したがって、回復された神の教会は、常にその時代に必要な指示を天から受ける生ける聖見者、啓示を受ける者によって導かれているのである。

パウロはこのことに関してエペソの人々に、教会は使徒たちや予言者たちという土台の上に建てられ、イエス・キリスト御自身が隅のかしら石である、と語っている。(エペソ2:19-20参照)

さらにパウロは、これらの使徒や予言者たちは私たちが皆完全な者となるまで教会にあ

って絶えることがないと述べている。(エペソ4:11-14参照; マタイ5:48をも参照)

予言者はまた、教会にあって伝道の業を導く人である。すなわち自ら福音を宣べ伝えると同時に、伝道の業を行なう人を選ぶ責任もある。

そのような人々はアロンのように生ける予言者を通して与えられる啓示によって神より召されなければならないと、パウロは言っている。(ヘブル5:4; 出エジプト28:1参照)パウロ自身もそのようにして召されたのである。(使徒13:1-3参照)これが神の定められた方法である。

したがって主のまことの教会は、その管理役員がアロンのように、生ける予言者に与えられる啓示によって神から召されているかどうかによってもはっきりと見分けることができる。

これは、主と主の教会の間のコミュニケーションの問題でもある。人々に直接語りかけないとすれば、主はどのような方法で人々を導かれるのだろうか。そのようなコミュニケーションは、啓示による。すなわち、この地上の生ける予言者に定められた方法でみこころが伝えられるのである。

これらがまことの教会を見分ける確かなしるしである。しかしそれだけではない。今日の教会は現代に誕生したものでなければならない。少々驚かれたと思うが、昔の教会ではなく、現代に起源を有する教会でなければならないのである。これこそまことの教会を見分ける重要なしるしである。

使徒パウロは、教会はキリストの再臨の前に回復されると予言した。(使徒3:19-21参照)

黙示者ヨハネは、回復は神の裁きが下る時に起こると告げている。(黙示14:6-7参照)そして、それはまさに現代においてほかにない。

救い主も同様のことを言われた。つまり、まず福音が国々に対する警告として全世界に

宣べ伝えられ、それから世の終わりが来ると述べている。(マタイ24:14参照)それは明らかに現代のことである。

まことの教会のもうひとつの大切なしるしは、昔もそうであったように、聖書以外に新しく聖典が加えられるということである。

聖書は、モーセを初めとする古代の予言者たちが記した書、さらにその時代時代に応じて召された新しい予言者たちが編さんしたものである。こうして聖典は時代と共に増えてゆくのである。これもまた主の定めである。

同じことは新約聖書にも言える。私たちは福音書を初め、他の多くの書を含んだ新約聖書をいただいている。主はその方法を変えたりはなさらない。

主がいつの時代にも変わらない御方であれば、今日のまことの教会でも聖書のほかに新しい聖典が加えられるはずである。

ほかにもまことの教会を表わすしるしはいろいろある。したがって、とてもこの短い期間で言い尽くすことはできない。しかしただひとつの点だけを見て、まことの教会を見分けることは決してできない。しるしはすべて、使徒パウロがコリント人に語ったように、堅く結び合っているはずだからである。(Iコリント1:10参照)

神の教会には、これらのしるしがすべて具備していなければならない。これらのしるしが少しでも欠けていれば、どこかほかを捜した方がよい。

私たち末日聖徒は、主の聖なる教会は聖典に記されているようにこの地上に回復されたことを証する。この教会は現代に建てられたものである。そして新しい啓示と聖典もいただいている。またこの教会は昔と同じように生ける使徒と予言者を土台とし、イエス・キリスト御自身を隅のかしら石とする教会である。

この教会には神の教会のしるしのすべてが具備している。だれでも注意して見るならば、必ずそのしるしが見分けられるはずである。

先程生命と希望と喜びがよみがえる春の季節について述べたが、春と言えば、全能の神が何世紀もの間閉ざしていた封印を切って、み姿を現わされたのも、1820年のよく晴れわたった春の日であった。

神はニューヨーク州を訪れ、純粋で汚れなく、しかも春のように前途有望な若者を現代の予言者として召された。

この少年は現代における神の代弁者となった。ペテロが予言したように、万物は彼によって回復された。その少年はだれだろうか。現代の聖見者、啓示を受ける者、ジョセフ・スミス・ジュニアである。ジョセフ・スミスは救い主の指示に従って謙遜に、しかも完全にその業を成し遂げたのである。

主人はキリストであり、ジョセフはその僕であった。キリストは私たちが再臨を待ち望んでいる贖い主、救い主である。そしてジョセフは、キリストの前に道を備えるよう遣わされた使いである。

そして今また、私たちはこの新しい春の季節に神が送って下さった世界で最も意義ある大会を開いている。それは、必ず夏に向けて見事な靈性の花を咲かせることだろう。

天が堅く閉ざされていた、天の導きのない冷たく暗い冬から、キリストがこの地上に真理と教会をもたらして下さった新しい啓示の春が訪れたのである。

まばゆいばかりの天の光が射し、新たな夜明けが訪れた。それは希望と真理の日の始まりであり、やがてそれは福千年の時代へと続いて、さらに神の王国における永遠の生命へと通じるのである。

そして現代の予言者たちが今、このタバナクルから語っている。偉大な予言者スベンサー・W・キンボール大管長は今朝、1979年に必要な神のメッセージを伝えて下さった。大管長は神の代表者であり、代弁者である。副管長たちもそうである。そして十二使徒たちも今の世に主イエス・キリストの使徒として召された尊い人々である。

神の予言者、主イエス・キリストの使徒たちは再びこの地上で召され、務めを果たしている。今ここに私たちと共に集っている、皆さんの前に座わっているそのような人々である。私たちは声をひとつにして、主が生きておられることを証し、しかもこの証が真実であることを皆さんに断言する。

神は決して遠い存在の御方ではない。聖きみたまと共に私たちの中におられるのである。救い主も決して架空の御方ではなく、実に生きてまします。救い主が聖任された、この地上の代表者である使徒や予言者たちと共におられるのである。

願わくは、私たちがよく耳を澄ましてこれらの靈感された指導者の言葉に聞き従えるように。その教えを受け入れる謙遜さを持てるように。

また救い主の招きに応じて救い主についてさらに深く学び、聖徒たちを整え、奉仕の業を行ない、キリストの体をたてさせるために、主が今日召して下さった義しい人々に従ってそれを実践してゆくことができるように祈っている。

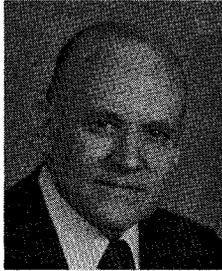
これらのことを心からへりくだり、主イエス・キリストの聖なるみ名によって申し上げる。アーメン。



大会の開場を待つ聖徒たち

霊性を培う

信仰と従順さを持ち、強さを求め、自分の態度を改め、望みを増しながら一歩ずつ前進するならば、やがて霊的成長を遂げている自分に気づく時が来るであろう



十二使徒評議員会会員
ハワード・W・ハンター

かつてウルフォード・ウッドラフ大管長は、ある素晴らしい経験について語った。きょう、私はそのことについてお話ししたいと思います。ウッドラフ大管長がその出来事を初めて公の場で述べたのは、1880年10月の総大会のことである。それから16年後に、その出来事をウッドラフ大管長はウェバー・ステーキ部大会でさらに詳しく述べ、それは「デゼレト・ウィークリー」紙にも掲載された。1880年の大会で、ウッドラフ大管長は、予言者ジョセフ・スミスの死後、何度も夢の中で予言者と語り合ったことについて述べた。また、ブリガム・ヤング大管長とも夢の中で話をしたことを述べた。これは、その時の話である。

「私は大会へ出席するために道を急いでいた。すると、私の馬車のすぐ前を、ブリガム兄弟とヒーバー兄弟の乗った馬車が走っていた。ふたりは、とても神々しい衣服をまとっていた。私は大会の会場に着いたところで、ヤング大管長に、私たちに説教をしてくれるのかどうか尋ねた。するとヤング大管長はこう答えた。『いいえ、私がこの民に証を述べるのは肉体を持っていた期間だけで、今はもう

その時も過ぎ去りました。私がこうして来たのは、あなたに会うためです。あなたを見守るためにこうして来たのです。この民が何をしているかを見に来たのです。そこであなたにお願いしたいのですが、どうかこの民に精一杯努力し、聖きみたまを得られるような生活をするように教えて下さい。そして、あなた自身がまずその勧告に従うようにして下さい。この聖きみたまなしには、王国を築くことはできないからです。神のみたまを受けなければ、暗闇を歩く危険があります。神の教会、また神の王国の使徒として、長老としての召しを全うできない危険性があります。そして彼は、ジョセフ兄弟が私にこの原則を教えてくださいました。』」（*Journal of Discourses*「説教集」21：318）

ウッドラフ大管長はさらに話を続けた。ウェバー・ステーキ部大会で語ったもので、きょう、特に私がお話ししたいことである。「この教会の会員は皆、みたまを得るように努める必要がある。私たちの周囲には、神と、神の王国を築こうとするすべての努力に対して闘いを挑む悪霊が群がっている。私たちがそれらの影響力に打ち勝つためには、聖きみたまが必要である。」（*Deseret Weekly*「デゼレト・ウィークリー」1896年11月7日、p. 643）

ウッドラフ大管長はさらに説教を続け、自分の伝道経験について述べた。「カートランドで背教があった時、……神のみたまが私に告げた。『あなたは同僚を選んで、すぐにフォックス諸島へ向かいなさい。』私はフォックス諸島については、コロブ同然まったく知らなかった。しかし主の命令なので私は出かけた。同僚にジョナサン・H・ヘイル兄弟を選び、彼と一緒にフォックス諸島に向かった。そし

て私は、神の祝福によって聖徒たちがミズーリからイリノイへ追われた時期に、その地から100名近くの人をシオンへ連れ帰ったのである。

このような経験は私の生涯にしばしば起こった。私が何かをする計画を立てていても、主が別のことを私にさせたいと思われたら、主は必ずそのことを私に告げ知らせて下さった。私たちが英国へ送られた時も、啓示によって送られた。私はアルフレッド・コードン兄弟と一緒にスタフォードシャーの陶器工場を訪れ、そこでほとんど毎晩のようにバプテスマを施した。まさにめざましい成功を収めていた。これは今までの中で最高の伝道だったと思う。ある晩、私はハンレーの町に行って広いホールで開かれた集會に出席した。集會場はあふれんばかりの人々で一杯であった。その時、主のみたまが私に臨んで、これまで何日か集會を開いてきたが、これがここでの最後の集會になると告げられた。そこで私は人人に向かって、これが皆さんと会う最後の集會になるだろうと語った。会が終わって、人人は私にどこに行くのかと尋ねた。私はわからないと返事をした。翌朝、私は主のみこころを伺った。すると主はただ、『南に行きなさい』と言われた。私は乗合い馬車に乗り、南へ130キロほど下った。そしてヒアフォードシャーのジョン・ベンボー家に初めて立ち寄った。家に入って30分もたたないうちに、主がなぜ私をその地に送られたのか、そのわけをはっきりと知ることができた。そこにいた人々は、古代の宗教形態が知りたくて祈っていたのである。彼らはキリストや使徒たちが教えた福音を待ち望んでいた。結果は明らかであった。私はそこに着いてから約1カ月間で600名の人々にバプテスマを施した。この土地で働いた8カ月間に、通算1,800名の人人を教会に導くことができた。なぜであろうか。福音を受け入れる備えのできた人々がいた上に、さらに主がその地でみ業を推し進めるように私を送って下さったためである。私

は、これまで私の身に起きた良いことはすべて神に栄光を帰さなければならぬと思っている。私はそれがだれの力によって成し得たものかをよく知っているからである。」(同上 p. 643)

そしてウッドラフ大管長はこう結んでいる。「私がこれらのことを述べたのは、皆さんに同じみたまを得ていただきたいからである。外地にしようが国内にしようが、イスラエルの長老たちは皆、このみたまが必要である。……これは、神の目的をこの地上で成就させるために私たちが持たなければならないみたまである。私たちには他のどの賜にもまして必要なものである。敵のただ中にいる時も、暗闇と誘惑のただ中にいる時も、私たちには神のみたまの導きが必要である。この慰め主をいただくまで、主に祈る必要がある。私たちがバプテスマを受けた時に約束されたのはこのことである。それは光明と真理と啓示のみたまであって、私たちが皆同時に受けることができるみたまである。」(同上 p. 643)

靈性を高め、神の至高の力に自分の波長を合わせることは容易ではない。それには時間を要し、しばしば苦闘することもある。しかもそれは決して偶然に得られるものではない。たゆみない努力と、神への祈り、神の戒めを守ることによってのみ到達し得るものである。

使徒パウロは人生の大半を、福音を教え、世界各地に広がる教会の聖徒たちの靈性を培うことに費やした。そして度々、スポーツや試合や競技の用語を用いて教えた。聖徒が戒めを守るのは運動競技に勝つのに似ており、訓練、努力、規則の遵守、自己鍛練、勝利を得ようとする意欲など、運動競技に共通したものがあると言っている。このことをコリント人に宛てた手紙の中で、次のように記している。「御存じのように、スポーツで走者全員が走っても賞を得るのはただひとりである。彼らのように、勝利を目指して走りなさい。運動選手はみな厳しい訓練をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのだが、私たち

の冠は永遠に朽ちない。私事を言えば、自分は眼前にはっきりした目標を持って走っている。」(Ⅰコリント9：24-26参照)

またこれと同じようなことを友人であり、伝道の同僚でもあるテモテに語っている。

「わたしは戦いをりっぱに戦いぬき、走るべき行程を走りつくし、信仰を守りとおした。今や、義の冠がわたしを待っているばかりである。かの日には、公平な審判者である主が、それを授けて下さるであろう。わたしばかりではなく、主の出現を心から待ち望んでいたすべての人にも授けて下さるであろう。」(Ⅱテモテ4：7-8)

パウロは運動競技から古代の極限状態とも言うべき、血で血を洗う壮烈な戦いに論題を転じ、その戦いについてこう記している。

「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。

わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。

すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸につけ、

平和の福音の備えを足にはき、その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。

また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。

絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつけなさい。」(エペソ6：11-18)

予言者ジョセフ・スミスは運動競技や戦争の用語を用いながったが、進歩の要因として時間をかけることや、忍耐すべきことのほか、霊的になることの必要性を説いた。予言

者ジョセフ・スミスはこう語っている。「私たちは、神が人間を教育するに値する者として、また天から人間に告げられた光に従順かつ勤勉に従うその度合に応じ、能力を高めることのできる存在として創造したもうたと考える。また、人間は完成に近づけば近づくほど視野が開け、喜びは大きくなる。そしてついには悪に打ち勝ち、あらゆる罪への思いを断ち切るようになる。そして、古えの人と同じように、その信仰は高まり、創造主の力と栄光に包まれて共に住むことのできる状態となる。しかしこの状態は、人が一朝一夕で達することのできないものである。」(*History of the Church*「教会歴史」2：8)

私たちが靈性を身につけようと努める時に突きあたる困難のひとつは、なすべきことは多くあるのに、自分はとてそこまで達していないと考えることである。確かに、私たちは容易に完全な状態にはなれない。しかし私たちは自分の力で今自分が立っている所からスタートして、神に関する事柄を追い求めることによって得られる幸福を捜すことはできる。次の勧告をもう一度思い出していただきたい。

「この故に善を為すにうむことなかれ。これ汝ら今偉大なる一事業の基礎を置きつつあればなり。それ、小なる事より偉大なる事起る。

見よ、主は真心と喜びで事に従う精神とを求む。喜びで従順に従う者たちは、この末の世に於てシオンの地の善きものを食わん。」(教義と聖約64：33-34)

主が「喜びで従順に従う者たちは、この末の世に於てシオンの地の善きものを食わん」と約束して下さったこの言葉は、私たちにあっていつも励みとなった。私たちはだれでも「喜びで従順に従う」ことはできる。もしも主が、完全な者のみがこの末の世に於てシオンの地の善きものを食わんと言われたとしたら私たちの中にはがっかりしてあきらめてしまう人も出たかもしれない。

予言者ジョセフはこう述べている。「幸福を得ることが私たちの存在する目的であり目標である。もし幸福につながる道を歩むなら、そこに到達できることだろう。その道は、徳、高潔、忠実、清いこと、そして神のあらゆる戒めを守ることである。」(History of the Church「教会歴史」5：134-135)

始める場所はここであり、始める時は今である。一度に一步ずつでよいから前進しよう。私たちに幸福を得させる計画を立てて下さった神は、幼な子のような私たちを導いて下さるからである。そのような過程を経て、私たちは完全に近づくのである。

私たちの中には、だれひとりとして、完全な人、すなわちこの世で達成し得る霊的成長の頂点を極めた人はいない。あらゆる人に霊的成長は可能であり、またそれが必要である。イエス・キリストの福音は永遠にその成長を続けていくための神の計画である。それは倫理以上のものである。また、理想的な社会秩序以上のものである。自己改善と決断を促すよい考えといった類のものでもない。この福音は神権によって支えられ、聖きみたまによって導かれている主イエス・キリストの救いを得させる力である。主イエス・キリストを信じる信仰と福音に対する従順さを持ち、強さを求め、自分の態度を改め、望みを増しながら一步ずつ前進するならば、やがて私たちは良き羊飼いの群れの中に自分を見いだすことであろう。それには自制と訓練、努力と勇気が必要である。しかし、使徒パウロが言うように、私たちは「わたしを強くして下さるかたによって何事でもすることができる。」(ペリピ4：13)のである。

近代の啓示はこう約束している。「人を善行に導く『みたま』に信頼せよ。然り、公平なる行い、へりくだること、義しき裁き、これわが『みたま』なり。

誠にまことにわれ汝に告ぐ、われわが『みたま』を汝に与えん。わが『みたま』は汝の心に悟りを与え、而も汝に悦びを充さん。

而して、その時汝知るを得ん。すなわち汝これによりて義しきことに関すること、すなわち汝がわれより受くべしと信じて信仰によりてわれに願う何事もすべてを知るを得べし。」(教義と聖約11：12-14)

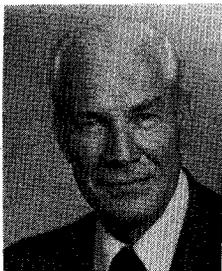
私たちがこの勧告に従ってそのように努力し、生活して神のみたまを得ることができるよう、イエス・キリストのみ名によりへりくだってお祈り申し上げる。アーメン。



大会の説教に聴き入る人々

王国の家族の受け継ぎ

神の王国の一員としてふさわしいことを行なうならば、だれでも王国の家族の一員になることができる



七十人第一定員会会員
ロイデン・G・デリック

聖書を信じている人々は、古代アメリカの予言者モロナイの訪れを受けたという予言者ジョセフ・スミスの言葉を、容易に受け入れることができるはずである。それは、1823年9月21日、ニューヨーク州マンチェスターで、起きたことである。ジョセフ・スミスはその時の模様を次のように述べている。

「かように私が神を呼び求めている間に、私は室内に一種の光が現われるのを見つけた。その光は次第に明るさを増して、ついには室中真昼よりも明るくなった。その途端に一人のお方が空中に立って私の寝台の側に現われた。それは、そのお方の両足が床から離れて居たからである。

このお方は世にも妙なる白色のゆったりとした衣を着て居たもうた。……このお方の手も腕も露わであって、衣の袖は手首の少し上まで、またその足も露わであって衣の裾は足首の少し上までしかなかった。その頭も首も露わであって……

この衣が世にも白かったのみならず、またこのお方の全身は筆にも口にも絶した輝きに充ち、御顔は誠にいなづまのように輝いてい

た。室内は非常に明るかったが、このお方の体のすぐ周りは特別によく光り輝いていた。私が始めてこのお方を仰ぎ見た時は恐れを感じたが、すぐにその恐れは去った。」(ジョセフ・スミス2：30—32)

このあとモロナイは、自分が14世紀前に地中に埋めた貴重な記録のことをジョセフ・スミスに告げた。そして、マラキ書の言葉を少し変えて次のように述べた。

「見よ、主の大いなるおそるべき日の来る前に、予言者エライジャの手によりて、われ神権を汝に顕さん。

彼は先祖になされし約束を子らの心に植え、子らの心にその先祖を思わしめん。もし然らずば、主の来る時、全地はことごとく荒れ廃れん。」(ジョセフ・スミス2：38—39)

この重要な宣言の重みを、どのようにすれば人々に強調して伝えることができるだろうか。この言葉を軽々しく聞き流してはならない。これは、私たちの肩に神聖な責任を負わせる言葉だからである。

1836年4月3日、ジョセフ・スミスとオリヴァ・カウドリは、カートランド神殿で最も栄えある示現を受けた。復活された主が目の前に姿を現わされたのである。その光景を描写したジョセフ・スミスの言葉は、教会の聖典中最も尊い聖句のひとつである。(教義と聖約110：2—3 参照)それからモーセが現われ、ふたりにイスラエルの集合の鍵を渡した。続いてエライヤスが現われ、福音の神権時代の鍵を渡し、最後に予言者エライジャがこう告げた。

「見よ、ここに於て正にその時は全く至れるなり。そは嘗てマラキの口によりて言われしことにして、すなわち主の大いなるおそる

べき日の来らん前に、彼（エライジャ）遣わさるべし。

すなわちエライジャは来りて先祖の心に子らを思わせ、子らの心に先祖を思わせん、然らずば、全地は咀いをもて打たるべし」（教義と聖約110：14—15）

実際に古代の予言者たちが現われ、この末日に救いの業を成就するために必要な鍵を回復したことは、何という栄えある出来事であろうか。

それ以来今日まで、聖徒たちは状況の許す限り、いや、たとえどのような困難な状況下にあっても、神殿を建て、自分の救いと先祖の救いに必要な儀式を行なってきたのである。これが、エライジャとマラキの語った子らの心を先祖に向けることである。

私たちは、この世を去ったすべての人々のために儀式を施す責任を主から託されている。現在はプライバシーの問題上、調べる当人の家系以外は、95年前より昔に死んだ人々にしか神殿の儀式を行っていない。

紀元1900年以前の死亡者について、氏名や必要な情報が記録として保存されているのは60億人と推定される。しかも、その大半は紀元1200年から1900年の間の生存者である。そのうちおよそ10億人の記録はすでにマイクロフィルムに収められ、5,700万人は神殿の儀式を完了している。そして今では25億人の個人の記録を入手することが可能になっており、今後、他の国々の門戸が開かれれば、さらに25億人の記録が入手できると見込まれている。現在、毎年1億人の名前がマイクロフィルムに撮影され、教会の保管庫に納められている。これらの記録の価値と、それがいずれ消滅してゆくことを考えれば、これは、教会だけでなく、全世界にとっても大事業である。

教会は、神殿における代理の儀式を行なうための人名の調査を、長年主として家族と個人の系図探求に頼ってきた。しかし、それは自分に近い先祖を除いてなかなかかはかどらず、非能率的である。例えば、J・トーマス・フ

アイアンズ長老の最近の発表によれば、彼は自分と同じ2代目曾祖父を持つまたいとこの子が348人もいるという。（「聖徒の道」1979年2月号、p.40参照）もしその人々が各自で同一人について調査をするととなると、途方もない無駄が生じることになる。

私たちは、これまで熱心に自分の先祖を探求してこられたすべての方々に賛辞を呈したいと思う。皆さんの努力、皆さんの信仰と勤勉さが、この業を推進する堅固な基礎を築いたのである。お陰で教会本部の置かれているこの市は、世界の系図の中心地として世に知れわたるようになった。皆さんが築いて下さった評判のお陰で、あるいはこれなしには閉ざされたままであったかもしれない、この業の門戸が開かれたのである。

私たちがこの先も個人の探求だけに頼るとすれば、なすべき神殿活動が十分に達成できない恐れがある。近年はコンピューター時代といわれ、新しい技術の発展には目を見張るものがある。今すでに、主が与えて下さったこの素晴らしい機械技術を利用すべき時が来ているように思う。

昨年、教会では人名抄出プログラムが開始された。神殿で儀式を施せるように、教会に保管されているマイクロフィルムから、ステーキ部ごとに死者の名前を抄出するプログラムである。このプログラムは順調に進んでいる。技術が向上すれば、経費や労力を削減しながら、さらにより実績をあげることが可能である。

主が予言者を通じて私たちに与えられたこの責任を果たす上で、今自分たちは何をなすべきかという質問が教会員から寄せられている。それに対する私たちの答えは次の通りである。

1. 4代家族の記録と系図表を完成させる。その記録を自分の兄弟や姉妹の記録と照合し、正確を期すこと。その後、その系図記録の一番上に兄弟姉妹の名前を列記し、代表者がシートを1組だけ系図部に送る。期

間は1979年7月1日から1981年7月1日までである。(注：日本では、神殿の儀式を施すための4代家族の記録プログラムを実施しているため、この期間に制限されない。)

2. 定期的に神殿の儀式を受ける。
3. 依頼された時に、ステーキ部の人名抄出プログラムに参加する。
さらに、これまでになく強調されていることがある。すなわち、
4. 個人と家族の歴史を書くことである。

テレビ番組「ルーツ」、そして最近放映された「ルーツ、その2」によって個人や家族の歴史に関心が高まり、そのブームは今後も続くであろうと専門家は見ている。先日もある主要テレビのネットワークでそのことが取り上げられ、教会の協力により個人と家族の歴史に関するドキュメンタリー番組が制作された。1980年の世界記録会議では個人と家族の歴史の書き方が中心テーマになる予定であり、この会議は教会内外を問わず大勢の人々が、記録の作成方法について世界各地の専門家から学ぶ場となるであろう。

皆さんは自分が王国の家族に属していることを考えたことがおありだろうか。この家族には、人に栄誉を授ける権威を持った者から受けた権能がある。あなたの家庭にはそのような栄誉を受けている人がいる。使徒ペテロは当時の聖徒たちを指して、「あなたがたは、選ばれた種族、王国の神権者、聖なる国民、特異な民である。」(1ペテロ2：9 欽定訳より和訳)と語った。皆さんの家庭には、王国の神権者はいないだろうか。

王国の家族とは、その一人一人が正直、誠実、純潔であって、慈悲と徳を持ち、節制、忍耐、寛大、謙遜、勤勉で、知識があり、律法を守る人である。主は、「されど、われは汝らの小児たちを光明と真理の中に導き来れと汝らに命じたり」(教義と聖約93：40)、そして「その子供たちに祈ることと、主の前に正しく歩むこととを教えざるべからず」(教義と聖約68：28)と言われた。またさらに「汝

ら最も善き書より智恵ある言葉を探し求めよ。また正に研究と信仰とによりて学問を求むべし」(教義と聖約88：118)とも言われた。

王国の家族とは、よく訓練された両親と、自分の欲望を抑えることのできる子供たちのある家族である。主は、そのような人々に対してこう約束しておられる。「およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行い、この誠命に従って歩むすべての聖徒らは……智恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。」(教義と聖約89：18—19)

王国の家族とは、模範的な家族である。彼らは他の家族が見習うべき模範である。救い主は教えに従う忠実な人々に対してこう言われた。

「あなたがたは、世の光である。山の上にある町は隠れることができない。

また、あかりをつけて、それを柵の下におく者はいない。むしろ燭台の上において、家の中のすべてのものを照させるのである。

そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(マタイ5：14—16)

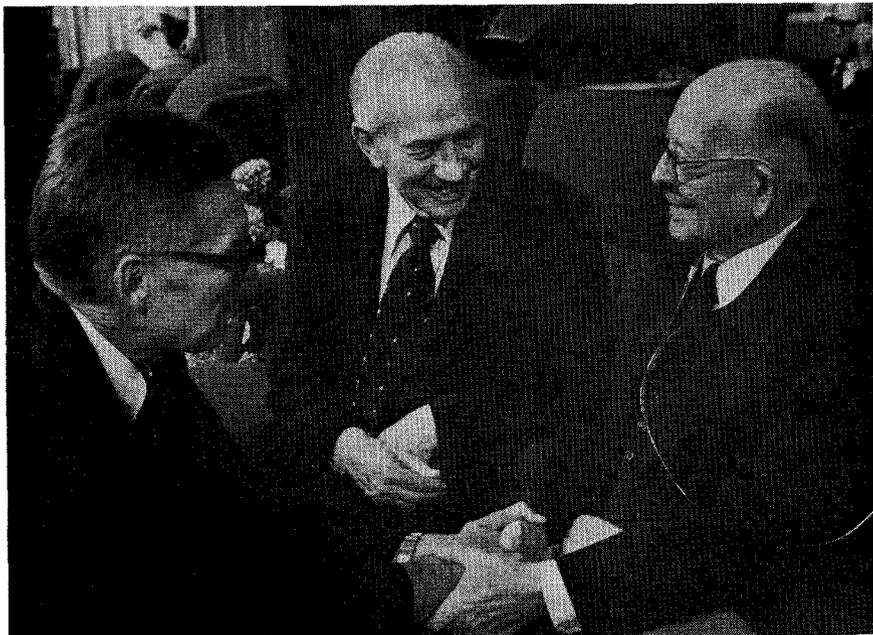
王国の家族は、受け継ぎを持つ家族である。多くの教会員の家族には開拓者の伝統があり、また誇りを感じて然るべき何らかの伝統がある。私たちの社会でこの伝統を保持してゆく最良の方法は、家族の歴史を記すことである。家族の歴史は子々孫々にわたり、最新の状態にしておかなければならない。さらに、家族はそれぞれ日記をつけ、それによって個人の歴史を書くことができる。キンボール大管長も日記をつけ、それをもとに自叙伝を書き、教会の文献に貴重な貢献をされている。

個人の歴史は、先祖の人柄や徳を子孫に伝える家宝である。その先祖はその家系の人々にとって、ダビデやサムソン、モーセ、アブラハムのような影響力を持つ人である。このような家族と個人の歴史を書くことは次第に

一般化し、世界中でますます数多くの人々がこれに関心を寄せるようになってきている。しかし、私たち教会員にとっては、これは神聖な責任である。子らの心は今確かに先祖に向けられているからである。

王国の家族とは、必ずしも世界の国々を統治する政治上の王国ではない。あなたもこの王国の家族の一員に加わることができる。まだこれを始めていなければ、今すぐ始めるべきである。そして子孫が神の王国で忠誠を示

す数々の原則に忠実になれるように備えるのである。自己訓練はあなたや家族の人生を豊かなものとする。この豊かさを家族の中に築き、絶やすことなく子孫に伝え、私たちが真実の意味で選ばれた民、王国の神権者、神の王国のひとつの家族となるように、そして主の再臨の時に全地が荒れすたれることのないように祈っている。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



談笑する十二使徒評議員会会員のブルース・R・マッコンキー、マーク・E・ピーターセン、リグランド・リチャーズの各長老

キリストの模範に従う

主は、私たちに自己の可能性を信じ、主に祝福を求め、犠牲を払い、奇跡を願ひ、そしてそれらを謙遜に受けるよう望んでおられる



七十人第一定員会会員
ハートマン・レクター・ジュニア

きょう、このようにして主イエス・キリストのみ名によって、皆さんに歓迎の言葉を述べられることは大きな名誉であり、特権である。創造のみ業は、私たちすべてに何らかの影響を与えている。また贖いの業は、かつてこの地上に生を受けた人々だけでなく、これから生まれてくるすべての人々に及ぶものである。

主はすべての点で実りあるこの世の生涯を過ごされた唯一の御方である。私たちと同じようにあらゆる誘惑を受けながらも、まったく罪のない生活を送られた御方である。(ヘブル4:15参照)そして主は私たちが罪と死に勝利を取めることができるように下さったのである。

私たちは皆、キリストに従って勝利を得るように期待されている。そこで大切なのは、キリストが使命をどのように果たされたかを誠心誠意知り、その模範に従うように努力することである。言うまでもなく、私たちは主とまったく同じことはできない。それは、主の使命と目的が私たちのそれとは異なっているためである。主は救い主であり、私たちは

救われる者である。主が神と人との間の仲保者であるのに対して、私たちは仲立ちを依頼する立場にある。また、主は贖い主であり、私たちは贖いを受ける者である。主と私たちとの違いを書き出すとしたら、おそらく数限りないことだろう。救い主がモーセに与えられた言葉の中に、地上における主御自身の使命が要約されている。「見よ、これわが業にしてわが栄光、すなわち人に不死不滅と永遠の生命とをもたらすなり。」(モーセ1:39)この使命の中で、不死不滅についてはすでに達成されている。すなわち、復活は現実のこととなっており、全人類はいつかこれを受けることができるからである。

さらに私たちに、人々に永遠の生命をもたらす主の助け手となることが許されている。いやむしろ、そのように勧められ、命じられているのである。言うまでもなく、人に永遠の生命をもたらすことは主に与えられているもうひとつの偉大な使命である。主は自分を信じる者は自分の行なっている業をするだけでなく、もっと大きな業をするであろうと約束しておられる。(ヨハネ14:12参照)聖典を読む人々はこの言葉に驚嘆する。この言葉はいつまでも私たちの耳に警鐘となって響く約束である。

聖典を調べてみると、キリストの生涯は私たちに幾つかの成功の秘訣を教えているように思われる。私自身もまだ主が行なわれ、教えられたことのすべての意味を理解している訳ではないが、これまで研究してきた5つの基本原則をここで御紹介したいと思う。

1. 自分にもできると信じる。これがまず第一に考えるべき大切な原則である。信じる者

には、すべてのことが可能になる。(マルコ9:23参照) 確かに私たちは何かを得ようと望む前にまず信じなくてはならない。そうすれば神は私たちの望みに応えて下さるのである。(アルマ29:4参照) 望みが強ければ、必ず実現できるであろう。自分自身を信じることもこの原則に含まれる。立派な成果を上げるのに、自尊心ほど大切なものはない。自尊心は、うぬぼれではない。うぬぼれは、この世の中で最も悲しむべき病気である。だれでも自尊心のない人間は、病気にかかってしまう。自分自身に対して良い思いを抱くことは非常に大切である。そして人は自己の可能性を切り開いて進んでいる時でなければ、自分に対して良い思いを抱けないと私は信じている。さらに戒めを守り、神のものは神に帰する思いがない限り、精神的あるいは肉体的な健康を得ることはできないと信じている。かと言って、従順であれば、自分の行ないすべてに満足のゆく行動がとれるかという、そうでもないのである。私自身も十分に満足のゆく行動がとれたことはほとんどない。確かに、仕事の上の業績を上げることはできる。しかし、それとても完全な満足感ではない。それでも主の側に立ち、基本的な主の戒めを守るならば、自分自身に対して良い思いを抱き、自分自身を神の子として尊重することができるようになる。つまり、自分の心の中に積極的な姿勢を見いだすことができるようになるのである。

ではどのように積極的に振る舞えばよいのだろうか。答えは簡単である。あなたの言葉の中からすべての否定的な意味を持つ言葉や語句を捨て去ることである。人は、「その心に思うそのままであるからだ。」(箴言23:7欽定訳より和訳) また、否定的な話をしないことである。そして、悲観主義者ではなく、楽観主義者になるのである。楽観主義者と悲観主義者の間には、大きな違いがある。前者は、積極的に信じやすい人であるのに対して、後者は否定的で疑い深い人である。皆さんも御

存じのように、楽観主義者とは靴が破れたら素足で歩けばよいと考えるような人である。ところが悲観主義者は言う。「見るまでは信じていない」と。

危機に直面した時に楽観主義者はすぐに行動を起こすが、悲観主義者は椅子に座って状況を見ることしかできない。皆さんが行動に移せないのは、心からそれを望んでいないからである。主は繰り返しそのことを述べておられる。

「常に祈りて信ぜよ」(教義と聖約90:24)

信仰は福音の第一原則であり、それは信じることから始まる。人は心の中で思う通りに実現することができる。したがって自分にはできると信じることである。

2. 主に頼り、主の祝福を求める。「そもそも創世の以前より天に於て定められた一つの変わらざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。

すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。」(教義と聖約130:20-21)

私たちはこの聖句をしばしば引用する。しかし、これを信じている人は少ない。むしろ私たちは国や地域社会、家族や友人など、他のものを頼りにする傾向があるように思う。伝道でもだれか他の教会員が教える手はずを整えてくれるのを当てにしている。ある時、宣教師が私のところに不平を言ってきた。「教会員がだれも求道者を紹介してくれません。ですから、求道者がいません。」そこで私はこう答えた。「そうですね。それじゃ、あなたは教会員が求道者を紹介しないからと言って主のみ業を遅らせるのですか。教会員のことは忘れて、あなた自身が主のみ業を遅くすることのないように注意して下さい。チランを配り、時間をかけ、熱心に働くことです。そうすれば主は報いを与えて下さるはずですよ。」

私たちは、主に頼り、祝福を求めるべきである。なぜならば、主は世界とすべての者を治めておられるからである。(詩篇24:1参

照)

求道者がいなければ、戸別訪問や街頭伝道などいろいろな行なってみることである。自分が当然いなければならない所に、時期を違わずいるようにしていただきたい。そのような行ないは自信を生むことだろう。教会員は、そのような有能な宣教師に自分の友人を教えてもらいたいと思うものである。以前に、このような報告を宣教師から受けたことがある。「伝道部長、私たちは求道者を一生懸命に捜すように努めました。でもいくらチラシを配ってもさっぱり求道者は見つかりません。ところが、思いがけないことで求道者が得られたのです。まるで木々の間か、天から舞い降りて来たかのように私たちの目の前に現われたのです。」確かに、この求道者は主から導かれたのである。主に頼り、祝福を願い求めなさい。「あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物」(ヤコブ1:17)を与えて下さるのは、主をおいてほかにいないからである。

3. 犠牲を捧げる。主にあっては代価なしで得られるものは何もない。祝福は祝福に基づく律法に従うことによってもたらされるからである。(教義と聖約130:21参照)主は犠牲を求めておられる。つまり、私たちが普通にできる以上のことをするように望んでおられるのである。主は「2マイル行く」ことの大切さを教え、私たちにそれを行なうように命じられた。(マタイ5:41参照)なぜだろうか。主は私たちに祝福を授けたいと望んでおられるからである。主は、2マイル先のところにすべての祝福を用意しておられる。したがって、その祝福を受けるためには、そこまでたどりつかなくてはならないのである。

最初の1マイルは私たちが負っている分であり、これは当然支払わなければならないものである。先日どう考えてみても自分の責任を果たしているとは思われない長老と話し合った時のことである。その宣教師はこう言った。「借りですか。別に私は借りがあるとは思いません。」

そこで、私はこう尋ねた。「でも今呼吸しているでしょう。」

「はい。」

「それは、あなたが自分でそうしたものですか。主は私たちに息を与え、毎日毎日生かし、時々刻々私たちを支えておられると、ベンジャミン王は述べています。」(モーサヤ2:21参照)私たちはこれまで呼吸できることを神に感謝したことがあるだろうか。呼吸困難にでもならない限り、普段はそのようなことを考えたことはないだろう。そして、そのような危機に頻して初めて主を思い起こすのである。

犠牲は、別の角度から定義するならば、自分のしたい放題のことをするのではなく、主が望まれることをすることであると言える。犠牲(いけにえ)が「天の恵み」(讚美歌144番)であるならば、主のみ業を進めるために自分にできるすべてのことを喜んでなすべきではないだろうか。そして必要であれば、「身命を尽くして」(教義と聖約123:13)も行なうべきではないだろうか。

確かに主のみ業では、私たちがこれで十分と思える以上の働きをした時に、主はそれを覚えて祝福を下さるのである。

これは単に私ひとりの考えであると思わないでいただきたい。ここで王国の奉仕に関する大切な聖句を聖典から少し引用してみたいと思う。

主は言われた。

「与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。人々はおし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして、あなたがたのふところに入れてくれるであろう。あなたがたの量るその量りで、自分にも量りかえされるであろうから。」(ルカ6:38)

「与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう。」換言すれば、祝福を受けなければ、まず与えなければならないということである。これは、受領してからその10パーセントを納める什分の一とは本質的に違う。主は、

まず与えなさい、そうすれば与えられるであろうと述べておられる。「ところで、どれほどのものが与えられるのだろうか。」(これが常に問題となるところだが)主はこう答えておられる。「おし入れ、ゆすり入れ、あふれ出るまでに量をよくして……。」喜ばしいことである。さらにこう続いている。「人々は……あなたがたのふところに入れて下さるであろう。」

「主ではないのですか」と問われることだろう。確かに、それをなさる方は主である。ただし、いつも人を通して行なわれるのである。もしあなたが主からの啓示を祈り求めるならば、主は恐らくあなたの監督を通してその答えを与えられるであろう。あなたは近くに監督がいる限り、天使に会う必要はないのである。また、主は次のようにも述べておられる。「あなたがたの量るその量りで、自分にも量りかえされるであろうから。」

主から祝福を得たければ、祭壇に何かを捧げることである。犠牲を捧げるのである。

4. 奇跡を求める。私たちは皆、ほとんどの場合奇跡を求めない。奇跡を求めようとしなから、奇跡が実際に起きてもそれに気づかないのである。主は、福音を「あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる世の人々」(教義と聖約77:8)に伝えるように命じられた。そこで、私たちは現在まだその門戸が開かれていない国々の障壁を打ち破ることができるように、主が奇跡を起こして下さることを祈っている。しかし私たちはその障壁が取り払われた時に、その国々に出かけて行く若人の準備を怠りなくしているだろうか。また同時に、私たちが隣家の垣根を飛び越すために必要な助け、すなわち主からの助けが必要であることを見過ごしてはいないだろうか。

主は数多くの改宗者がでると約束しておられる。しかし聖徒たちはその意味を正しく理解しているだろうか。それは、少なくとも見積ってもひとつのステーキ部で毎週50名から100名のバプテスマが必要だということである。

私の経験からみても、これは可能な数字である。ただし、バプテスマ・フォントが一週間に一回だけしか使用できないというのであればまた別のことだが。

また宣教師が求道者を見つけ、教え、フェローシップするのを会員がただ黙って見ているだけではこの数字を達成することはできないだろう。

教会員はすべてこの伝道の業に参加すべきである。予言者を通して与えられた主のみ言葉に耳を傾けていただきたい。「父親である皆さん、あなたが先頭をきって歩むのです。……家族全員で祈りを捧げ、交際したいと思う家族を2、3選んで下さい。親戚や友人の中で、だれに紹介するかを考えて下さい。月曜日以外の夕べに彼らを招いて家庭の夕べを開いてもよいでしょう。一緒に出来る活動は、沢山あります。そしてその家族が関心を示したら、ワード部もしくは支部の伝道主任を通じて、あなたの家で宣教師から回復のメッセージを伝えてもらうよう手配して下さい。」(スベンサー・W・キンボール「私には友達が必要で——教会員のためのフレンドシップガイド」p. 1)

実行しようではないか。そうすれば必ず改宗の奇跡が皆さんの家庭に起こることを私は約束する。

キンボール大管長の言葉にもあるように、だれかが教会に来て、教会のことを尋ねるのをじっと待っているというような「普通の安易な伝道から得られるゆったりとした自然増を」待っているだけでは、大勢の改宗者を実際に生むことはできない。

大管長はさらにこう述べている。「兄弟の皆さん、今こそこのみ業を押し進める熱意が必要である。」(グラント・フォン・ハリスン、*Missionary Guide*「伝道のガイド」p. 59)

私たちは、宣教師や会員たちに、今こそその時であることを教え、彼らを励まさなければならぬ。

主は「歩みを速め、高い目標を掲げ、大き

なビジョンを持ち、自己の才能を伸ばしなさい」と言っておられる。それはまさに「奇跡を期待する」ようにと言っておられるのと同じである。なぜならば、奇跡はそのようにする時に生まれるからである。

予言者は「実行しなさい」、そしてその時を告げて、「今、実行しなさい」と言われた。これも奇跡を期待する言葉である。

5. 奇跡を謙遜な気持ちで受け入れる。すなわち自分の力ではなく、主が行なわれたことを素直に認めることである。そして「栄光とこしえに父にあれ」（モーセ4：2）と祈ることである。この謙遜さほど大切なものはない。主は私たちが謙遜であるならば、導きを与えて下さると述べておられる。「汝須らく謙遜なれ、さらば主なる汝の神は手を取りて汝を導き汝の祈りに応えん。」（教義と聖約112：10）

今月成功したからと言って、中断したり記録を誇ったりしてはならない。主のみ名によって来月はさらに立派な成果を残すよう、その成功をひとつの刺激剤とすることが大切である。ニーファイはこう述べている。「人が最善をつくしてはじめて、神のめぐみにより救われることを知っているからである。」（IIニーファイ25：23）

私の考えであるが、人に不死不滅と永遠の生命をもたらすために主が示して下さった成功の秘訣は、次のようにまとめることができると思う。

第1に、自分にもできると信じる。主は、私がこの世に来たのは、「多くの人のあがないとして、自分の命を与えるためである」（マタイ20：28）と言われた。

第2に、主に頼り、主の祝福を求める。再び主は言われた。「父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい。」（ヨハネ17：5）

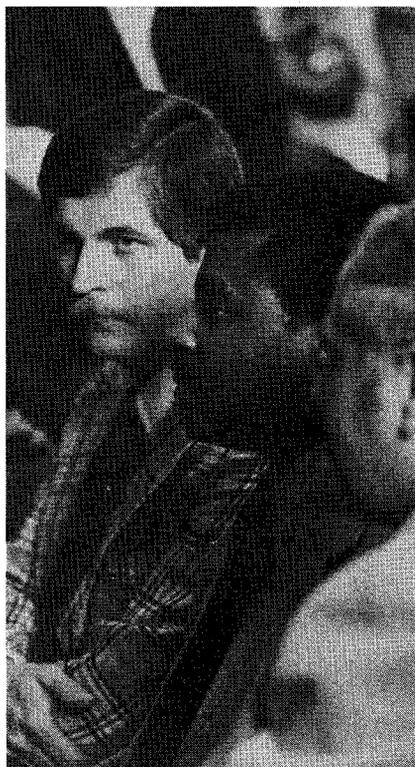
第3に、犠牲を捧げる。主は述べておられる。「わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。」（ヨハネ10：11）

第4に、奇跡を求める。主が言われた。「よくよくあなたがたに言うておく。死んだ人たちが、神の子の声を聞く時が来る。今すでにきている。そして聞く人は生きるであろう。」（ヨハネ5：25）

第5に、奇跡を謙遜な気持ちで受け入れる。「よくよくあなたがたに言うておく。子は父のなさることを見てする以外に、自分からは何事もすることができない。」（ヨハネ5：19）

そして「イエスは彼らに答えて言われた。『わたしの教はわたし自身の教ではなく、わたしをつかわされたかたの教である。』（ヨハネ7：16）

私は以上述べたことが主のみ業を推し進める上で非常に効果的であることを証する。そして、これらは世界中のどこでも通用することを確信している。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



今日は犠牲の日

悔い改めと神との誓約からもたらされる犠牲を含めて、犠牲というものは信仰生活を送る上で不可欠のものである



十二使徒評議委員会会長
エズラ・タフト・ベンソン

愛 する兄弟姉妹の皆さん、私はこの神聖な話の責任を感謝の念をもって謙遜に果たしたいと思う。また、私の話を聴く方々が犠牲の原則を信仰生活に不可欠のものとして受け入れ、この原則に従って生活する気持ちを強めて下さるようにと祈っている。というのは「今日は犠牲の日」だからである。

主は、1831年9月に次のように言われた。「人の子の来るまで今より後を『今日』と称えらる。誠に『今日』は犠牲の日……なり。」(教義と聖約64:23)

予言者ジョセフ・スミスは、「信仰講話」の中で、犠牲の原則について次のような注目すべき言葉を残している。

「あらゆるものを犠牲にすることを求めない宗教は、生命と救いを得るに必要な信仰を人々に持たせることはできない。」(Lectures on Faith「信仰講話」6:7)

福音のこの原則について考える時、私たちに残された遺産とも言うべき先祖たちの信仰と犠牲が心の中に浮かんでくる。

父祖アブラハムはイサクをいけにえとして捧げ、アブラハムのひまごに当たるヨセフは

青年時代に抗し難い誘惑を受けながらもこの世的な快樂を振り捨てた。

リーハイはすべてのものを残して、この約束の地を目指した。

合衆国の建国者たちは生命や財産、また神聖な名誉をかけた。また中には、すべてをなげうった人々もいた。

近代の予言者ジョセフ・スミスは、評判、名誉、賞賛、声望、家、土地、家族を犠牲にし、またついには真理のために自分の命までも捧げた。

初期の開拓者は、土地や所有物、村や町をそのまま後に残してこの山あいの盆地へ移住した。

神の御子は、私たちがふさわしいことを条件に再び永遠の御父なる神のみもとへ帰れるように、無限無窮のいけにえとなられたのである。

私たちの先達となってきた幾千、幾万の忠実な聖徒たちの信仰、献身、犠牲について考える時、予言者ジョセフ・スミスの残した次の言葉に心からの同感を覚える。

「すべてを捧げてきた人々と共同の相続人であると思ひ込んだとしても、その人々がしたように神に犠牲を捧げることをしないならば、それは何の益にもならない。」(Lectures on Faith「信仰講話」6:8)

繰り返し申し上げたい。今日はまさに犠牲の日である。そしてその機会はいつも私たちの前に備えられている。私はここで、この原則を実践するための方法を4つお話ししたいと思います。

第1は、神のみこころに背くことをすべて捨て、犠牲を捧げることである。これは、教会員だけでなく教会外の人々にも言えること

である。なぜならば、私たちはすべて同じ御父の子供であり、その御方は私たちが御自身のようになることを望んでおられるからである。モルモン経の時代の予言者モロナイは、次のように記している。

「キリストの御許に来てキリストによって全くなれ。すべて神のみこころに背くことを捨てよ。もしこのようにして勢いと心と力とをつくして神を愛するならば、神があなたたちに与えたもう恵みは充分である。恵みが充分ならばあなたたちはこの恵みを受けてキリストにより全くなる。もし神の恵みを受けキリストにより全くなるならば、決して神の能力と権能とを否定することができない。」(モロナイ10:32)

救い主御自身も、次のように宣言された。「世界の隅々に至る者たちよ。汝らは聖霊を受けて聖められ、また終りの日にわが前に罪なしとせられんために今悔い改め、われに来てわが名によりてバプテスマを受けよ。」(III ニーフアイ27:20)

神のみこころに背くことを捨てるとは、主のみたまの導きから私たちを遠ざける一切の罪を悔い改め、儀式を受け、主と誓約を交わすことによってキリストの下へ来ることである。また神のみこころに背くことを捨てるとは、「真にへりくだりたる心と悔いる精神とを以て、汝の神に……捧物となす」(教義と聖約59:8)ことである。

タバコやアルコール性飲料を口にすると、神を冒瀆するような言葉を遣う、激しい感情をむき出しにする、あるいは不道徳な行為に走るといった悪い習慣を私たちは自ら進んで断っている。これらの習慣は、神の子供である私たちの本来あるべき姿を見失わせるものである。

私はこれまで、教会の内外において、何らかの悪習の故に、より大きな幸福と進歩への機会を遠ざけている善良な人々、あるいは墮落した人々の姿を目にして来た。その善良な人々のひとりに、教会員にならなかったが、

この教会の素晴らしさをよく知っていた人がいる。ある時、彼はタバコを手にしながらか、私に言った。「エズラ。贖いをもたらす君の悪徳は一体何だい。」私はこのような言い方をそれまで耳にしたことがなかった。兄弟姉妹の皆さん、主においては、贖いをもたらす悪徳などというものはない。あるのは、贖いをもたらす徳だけである。

皆さんの中にまだ、真にへりくだりたる心と悔いる精神をもって罪を悔い改め、キリストのもとに来ようとしていない人がいるならば、今それをしていただきたい。皆さんが、次のように語ったモルモン経に登場する古代の王と同じ気持ちで祈るように願っている。

「神よ、……汝のことをわれに知らしめたまえ。さらば、われは汝を知り、……わが一切の罪を捨てん」(アルマ22:18)

第2は、喜んで伝道に出ることによって、犠牲を捧げることである。伝道の召しについて、キンボール大管長は次のように言っている。「若い男性が、ふさわしい年齢に達しながら、将来の人生設計や職業への準備に時を費やし、創造主に仕えるというこの世で最も大切な召しに携わろうとしないとしたら、それは非常に利己的で思慮に欠けたことである。」(地区代表セミナー、1977年9月30日)

2年間を主に捧げる決心のできていない若人が大勢いる。特に福音を国々に宣べ伝える大きな役割を担っているアメリカ合衆国やカナダに住む若人の皆さんにお話したい。皆さんは人類史上かつて例のない繁栄を享受している。主が皆さんを地上に、しかもこのような恵まれた状況の下に送られたのは、皆さんに与えられた才能や教養、財産を、人々に福音を分かち、祝福をもたらすために使えるようにということからではないだろうか。

先日、南アメリカの幾つかの国々を奉獻し、ボリビアとパラグアイにそれぞれ最初のステークスを組織した折に、ブラジルのサンパウロにある宣教師訓練センターを訪問した。そ

の時、訓練センターに来ている南米生まれの若人の多くは、生活のための貯金を使い、多大の犠牲を払っているということを耳にした。伝道管理部では、最低6枚のワイシャツを持参するように指示しているが、リーハイの子孫である彼らは、1枚か、多くても2枚しか持って来られないという。しかし、これらの青年たちは、主に対する確固たる決意と大いなる愛をもって、この業に仕えているのである。

彼らに与えられる祝福は、これまで彼らが払ってきたいかなる犠牲をもしのごものとなるだろう。主はふさわしい行為には必ず報いを与えて下さる御方だからである。

若人の皆さん、キンボール大管長のこの言葉を皆さんのモットーにしてください。「すべての男性会員は伝道に出るべきである。」（「聖徒の道」1974年9月号、p. 417）犠牲を払うようお願いしたい。私たちが犠牲と言うのは、これよりも良い呼び方がほかにないからである。犠牲とは持てるものを捧げ、献身することである。この世で最も偉大な奉仕の業に志願していただきたい。決して責任を回避しないでいただきたい。わかっていながら拒むというようなことはしないでいただきたい。皆さんが28,000名の宣教師の軍勢に加わるように願っている。その数は日に日に増加している。その時皆さんは、回復された福音のメッセージを世の人々に宣言するという務めに携わることになるのである。私たちが皆さんを愛し、信頼していることを知っていただきたいと思う。皆さんがこの召しを果たされるように願っている。

第3は、主の宮居で結婚するために犠牲を払うことである。南アメリカを訪問した時、多くの聖徒が家族の結び固めの儀式を受けるために犠牲を払っている姿を目にして心を打たれた。彼らの体験を幾つか聞いて、私は感謝の涙を流した。

あるステーキ部長は家族を連れてペルーのリマからサンパウロ神殿へやって来た。普通

はバスで9日間掛かるところを、バスのストライキやその他の問題が重なって14日間の旅を強いられることになってしまった。

家族はサンパウロに到着すると、初めての儀式を受けるために神殿に向かった。そして結び固めの儀式を受けたのである。この後、家族はすぐに帰り支度に取り掛かった。神殿長が彼らに翌日まで滞在してはどうかと勧めると、父親は、宿泊や食事のための費用がないのですぐに出発しなければならないと答えた。さらに、行きの旅もそうだったが、帰りの旅も食事を取らずに数日間過さなければならないということであった。そこで神殿長は、その夜は泊まって朝食を取ってから出発するようにと勧めた。これは、全世界の聖徒たちの持つ犠牲の精神の典型である。

ここで、教会の若い男性ならびに若い女性の皆さんに、卒直に申し上げたい。皆さんが結婚する時、その決定は皆さんだけでなく、将来の皆さんの子供たちや、次の世代にも影響を及ぼすということ。また、末日聖徒を両親に持つ子供たちには、神殿で交わされる誓約の下に生まれ、祝福を受ける権利がある。

皆さんに、最も神聖な事柄についてお話したいと思う。美しく飾られた、ちょうど居間のような部屋を思い浮かべていただきたい。部屋の中央には、ベルベットとレースで覆われた聖壇がある。壁に沿っていすが並べられており、家族や親しい友人が儀式に立ち会えるようになっている。皆さんは、いつの日か家族が見守る中で、神の権能を有する神権者の司式により、伴侶と聖壇ごしに向かい合いひざまずくように言われることだろう。そこでは様々な指示が与えられ、ふたりの上に祝福が宣言される。こうして皆さんは、夫婦として永遠に結び固められるのである。皆さんの受ける約束はアダム、アブラハム、イサク、ヤコブが受けたと同じものである。教義と聖約の中から、これについて読んでみたいと思う。主が言われたように、皆さんは本質的に彼らと同じ約束を受けるのである。

「汝ら第一の復活に出で来るべし。……而して汝ら王位、王国、公国、その他権能……とを受け嗣ぎ……彼らは……諸天使諸神の前を通り過ぎ、……各々最高の栄に進むを得てあらゆる事に光栄を受くべし。この光栄は最高完全の光栄にして、永久にその子孫の続くことなり。」(教義と聖約 132:19) 神殿結婚は昇栄に必要な福音の儀式である。

一緒に神殿に参入することのできないような人に心を奪われて、幸福を逃すようなことがあってはならない。必ず神殿で結婚しようと決心していただきたい。ロマンチックな交際が進むまでこの決断を引き延ばすことは、危険を冒すことである。そしてそれは、今推し計ることができないが、事は重大である。

このことについて、さらに真剣に祈るようお願いしたい。このような交際が根を下ろさない内に、これらのことが真実であるという証を得るようにしていただきたい。みこころに従うという誓約を天父と交わし、道徳的に清く、みだまによる祝福を得るにふさわしい生活をしていただきたい。

永遠の結婚によってもたらされる祝福を得るためには、いかなる犠牲を払っても払い過ぎるということは決してない。多くの人々が、神殿への参入を安易に考えている。現実にも容易に参入できるためとも思われるが、多くの人々が祝福を不用意に逃している。福音に忠実に従って生活するという点では他の事柄と同様であるが、主の方法に従って結婚するためには、神のみこころに背くことやこの世的な思いを自ら進んで捨て去り、天父のみこころを行なおうと決意することが必要である。このような信仰に基づく行ないを通して、私たちは神への愛と、まだ生を受けていない子孫を尊ぶ気持ちとを示すのである。この人生の喜びの最大の源は家族であり、家族が永遠に続くようにと願うものである。

第4は、自分の時間と財産を地上における神の王国の建設に捧げるという犠牲である。霊的な幸福と成長にかかわる大いなる律法に

ついて、救い主は次のように言っておられる。

「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。

自分の命を救おうと思うものはそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。」(マタイ16:24-25)

自己を捨てて他の人々のために働く機会、日々の生活の随所に見られる。子供たちを世話する母親、時間をとって子供たちを教える父親、家庭生活のためにこの世的な楽しみを放棄する両親、年老いた両親を世話する子供たち、ホームティーチング、家庭訪問、慈善奉仕、さらには慰めを必要としている人々を慰めること、教会の召しを熱心に果たすこと、地域社会の一員あるいは公民として自由を守るために活動すること、什分の一、断食献金、宣教師援助、福祉活動、建築および神殿計画などで経済的な捧げ物をするこゝもこれに含まれる。犠牲の日とは決して過去のことでないのである。

サタンの強力な武器のひとつに高慢がある。これは周囲の目を自分に向けさせようとするあまり、創造主と同胞に対して心をかたくなにさせるものである。高慢は不平不満、離婚、十代の反抗、負債、そのほか私たちが直面している多くの問題を引き起こす原因となる。

自分自身を見いだそうとする人は、自己を捨てて他の人々のために働くことである。自分を忘れてあなたの助けを必要としている人々を見つけていただきたい。そのようにするならば、幸福で満ち足りた人生を送るための秘訣を見いだすであろう。

ハロルド・B・リー大管長は次のように言っている。

「私はひとつの偉大な真理を信じている。主が子供たちに豊かな祝福を与えようとする時には、その息子あるいは娘に、犠牲を払う機会を与えられる。」(Conference Report 「大会報告」1947年4月, p. 50)

まさにその通りである。犠牲は天の祝福を

持たらずのものである。私はそのことを証したい。今は、主の民が、犠牲を捧げる日である。

私は、今日が「犠牲の日」であること、そしてそれは神の子供である私たちを祝福するために主が立てられた御計画の一部であるこ

とを皆さんに証したい。皆さんが、詩篇の作者の勧告に従って行動できるように祈るものである。「義のいけにえをささげて主に寄り頼みなさい。」(詩篇4:5) イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



カミラ・E・キンボール姉妹（左）と扶助協会中央管理会会長のバーバラ・B・スミス姉妹

主の軍勢

これから宣教師になる皆さんは、この特別な時期のためにとっておかれた。
収穫は大きい。生涯の機会はあなたのものなのである



十二使徒評議員会会員
トーマス・S・モンソン

今宵、私は、皆さん方が今までになく多くの神権者を代表してここに集っておられることを承知している。私は天父の助けを求め、天父が靈感と勇気を与えて下さるよう心から祈っている。

およそ24年ほど前、私は、このテンプルスクエアの南側にあるアセンブリーホール合唱団席に座っていた。ちょうどステーク部大会が開かれていた。ジョセフ・フィールデング・スミス長老とアルマ・ソニ長老が、ステーク部長会を再組織する責任を受けて大会に出席された。この時、アロン神権者たちは、監督や副監督と共に歌を発表する責任をいただいた。監督として働いていた私たちも、青少年の中に入って一緒に歌った。私たちが最初の曲を歌い終えると、スミス長老が演壇に歩み寄り、新しいステーク部長会の名前を発表した。ステーク部長会の他の人々は、事前に話を依頼されていたのだろうが、私には知らされていなかった。私の名前を読み上げたあと、スミス兄弟は、「モンソン兄弟が喜んでこの召しをお受け下さるのなら、私たちは是非モンソン兄弟からお話を伺いたいと思いま

す」と言った。私は演壇に立ち、会場一杯の人を見渡した時たった今歌ったばかりの歌を思い出した。その曲は、「我が子よ、いいえと言える勇気を持って」という曲であった。そこで私は「我が子よ、はいと言える勇気を持って」というテーマで話をすることにした。そのような勇気を持てるように願っている。

ここに集っておられる皆さんの姿を描いた有名な讃美歌に次のような歌詞がある。

「見よ、王の軍は 旗をかかげ
生命いのちのいくさ 勝かちて進む
つわものごぞり 強くおと雄々し
指揮者につづき うたい進む

勝利よ勝利よ われらに主あり
勝利よ勝利よ 主により勝たん」

(讃美歌20番)

神権者とは、強力な正義の軍勢、すなわち王の軍勢のことである。私たちの指揮官は神の予言者であり、さらに最高指揮官は、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストである。私たちに与えられている進軍の命令は明瞭かつ簡潔である。マタイは、主が私たちに与えられたチャレンジを次のように記録している。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ28:19-20)この初期の教会の時代の弟子たちは、この神聖な命令に忠実に聞き従ったであろうか。マルコは次のように記録

している。「弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主も彼らと共に働き……。」
(マルコ16:20)

この命令は、まだ取り消されてはいない。むしろ、改めて強調されているほどである。現在、28,000人の宣教師が、この召しに応えて働いている。7月には、新しく9つの伝道部が創設され、全体で伝道部数は、175になる。私たちは、何とチャレンジに満ちた躍動の時代に生きていることだろうか。

アロン神権を持ち、それを誉れとしている皆さん方は、歴史上この特別な時期のためにとっておかれたのである。収穫は、まことに大きい。誤解のないようにして欲しいが、生涯の機会をどうするかはあなた方自身の手に委ねられているのである。永遠の祝福は皆さんを待ち受けている。では、どのようにして、この召しに応えたらよいであろうか。私は、皆さんに、次の3つの徳を伸ばしていただきたいと思っている。

1. 奉仕したいという望みを抱くこと
2. 忍耐強く準備をすること
3. 喜んで働く精神を持つこと

このような徳を伸ばすことができるならば、必ずや主の王の軍の一員に加わることができるであろう。そこで、この3つの徳について、個々に詳しく考えてみたい。

第1に、奉仕したいという望みを抱くことである。主がみ業に仕える資格について述べた言葉に「見よ、主は真心と喜びで事に従う精神とを求む」(教義と聖約64:34)という一節があったことを思い起こしていただきたい。末日のある説教者は次のように述べている。「喜んで物事をなそうという精神が、義務だからという精神を押し流すまで、人は、愛国心というみ旗のもとについて行くのではなく、徴兵されたからという理由だけで戦いを続ける。私たちが仕事を成し終え、さらにできることならなんでも喜んでしますという気持ちにならない限り、義務が立派に果たされたことにはならないのである。」

あなた方は自分で自分をこのみ業に召すことはできない。また、あなた方の両親が召すのではない。あなた方は、予言と啓示により神から召されるのである。あなた方への召しには、教会の大管長の署名がある。

スペンサー・W・キンボール大管長が教会の伝道管理委員会の委員長を務めておられた時、私は長年にわたってキンボール大管長と一緒に働く特権にあずかってきた。宣教師の任地を決定する会合は、決して忘れることのできない思い出であり、この会合は、いつも靈感に満ち、時にはユーモアを交えることもあった。私はあるひとりの宣教師志願者の推薦書のことを今でもよく覚えている。その推薦書に、次のような監督の言葉があった。「この青年は、特に母親を慕っています。そこで母親は、できれば折に触れて訪問したり、毎週電話したりできるようにカリフォルニアあたりの、自宅に近い伝道部に送られることを希望しています。」私はこの推薦書の言葉を読み上げ、任地の発表をするキンボール大管長の言葉を待った。大管長は、ちらっとまばたきををし、口もとにほほえみを浮かべると、何の説明もなく、ただこう言われた。「彼を南アフリカのヨハネスブルグ伝道部に送ることにしましょう。」

ひとつひとつの召しが神から与えられたものであることを立証する事例は、枚挙にいとまがないほど数多い。私は、そのような神聖な責任には、必ず神の靈感が伴うことを知っている。その真理は教義と聖約の中に簡潔に述べられている。「汝らも神に仕えんと望むならば、汝ら神の業に召さるるなり。」(教義と聖約4:3)

第2に、忍耐強く準備することである。伝道に出る準備というのは決して一時的にできるものではない。物心つく前から始まっているのである。初等協会、日曜学校、セミナーで教えを受けたこと、そして神権の責任を果たしたことはすべて、広い意味で、宣教師になるための準備であった。人の生命は静かに、

ほとんど知覚できないままに形造られ、経験を積み、成熟した人間になっていくのである。ある詩人はこう言っている。

「救い主の計画に従って少年の心に触れる人は、やがて大人となる少年のために道を切り開く人だ。」

このような少年たちの定員会のアドバイザーとして召されることは、なんと大きなチャレンジであろうか。アドバイザーの皆さん、自分に与えられている機会について真剣に考えたことがあるだろうか。深く心に思い計っているだろうか。よく祈って準備しているだろうか。自分に割り当てられた少年たちに備えをさせているだろうか。

私は15歳の時、教師定員会を管理する責任に召された。私たちのアドバイザーは私たちに深く関心を持っていたし、私たちもそれを知っていた。ある日、彼が私に言った。

「トム、君ははとを飼っているんだって。」

私はうれしくなって「ええ」と答えた。

すると彼は、「純血種のバーミンガム・ローラーを2羽、私にプレゼントさせてもらえないだろうか」と言った。

私は「はい、お願いします」と答えた。おわかりのことと思うが、私が飼っていたはとは、はとと言っても、小学校の屋根の上にわなをしかけて捕えたようなごくありきたりの雑種ばかりだったからである。

彼は、翌日の夕方、彼の家へ来るよう招いてくれた。その翌日は、幼ない頃の私には、最も長く感じられる一日であった。私はアドバイザーの帰宅を1時間程待った。仕事から帰ってきた彼は、私を裏庭の納屋にあるはと小屋へ連れて行ってくれた。私はそこでいままでに見たこともなかった程美しいはとを見たのである。「どれか雄のはとを一羽選びなさい。そうしたら世界中どこを捜してもいないような変わった雌ばとをあげよう。」私は一羽の雄ばとを選んだ。すると彼は私の手に小さな雌ばとを乗せてくれた。私は、この雌ばとのどこがそんなに変わっているのと尋ねると、

彼は「注意してよく見てごらん。目が片方しかないから」と言った。言われてみればその通りで、この雌ばとの片目はなかった。ねこから傷を負わせられたのだという。「家へ連れて行って、君のはと小屋の中に入れておきなさい。そして10日程小屋の中で飼ったら、外に出してみても君の小屋に戻って来るかどうか試してみるといい」と彼は言葉を添えた。

私は言われた通りにした。すると雄ばとの方ははと小屋の屋根の上を偉そうに歩き回り、しばらくすると、えさを食べに小屋に戻ってきた。ところが、片目の雌ばとの方は、すぐにどこかに飛んでいってしまった。私は、アドバイザーのハロルドのところへ電話をして尋ねてみた。「あの片目のはとがあなたのはと小屋に戻っていませんか。」

「来てごらん、一緒に調べてみよう」と彼は答えた。

二人は台所の戸を開けてはと小屋まで歩いていった。その途中に私のアドバイザーはこう言った。「トム、君は教師定員会の会長だよ。」私はそんなことは言わなくてもわかっていていると思った。すると彼はこう言った。「ボブを活発化するためにどんなことをするつもりだい。」

私は、「今週の定員会集会には出てもらうつもりです」と答えた。

やがて彼は、巢に手を伸ばし、片目のはとを取り出して渡してくれた。「2、3日飼ってみて、また試してみるといい。」私は言われた通りにやってみたが、今度もこの前と同じようにはとはいなくなった。「来てごらん、戻っているかどうか一緒に調べてみよう。」はと小屋に行く途中で、彼が言った。「おめでとう。とうとうボブを神権会に出席させたね。じゃ今度は、君とボブで、ヒルを活発化するために、どんなことをしたらよいだろうか。」

「今週彼にも神権会に出席してもらうつもりです」と私は答えた。

その後何度かこのような経験が繰り返された。そして私は大人になって初めて私のアド

バイザーのハロルドがこの片目のはとをプレゼントしてくれた本当の意味を知ることができた。ハロルドはそのはとがどこで放しても必ずハロルドのはと小屋に戻ってくることをよく知っていたのである。ハロルドは、2週間毎に教師定員会の会長と理想的な神権個人面接をするために、靈感を受けてこうした方法をとったのである。私が今日あるのも、多くはあの片目のはとのおかげである。そして、それ以上に、あの定員会アドバイザーに感謝している。これから出あう様々な機会のために私を備えさせるために辛抱強く助けてくれたのである。

第3に、喜んで働く精神を持つことである。宣教師の仕事はたやすい仕事ではない。精力を要する仕事である。また、能力や才能の限りを尽くして働かなければならない仕事である。そして最善の努力と、時にはそれ以上の努力すら要求される仕事である。しかし忘れてならないことは、「必ずしも速い者が競争に勝つのではなく、強い者が戦いに勝つのではない」(伝道9:11)ということである。むしろ、最後まで耐え忍ぶ者こそ、勝利を得るのである。是非次の勧告を心に留めていただきたい。

「仕事にしがみつき、仕事が身につくまでが
んばりなさい。

始める者は多いが、最後まで終える者は少ない。

名誉、力、地位、賞賛、これらは皆、最後まで仕事を成し終えた者の上にある。

仕事にしがみつき、仕事が身につくまでが
んばりなさい。

腰を曲げ、汗を流し、ほほえみを浮かべな
さい。

曲がった腰と流した汗と浮かべたほほえみ
のかけから

人生の勝利はやって来るからである。

第二次世界大戦が最終の局面を迎えた頃、私は18歳になり、長老に聖任された。海軍の

軍務に服するために出発するちょうど一週間前のことである。私のワード部の副監督が駅まで私を見送りに来てくれた。汽車の出発する直前、彼は私に一冊の本を手渡してくれた。それが今晚、ここに持っている「宣教師の手引き」という本である。私は笑いながら「私は伝道に行くんじゃないよ」と言った。すると彼は「とにかく持って行きなさい。役に立つかもしれないから」と言った。

それが実際、大変役に立った。私たちが基礎訓練を受けていた時、部隊の司令官が、どうしたら大型の海兵隊のバッグに一番上手に衣類を詰め込めるか教えてくれた。彼はこう言った。「バッグの底に固い長方形のものを敷くとよい。そうすれば衣類はきちんと詰められる。」突然、私の頭にそれにぴったりの長方形のものが浮んできた。それがこの「宣教師の手引き」だった。そして12週間この本は立派にその務めを果たしてくれた。

クリスマス休暇に入る前の晩、例のごとく私たちの心はもう我が家に飛んでいた。だれ一人として兵舎で騒ぐものもいなかった。すると突然、隣りの寝台で私と同じモルモンで、レランド・メルルという親友が苦しんでいることに気がついた。「メルル、どうしたんだ」と私は彼を呼んだ。

「体の調子がおかしい。苦しいんだ」と彼は答えた。

私は彼に、基地内の診療所へ行くよう勧めたが、彼は、そんなことをしたらクリスマスに家へ帰れなくなるのはわかりきっていると答えた。

何時間が過ぎた。彼のうめきはひどくなる一方だった。その時、彼は必死の思いで私にささやいた。「モンソン、モンソン。君は長老だったよね。」私はその通りだと答えた。すると彼は「ぼくを祝福して」と言った。

私はその時、自分がそれまで一度も祝福を施したことがなかったことに気づいた。そのような祝福を受けたこともなければ、祝福を授けたことも、また授けるのを見たこともな

かったのである。そこで私は神に助けを求めて必死で祈った。その答えは「海兵隊のバッグの底を見よ」であった。そして、夜中の2時に、私は甲板の上にバッグの中味を全部出した。それから終夜灯の光の下で、例の固い長方形の小冊子「宣教師の手引き」を開いて、病人を祝福する方法を読んだ。

やがて、60人ほどの水兵たちの好奇心の目が見守る中で、私は祝福を施した。すると、私の祝福が終わるか終わらないかのうちに、レランド・メリルは子供のように眠り込んでしまった。

翌朝、メリルは、ほほえみを浮かべながら、私の方を向いてこう言った。「モンソン、君が神権を持っていてくれてうれしいよ。」彼のう

れしさもさることながら、私はそれ以上に感謝の気持ちで一杯であった。

将来宣教師となる皆さん、天父の祝福があって皆さんが奉仕したいという望みと忍耐強く準備することと、喜んで働く精神とを持つことができるように、そして、私たち主の軍勢である者が皆、次のような主の約束を享受することができるように祈っている。「われ汝らの前に先立ちて行くべければなり。われは汝らの右に在り、また左に在らん。わが『みたま』は汝らの心の中に在り、またわが天使らは汝らを囲みて懐き支えん。」(教義と聖約84：88)

これこそ私が、心から熱心に願うことである。これらのことをへりくだりイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



大会に集う聖徒たち

個人と家族の経済的な備え

什分の一と献金を納め、負債を返済し、残った資金を賢明に使う



七十人第一定会会長
フランクリン・D・リチャーズ

愛する兄弟の皆さん、私はこの神権会が素晴らしい雰囲気の下に開かれていることを喜んでいる。

私は自分の霊が、イエス・キリストの福音が回復されているこの時満ちたる神権時代に地上に送られるために備え置かれていたことを深く感謝している。私たちは、神の子言者である愛するスペンサー・W・キンボール大管長から数多くの助言を受けている。

私たちはひとり残らず、私たちの主なる救い主イエス・キリストの贖いの犠牲を通して不死不滅の体を得ることができる。しかし、永遠の生命を享受するためには、日々、自分自身の救いのために努力しなければならない。

何と驚くべき教えであろうか。この福音は行動の福音、永遠の進歩の福音である。デビッド・O・マッケイ大管長はこう述べている。「働ける特権は賜であり、働く力は祝福であり、労働への愛は成功をもたらす。このことを私たちは認識しよう。」(True to the Faith 「信仰に誠実に」 p. 287) これから私は、特に若い友人であるアロン神権者の皆さんにお話したいと思う。皆さんにはまだわからない

かもしれないが、若い時に身に付けた習慣は、生涯皆さんについてまわる。したがって、若い時に良い習慣を身に付けることは非常に大切である。

私は両親に心から感謝している。両親は私が少年の頃に、労働の喜びと、什分の一を納めることの大切さを教えてくれた。また、学資や伝道資金を少しでも貯めることができるように、収入以上の出費をしないことの大切さについても教えてくれた。

私は少年の時に鶏を飼って近所の人に卵を売り、芝を刈り、倉庫やレンガ工場で働き、新聞配達もした。働くことによって、私は自分で使うお金を自分でかせいだ。そんな時、自分が大人になったように感じたものである。私はまず什分の一を納め、伝道と学業のために貯金し、残りを自分が欲しいものを買うために使った。

私は両親から、什分の一を納めることは天父の戒めであり、天父への愛と、天父が与えて下さった祝福に感謝を表わす方法であると教えられた。私は今でも8歳の時に納めた什分の一の領収書を持っている。それは私の大切な宝物のひとつとなっている。

このように大切な原則は、学ぶ年齢が若ければ若いほど、それだけ生活の一部となりやすい。私は確かにこれまで多くの祝福を受けてきた。それも、少年時代に働き、儉約し、什分の一を納め、伝道や学業のために貯金することの大切さを学んだからである。

自費で伝道や大学に行く若者は、一般に他の若者よりも熱心であり、多くの幸福と大きな成功を勝ち得ている。

さて、ここで年輩の神権者の方々にも一言申し上げておきたいと思う。

今日世の中には数々の難しい問題が存在するが、私たちはこの世の資源を豊かに与えられていることを忘れてはならない。事実、私たちはこの世の財産の管理人である。

教会の設立以来いつも指導者たちは個人と家族の備えに関する教えを強調してきた。個人と家族の備えには6つの分野すなわち、教育、雇用条件の改善、財政管理、健康、霊性の強化、家庭における生産と貯蔵がある。

現在は、道徳的、社会的問題だけでなく、全世界すべての国々で経済不安という問題が起きている。それを考える時、個人と家族の経済的な備えの大切さについて是非とも話しておかなければならないと感じる。

私たちは多くの不幸が経済的問題に起因していること、そして家族の摩擦や離婚の主な原因になっていることを忘れてはならない。

主は「備えあれば、恐るることなからん」（教義と聖約38：30）と言われた。経済的な恐れから解放されることは、何と素晴らしい祝福であろうか。

ここで、経済的に備えるための3原則を御紹介したい。

1. 什分の一と献金を納める。
2. 負債を返済し、借金を避ける。
3. 残った資金を賢明に使う。

これは子供にも大人にもあてはまる原則であり、ここでそれぞれについて簡単に説明しておきたい。

第1に什分の一と献金を納める。主は次のように言われた。「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなたがたは、わたしの物を盗んでいる。あなたがたはまた『どうしてわれわれは、あなたの物を盗んでいるのか』と言う。十分の一と、ささげ物をもってである。……十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさい。』（マラキ3：8—10）

今日の神権時代にも、主は次のように啓示

された。「誠に『今日』は犠牲の日、わが民の『什分の一』を捧ぐる日なり。」（教義と聖約64：23）

兄弟の皆さん、什分の一の律法に従うならば、天の窓が開かれるであろう。そして、犠牲と従順によって物質的、霊的な祝福がもたらされる。これが、個人と家族の経済的な備えの第一歩である。

主に対して正直である限り、納める什分の一の額は問題ではない。未亡人や子供の捧げるわずかな金銭が、裕福な人の捧げ物と同じく尊重され、受け入れられるのである。

男女、子供を問わず正直に什分の一と献金を納める人々は、すべて、主から知恵を授かり、残りのお金で、什分の一を納めない時以上に多くのものを得ることができる。そして、物質面ばかりでなく、霊的、肉体的、情緒的にも祝福を得て豊かになることができる。私はこれが真実であることを知っている。皆さんもそのような証を持っているはずである。主イエスはこう言われた。「受けるよりは与える方が、さいわいである」（使徒20：35）

第2の原則は、負債を返済し、借金を避けることである。近代の啓示の中で主は次のような戒めを与えられた。「われ誠に汝らの債務に就きて告ぐ。見よ、汝らことごとくその負債を償却すべし。」（教義と聖約104：78）さらに、「汝の負債を支払いて束縛より免れよ」（教義と聖約19：35）とも言っておられる。

ジョセフ・F・スミス大管長は、聖徒たちに忠告してこう言われた。「負債を返済し、借金を避けなさい。そうすれば、経済的な面だけでなく、霊的にも自由になるであろう。」

（Conference Report「大会報告」1905年10月、p. 5）

負債を返済し、借金を避けるために、個人と家族が適用できる幾つかの原則がある。

1. 収入の範囲内で生活する。
2. 短期および長期の予算を組む。
3. 収入の一部を定期的に貯金する。
4. 分割払いがどうしても必要な場合は、

賢明に利用する。例えば、家の購入や教育を受けるために必要な負債は許されるであろう。

5. 資金は税金を考慮し、計画を立てて維持、利用を図る。

以上の基本原則に従うならば、私たちは必ず負債を返済し、借金を避けることができるであろう。これは個人にとっても、家族にとっても、どんなに価値があることだろうか。

ヒーバー・J・グラント大管長は、次のように述べている。「人間の心の中に、あるいは家庭の中に、平安と満足をもたらすものがひとつあるとすれば、それは収入の範囲内で生活することである。反対に人々を苦しめ、落胆させるものがひとつあるとすれば、それは支払うことのできない借金と債務である。」

(*Relief Society Magazine*「扶助協会誌」1932年5月号, p. 302) 私は自分の経験からこの言葉が真実であることを証する。

第3の原則は、残った資金を賢明に使うことである。多くの点で人が真価を問われるのは、この世の財産に対する考え方を通してである。神のことよりも、この世の財産に重きを置く人は、明らかに永遠の価値に対する理解が不足している。

ブリガム・ヤング大管長は、このことを次のように述べている。「神の王国を建設するためにこの世の富を正しく用いる備えが民にできているならば、主は喜んでそれらの富を私たちに授けて下さるであろう。……」

私は人々が勤勉、儉約、節約により得た富を地上に神の王国を築くために捧げる姿を見たいものである。」(*Journal of Discourses*「説教集」11: 114—15)

これらの教えに従うにあたって、財産を持つすべての人々は、家族や同胞の福利を図り、神の王国を築くために、その財産をどのように用いればよいのかその最善の方法を知る知恵を授かる必要がある。

個人と家族の備えは、私たちの永遠の幸福に欠くことのできないものであり、経済的に

しっかりとすることは、霊的、精神的、肉体的な力を得ることと同様に大切であるということを示す。

この経済的な力を得るには、神の戒めを守り、十分の一を正直に納めることである。さらに働く習慣を身に付け、儉約に努め、収入の範囲内で生活し、財産を賢明に使うことである。

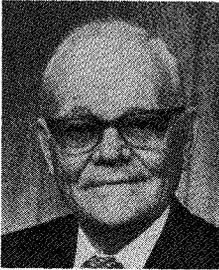
今宵、すべての人々がこれらの偉大な原則を生活に取り入れる決心をするよう願っている。

神権者の皆さん、神は生きておられる。イエスはキリストであり、私たちの救い主、贖い主である。予言者ジョセフ・スミスを通して完全な福音が回復され、それと共に神のみ名によって働く権能も与えられた。また、今日この教会には、生ける予言者スペンサー・W・キンボール大管長が与えられている。これほどの栄えある教えがほかにあるだろうか。皆さんが正しい判断力を持って、大管長の勧告に従うことができるよう、イエス・キリストのみ名により祈るものである。アーメン。



主に頼りなさい

すべて神に頼る者は、苦しみ悩み禍に逢う時に助けられてこれらを忍ぶことができる



第二副管長

マリオン・G・ロムニー

私は特に、アロン神権者にお話をしたいと思う。しかしながら、私がこれから申し上げることは、多分私たち全員にあてはまることだろう。まず、アルマが息子に述べた証から話を始めたいと思う。アルマは、次のように証した。「すべて神に頼る者は、苦しみ悩み禍に逢う時に助けられてこれらを忍ぶことができ、また終りの日に高く挙げられる。」(アルマ36:3)

私が、若いアロン神権者の皆さんと、またすべての人々に訴えたいことは、若いうちに主に頼る決心をし、さらに主の戒めを守ることによって、主が約束された祝福を受ける権利を得ていただきたいということである。例えば、知恵の言葉には次のような祝福が約束されている。「およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行い、この誠命に従って歩むすべての聖徒らは、そのへそに健康を受けその骨に髓を受けん。

また智恵と知識の大なる宝まことに秘れたる宝を見出さん。

而して走れども疲れず、歩けども気を失うことなからん。

主なるわれ彼らに一つの約束を与う。すなわち、さつりくの天使はイスラエルの小児たちが如く、彼らを過ぎ越して屠ることなかるべし。」(教義と聖約89:18-21)

ここで殺りくの天使はイスラエルの小児たちを過ぎ越すとされているが、これは、イスラエルの民の解放をエジプト人に迫った時の出来事のことを言っているのである。

「主はエジプトの国の、すべてのういご、すなわち位に座するパロのういごから、地下のひとやにおる捕虜のういごにいたるまで、また、すべての家畜のういごを撃たれた。

……エジプトに大いなる叫びがあった。死人のない家になかったからである。」(出エジプト12:29-30)

しかし、主から殺害の使命を受けたこの殺りくの天使は、主によって指示されたように、かもいと入口の柱に小羊の血を塗って印を付けておいたイスラエルの人々の家は通り過ぎて行ったのである。

知恵の言葉やその他の聖句から、この最後の神権時代にはこの世に住む人々の間で働きを成す殺りくの天使が存在することは明らかである。主は、1831年に予言者ジョセフ・スミスに対して、すべての人は主の前に腐り暗黒の力が地上にあるため、この天使たちが「世の毒麦を集めてこれを焼捨てんために世を刈り取る大命を待ちつつあり」(教義と聖約38:12)と言われた。

1894年にウッドラフ大管長は次のように言われた。「神は長い間、殺りくの天使たちを制してこられた。この天使たちが、小麦と毒麦を一緒に刈り取ることがないようにするためである。しかし私は今皆さんに申し上げる。この天使たちはすでに天の門を出て、今この

民とこの国の上に立ち、裁きを下そうと天空を舞っている。そして、まさにきょうを境に、その裁きが下されるであろう。不幸や災難がこの世に多くなるが、それには意味があるのである。」(Improvement Era「インブループメント・エラ」1914年10月号, p. 1165)

さて、愛する兄弟たち、主は私たちの周囲で起こっている事柄をこのように啓示し、教えて下さった。もし私たちが知恵の言葉を守ることによって清い肉体を持つならば、殺りくの天使たちは、ちょうどイスラエルの子らを過ぎ越して殺すことがなかったように、私たちをも過ぎ越して行くことだろう。そのような約束を受けることは、何と素晴らしいことではないだろうか。これが、知恵の言葉を守ることによって得られる祝福のひとつである。

什分の一の律法を守る者に約束されている祝福も、知恵の言葉の約束と同様、具体的である。その祝福のひとつは、土地の生産性と深い関係がある。私は、何年か前に、什分の一の律法に伴う約束の言葉に強く心を打たれたことを覚えている。私がまだ若い頃、近代における偉大な使徒のひとり、ジェームズ・E・タルメージ長老は次のように言われた。「産物の什分の一を納める時に、その土地が清められるということを御存じだろうか。実際に土地は清められるのである。自然の元素や力と、人の行ないの間には、深い関係がある。」(Conference Report「大会報告」1929年10月, p. 68)

この話は、ブリガム・ヤング大管長の教えに一致している。ヤング大管長はこのように言われた。「この豊かな峡谷^{キャニオン}について考えてみよう。この地上で私たちをおいて他に、この地に来て生き抜ける民はいない。私たちがこの地の至る所で祈り、この土地を、水を、大気を、またあらゆる物を主に捧げた。そのために、天の恵みがこの地に注がれ、土地の生産性が高まったのである。」(Journal of Discourses「説教集」12 : 288)

什分の一を納めることから得られる報いをもうひとつ挙げれば、それは、ちょうど収穫保険をかけるようなものであると言える。聖句を読んでみよう。

「わが家に食物あらしめんために、什分の一をことごとくわが倉に持ち来りてわれを試し見よ。われが汝らに天に窓を開きて容るる所なきほどのあふるる恵みを汝らに与うるか与えざるかを見よ。

もし汝らが什分の一をことごとく持ち来らば、われは食い荒す者を汝らのためにふせぎ、汝らの畑の作物を食い荒すことを止むべし。また汝らの葡萄^{ぶどう}の木をして熟せざる内^{うち}にその実を落さしめざるべし。万群の主はかく言う。」(IIIニューファイ24 : 10—11)

グラント大管長は、主の王国を打ち建てるために財産を惜しみなく捧げる人々には、主が必ず繁栄を与えて下さるといふ信仰を強く持っていた人であった。その信仰は、私の生涯にも大きな影響を及ぼしている。何年も前のこと、グラント大管長がある断食集會に出席した時の出来事を話されたことがある。その集會で監督は、会衆に献金を訴えた。グラント大管長は、当時まだ非常に若かったが、ポケットに50ドル持っていた。銀行に預金するつもりのお金である。しかし、大管長は監督の訴えに強く心を動かされて、その50ドル全部を差し出した。ところが監督は、5ドルだけ受け取ると残りの45ドルをグラント少年に返し、君は5ドルで十分だと言った。グラント大管長は、これに反論して、「ウーリー監督、監督は一体何の権利があって、私から、主に負債を委ねる特権を奪おうというのですか。私の母は未亡人で、今200ドルどうしても必要なんです」と言った。

そこで監督は、「君は私がこの45ドルを受け取れば、すぐにも200ドルが手に入ると信じているのかね」と尋ねた。

「もちろんですよ」というのがグラント大管長の答えであった。

これ程の信仰をもって言われれば、監督は

引き下がるしかなかった。こうして監督は残りの45ドルも受け取ったのである。

グラント大管長の証によれば、その断食集会から仕事に戻る途中、「ある考えがひらめき」、その考えに従って行動した結果、218ドル50セント得ることができたという。後年、この出来事を振り返って、大管長はこのように言っている。「どちらにせよ起きたことだ」と言う人もいます。

しかし私にはそうは思えません。あんな考えが浮かんでくるなんて、とても考えられません。……

私は、金銭的に私たちが果たすべき義務を果たしたら、主が天の窓を開けて、霊的な面で数々の祝福を注いで下さるということを、堅く信ずる者です。この霊的な面での祝福は、この世の物質よりはるかに価値のあるものです。しかし、私は、主が物質的な面でも祝福を与えて下さることを信じています。」(Improvement Era「インプルーブメント・エラ」1939年8月号、p. 457)

什分の一を納めることによって受ける報いは、さらに救い主の再臨の時にも与えられる。主の再臨の時に焼き滅ぼされずにすむという保証である。教義と聖約第85章で主は、民に什分の一を求めるとは「応報と焼滅ぼしの日に備え」(3節)させるためであると語っておられる。さらに、第64章で主は次のように言っておられる。「見よ、人の子の来るまで今より後を『今日』と称えらる。誠に『今日』は犠牲の日、わが民の『什分の一』を捧ぐる日なり。この『什分の一』を納めたる者は人の子の来る時火に焼かるることなし。」(教義と聖約64：23)

個人的な意見を申し上げれば、私は常々、この什分の一の律法はシオンの地における受け継ぎの律法であると考えてきた。と言うのも、主が、この律法を与えられた時、シオンに集まる者は皆この律法を守らなければならない、もし守らなければこの地に住むにふさわしくないと言われたからである。(教義と聖

約119：5参照)

さて次に、注目していただきたい第3の特別な戒めとは、これである。「汝ら姦淫することなかれ。」(教義と聖約42：24)

皆さんはここで、アルマが息子コリアントンに与えた教えを思い出すことであろう。アルマは、姦淫は神の目から見て、殺人に次いで忌まわしい罪悪であると教えている。(アルマ39：3-5参照) また、パウロがコリント人にあてた手紙を思い起こす人もいるだろう。

「あなただけが神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。

もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。」(Iコリント3：16-17)

かつて、大管長会は教会の若人に向けて次のように宣言した。「汚れたまま生きているよりは、清いまま死んだ方がよい。」(Conference Report「大会報告」1942年4月、p. 89)

私は、父が姦淫の忌まわしさを私の心に深く刻み込んでくれたことを思い起こしている。1920年11月12日の早朝、父と私は、アイダホ州レックスバーグのある鉄道駅に立っていた。列車の汽笛が聞こえ、あと3分後にはオーストラリアへの伝道に旅立つという時であった。そのわずかな時間に、父は、他の様々な助言に加えて次のように言った。「家から随分遠くへ行くことになる。しかし、母さんも私も兄弟も、家族は皆、いつでもお前のことを思い、お前のために祈っているよ。お前が成功したら、家族も一緒に喜ぼう。お前が失望したら、家族も一緒に悲しもう。お前が任務を解かれて家に帰ってくる時には、喜んで迎えよう。しかし、このことは忘れないでほしい。もしお前が純潔を失い、汚れた状態で家に帰ってくるくらいなら、この駅に来て、列車からお前の櫃ひつばを降ろす方がはるかにいいということ。」

この時、私は父のその言葉を深く考えてみた。その時私は、父の言った意味を完全には

理解していなかったと思う。しかし、私は、その言葉を一度として忘れたことはない。

心の清い者、徳高い者に約束されている祝福以上に、熱心に求めなければならぬ祝福がほかに考えられるだろうか。イエスは、徳高い行為にはそれぞれ固有の報いがあることを話されたが、最大の報いを、心の清い者のために残しておかれた。少なくとも私にはそう思える。「彼らは神を見るであろう」(マタイ5:8)と主は言っておられる。そして、そのような人々は主にまみえるだけでなく、主のみ前にあって安らぎを感じることができるのである。

その約束、すなわち救い主が与えて下さった約束を読んでみよう。「絶えず徳を以て汝の想を飾るべし。然る時は、汝の自ら信ずること神の前に強くなり……。」(教義と聖約121:45)

徳を維持した報いと姦淫を犯した結果とが、ヨセフとダビデの生涯の中に劇的に描き出されている。

ヨセフは、エジプトで奴隷の身ではあったが、どれ程大きな誘惑に遭っても、忠義を守り通した。その報いとして、ヨセフはヤコブの息子たちの中でも選り抜きの祝福を受けた。イスラエルの中で、恵まれたふたつの部族の先祖となったのである。私たちの大部分は、ヨセフの子孫のひとりに数えられることを誇りに思っていることと思う。

一方、ダビデは、主からあれ程までに恵みを受けながら、(実際、彼は、神御自身の心にかなう人とまで言われた〔サムエル上13:14参照〕)誘惑に負けてしまった。彼の不貞はやがて殺人を呼び、その結果、ダビデは自分の家族も昇栄も失ってしまったのである。(教義と聖約132:39参照)

さて兄弟たち、私はこれ以上お話ししようとは思わないが、ただ、もう一度、主の約束を信じ、それにふさわしい生活をしていただきたいという私の願いを再確認して欲しいと思う。マラキの時代の人々のようにならないよ

うにしようではないか。彼らは、神に仕えることは無益なことであり、つまらないことである、それは、見ての通り高ぶる者が祝福され、悪を行なう者が栄え、神を試みる者すら罰せられないからである、と言っていた。(マラキ3:14—15参照)現在も、マラキの時代と同様に、主を恐れ、主のみ名を心に留めている人々のために、主のみ前で覚えの書が書かれているということを確認し、また忘れないだけの良識を持つておなはいか。「万軍の主は言われる、彼らはわたしが手を下して事を行う日に、わたしの者となり、わたしの宝となる。また人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。

その時あなたがたは、再び義人と悪人、神に仕える者と、仕えない者との区別を知るようになる。

万軍の主は言われる、見よ、炉のように燃える日が来る。その時すべて高ぶる者と、悪を行う者とは、わらのようになる。その来る日は、彼らを焼き尽して、根も枝も残さない。」

主はここで、義人に素晴らしい約束を下しておられる。「しかしわが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。あなたがたは牛舎から出る子牛のように外に出て、とびはねる。」

(マラキ3:17—18; 4:1—2)

愛する兄弟たち、主の戒めを守ることによって、主の約束を信じ、その約束をかなえていただくにふさわしい生活をしようではないか。もしそうするならば、現在、その約束をかなえていただける確信がなくても、いつか必ず確信の得られる日が来るであろう。

「また善を行って決して飽かず、謙遜で柔和な心を抱け……。これらのことをする者はその身も霊も安息を得るからである。」

アルマはさらに次のように言っている。「忘れずに青年の時智恵を得よ。青年の時から神の命令を守ることを習慣とせよ。

汝の要する一切の助けを神に祈り求めよ。何事でもすべて主のために為せ。どこへ行く

にも主のために行け。常に主を念頭に置いて心の愛情をとこしえに主へ向けよ。

汝のする一切の働きについて主のみこころを伺え。そうすれば主は汝の為になる善い誠めを与えたもう。眠っている間も主が見守りたもうよう夜寝る時には自分の身を主に任せて寝よ。そして朝起きる時には神に感謝する

念を胸に満せ。このようにすれば終りの日に高く^{高く}挙げられる。」(アルマ37:34-37)

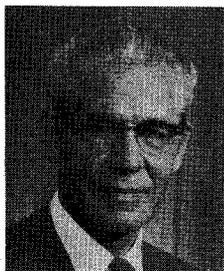
皆さん方も、私たちも皆、こぞってこのような状態でいられるようにへりくだって祈るものである。イエス・キリストのみ名により、アーメン。



大会の光景

「神の武具で身を固めなさい」

誘惑を受ける前に、自分が行なう事柄と、行なわない事柄をはっきり決めておくことが大切である



第一副管長

N・エルドン・タナー

このようにして世界中の至る所に、偉大な大義のために集まっている神権者を目にするのは、実に感銘深い。この会場だけでなく、全世界1,547カ所の集会所にいる神権者のことを考えると畏敬の念を覚えずにはおられない。

神のみ名によって行動するよう委任された神の権能を持つ神権者たちの軍勢は、何と頼もしい軍勢であろうか。このような人々の集まりであるこの集会の目的について考えると、非常に大きな責任を感じる。

ここで讃美歌（173番）「戦い止むまで」の歌詞を思い出していただきたい。その歌詞は今晚の証のテーマに則していると思われるので、その一部を引用して、私たち神権者に当てはめてみたいと思う。

戦い止むまで募らる……
兵士冠を見よや われらそれを受けん
いそぎゆけ いくさに
真実を身によろい ほこりの旗かかけ
喜び進まん……
聞け 隊長は呼ぶを

遅れずにいざ行け 主のために戦え

……

み国のために世と戦う……

この隊に入りうたい進まん

やがて勝利を得ん

危険は迫るとも

指導者主は近し 主はわれらを守らん

（讃美歌173番）

今宵、私は、パウロがエペソ人に宛てた書簡の言葉について述べたいと思う。

「悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。

わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。

それだから、悪しき日にあたって……堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。

すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸につけ、平和の福音の備えを足にはき、

その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。

また、救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。

絶えず祈りと願いをし、どんな時でも御霊によって祈り……なさい。」（エペソ6：11—18）

今日の世の中には、戦争と戦争のうわさが蔓延し、人々の心は不安に大きく揺れ動いている。しかし、パウロが言うように、今日最大の恐るべき戦いとは「血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する

戦い」(エペソ6:12)である。

パウロがエペソ人に与えた警告は、現代の私たちにも当てはまる。すなわち、パウロが述べたように、神の武具で身を固めるならば、私たちは周囲の邪悪に打ち勝つことができる。

聖典から幾つか例を紹介し、神の武具を身にまとう人、つまり神のすべての戒めを守る人が、いかにして敵の攻撃を打ち破ったかについて考えてみたい。まず、ダビデについてお話ししよう。(サムエル上 17章参照)

イスラエルがペリシテびとと戦っていた時のことである。ゴリアテと名乗るペリシテびとが、一対一の戦いをいどんできた。負けた方が勝った方の家来になるというのである。

ゴリアテは、「頭には青銅のかぶとを頂き、身には、うろことじのよろいを着ていた。……また、足には青銅のすね当てを着け、肩には青銅の投げやりを背負っていた。……やりの柄は、機の巻き棒はたきのようであり、やりの穂の鉄は六百シケルであった。彼の前には、盾を執る者が進んだ。」(サムエル上17:5-7)

一方、この挑戦に応じたダビデは、「手につえをとり……なめらかな石五個を選びとって自分の持っている羊飼いの袋ひつじかひに入れ」(サムエル上17:40)、ペリシテびとに近づいていった。

ゴリアテは、自分と戦うためにイスラエル軍が送り出した少年を見て、悔り、ダビデに向かって言った。「『さあ、向かってこい。おまえの肉を、空の鳥、野の獣のえじきにくれよう。』

ダビデはペリシテびとに言った、『おまえはつるぎと、やりと、投げやりを持って、わたしに向かってくるが、わたしは万軍の主の名、すなわち、おまえがいどんだ、イスラエルの軍の神の名によって、おまえに立ち向かう。

きょう、主は、おまえをわたしの手にわたされるであろう。わたしは、おまえを撃って、……イスラエルに神がおられることを全地に知らせよう。』(サムエル上17:44-46)

神の武具で身を固めたダビデは、袋からひとつの石を取り、石投げで、ペリシテびとの

無防備な額を撃った。するとペリシテびとは地に倒れた。

さて、先程ロムニー副管長は、王になったダビデが神の武具を身に付けていなかったために起こった悲劇について話をして下さった。私たちはいつでも神の武具で身を固めなければならない。さもなければ、私たちの弱点を攻撃され、また戒めを守ることによって得られる守りをなくし、そのために誘惑を受けやすくなる。

神の武具で身を固めていたために守られたもうひとつの例は、エジプトに売られたヨセフの生涯に見られる。(創世37, 39-41章参照)彼は若い頃から忠実で信仰が篤く、常に神の戒めを守っていた。

父親がヨセフをかわいがるので、兄弟たちは彼をねたみ、殺そうと図った。しかし、兄のルベンの説得によって、ヨセフは命を取られることなく穴に投げ込まれた。やがて彼は穴から救い出されたが、エジプトに連れて行かれ、そこで王の侍衛長ポテバルに売られた。

ポテバルはすぐにヨセフの能力を認め、すべての持ち物を彼の手へ委ねた。聖書には「ヨセフは姿がよく、顔が美しかった」(創世39:6)と記されている。

やがて、主人の妻がヨセフに言い寄るようになった。しかし、ヨセフはその誘惑を拒んで、彼女から逃れた。その時につかまれた衣を彼女の手に残してきたために、ポテバルの妻はその衣を証拠にヨセフを訴えた。

主人は妻の言葉を信じて、ヨセフを獄屋に投げ入れた。それから何年間も獄屋に閉じ込められていたが、やがてエジプトの王パロの前に呼び出される日が訪れた。

王はある夢を見たが、エジプトの魔術師や知者はだれもそれを解き明かすことができなかった。その時、ヨセフが獄屋の中で夢を解き明かし、その通りに成就したことを覚えていた者がいた。

パロが夢のことを話すと、ヨセフはそれを解き明し、やがて7年の豊作に続いて7年の

ききんがエジプト全土を襲うことを警告し、同時にパロにどうすべきかを教えた。

ヨセフはまた、この夢の解き明かしは神によるものであり、パロに夢を与えられたのも同じ神であることを明らかにした。パロは神がヨセフと共におられることを知り、彼をエジプト全土のつかさとした。そして後に、ヨセフは自分の家族までも飢えから救ったのである。皆さんがよく御存じの話である。

ヨセフは神の武器でその身を固めていた。苦難を受けている間も神が共におられたので、彼はそれに耐えることができた。ヨセフは戒めを守り、助けと力を求めて絶えず神に祈ったので、祝福を受け、神が望まれることを行なうことができたのである。

大切なことは、人生の早い時期に、自分が行なう事柄と、行なわない事柄をはっきり決めておくことである。喫煙、飲酒、不道德な行為、そのほか主のみたまの交わりから私たちを遠ざけるものは、誘惑を受けるずっと以前にすべて拒否する決心をすべきである。

私たちはそれぞれ異なった弱点を持ち、異なった誘惑を受ける。したがって、自分の生活を吟味して、弱点をはっきりと知っておく必要がある。その弱点を強固な武器で覆い、誘惑に陥ることなく、正しいことを行なうようにしなければならない。

もうひとつの例を挙げてみよう。神の武器で身を固めることによって得られる守りをダニエルほどははっきりと経験した人はいないであろう。(ダニエル1—2, 6章参照) ネブカデネザル王の命令により、ダニエルと数人のイスラエル人は、ある訓練を受けるために王の宮殿で生活することになった。

3年の間、彼らを大切に養い育て、3年後に王の前に立たせようという計画であった。そのため彼らには、王の食べる食物と、王の飲む酒をはじめとする特別上等な食事が用意されることになった。

ところがシャデラク、メシャク、アベデネゴと呼ばれる3人の若者とダニエルは、王の

食物と酒を口にしないでよいように許可を求めた。すると4人を管理する^{かんがん}宦官の長は、ダニエルに言った。「王の食物を食べなかったために、あなたの方の健康の状態がほかの若者より悪くなり見劣りがしたら、王は非常に怒るでしょう」

そこでダニエルは言った。「どうぞ、しもべらを十日の間試してください。わたしたちにただ野菜を与えて食べさせ、水を飲ませ、そしてわたしたちの顔色と、王の食物を食べる若者の顔色とをくらべてください。」

10日間が過ぎた時、彼らの顔色は他のすべての若者よりも美しく、健康であった。こうして4人は自分たちが望むような食事を続けることができた。

それから3年経って、ダニエルたちが王の前に連れて行かれた時には、どの点からみても彼らに並ぶ者がいないほどに成長していた。さらに知恵と理解の点でも、全国の博士や法術士よりも10倍もすぐれていたのである。

まさに知恵の言葉の約束の成就である。「およそこれらの言葉を憶えて守り且つ行い、この誠命に従って歩むすべての^{いまだし}聖徒らは、そのへそに健康を受けその骨に髓を受けん。

また智恵と知識の大いなる宝まことに秘れたる宝を見出さん。

而して走れども疲れず、歩けども気を失うことなからん。

主なるわれ彼らに一つの約束を与う。すなわち、さつりくの天使はイスラエルの小児たちが如く、彼らを過ぎ越して^{はら}屠ることなかるべし。」(教義と聖約 89: 18—21)

この約束の一つ一つが、ダニエルと3人の若者に成就したのである。次に挙げるのは、その中で最も興味深い出来事である。

ネブカデネザル王は夢を見て心を悩ませたが、その夢を思い出せなかった。王はダニエルとその同僚を含めて、すべての知者と法術士を殺そうとした。王が見た夢とその解き明しを示せる者がいなかったからである。しかしダニエルは、しばらくの時を与えて下さる

よう王に願い、そして必ず自分がその夢と
その解き明しを告げてみせますと約束した。

ダニエルが神に願い求めると、示現によ
ってその秘密が明らかにされた。そこで彼はそ
の夢と解き明しを王に告げた。そしてダニエ
ルはその秘密を明らかにして下さったのは天
におられる神であることをはっきりと告げ、
それはこの後この王国に起こるべきことと、
最後に神の王国がこの地上にどのようにして
設立されるかを王に知らせるためであると述
べた。

王は深く感銘してダニエルに言った。「あ
なたがたがこの秘密をあらわすことができたの
を見ると、まことに、あなたがたの神は神々
の神、王たちの主であって、秘密をあらわさ
れるかただ。」(ダニエル 2 : 47)

ダニエルは、続く 2 代の王からも信頼され、
彼らに仕えた。しかし、王の側近の者たちは
それをねたみ、何とか彼を失脚させる口実が
ないものかと捜し回っていた。しかし、ダニ
エルが彼の神に祈っていること以外、何ひと
つ見いだせなかった。そこで彼らは王に取り
入り、王以外の神または人を拝む者は、しし
の穴に投げ入れるという命令を出させること
に成功した。

その後どうなったかは皆さんがよく御存じ
である。この禁令にもかかわらず、ダニエル
は祈ることを止めなかった。人々は彼が祈る
のを見て、彼を王の前に連れ出した。ダニエ
ルを愛する王は、その禁令を出したことを憂
い、何とか彼を救おうとした。しかし、メデ
アとペルシャの法律によれば、王の立てたお
きては二度と変更を許されず、そのまま実施
しなければならなかった。

ダニエルがししの穴に投げ込まれる時、心
に不安を感じた王は次のように言った。「どう
か、あなたの常に仕える神が、あなたを救わ
れるように。」(ダニエル 6 : 16)

眠れぬままに一夜を明かした王は、翌朝早
く、ししの穴へ行って見た。そして、ダニエ
ルがまだ生きていることを知って喜んだ。ダ

ニエルは王に言った。「わたしの神はその使を
おくって、ししの口を閉ざされたので、しし
はわたしを害しませんでした。これはわたし
に罪のないことが、神の前に認められたから
です。王よ、わたしはあなたの前にも、何も
悪い事をしなかったのです。」(ダニエル 6 :
22)

王はししの穴からダニエルを出して、彼を
訴えた人を穴に投げ入れた。彼らはすぐに飢
えたししにかみ殺された。

すべての戒めを守ったダニエルは、まさに
神の武具を身にまとっていた。私たちは絶え
ず神の戒めを守り続けたヨセフやダニエル、
ダビデのように、また真の神を礼拝し仕え、
その戒めに忠実に従うことによって守られて
きた他の多くの人々のように行動する備えが
できているだろうか。

次の質問について考えていただきたい。

福音に関する知識と信仰と証を増すために、
私たちはいつも聖典を研究しているだろうか。
戒めを守っているだろうか。人との交際や取
引きを正直に行なっているだろうか。安息日
を聖く保っているだろうか。知恵の言葉を守
っているだろうか。什分の一を正直に納めて
いるだろうか。集会に出席し、権威ある人か
ら与えられた召しに応えているだろうか。心
と思いと行ないはいつも清く純粋で徳高いだ
ろうか。

私たちの周囲に蔓延するポルノや堕胎、タ
バコ、アルコール、薬物乱用などの悪と戦っ
ているだろうか。自分の信念を守るために立
ち上がる勇気を持っているだろうか。キリス
トの福音を恥としていないと心から言えるだ
ろうか。人の悪口や陰口を言ったり、根も葉
もないうわさを流したりせずに、隣人と平和
に暮らしているだろうか。自分自身を愛する
ように隣人を心から愛しているだろうか。

これらの質問にすべて「はい」と答えられ
る人は、神の武具で身を固めている人であり、
必ずや敵の攻撃や害から守られることであろ
う。しかしもし「いいえ」と答えざるを得な

い質問がある人は、武具が貧弱か武具で覆われていないところがあって、攻撃を受けやすい。そのような人は、執拗に人の弱点につけ入ろうとするサタンの手にかかって、傷つき、あるいは破滅してしまうであろう。

もう一度自分の武具を点検していただきたい。無防備な部分はないだろうか。もしあれば、そこを補う決心を今していただきたい。あなたの武具にボロボロになった箇所や欠陥があったとしても、あなたにはそれを補修する能力があるということを、いつも忘れないでいただきたい。

偉大な悔い改めの原則があるので、私たちは今すぐ自分の生活を変え、聖典の勉強をし、祈り、そして神に仕え戒めを守る決心をすることによって、神の武具で身を固めることができる。

最後に、神権の誓詞と誓約を引用してこの話を終わりたい。もし神権者がこの神権の誓詞と誓約を守るならば、約束されたすべての祝福にあずかり、守りと保護を受けることだろう。

「およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権を得、而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは、『みたま』により聖められてその肉体再新さる。

これらの者はモーセの息子たちとなり、アロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、また教会員にして王国の民となり神の選民となる。

主は言う、またすべてこの神権を受け入る者は、われを受くるなり。

そは、わが僕らを受け入る者はわれを受くればなり。

また、われを受け入る者はわが父を受くるなり。

而して、わが父を受け入る者はわが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。

而してこは神権に属ける誓詞と誓約によりて然るなり。

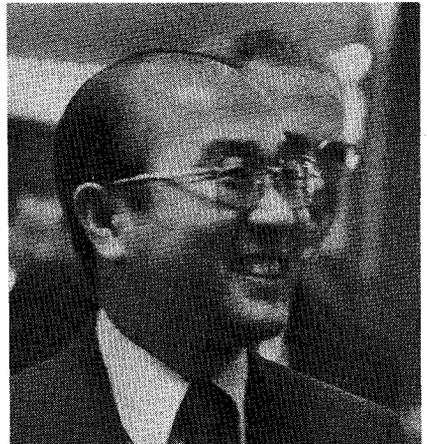
この故にこの神権を受くる者は、すべてわが父のこの誓詞と誓約を受け、而してこれをわが父は破ることも変えることも為したもうはずなし。

されど何人にまれ^{ひとたび}この誓約を受けて後これを破り、またことごとくこれに違背する者はこの世に於ても未来の世に於ても罪の赦しを受くることなかるべし。」(教義と聖約84：33—41)

神権者の皆さん、神は生きておられ、私たちは神の霊の子供である。神の御子イエス・キリストは、私たちが復活して永遠の生命を享受できるようにその命を捧げて下さった。このような知識を持つ私たちは何と祝福されていることだろう。

私たちは、予言者ジョセフ・スミスを通して再び地上に設立された末日聖徒イエス・キリスト教会に所属し、神権を有している。この教会の発展は、私たちにかかっている。すなわち、私たちがいかに与えられた召しを全力を尽して遂行し、現代の子言者スペンサー・W・キンボール大管長の指示に従えるのかにかかっているのである。

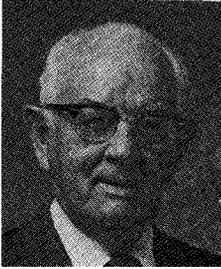
すべての人々が大管長のメッセージに注意深く耳を傾け、それに従うよう切にお勧めする。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



七十人第一定会員会員の菊地良彦長老

教会で奉仕するための備え

キリストは私たちの模範であり、導き手であり、友である。また、使徒や
予言者たちも私たちの模範である



大管長
スベンサー・W・キンボール

兄弟の皆さん、今宵私たちは、主の僕たちの話を聴く素晴らしい機会にあずかった。主の僕たちは真理と正義の言葉を語って下さった。今宵、指導者たちの話を聴いたすべての方々が、これらの言葉を深く心に留めて下さるように願っている。

今朝、ハワード・W・ハンター長老は、ウィルフォード・ウッドラフ大管長について話された。その話を聴きながら、私は以前に読んだウッドラフ大管長の体験談を幾つか思い出した。この集会の最後の話として、その中から2、3御紹介したいと思う。いずれも、ウッドラフ大管長がアロン神権者の皆さんと同じように若い頃に体験した出来事である。

ウッドラフ大管長は、この神権時代における「霊的な巨人」のひとりである。彼は主から夢や示現をたくさん見せていただいた。また彼は、今日よく知られているように、何千人もの人々にバプテスマを施し、実に多くの奇跡を行なった。ウッドラフ大管長ほど聖きみたまの導きを享受した人は少ない。彼は主イエス・キリストの使徒であり、生涯雄々しく忠実に働いた。そして主の王国において、

末日聖徒イエス・キリスト教会の第4代大管長に召された。彼は1893年にソルトレーク神殿を献堂した。また、セントジョージ神殿で、神殿の儀式の執行を求めるアメリカ合衆国創設者たちの訪れを受けたのもウッドラフ大管長である。兄弟の皆さん、御存じのように、このような奇跡、示現、啓示は、極めてまれなことである。アメリカの憲法を制定した人人は、この地上に福音が回復されていない時代に住んでいた。その上、高潔で善良な彼らには、私たちに与えられているすべての祝福を受ける資格があったのである。

私たちは皆、尊敬し称賛できる英雄を必要としている。自分の生活の模範になる人々が必要である。その最たる御方がイエス・キリストである。「汝らはいかなる人物にてあるべきか。」主はニーファイ人の弟子たちに自ら答えて言われた。「まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず。」(IIIニーファイ27:27)キリストは私たちの模範であり、導き手であり、手本であり、友である。主のようになると努める人は、常にキリストと共にいるのである。また、主に倣って生涯を過ごした予言者や使徒たちも、主に及ばないまでも、私たちの模範である。

先程の特別な示現に話を戻そう。ウッドラフ大管長は、神殿において、権能を持つ人々により、これら合衆国の偉人たちがエンダウメントや祝福を受けられるように手配された。また、神殿の儀式を願う女性たちのためには、姉妹たちが儀式を行なった。神殿活動についてロイデン・G・デリック長老がきょうお話下さった理由を、これでお分かりいただけたと思う。霊界にいる大勢の霊たちが、自分のために儀式が行なわれのを待ち望んでいる。

儀式が行なわれれば、安息につけるからである。しかし、儀式が行なわれるまでは、それ以上進歩することはできないのである。

ウッドラフ兄弟は次のように述べている。「私がこの教会で初めて説教を聴いたのは1833年のことで、説教者は、年老いたゼラ・パルシファー兄弟である。彼は80歳を越える天寿を完うして南部で死んだ。彼の説教こそ、私が子供の頃から祈り求めていたものであった。

私は説教を聴いた時、すぐにそれが真実であるという証を持った。同時に心に深い感動を覚えた。彼は学校の校舎で福音を説いていた。その建物は、ニューヨーク州オスウィゴの私たちの農場にあった。集会が始まる頃には、会場は人でいっぱいであった。ふと気が付くと、私は会衆を前にしてベンチの上に立っていた。何のためにそこに立ったのか私にも分からなかった。しかし、私は口を開いて、隣人や友人たちにこのように言った。『この(ふたりの)方々と彼らの証について皆さんが話す言葉に気を付けて下さい。おふたりは神の僕だからです。おふたりが私たちに証した真理を、私は子供の頃から捜し求めてきました。』

私は進み出てバプテスマを受け、教師に聖任された。私は最初に執事になれなかったことをいつも残念に思う。なぜなら、自分のふさわしさに応じて段階を追って神権が授けられることを願っていたからである。私は何年もの間、福音を聞くだけでなく、同胞に宣傳伝える特権と権能を得たいと願ひ続けた。私は製粉所で働いていたので、真夜中にそこへ行き、何時間も光と真理を求めて主に祈った。キリストの福音を聞けるように、また同胞に福音を宣傳伝えることができるように祈った。そして、喜ばしいことに、その機会が訪れたのである。』(Discourses of Wilford Woodruff

「ウイلفォード・ウッドラフ説教集」p.

304)

ウッドラフ大管長は、1807年5月1日に生

まれ、1833年12月31日にバプテスマを受けた。そして、1834年1月25日、26歳の時に教師に聖任された。

この話からわかることは、彼が子供の頃から真理を知ることができるように祈り、青年時代に幾晩も主を呼び求めてきたということである。彼は福音を宣傳伝えることを願ひ、正しい心を持ち、福音を聞くとすぐにそれを信じた。

若人は証を求め、伝道に出たいという望みを持つようにすべきである。午後の集会で伝道について話して下さったエズラ・タフト・ベンソン会長に感謝している。教会のすべての若人は、宣教師になることを熱心に願ひ求めるべきである。また、養育の義務を終えた両親を援助して、彼らも伝道の召しを果たせるように助けるとよいでしょう。

さて、ウッドラフ大管長の2番目の経験である。彼は次のように述べている。

「11歳の時に、とても興味深い夢を見た。そして、その夢の一部は、まさに文字通り成就している。夢の中で、私は大きな淵を見た。それは、世のすべての人々が死んだ後に入る場所であった。しかしそこに入る前に、この世の物をすべて置いて行かなければならなかった。そこに、ビーバーハットをかぶり、上等なスーツを着た老人が立っていた。とても悲しそうだった。彼は何かを背負って来たが、淵の中に入るにはそれを置いて行かなければならなかった。当時、私はまだ少年だった。それから数年後、私は両親と一緒にファームントンに移り、そこで私はあの老人に会った。一目見て、私にはその老人が夢で見た人であることがすぐに分かった。老人の名前はチョーンシー・デミンと言った。さらに数年後、彼は病気になって死んだ。私は彼の葬儀に列席した。

彼は人から守銭奴と呼ばれるような人間で、数十万ドルの財産があると言われていた。棺が墓に納められる時、私はあの夢を思い出した。その夜、義理の息子は、老人の残した十

万ドルを地下室で発見した。あの夢は私に真理は何であるかを示したものだと思う。この世の人々は、財産を持って墓に入ることはできないのである。

また、先の夢の中で、老人の場面に続いて、私は立派な神殿に参入した。そこは神の王国と呼ばれた。その時、私の方に近づいてくる人がいた。おじのオゼム・ウッドラフとおばだった。私はふたりをその宮居に招き入れた。

それから時が流れて、私は福音を受け入れ、テネシー州へ最初の伝道に出かけた。伝道中に、私は自分の見た夢のことをバツェン兄弟に話した。すると彼は、数年以内に私がおじに会ってバプテスマを施すだろうと言った。その言葉は文字通り成就した。後に私は、おじ夫婦とその子供たち数名にバプテスマを施したのである。そのほか、私の父、継母とその娘、メソジストの牧師にもバプテスマを施した。事実、私は父の家に住むすべての人を改宗した。これは、夢が時として現実になることを示すものである。」(Discourses of Wilford Woodruff「ウィルフォード・ウッドラフ説教集」pp. 283—84)

アルマは次のように述べている。主は「天使によって男ばかりでなく女にも御言葉を伝えたい、そればかりでなく、またたびたび賢人や博学の人の知識も及ばない御言葉を子供に与えたい。」(アルマ32: 23)

幼い子供たちは、両親と同様に、主の祝福を受ける資格がある。御父と御子の訪れを受け、この神権時代の幕を開けた時、ジョセフ・スミスはわずか14歳であった。そして、モロナイが現われて、モルモン経が記された金版を埋めた場所を告げたのは、彼が17歳の時である。

若人は福音を研究し、教会で奉仕する備えをし、できる限り勤勉に戒めを守らなければならない。

さて、3番目の出来事であるが、ウッドラフ大管長は次のように述べている。

「教師の職にあった時、私はシオンの陣営

の一員としてミズーリ州に向かった。途中、多くの試練や苦難に遭い、コレラに見舞われて、15名の兄弟たちが死んだ。ミズーリ州に到着した私たちは、ライマン・ホワイト兄弟の家に滞在した。その家では、予言者ジョセフ・スミス、オリヴァ・カウドリ、デビッド・ホイットマー、その他教会の指導者が集まって評議会が開かれた。私もその集会に出席した。デビッド・ホイットマー兄弟はシオンのステーク部の管理者であったが、ジョセフ兄弟から激しい叱責を受けた。他の何人かの兄弟も同じように叱責された。神の命令に従うことを怠り、与えられた義務を十分に果たさなかったからである。

その集会で、私は福音を携えて伝道に出たいという強い願望を持った。そして、日曜日の夜、ホワイト宅から数百メートル離れた森の中にただひとりで入って行き、私のために伝道の扉が開かれるようにと主に祈った。この世の栄誉を得るために伝道しようとは思わなかった。私は、宣教師がどのような経験をするか、私の及ぶ限り十分に理解していた。私が願うものは、栄誉でもなければ、富でもない。私は金銀を求めてはいなかった。私はこれがキリストの福音であることを知っていた。神の力によりそのことが私に明らかにされていたからである。これはキリストの教会であり、ジョセフ・スミスは神の予言者である。そのことを知っていたので、私は世の国々に福音を伝えたいと願ったのである。私はこの特権を求めて主に祈った。すると主はその祈りに応え、私の願いがかなえられると言われた。私は喜びに満たされて立ち上がり、200ヤード(約180メートル)ほど歩き、通りに出た。そこで、ジャッジ・ヒグビー兄弟に会った。彼はこう言った。『ウッドラフ兄弟、主が私に告げられました。あなたは聖任を受けて、福音を宣べ伝えるために出かけなければなりません。』『主がそう言われたのですか。』

『その通りです。』

『わかりました。主が福音を宣べ伝えるよう

に望まれるのなら、私は喜んで伝道に行き、その務めを果たします。』私はこのために祈ってきたことには触れなかった。

ライマン・ホワイト兄弟の家で開かれた評議会に出席した時、私はアロン神権の祭司の職に召され、聖任された。他の兄弟たちは長老に聖任された。私はパートリッチ監督に呼ばれ、南部の州へ伝道に行くように言われた。パートリッチ監督は実に多くのことを尋ね、私も監督にいろいろと質問した。当時、ミズーリ州ジャクソン郡に立ち入ることは、教会員にとって危険なことだった。監督は私にアーカンサスに行くように言った。しかし、そこに行く道はジャクソン郡を横切っていた。(私には長老の職を持つ同僚がいたが)ジャクソン郡を通して行ってもよいか監督に尋ねた。すると彼はこう答えた。

『あなたにそれだけの信仰があれば、行けるでしょう。私にはとてもできませんが。』監督らしくらぬ言葉だと思った。次いで私は尋ねた。

『ところで、主は財布も旅の袋も持って行かないようにと言われましたが、私たちもそうすべきでしょうか。』

『それは神の律法です。信仰があれば、できるでしょう。』

監督は自分にはジャクソン郡に立ち入る信仰はないと言った。しかし、私たちはジャクソン郡に向かった。そして、危うく命を失いようになった。けれども、奇跡とも言える方法で私たちは救われた。それから、アーカンサスと周囲の町を巡り歩いた。

その時の出来事を長々と書こうとは思わない。私は祭司であり、同僚は長老だった、私たちは数千キロも旅をし、多くのことが私たちに顕わされた。これだけ記せば十分である。神権の召しを全力を尽くして遂行するならば、その人が祭司であれ、使徒であれ、何ら違いはない。このことを是非共忘れないでいただきたい。祭司は天使の導きと恵みを受ける鍵を握っている。私は祭司の職にあった時、使

徒、七十人、長老、そのいずれの職にある時にも増して豊かな主のみ守りを受けた。主は示現や啓示、聖きみたまにより、多くの事柄を私に顕わして下さった。』(Discourses of Wilford Woodruff「ウィルフォード・ウッドラフ説教集」pp. 298—300)

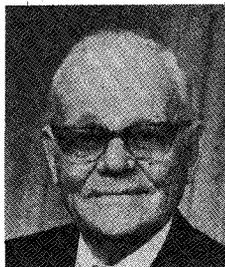
ウッドラフ大管長は、教師の時に伝道に出る特権を願い求め、祭司の時に宣教師として出かけて行った。主は彼を祝福し、守り、多くの示現と啓示を顕わされた。

最後にこのことを申し上げたい。神権を持つ多くの兄弟たちが一堂に会したこの集会は実に素晴らしい。今宵この会場に集った神権者の皆さんは、年齢の別なく、自分の有する神権と与えられた特権を尊重し、感謝していただきたい。私たちは全世界の神権者と、その妻と母親に愛と感謝を捧げて、この集会を閉じたいと思う。自分の持つすべての証に対して正直で、また忠実であっていただきたい。このみ業が神のみ業であることを証する。私たちにはなすべき特別な業がある。それを達成しなければならぬ。すべてイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



私たちの教会、末日聖徒イエス・キリスト教会

主の啓示は、この教会が『全地の面に於ける唯一の真にして生命ある教会』であることを証している



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

愛する兄弟姉妹、ならびに教会員でない友人の皆さん、皆さんが今視聴しておられるこの大会は、しばしばモルモン教会とも呼ばれる末日聖徒イエス・キリスト教会の4月の年次総大会である。

この教会や、また教会員が、モルモンというニックネームで呼ばれることがある。それは、私たちがモルモン経という書物を聖典として受け入れているからである。この書物は金版に刻まれた古代の記録を翻訳したもので、その金版は1827年9月、21歳の青年ジョセフ・スミスが天使より受け取ったものである。

天使はジョセフのもとを訪れた時、次のように語った。「われは神の御前より汝に遣わされし者にしてわが名をモロナイと言ひ……」

「アメリカ大陸の先住民の記録とその起源とを金版に刻んだ一部の書物が埋められてあって、その中には古代の住民に救い主がお伝えになったままの完全な永遠の福音が載せてある。……」

また、銀のつるにはめた二個の宝石があつて金版と共に埋めてある。これらの宝石は一つの胸当に付けてあって、いわゆる『ウリム

とトミム』を成す。そしてこれらを持って使った者が、古代すなわち先の時代の『聖見者』となったのであり、かの書物を翻訳するために神はこの宝器を豫め備えて置きたもうたのである。」(ジョセフ・スミス2:33—35)

ジョセフ・スミスは神の力によりその記録を翻訳し、1830年に、「モルモン経」という書名でこの翻訳物を出版した。

その記録から、モルモンがモロナイの父親であることがわかる。モルモンは当時の有能な軍の指導者であり、博學な歴史家、偉大な予言者であった。彼は4世紀の後半にアメリカに住んでいた。そして彼が当時残されていた歴史記録をまとめ、編さんしたことから、この書物に彼の名前が付けられたのである。ジョセフ・スミスがモロナイから受け取って翻訳した金版の大部分は、モルモンの手によってまとめられたものである。そしてモロナイはそれを紀元421年頃、ニューヨーク州西部のクモラの丘に埋めたのであった。

教会員がモルモンと呼ばれることに、また教会がモルモン教会と呼ばれることに、私たちは少しの抵抗も感じていない。しかし前にも述べたように、それは教会の正式な名称ではない。教会の正式な名称はすでに述べたように、「末日聖徒イエス・キリスト教会」である。(教義と聖約115:4)

この名称は、1838年4月26日、ミズーリ州ファーウェストで、教会の管理役員に与えられた啓示の中でイエス・キリスト御自身により公式に確認された。すなわち、キリスト御自身が次のように語っておられる。「主、誠にかくの如く汝に告ぐ、わが僕ジョセフ・スミス(二代目)よ……また……ひろく全世界に散在せる末日聖徒イエス・キリスト教会の全長

老および全会員たちよ。

わが教会は、末の世に於て須らく末日聖徒イエス・キリスト教会と称えらるべし。」(教義と聖約115:1, 3—4)

主のこの宣言は、復活後間もなくアメリカ大陸を訪れて、その地の弟子たちに導きと教えを施し、彼らに宣言を下したもうたキリストの言葉を思い起こさせる。その時のことが、モルモン経に次のように記されている。「イエスの弟子たちは旅をして歩いて、それまでに見たり聞いたりしたことを宣べ伝え、またイエスの御名によってバプテスマを施した。この弟子たちは、ある日のこと集って熱心に祈りと断食とをしていたが、

イエスの御名によって御父に祈りを捧げたところ、イエスがまた現われてかれらの中に立ちたまい、『汝らは何をわれより与えられんと願うや』と仰せになった。

そこで弟子たちは答えて、『主よ、この教会の名は何と言ったらよいか、これを私たちに教えたまえ。それはこれについて民の間に論争がある故に』と言った。

するとイエスは弟子たちに答えて言いたもうた『われまことに汝らに告ぐ、民がこのことにつきてつぶやき争うは何故ぞ。

かれらは「汝らキリストの名を受くべし」と言う聖文を読まざるか。キリストとはわが名にして、終りの日に汝らはこの名にて呼ばるべきなり。

さて、わが名を受けて終りまで堪え忍ぶ者は、終りの日になりて必ず救われるべし。

されば、何事にてもわが名によりてなさざるべからず。故に教会にはわが名をつけ、また御父がわがために教会を祝福したもうよう、わが名によりて御父に祈れ。

わが名をつけざるものはいかでわが教会ならんや。教会にもしもモーセの名をつけたらばそはモーセの教会なり。あるいはまたある人の名をつけたらばそはある人の教会なり。もしわが名をつけて、わが福音を基となさば、そはわが教会なり。

われまことに汝らに告ぐ。汝らはわが福音を基となす故に、何事にても名をつくるものはわが名前をつけよ。故に、教会のために御父に祈るときこれをわが名によりて祈らば、御父は汝らの祈りを聞き届けたもう。

さらにまた教会もしもわが福音に基けるときは、御父は教会に於てその御業を現わしたもう。

されど教会もしもわが福音に基かず人の業か悪魔の業に基かば、しばらくの間その業を喜ぶことあらんも、次第に終りの日近づき来りて、これらは切り倒され、一度入らば二度と出る能わざる火の中に投げこまれん。

これらは自らのなしたる行いの報いを受く。切り倒さるるはその行いの悪きによる。よりてわれがすでに汝らに告げたることを記憶せよ。

見よ、われはすでにわが福音を汝らに授けたるが、その福音を言い換うれば次のごとし。まずわが父われをつかわしたまいたれば、われは父のみこころを行わんとてこの世に来れり。

わが父のわれをつかわしたまひしは、われが十字架にかけられて、後にあらゆる人々をわれに引きよせんがためなり。また人がわれを十字架に上げたる故に、今度は御父が世の中の人を必ずひき上げて、これを各々の行いの善悪に應じて裁判するためにわが前に立たせたもう。

われが十字架にかけられたるはこのわけなり。すなわち、われは御父の権能によりてあらゆる人間をわれに引きよせ、それぞれの行いによりて裁判をなす。

悔い改めてわが名によりてバプテスマを受くる者は聖霊に満ざる。またその者が終りまで忍ばば、われが世の中の人々を裁判する日に、御父の前にてこれを罪無き者とせん。

終りまで忍ばざる者は、また切り倒されて火の中へ投げこまるべし。その者は御父の正義が要求するによりて、いつまでも火の中より出ることを得ず。

こはすなわち御父が世の人々に告げたまひし言葉にして、御父は必ずこれを成就したもう。御父は偽ることなく、その告げたまひし言葉をことごとく実現させたもう。

そもそも清からざるものは御父の王国に入ることを得ず。信仰をし、すべての罪を悔い改め、終りまで誠をつくし、以てわが血によりてその衣を洗いし者のほかには御父の安息に入り得る者なし。

さて、世界の隅々に至る者たちよ。汝らは聖霊を受けて聖められ、また終りの日にわが前に罪なしとせられんために今悔い改め、われに来てわが名によりてバプテスマを受けよ。これ（復活した贖い主から古代アメリカ人に対して、さらに現在も）汝らに与うる命令なり。』」（Ⅲニーフアイ27：1—20）

これが、ときどきモルモン教会と呼ばれるこの教会の正式な名称であり、また基本的な教義である。

すでに述べたように贖い主は自ら御自身の教会を「末日聖徒イエス・キリスト教会」と名付けられただけでなく、この教会を「全地の面に於ける唯一の真にして生命あり而も主なるわれの悦ぶ教会」（教義と聖約1：30）と宣言された。

次のような背景の下でこの宣言が下されたのであった。「千八百三十年四月の六日……に先立つこと六年以上の期間を通じて予言者ジョセフ・スミスは、すでに神よりの啓示と誠命とを折々受けて居たのであった。……

早くも千八百三十年の夏に、神の誠命に従って活動していた予言者は、その当時までに受けた啓示を明らかに一卷の書として世に公にする考えを以て、整理、筆写に従事していたのである。千八百三十一年十一月一日、オハイオ州ハイラムに於て開かれた当教会の長老会議の際、これらの（予言者が受けてまとめた）啓示を世に公にする事に就いてはっきりした処置がとられ、この編集された書物は『誠命の書』と名づけられた。主がこの企を嘉納したもうたことは、本書（教義と聖約）

第1章に載っている啓示を下したもうたことによって明らかにせられたのであって、この啓示は……『前書』として知られているところである。」（教義と聖約の解説。教義と聖約1章の序文を参照）

この啓示の内容は全人類にとって重要なものである。したがって、その啓示をここに引用し、私の話の結びとする。主は教会員だけでなく、すべての人々に注意を促し、次のような言葉で啓示を切り出しておられる。「聴け、汝らわが教会の人々よ。いと高きところに住みて、すべての人を見まもる者の声は告ぐ。曰く、誠にわれ告ぐ、汝ら民よ、遙かなる所より耳を傾けよ。海の島々にある者よ、共に聴け。

誠に主の声はすべての人々に及ぶものなれば、一人ものがる者なし。目として見ざるはなく、耳として聞かざるはなく、心として刺し貫かれざるはなし。

また、およそ教えにそむく者たちは大いなる悲しみに刺し貫かれん。そは、彼らの罪悪は公に告げ知らされて、そのかくれたる行為の発かるべきを以てなり。

而して、この末の世にわが選びたる弟子たちの口より、すべての人々に警めの声は及ばん。

この末の世の弟子たちは進み行けど、一人もこれを止むる者なからん。そは主なるわれ、彼らに命じられたるなり。

この世に住める人々よ、見よ、こはわが権威にしてまたわが僕らの権威なり。こはまたわが誠命の書のはしがきにして、その書は汝らに公にせんためわが彼らに与えしところなり。

この故に汝ら世の人おそれおののけ、そは主なるわれ誠命の中にて命じたることは成就すべければなり……

この故に、主の声は耳ありて聞かんとするすべての人々に聞かれんため地の果にまで及ぶ。

されば汝ら備えをなせ、まさに来るべき事

のために備えをなせ、そは主の来るは近ければなり。

而して主の怒りは燃え、主の劍は天にてうるおいたれば、今やこの世に住む人々の頭に下されん。

その時主の腕現われて、主の声もまた主の僕らの声も聞かんとせず、予言者にして使徒なる者たちの言にも耳傾けんとせざる者のその民の中より絶たるべき日来るなり。

そは彼らわが儀式より離れ去り、わが永遠の誓約を破りたればなり。

彼らは主の義を打建てんために主を求めずして、あらゆる者おのが心のままに振舞いおのこれらの神の姿を求めれども、その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり。そは古びてついにバビロンにて、すなわちついに亡ぶべき大バビロンにて朽ちん。

されば、主なるわれ、この世に住める人々に襲い来るべき禍を知れば、わが僕ジョセフ・スミス（二代目）を呼び天より語りて彼に誠命を下せり。

また他の者どもにもこれを世の人々に宣ぶ様誠命を与えたと、すべてこは予言者たちの記せし事の成就せんがためなり。……

見よ、われは神なり。而してこの事を語り。これらの誠命はわれより出で、わが僕らの理解せんがため、彼らの言葉ぶりにならいてわが僕らの弱きままに与えられたり……

またさきにニーファイ人の記録を受けたる後、誠にまことにわが僕なるジョセフ・スミス（二代目）は神の恩恵を通して神の能力によりモルモン経を翻訳する能力を与えらるを得、

またこの誠命を受けたる者たちもこの教会の基礎を置き、人に知られぬ所よりまた暗き所より、全地の面に於ける唯一の真にして生命あり而も主なるわれの悦ぶこの教会を明るみに出す能力を与えらるを得。われ悦ぶとは一人一人を指すにあらずして、わが教会員全体に就きて言えるなり。

すなわち、主なるわれは罪を見ていざさか

もこれを許すを得ざればなり。

さりながら、悔い改めて主の誠命を行う者は赦されん。

而して悔改めをなさざる者は、彼のすでに受けたる光明までも取り去られん。そは、わが『みたま』常には人を励まさじ、とは万群の主の言なればなり。

またわれ誠に汝らに告ぐ、世に住める人々よ。主なるわれは、これらの事を進んですべての人に知らせんと思ふなり。

そは、われは人々を偏り見る者にあらざれば、すべての人々をしてその日の速に来るを知らしめんと思ふべなり。而して地より平和の取り去られ、悪魔自らの領土を支配する時はなおいまだしといえども今や近きにあり。

されど主もまたその聖徒らを支配し、その真中にありてこれを統治せん。而してイツミヤ、すなわちこの世に下る審判のために天より降り来らん。

人々よ、これらの誠命をしらべよ。そはこれらは真実確なる誠命にして、その中に言われたる予言も約束もすべて成就さるべければなり。

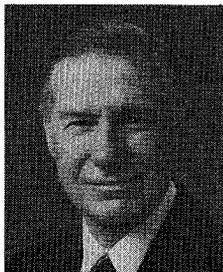
主、われ言いたることは、われ言いたるなり。われ言い逃れせず。天地は過ぎ行くとも、わが言は過ぎ行くことなくして成就すべし。わが声にて言われるも、僕らの声にて言われるもみな一つなり。

見よ、みよ、主は神にして『みたま』は証す。また、この証は真実にして真理は永遠に変わることなし。アーメン。』（教義と聖約 1：1—7, 11—18, 24, 29—39）

これらの偉大な啓示が真実なものであることを証し、すべてを主イエス・キリストの名により申し上げる。アーメン。

金をふきわける者の火

人は苦痛のさなかにある時、神の羊飼いの小さなささやきに耳を傾けようと
するものである



十二使徒評議員会会長
ジェームズ・E・ファウスト

この説教壇に立つたびに、私は非常に謙遜になる。私は聖きみたまの助けを求めたいと思う。私はみたまの導くままに話すことができるよう、また皆さんの上にみたまが豊かに注がれて、その特別なみたまによって皆さんが私の話を理解して下さるように祈っている。

今朝、私はすべての方々に、特に耐え難い大きな試練や悲しみ、心痛、苦悩を抱え、その逆境のさなかにあって苦しみの波にのまれんとしている方々にお話したいと思う。私の話から少しでも希望と力と慰めを見いだして下さいと願っている。私は「金をふきわける者の火」(マラキ3:2)についてお話したいと思う。

何年前か、この壇上でデビッド・O・マッケイ大管長が、マーティン手車隊の経験談を話された。これらヨーロッパで改宗した当時の移民の多くは、非常に貧しく、牛も馬も、馬車も買えなかった。そのために彼らは、所持品のすべてを積んだ手車を自らの力で引いて大平原を横断することを余儀なくされた。マッケイ大管長は、この勇敢な移民の旅の後、

数年たって起こったある出来事について次のように話された。「クラスを教えていたひとりの教師がマーティン手車隊がそのような状態で大平原を渡ろうとしたのはまったくの愚行で、それを許可したことも間違っていると言った。

また〔クラスの生徒によると〕彼は手車以外何の必需品も防備も持たない改宗者にあえて大平原の横断を許可したことで、教会の指導者をかなり厳しく批判した。

すると部屋の隅の方において、それまでじっとがまんして話を聴いていたひとりの年輩の男性がすっと立ち上がった。その場に居合わせた人々は、彼の言葉を決して忘れないことだろう。感情が高ぶっていたせいとか、彼の顔色は青白かった。けれども彼は穏かに、慎重に、しかし心を込めて力強くこう言った。

『そのような批判はやめて下さい。あなたは事実をまったく御存じない。歴史上の事実を冷たくあしらったところで、ここでは何の意味もないでしょう。そのような問題に対して適切な解釈は何も与えられませんからね。シーズンも遅くなってから手車隊を送ったことが間違っていたのでしょうか。確かに間違っていたかもしれませんが。しかし、私はその手車隊の中にいました。妻もそうです。そして皆さんが今話されたネリー・ウンサンク姉妹もその一員でした。私たちの苦しみは皆さんの想像を絶するものでした。大勢の人が飢えと寒さで死にました。けれどもあなたは、その隊の生存者が非難の言葉をつぶやくのを聞いたことがありますか。その隊には信仰を捨て教会を去った人はだれひとりいません。そのような苦難の中で、私たちは神を身近に感じ、神は生きておられるという絶対的な知識をも

って生き抜いてきたからです。

私は病気や飢えて体が非常に衰弱し、一歩足を踏み出すのもやっとなという状態で手車を引きました。前方に広がる砂漠と丘の斜面を見て、私はあそこまでは何とか行けてもそれ以上は無理だ、荷物を引いてその丘を越す力はないと言いました。』さらに続けて彼はこう言った。『私はその砂漠をめざして進みました。やっとなことでそこに到着すると、今度は手車が私を押し始めるのです。だれが押しているのかと何度も振り返って見ましたが、だれも見当たりません。私にはその時、神のみ使いたちがそこにいることがわかりました。

私は手車で来たことを悔やんだでしょうか。いいえ、その時も、またそれ以来ずっと現在に至るまで一度も悔やんだことはありません。神を身近に感じるためにそのような代価を払いましたが、それは払う価値のあるものでした。私はマーティン手車隊の一員としての特権にあずかれたことを感謝しています。』

(*Relief Society Magazine*「扶助協会誌」1948年1月号, p. 8)

ここに偉大な真理がある。苦痛、苦悶、人生の大きな試みの中で、私たちは金をふきわける者の火を通り抜けるのである。そして人生の中で意味もなく重要でないものはかすのように溶かされて、私たちの信仰は輝きのある完全な強いものとなるのである。このようにして人間の中に神の姿が写し出されるのである。これは神を身近に知ろうとする人々に要求される清めの代価の一部である。人は苦痛のさなかにある時、一層神の羊飼いの小さなさきやきに耳を傾けようとするものである。

人生には、心痛む絶望的な逆境の日々が付きものである。熱心に善を求める人、信仰深くあろうとする人を含め、すべての人に大きな悩み、苦痛、時には胸が張り裂けるほどの悲しみがある。心を刺し、肉体を突き刺すそのとげは、時として何の意義も希望も失われてしまったかのように人生を変えることがあ

る。その変化はしばしば残酷とも思える精錬の過程を経てもたらされる。このようにして、人間は主のみ手にある軟らかい粘土となって、信仰、奉仕の精神、美、強さを備えた生活を築くのである。ある人々にとって、金をふきわける者の火は神への信仰を失わせるものとなる。しかし永遠に向ける人は、それを完全に至るための一過程と見る。

私たちは苦難の中で再び生まれ変わり、心も霊も新たにすることができる。もはや世の流れには乗らず、新たな力を得、「わしのように翼をはって、のぼることができる」(イザヤ40:31)というイザヤの約束を喜ぶのである。

信仰とはまだ見ないものを信じることであり、モロナイは証している。「信仰の度を試してからでないと証が得られない。」(イテル12:6)この信仰の試しは非常に貴重な経験とすることができる。ペテロはこう言っている。「あなたがたの信仰はためされて、火で精錬されても朽ちる外はない金よりもはるかに尊いことが明らかにされ、イエス・キリストの現れるとき、さんびと栄光とほまれとに変るであろう。」(1ペテロ1:7)試練と逆境は私たちに新たに生まれる備えをさせてくれる。

霊的な逆境から生まれ変わることによって、私たちは新たな者となる。モーサヤ書に記されているように、すべての人々は新たに生まれなければならない。すなわち神によって生まれ変わり、贖われ、高められて神の息子、娘とならなければならない。(モーサヤ27:24—27参照)

マリオン・G・ロムニー副管長は主に関する話の中で、この奇しき力について次のように語っている。「人それぞれの生活に及ぼす影響はみな非常によく似ている。魂が燃えるような神のみたまに照らされている人で、この罪と暗黒の世にあってただ受動的にじっとしている人はだれもいない。彼は義を推し進め、人々の身と心を罪の束縛から解放する積極的な神の代理人となるために自らを備えるよう心を駆り立てられるのである。」(*Conference*

Report「大会報告」1941年10月4日, p. 89)

再び生まれるという気持ちをバーレー・、P・プラット長老は次のように述べている。「私にとっては世界をひっくり返すことや、山を掘り下げること、地球の果てまで行くこと、アラビアの砂漠を横断することの方が、神権を受けながら何もせずにいるよりはたやすい。私は聖なる油を注がれた。したがって、最後の敵が征服され、死が滅ぼされ、真理が勝つまでは決して休んではいられない。」(Journal of Discourses「説教集」1:15)

残念なことに、私たちの受ける大きな苦難の幾つかは、私たち自身の愚かさや弱さのために、あるいは私たち自身の軽率さや罪のためにもたらされる。これらの問題を解決するにはまず正しい道へ戻り、必要に応じて完全な悔い改めへの各段階を忠実に踏まなければならない。この偉大な原則を通して多くのことが完全に正され、すべてのことがより良い状態になるのである。私たちはほかの人に助けを求めることもできる。ではどのような人に助けを求めることができるだろうか。オルソン・F・ホイットニー長老は、この問いに次のように答えている。「悲しみと苦難の中であって助けと慰めが欲しい時、だれのところに行けばよいだろうか……苦しみを経験した人々のところである。彼らは自分の苦しい経験を通して、今困難のさなかにある人々に同情と慰めを豊かに注ぐことができる。自ら苦しみを経験したことのない人にこのようなことができるだろうか。

……神の目的は、御自分の子供たちに苦しみを経験させることではないだろうか。神は子供たちがもっと御自身のようになることを望んでおられる。神は人がかつて経験した、あるいはこれから経験する痛みよりはるかに大きな苦悩を経験された。したがって、神はあわれみと慰めを豊かに注ぐことができになるのである。」(Improvement Era「インプルーブメント・エラ」1918年11月号, p. 7)

救い主の誕生以前に、イザヤは救い主を「悲

しみの人」(イザヤ53:3)と言った。教義と聖約の中で、救い主は御自身のことをこのように言われている。「その苦しむたや、われ神、すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながらを苦しめ、すなわちこの苦さかかずきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。」(教義と聖約19:18)

自分たちの受ける苦しみを罰と考える人々がいる。ロイ・ドクシー兄弟は次のように述べている。

「予言者ジョセフ・スミスが教えているように、聖徒たちは病気、疫病、戦争など、末日のあらゆる裁きを免れると信じることは誤りである。これらの災いは罪より生じるといえるのは神を汚す原則である……。

ジョセフ・F・スミス大管長は、私たちの被る病気や苦しみが神の慈悲か怒りのいずれかによるものであると信じることは取るに足らない考えであると教えた。」(The Doctrine and Covenants Speaks「教義と聖約は語る」第2巻p. 373)

パウロはこのことを完全に理解していた。救い主について触れ、パウロはこのように言っている。

「彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び、

そして、全き者とされたので、彼に従順であるすべての人に対して、永遠の救いの源となられたのである。」(ヘブル5:8—10)

ある人々にとって、その苦痛は並々ならぬものである。

スティルマン・ポンドは、ノーウーの七十人第2定員会の会員であった。彼はマサチューセッツ州ハバードストーンからやって来た初期の改宗者である。他の人々と同様、彼と彼の妻マリア、それに子供たちは脅かされ、ノーウーを追われた。1846年9月、彼らは西部への大移民団の一員となった。その年の冬、早くから彼らはマラリア、コレラ、結核など

のつらい苦難にあった。この家族はこれら3つのすべての病気に見舞われた。

マリアは結核になり、子供たちはみなマラリアにかかった。3人の子供たちは雪の中を旅する間に亡くなった。スティルマンは彼らを平原に埋葬した。マリアの病状は悲しみと苦痛、マラリアの熱で悪化していった。彼女はもはや歩くことができなかった。病気で衰弱していながら、彼女は双子を出産した。そしてその双子はジョセフ、ハイラムと名付けられた。しかしふたりとも数日後に亡くなった。

スティルマン・ポンドの家族はウインター・クォーターズに到着し、他の大勢の家族と同様、テントの中で苦しい生活を続けた。ウインター・クォーターズまでの旅の途中での5人の子供たちの死は、彼らにとって苦難の始まりでしかなかった。

ホーレス・Kおよびヘレン・マー・ホイットニーの日記によると、スティルマン・ポンドには他に4人の子供がいて亡くなっていることがわかる。

「1846年12月2日水曜日、14歳のローラ・ジェーン・ポンド、寒さと熱のため死亡。」それから2日後の「1846年12月4日金曜日、11歳のハリエット・M・ポンド、寒さのために死亡。」3日後「1846年12月7日、18歳のアビゲイル・A・ポンド、寒さのために死亡。」それから丁度5週間後の「1847年1月15日金曜日、6歳のライマン・ポンド、寒さと熱のために死亡。」さらに4カ月後の1847年5月17日には、妻のマリア・デイビス・ポンドが亡くなっている。平原横断中に、スティルマン・ポンドは9人の子供と妻を失った。しかし彼はユタの著名な開拓者となり、七十人第35定員会の先任会長を務めたのである。(レオン・YおよびH・レイ・ポンド編、*Stillman Pond, a Biographical Sketch*「スティルマン・ポンドの略伝」pp. 4—5)

スティルマン・ポンドは、平原横断中に9人の子供と妻を亡くしたにもかかわらず、信

仰を失わなかった。彼は途中で旅をやめることもなく、進んで行った。彼は他の多くの人が行なったように、神を身近に知るために犠牲を払ったのである。

神の羊飼いは、すべての人々に希望と力と救いをもたらすメッセージを持っておられる。もしも夜がなければ、私たちは昼を感謝することはないだろう。また星や広大な天を目にすることもないだろう。私たちは甘さと苦さを共に味わわなければならない。私たちが日日出会う逆境には神聖な目的がある。それは私たちを備え、清めてくれる。またそれは私たちにとって祝福となるのである。

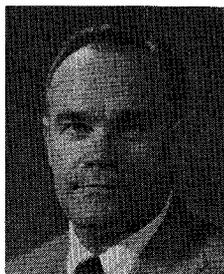
私たちはバラの花を摘もうとする時、同じ枝についているトゲで手を痛めることがしばしばある。

栄光ある救いは精錬の火によってもたらされるのである。それは高貴な永続する再生である。そして神を身近に知るための代価は払われ、神聖な平安が訪れる。眠れる内なる力が呼びさまされるのである。義の心地良い外套が私たちを包み、守り、霊を暖めてくれる。そして祝福を数える時に自己憐憫は消え失せるのである。

私はイエスがキリストであり、聖なる贖い主であることを証して話を結びたいと思う。イエス・キリストは確かに生きておられる。イエス・キリストの言葉は永遠の生命を得させる愛の言葉である。イエス・キリストは生ける神の御子である。これは主の聖なるみ業であり、栄光である。そしてこの教会はイエス・キリストの教会である。このことは真実である。私はこのような聖なる知識に心から感謝している。このように証しできることは私にとって素晴らしい特権であり義務である。これらのことを謙遜に主イエス・キリストの聖なるみ名により申し上げる。アーメン。

個人の決意

決意とは、行なわなければならないことを行なうことが大切である。それによって実践する人の生活に確かに平安と力がもたらされる



七十人第一定員会会員
ジェームズ・M・バラモア

愛する兄弟姉妹の皆さん、私は末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることを感謝している。私は会員の皆さんが過去2年間私のためにして下さったことを心から感謝申し上げます。これから決意というテーマで話すにあたり、皆さんの信仰と祈りを心からお願ひしたい。

最近、私はある特別な夕食会に出席した。それは長年の間ある特別な人々のために立派な働きをしてきた友人をたたえての会であった。次々といろいろなグループの人が贈り物を手にやってきては抱き合い、彼の行なったことに感謝を述べていた。その晩、何百人もの人々を前にして立っている彼を見ながら、私はこう思った。「まだ若いのに、彼は一体どのようにしてそんな短期間に多くのことをなし遂げたのだろう」と。

それから私は、彼がそこにいる人々のためになした非常に多くの私欲を捨てた行ない、すなわち打ち勝ち難い困難に直面している人々を励ます彼の姿を思い起こした。彼は時間と家、お金、技術を提供し、彼らを助けるためにできることは何でもしようと決意して、

それを実践したのである。さながら証会にでも出席しているようであった。私は彼の生き方と、ひとりの人の行ないがそれほど重要なものであるという事実を主に感謝しながら、その場を去った。私はその晩、だれにでもできることでありながら、しかもあまり行なわれていないことをすることが大切だと知った。この若者のように、人が何かをしようと決意するのは、巨大なダムの水門を開いてその水力を人々のために役立てるのに似ている。

決意について考える時に、私は救い主の生涯の多くの荘厳な日々の中からひとつの出来事を思い出す。イエスは大祭司の僕のひとりの耳に触れ、癒された。その僕はその直前に剣で耳を切り落とされた人であった。それからイエスはその大祭司の家に連れて行かれ、あざげられ、縛られ、目隠しをされてつばをはきかけられた。翌日イエスは再び議会の前に連れ出され、そこでもまたむち打たれ、責めを受けた。イエスは自らを救うことも可能であった。しかしイエスのはのしる人々の前に堂々と立ち、自ら神の御子であり王であることを主張して、御父と全人類に対する御自身の決意を示されたのである。このことによってすべての生ける者の行く末が変えられた。疲労と飢え、苦痛、失望のゆえに、イエス御自身この決意を放棄しようと思えば幾度となくその機会はあったはずである。

救い主の決意は確かに特別であった。それは救い主によってのみ果たせるものであった。しかし私たちにも救い主に対して、また自分の家族に対して、他の人々に対して決意しなければならないことがある。これは、現世における私たちの幸福、来世における昇栄に欠かせないものである。

決意とは何だろうか。それは本当に重要なことだろうか。1831年8月1日、主は予言者ジョセフ・スミスにこの原則について次のように語られた。

「われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くの事をその自由意志によりて為し、多くの正しき事を為し遂げよ。

そは人自らの中に自由の意志ありて己れの事を自ら為す者なればなり。」(教義と聖約58:27-28)

今述べてきたように、決意とは、善の模範となることである。すなわち、「努めて善き業に従い」、「自由意志によりて」「多くの事を」行なうことである。強制的にはなく、「多くの正しき事を為」したいという積極的な気持ちでするのである。決意は口で言うだけでなく、実践するものである。それは容易ではない。決して容易なことではない。決意は模範的な指導力でもある。決意には義務を果たすという抱束力が伴うが、しかし同時に喜びをもたらすものである。それは穏やかではあるが、人を行動に駆り立てる力強さを持つものである。決意は正しい生活を送る上で欠かすことができない。それはだれにでもできることをすることである。それは行動を促す美しい原則である。

数年前伝道部で働いていた頃、私は、いつもレッスンを教えバプテスマを施す求道者のいるひとりの宣教師に目がとまった。彼は出かけて行く先々に、人々に受け入れてもらえる決意と幸福と愛を携えて行った。彼が道を歩くと、多くの人々がこの並はずれた若者を一目見ようと自分の家の窓からのぞいたという。彼は特に言葉の面で優れていた訳ではない。しかし、何千人という人々に力強い証を述べることができた。

私の友人のように、彼もまた、だれにでもできることでありながらあまり行なわれないことをしたに過ぎないのである。

救い主に対する決意

決意とはイエス・キリストの福音を守ろうと決心した人は、天の力と癒しを求めることができる。巨大なダム背後の水のように、その力はその人自身の世界を一変してしまう。

古代のアメリカの予言者のひとり、救い主に対する決意を持つことがいかに重要であるかを次のように述べている。

「さてわが子らよ。お前たちは神の御子でキリストである私たちの贖い主の岩を基にしなくてはならないことを忘れるな。贖い主の岩を基にするならば、悪魔がその大風を吹かせて柱のように立つつむじ風をまき起すとき、また悪魔のひょうと暴風雨とがお前らを打つとき、悪魔はお前らに打ち勝って不幸の淵と永遠の悲慘にお前たちをひき落すちから能力はない。なぜならば、お前らの立つ岩は堅固であって人がその上に立つと倒れることのできない基であるからである。」(ヒラマン5:12)

私たちは救い主に従おうと決意する時、心の平安と安らぎを覚える。主はこのように約束しておられる。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。」(ヨハネ14:27) 主との約束を果たす時に、私たちは祝福を受けることができる。「汝らわが言うところを行わば、主なるわれこれに対して責任あり。されど、汝らわが言うところも行わずば汝ら何ら約束を受けず。」(教義と聖約82:10)

ある新聞社に読者がこのような質問を寄せた。「世の人々にとって最も重大なニュースは何でしょうか。」慎重に考えた末、編集者はこのように答えた。「イエス・キリストが今日も生きておられることを知ることです。」確かにこれはだれもが知ることのできる最も重要なニュースである。

私たちは皆さんにイエス・キリストが確かに生きておられることを厳粛に証申し上げる。イエス・キリストは御自身の教会を回復し、神の予言者を通じて教会を導いておられる。神と福音の原則が回復され、生活の中にそれらを受け入れようとする人々に祝福をもたら

している。私たちは皆さんに、今お聞きになった事柄から、これらの教義を研究し、それが真実かどうかを個人的に真心から天父に尋ねてみるようにお勧めする。

家族に対する決意

私たちは主と主の原則に従おうと決意すると同時に、家族のことについても決意しなければならない。家族は永遠である。義しい生活を送るならば、私たちは族長制度の下に永遠に結び固められる。その喜びを感じている私たちは、世の人々もこのことを知っていたきたいと心から願っている。私たちはすべての人々の生活が神聖で重要であることを知っている。子供たちは皆贈り物であり、祝福である。家庭は、家族一人一人が神の律法に従って生活をする能力を養うための学びの場、愛を育む場である。私たちはこれらの律法が永遠不変であることを証する。まずこのことに対して決意することが大切である。神に従う家族を持つこと以上に心に平安をもたらすものはない。

数年前のある日、教会の指導者として、またビジネスマンとして多忙なある父親が私に、家族を非常に愛しているのであることを決意したと話してくれた。彼の決意したこととは、毎週幾晩かと、土曜日の一部を家族のために使うというものであった。そして彼はそれをスケジュールの一部に加えた。福音が彼に家庭を第一にすることの重要性を理解させたのである。その後、仕事や教会の責任、その他で毎日多忙な日が続いたが、彼はこの決意を守り通した。彼にとって、家族と共に過ごし、家族を養うことは変更できない義務であり、求めていた喜びであった。彼はすべての父親ができること、しなければならないことでありながら、あまり行なわれていないことをしたのである。

予言者たちはいつの時代にも、共に祈り、学び、働き、遊び、あらゆる聖さの中でひとつとなるように家族に勧告してきた。これこ

そ現在この世で幸福と平和と一致を得る鍵である。将来もそうである。しかしそうなるためには決意が必要である。私たちにできることをすべてするという決意である。知識だけでは十分ではない。可能なことをすべて「努めて」行なう決意が必要なのである。

ある人が述べた言葉をもう一度繰り返したいと思う。愛する人の心に触れようとする努力を惜しんではならない。決して、決して惜しんではならない。祈りと、正義に従おうとする個人の決意の後に天の祝福がもたらされるからである。真心からこのように努力しようとする時、偉大な内なる力が湧き上がる。私たちはもっと愛を示すと同時に、もっと大きな助けを与えることが大切である。昨日、息子が改心するという祝福を受けた予言者、熱心な父親アルマについてペリー長老が話されたことを、私たち会員は決して忘れることができない。

他の人々に対する決意

他の人々に福音を分かち合うように努めようとして決意していた男性が、ある日事務所を出ると、ひとりの人が廊下を走ってくるのに出会った。その人の指にステープルの刺さっていることを知った彼は、ポケットに手を入れ、薬と救急絆創膏を取り出し、傷の手当てをした。ショックを受けていたその人は驚いた様子で、なぜこのようなことをしてくれたのかを尋ねた。すると彼はこう答えた。「私はモルモンです。モルモンはこういうことをするんですよ。」この男性には、必要な時にはいつでも人を助ける準備ができていたのである。

あるステーク部大会で、大勢の話者がある特定の人について話した。大会のあとで、教会幹部はその人と会った。彼は他の人々から彼のお陰で50人以上の人が教会に加わったことを知らされた。手入れの行き届いた庭、幸福な家庭、隣人への奉仕など、すべてが他の人々に福音がどれだけ彼の生活に祝福をもたらしているかを語るきっかけとなったので

ある。

ただこれらふたりの男性は、だれにでもできることをしようと決意しただけのことである。

私は大勢の人々を面接してみて、多くの人が祝福を得たいと心から願っていることを知った。ただ彼らはどこへ行き、どのようにすればよいかかわからずに、闇の中で助けを求めて叫んでいるのである。彼らの永遠の霊は助けを求めているのである。社会生活を営む私たちは、お互いを必要としている。彼らに手を差し伸べようとする決意は、救い主が切に勧めておられることである。愛をもってこれを行なう時、私たちは彼らを贖う助けをすることになる。これこそまさしくイエス・キリストへの信仰を告白する以上のこと、すなわち行なわなければならないことを行なうことなのである。

教会の指導者やホームティーチャーには助けを与える特別な機会がある。彼らのすべての働き、集会、信仰、祈りは、各個人と家族を助けることを目的として行なわれる。

フランスで教会に加入したある姉妹が、以前加わっていた教会の牧師の訪問を受け、一体なぜそのようなことをしたのかと問われた。その時の彼女の答えは、私たちにとって大きな励ましとなる。その答えは私たちに他の人々のために働こうとする堅い決意がどれほど重要であるかを教えてくれる。彼女は少なくとも毎月一度、教会の指導者や会員が彼女を訪問してくれることを話した。そして彼らが彼女の霊的、物質的 necessary に常に心を配ってくれたことを話した。それから彼女は牧師に向かって、自分が赤ちゃんの時にバプテスマを受けて以来、前の教会の人が訪問してくれたのはきょうが初めてであること、それも別の教会に加わった理由を聞くためであることを話した。

努めて主のため、人のために働こうと真心から決意することは、敵の多くの誘惑を克服する最も確かな方法である。

福音に従おうと決意している人は、自分の生活に幅ができて、あらゆる良いものに対して感謝の気持ちが強まることに気づくであろう。また神と神の素晴らしい被造物に対する認識が深まる。主は1831年5月に予言者ジョセフ・スミスに、この過程がどのように進むかを啓示の中で次のように語っておられる。

「神によるものは光明なり。その光明を受けて神に従うこといよいよ久しき者は、その受くる光明いよいよ明らかなり。その光明いよいよ明らかとなりてついには完き昼となるべし。」(教義と聖約50:24)

兄弟姉妹の皆さん、善を生み出す決意をしている人には、人を引き付ける力がある。そのような人は光と真理を学んでそれを実践しながら自信を深めることができる。そして主に對し、また主の子供たちに対し愛を示すために、可能なことは何でもしたいという願いを堅い決意に変えて来られた現在の予言者スペンサー・W・キンボール長老のようになるのである。

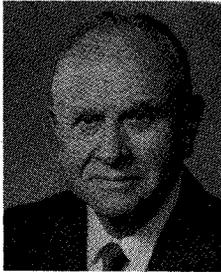
私たちもまたきょう、自分の気持ちを明らかにし、自分を捧げる決意をすることができるといふ決意をすることができるのである。主イエス・キリストのみ名により申し上げる。



大会訪問者

「わたしの羊を養いなさい」

主に仕えたいと望む夫婦は監督から声がかかるのを待つ必要はない。監督室のドアを叩いて「私たちには出かける準備ができています」と言っていたきたい



十二使徒評議員会会員
デビッド・B・ハイト

私はタバナクル合唱団が教会の最も感動的な讃美歌のひとつ「夜あけだ、朝あけだ」(189番)を歌っている時、感激のあまり胸が高鳴るのを覚えた。皆さんは、み業を世界に広めるために予言者ジョセフ・スミスにより英国に遣わされた十二使徒のひとり、パーレー・P・ブラット長老がこの曲の作詞者であることを思い起こされるであろう。この歌詞は、まことの福音のメッセージを世に伝えるために書かれたものである。ブラット長老は次のように書いている。

「夜あけだ 朝あけだ
シオンの旗掲げよ
あかろい夜あけだ」(讃美歌189番)

福音の夜明けの光は全世界を包み、暗やみの影は消え、主のみ業の威厳が充ち満ちている。幾万もの人々が現在救いの福音を受け入れている。

数カ月前、私たちはチリのオソルノ伝道部のレスター・ヘイモア伝道部長夫婦とチリ海岸沿いをドライブした。幾つもの町を訪れ、村から村へと車を走らせながら、私たちは宣

教師の伝道の成果を目の当たりにした。私たちは大勢の新会員に会った。そして彼らの信仰と、自分たちの受け入れた福音をもっと知りたいという謙虚な望みに深く胸を打たれた。旅を続けながら、私たちは、増加の一途をたどっている新会員に異国人や宿り人という気持ちを持たせず、彼らも聖徒と同じ国籍の者であると感じさせるにはどうすればよいだろうかと考えた。彼らが鉄の棒にしっかりとつかまり、知識を増し加えていけるように彼らの信仰を強めるにはどうすればよいのだろうか。

私たちは神権会や扶助協会、それに日曜学校のクラスのことを考えた。多くの夫婦が、福音の中で訓練されており、その多くは並はずれた才能を持っている。しかし、教会の組織でその才能が十分に生かされていない。またステーク部によっては、伝道の召しを受けると十分な備えができていない年輩の夫婦が非常に多いところもある。彼らは福音の伝道に大きな助けを与えられるだけでなく、非常な勢いで会員が増えている地域の新会員を強めることにも力を注ぐことができる。今くつろいだ気持ちで座っている人々は、教会に慣れずに不安な気持ちでいるバプテスマを受けたばかりの多くの新会員を励まし訓練を施すことができるのである。私たちは何百人という信仰深い、備えのできた夫婦を、生涯で最良の経験を得る場所へ送り出せたらと考えている。

アミュレクはこのように語っている。「また神の御子はその民の罪を贖うためにこの世に降臨し……。」(アルマ11:40) 私たちは「その民」を励まし、一致させ、彼らに主の降臨に対する備えをさせる必要があるのではない

だろうか。

一般には、専任宣教師は若い未婚の男女だけかなるものだと考えられている。しかし今や新しい社会形態が出現している。職場の第一線を退き、隠居している男女の数は増加する傾向にある。しかも、キンボール大管長やリグランド・リチャーズ長老に比べると、非常に若い年齢で現役を退いている。

最近受け取ったカリフォルニアの友人から、学校の教師を辞めたのでユタに戻りたいという手紙が来た。そして彼はこのように言ってきた。「そちらに戻ったら、教会のために何かできるでしょうか。」

そこで私はこう返事した。「ユタには戻って来ないで下さい。あなたの教会での経験はほかの地で必要とされています。何年か前に宣教師として働いた頃学んだノルウェー語をもう一度勉強して下さい」と。彼らは間もなく伝道に出るはずである。彼はこの2度目の伝道の機会を非常に喜んでいる。しかも今度は伝道中ずっと同じ同僚と組めるという祝福が加わっての伝道である。

多くの夫婦が備えをし、監督からの伝道の召しを待っている。監督はほかのことで忙しすぎて、彼らを見過ごしているかもしれない。主に仕えたいと望む夫婦は監督から声がかかるのを待つ必要はない。監督室のドアを叩いて、「私たちには出かける準備ができています」と言っていたきたい。

最近メキシコで、素晴らしい立派な夫婦の宣教師、ジョン・フォッサム兄弟姉妹にお会いした。ふたりはこのように話してくれた。「私たちが今一番必要としているのは、訓練された指導者です。教会の責任を何年も経験してきた夫婦は文字通り奇跡を行なうことができます。今なお、支部の指導者を訓練する組織を持たない支部が方々に22カ所もあります。新会員が増え、急速に進歩している中で、経験ある指導者が不足しているのです。」

フォッサム夫婦はさらにこう続けた。「伝道に出て、多くの祝福が与えられました。その

祝福は自発的に奉仕する時にいつでも主から注がれるものです。ベッドや揺り椅子の上で息をひきとる老人がいますが、私たちはそうしなくなかったんです。主は私たちが伝道に出たいと願っていることを御存じでした。ですから私たちは召しを受けたのです。夫婦の中には、家族がそばにいないと生きていけないと思っている人や、体のことを心配している人もいます。私たちはステーキ部長から任命を受けた時、主が家族を見守って下さることと、伝道が終わるまで健康が保たれることを約束されました。私たちの年齢では宣教師のスケジュールに従うのは困難なはずですが、けれども実際にはできるのです。これは伝道の報いだと思います。」

それからフォッサム兄弟はこのように語っている。「50年前、私はハワイで伝道し、ハワイ語を勉強しました。当時それは大変なことでした。今度もこの年で宣教師訓練センターでスペイン語を勉強しましたが、とても大変でした。しかし私たちは勉強しました。本当に素晴らしい勉強の経験になりました。霊的な宝を貯えるためなら、それ位努力しても価値があります。」

フォッサム姉妹はこう語っている。「普通のおばあさんには26人もの孫と遠く離れ暮らすのはとてもつらいことですが、私は大丈夫です。時々とても会いたくることがありますが、なんとか頑張れそうです。」

この献身的な夫婦は次のような言葉で話を結んでいる。「年輩の人々にとって伝道の業は豊かな報いの多い経験です。隠居してただ生きているだけでなく、余生を有意義に過ごしたいと思う人々にとっては特にそうです。」

現在私たちは、「主のために何ができるでしょうか」と進んで尋ね、黄金の年月の一部を喜んでこの大切な奉仕の業に使いたいと思っているフォッサム夫婦のような夫婦を、もっともっと多く必要としている。

教会の初期の時代に、聖徒たちは主のみ業を行なうために犠牲を払い、最善を尽くさな

ければならなかった。1831年、家族を残してミズーリ州に行くように命じられた兄弟たちに、次のような主の勧告が与えられている。

「この故に善を為すにうむことなかれ。これ汝ら今偉大なる一事業の基礎を置きつつあればなり。それ、小なる事より偉大なる事起る。

見よ。主は真心と喜びて事に従う精神とを求む。喜びて従順に従う者たちは、この末の世に於てシオンの地の善きものを食わん。」
(教義と聖約64：33—34)

年輩の夫婦に申し上げたい。計画をするのに退職記念晩餐会や記念の金時計を手にするまで待つ必要はない。今始めていただきたい。人生の中で最も報いある経験となるもののために備えていただきたい。知識を増し、外国語を勉強して視野を広めることを今すぐに始めてみてはいかがだろうか。

スペイン語でもドイツ語でもよい。キンボール大管長は中国官語の勉強を奨励しておられる。

妻のルビーは、50年のブランクがありながら再び大学へ戻り、今スペイン語を学んでいる。勉強は大変だろうか。確かに大変である。何時間も勉強しなければならないだろうか。そう、何時間も必要である。だれが食事の仕度をするのだろうか。時々私がしている。報いがあるだろうか。アルゼンチンやメキシコの会員に通じたという彼女の謙遜な証をきいて、私は妻を非常に誇らしく思う。

私たちはこの最後の神権時代に主のみ業がとどまることなく広まるのを目にしている。何百万もの人々が生活を改めたいという願いをもって待っている。キンボール大管長はもっと多くの年輩の経験ある夫婦を求めている。そのような人々は至る所で必要とされている。特に外国へ行ける家族持ちの経験ある会員が求められている。すべてを捧げて主のみ業に従事する時、あなたは靈的に生まれ変わることができる。祈りは心に深みを与え、聖典は熟考を促し、理解力を増す。そして聖霊は心に明るい光をもたらすことだろう。その結果、

人を愛するあなたの気持ちが増し、家で待つ家族には祝福が注がれる。そして、彼らはあなたの自己を捨てた主への奉仕の業を誇りに思うことだろう。

モルモン経の予言者モロナイは、新たにバプテスマを受けた人々に特に注意を払う必要のあることをこのように述べている。

「人々はバプテスマを施され、聖霊の力で清められてから、キリストの教会の会員の中に数えられ、その名を書き留められた。それはこの人々を忘れてなおざりにせず、神の善い教えでこの人々を養いたえず善い道をふませ、たえず慎んで祈ることをつとめさせ……るためである。」(モロナイ6：4)

世界各地に、モロナイが言っているように、愛と関心と励ましを与え、たえず善い道をふませるようにしなければならぬ改宗者がいる。しかし、援助を与えることのできる経験ある夫婦はたいていそこに住んでいない。私たちは訓練や励まし、中でも特に愛ある関心を示すことのできる経験豊かな教会員の助けを必要としている。

そのような愛と献身によって何が可能となるかを示すために、ここで再びフォッサム夫妻の言葉を紹介しよう。彼らはこう言っている。「日曜日には私たちは朝4時に起きて、朝早くバスに乗り、支部のひとつを訪問しました。神権会の間、フォッサム姉妹は姉妹たちに音楽のレッスンをしました。彼女が音楽の指揮の基本を教えていた姉妹たちの中に、リズム感のよい13歳の女の子がいました。その女の子は今聖餐会の指揮をしています。また今ではその支部に聖歌隊の指揮者がいます。」フォッサム兄弟はこう言っている。「私は何か手助けができればと、その支部の支部長会の集会に出席させてもらいました。数カ月前まで、この支部ではホームティーチングや訪問教師の訪問は単なる手引き上の知識でしかありませんでした。それが現在では、9組のホームティーチャーがいます。また訪問教師による訪問も間もなく始まろうとしています。

けれどもこれらは表面上の報いにすぎません。もっと大きな報いは、私たちの捧げる奉仕と、謙遜な新会員への愛によって得られるのです。つまり、彼らの生活に従来にない良い変化が生じて、私たちも豊かにされるのです。」

きょう私たちは、「規則に規則を加え、誠命にいましめを加え」（教義と聖約98：12）で備えておられる皆さんに、世に出て行くようにと申し上げたい。手をすきにかけていただきたい。（ルカ9：62参照）皆さんの愛と信仰で新しい会員に祝福をもたらしていただきたい。たえず正しい道をふませ、祈りの気持ちをもって信仰の主キリストに頼るよう教えていただきたい。救い主は魚でいっぱいになっている網を指さしてペテロに教えられなかっただろうか。ペテロを通して私たちに示されなかっただろうか。

『あなたはこの人たちが愛する以上に、私を愛するか』。ペテロは言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがお存じです』。イエスは彼に『わたしの小羊を養いなさい』と言われた。

またもう一度彼に言われた、『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか』。彼はイエスに言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがお存じです』。イエスは彼に言われた、『わたしの羊を飼いなさい』。

イエスは三度目に言われた、『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか』。ペテロは『わたしを愛するか』とイエスが三度も言われたので心をいためてイエスに言った、『主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています』。イエスは彼に言われた、『わたしの羊を養いなさい』。（ヨハネ21：15—17）

キリストの教会に属する私たちに、「わたしの羊」すなわちキリストに従う者、キリストの福音を受け入れた者を養う義務があることは明白である。彼らはキリストのものである。キリストはそれらの人々が御自分にとって大切であると言っておられないだろうか。皆さ

んは彼らよりも強く、信仰堅固である。新しい会員と親しくなっていきたい。「わたしの小羊を養いなさい」と主は私たちに言うておられる。

十分に準備のできている多くの教会員が、さらに祝福を得るために、世の事をさておいて羊飼いとなり、奉仕の業に献身して下さるようにと願っている。これらのことを主イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



大会訪問者

ペテロは外に出て激しく泣いた

ペテロのように主を否みながら、またペテロのようにそれを乗り越えて立派な擁護者となる人が大勢いる



十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー

二の靈感に満ちた午前部の大会も終わりに近づいた今、ここでしばらくの間、エルサレムで最後の晩餐が行なわれた後のあの恐ろしい一夜に思いを巡らしていただきたいと思う。イエスと弟子たちは町を出ると、オリブ山へ向かった。恐ろしい試練が間近に迫っていることを知っておられたイエスは、愛する弟子たちにこう言われた。「今夜、あなたがたは皆わたしにたまずくであろう。(つまり、私を見捨てるであろう)。

するとペテロはイエスに答えて言った、『たとい、みんなの者があなたにたまずいても、わたしは決してたまずきません』。

イエスは言われた、『よくあなたに言うておく。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう』。

ペテロは言った、『たといあなたと一緒に死なねばならなくなっても、あなたを知らないなどとは、決して申しません』。(マタイ26:31, 33-36)

その後間もなく、主はゲッセマネの園で非常な苦悶を受け、さらに弟子のひとりに裏切られたのであった。行列がカヤパの邸宅に向

かって行った時、「ペテロは遠くからイエスについて、大祭司の中庭まで行き、そのなりゆきを見とどけるために、中にはいつて下役どもと一緒にすわっていた。」(マタイ26:58)

イエスを笑い者にする裁判が進み、告発者たちはイエスの顔につばきをかけ、こぶしで打ち、手のひらで叩いていた。するとひとりの女がペテロを見て言った。「あなたもあのガリラヤ人イエスと一緒にだった。」

「するとペテロは、みんなの前でそれを打ち消して言った、『あなたが何を言っているのか、わからない』。

そう言って入口の方に出て行くと、ほかの女中が彼を見て、そこにいる人々にむかって、『この人はナザレ人イエスと一緒にだった』と言った。

そこで彼は再びそれを打ち消して、『そんな人は知らない』と誓って言った。

しばらくして、そこに立っていた人々が近寄ってきて、ペテロに言った、『確かにあなたも彼らの仲間だ。言葉づかいであなたのことがわかる』。

彼は『その人のことは何も知らない』と言って、激しく誓いはじめた。するとすぐ鶏が鳴いた。

ペテロは『鶏が鳴く前に、三度わたしを知らないと言うであろう』と言われたイエスの言葉を思い出し、外に出て激しく泣いた。」

(マタイ26:69-75)

この言葉には何という悲哀が込められていることか。忠誠と決意を誓い、決して主を否定しないと約束したペテロが、人を恐れ、肉の弱さに負け、非難の圧力に屈してもろくも崩れたのである。そして自分の弱さと誤りを知ったペテロは「外に出て、激しく泣いた」

のだった。

私はこの出来事を読んでペテロに心から同情した。ペテロのような人間は私たちの中に大勢いる。忠誠を誓い、勇気を失わないと決意し、どのようなことが起ころうと自分は正しいことを行ない、大義を守り、自己と他人に誠実を尽くすと時には公衆の面前で宣言する。

しかし、そんな彼に圧力が加わってくる。それが時に応じて、社会的な圧力であったり、個人的な欲望であったりする。また誤った野心であることもある。意志の弱さ、自制力の欠如から誘惑に屈して、後悔と自責の念と悔恨の苦い涙を味わうこともある。

私たちがほとんど毎日のように目撃するひとつの大きな悲劇は、高い目標を掲げているが、低い実績で終わってしまうことである。彼らの動機は高邁で、いつも素晴らしい抱負を語ってくれる。能力もすぐれている。しかし自制心が弱い。怠惰に負け、欲望に屈してしまう。

私の知人の中にもそのような人がいた。彼は教会員ではなかったが、一流の大学を卒業し、前途は洋々たるものであった。立派な教育を受け、仕事にも恵まれていたこの青年は、大きな夢を抱き、それに向かって一心に突き進んだ。勤め始めた会社で、彼は階段をかけるのぼるように出世し、あっという間に会社のトップにおどり出た。しかしそのために何かと酒を飲むことが多くなった。そして他の人と同じように、彼も自分を制御できなくなった。結局アルコール中毒となり、抑えることのできない欲望のとりこになってしまった。助けを求めながら、プライドが邪魔をしてなかなか自分を変えることができなかった。

そして、流星のように暗闇の中に消えてしまったのである。私はあちこちの友人に問い合わせ、ようやく彼の悲しい結末を知った。高い目標と優れた才能を持っていた彼は、大都會の片隅で一人さびしく一生を終えたのである。ペテロのように、彼もまた自己の可能性

を最大限に伸ばす能力と力が自分にあることを知っていた。しかし彼はその能力を自ら否定してしまった。そして失敗の影が彼の周囲にしのび寄ってきた時、彼もまた、ペテロと同じように、外に出て激しく泣いたに違いない。

また私には、英国諸島で伝道していた時に、教会員になった友人がいる。彼には当時喫煙の習慣があった。そこで彼は、教会員になろうとした時、タバコをやめられるように祈った。主はその祈りに応えて、彼にその習慣を断ち切る力を与えて下さった。彼は神を仰ぎみて、いまだかつてなかったような喜びの生活を送ることができた。しかし問題が生じた。家族と社会から圧力が加かったのである。その結果、ついに彼は自分の標準を下げ、欲望に屈するようになった。タバコの煙が彼を誘惑した。それから何年かして、私は彼に会った。ふたりで古き良き時代のことを語り合った。そして彼もまたペテロと同じように激しく泣いた。彼はあれが悪いのだ、これが悪いのだと責任を転嫁していたが、その時私の頭の中にキャッシュスの言葉が浮んできた。

「ねえ、ブルーナス、僕らがうだつの上らないのはね、なにも運勢が悪いんじゃない、僕ら自身が悪いんだ。」（「ジュリアス・シーザー」第1幕第2場、中野好夫訳）

高邁な理想を掲げて始めたのはよいが結局しりすぼみになってゆく人、元氣一杯にスタートしたのはよいがへとへとに疲れて帰ってくる人、こういう人はたくさんいる。大勢の人々が、人生におけるゲームで一壘や二壘、あるいは三壘までたどり着くことができる。しかし、どうしても本壘まで帰ってくることができないでいる。彼らは寛大な心を否定し、自分の財産にしがみつぎ、生活は自己中心的で殺伐としており、才能や信仰を他人と分かち合うこともなく、ただ自分だけで生きようとする傾向がある。主はそのような人々について、こう言っておられる。「而して主の来りたもう日、また審きの日、また主の怒りの日

に汝らは歎き悲しみて言わん。あゝ、刈り入れは終り夏はすでに過ぎ去りぬ、われは救われず、と。」(教義と聖約56:16)

しかし私はもっと具体的に、ペテロのように主を愛し、主のみ業を愛していると公言しながら、口に出して言おうが言うまいが、とにかく主を否定する人々について一言申し上げたいと思う。

かつて信仰も篤く、献身的に主のみ業に励んでいたひとりの青年がいた。彼は感じやすい年頃の私を導いてくれた友であった。彼の生き方、熱心な奉仕は、主と教会のみ業を彼がどれほど愛していたかをよく物語っていた。ところが、彼の能力をあてこんで自分たちの勢力を伸展させようとする仲間の甘言にのせられ、次第に教会を離れていった。自分の信仰や行ないの中に仲間を導くのではなく、逆に誘いにのって正反対の方向に行ってしまったのである。

別に自分の持っていた信仰を汚す発言をしたわけではない。そんなことは必要なかった。彼の生活態度の変わりようを見れば、信仰を捨てたことは明らかであった。それから数年して私たちは再会した。彼は迷いからさめたように語った。かつて宝のように大切にしてきた信仰の錨を断ち切った後の流浪の生活を、低い声で、しかも伏し目がちに話してくれた。そして話し終えると、彼はあのペテロのように男泣きに泣いたのである。

先日ある友人と話をしている、ひとりの神権者のことが話題にのぼった。彼は仕事の面でかなりの成功を収めている人である。「ところで、彼は教会ではいかがですか」と私が尋ねると、友人からこういう返事が返ってきた。「心の中では教会が真実だとわかっているようですが、それを恐れる気持ちがあるんですね。教会員として教会の標準を守るようになると、今の同僚たちから相手にされなくなりはないかと心配しているんです。」

その時、私はこう思った。「彼は年取るまで気づかないかもしれないが、いずれ静かに自

分を振り返った時に、自分が持っていた長子の特権を1杯のあつものと交換したこと(創世25:34参照)を知って、自分で確かに知っていることを否定したペテロのように後悔の涙を流すことだろう。」それは自分自身主を拒んだだけでなく、子供たちの前で主を拒んだことにもなるからである。彼のお陰で子供たちも大切な信仰なしに育つことになったのである。」

主は自らこう言われた。「邪悪で罪深いこの時代にあって、わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、父の栄光のうちに聖なる御使たちと共に来るときに、その者を恥じるであろう。」(マルコ8:38)

さて、最後にもう一度、主を否定して泣いたペテロのことを考えてみたい。ペテロは自分の誤りを認め、自分の弱さを悔いて、心をいれかえ、復活された主を証する力強い代弁者となった。そして、前任使徒として、生ける神の御子イエス・キリストの使命と、死と復活を証することに余生を捧げた。ペンテコステの日に、彼が力強い説教を述べた時、群衆は聖霊の力によって心を動かされた。ペテロはまた救い主から受けた神権の権能によって、ヨハネと共に足なえを癒した。しかもその奇跡がもとで彼らに迫害が及ぶようになった。しかし彼は議会に引き出された時も、兄弟たちの前で臆せず証を述べた。また、異邦人に福音を宣べ伝えるようにという示現を受けたのもペテロであった。(使徒2-4,10章参照)

ペテロは、自分を人間をすなだる漁師に召して下さった主の証人として、鎖につながれ、牢獄に入れられ、そして恐ろしい殉教の道をたどっていった。(マタイ4:19参照)こうして復活された主が11人の使徒たちに命じられた最後の教えを忠実に最後まで守り通したのである。「あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し」(マタイ28:19)なさい。またこの神権時代には、ヤコブ、ヨ

ハネと共にこの地上を訪れて、聖なる神権を回復し、この末日にイエス・キリストの教会を組織して、今もその組織を動かす神聖な権能を与えて下さったのは、ほかならぬペテロである。これらの大なる働きと、そのほかにも数々の貢献をなしたペテロも、一度は主を否定し、悲しみに暮れた。しかしその悔恨から立ち上がると、救い主が昇天された後のみ業を推し進め、さらにはこの神権時代へのみ業の回復に寄与することとなったのである。

さて、もし私のこの話を聞いている方々の中に、言葉や行ないで信仰を拒んだ方がおられるならば、イエスと寝食を共にしながら、主とさらに自分の証をも否定したペテロの例から慰めを得て、新たな決意をして下さるように祈る次第である。ペテロは、その悲しみの状態から立ち上がり、立派な擁護者、力強い支持者となった。同じように皆さんも自分を変え、力と信仰を増し、他の人々と協力して神の王国を築くことができるのである。

きょうこの会場に集っている人々の中に、教会を愛して育ったひとりの男性がいる。彼はかつて仕事に熱中し大きな野心を抱き、そのために信仰を拒み始めたことがあった。生活もほとんど信仰とは無縁のものとなり始めた時、幸いなことに、深みにはまる前に彼は静かな細い声のささやきを聞くことができた。そして後悔の念に駆られた。そして今ではシオンのステーキ部の部長として人々の前に立ち、さらには国内だけでなく世界でも有数の工業会社の役員を務めておられる。

同じように迷いを持っている愛する兄弟姉妹の皆さん、教会はあなたを必要としている。あなたもまた教会が必要なはずである。教会には温かい心を持って耳を傾ける人が大勢いる。皆さんを引き戻してくれる大勢の援助の手がある。あなたの心を温めてくれる人がいるであろう。そこにある涙は苦しみの涙ではなく、喜びの涙である。

願わくは、みたまの力によって主が皆さんの心を動かし、皆さんの希望を増して下さり、

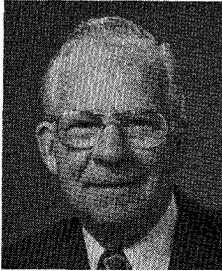
皆さんが確固たる決心をすることができるように。そして心の中で真実だと感じているものに立ち返ることによって得られる喜びと、平安と満足を十分に享受することができるように心から祈っている。この証のすべてを私たちが仕えるイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



大会訪問者

進歩を阻む障害

受けた苦痛をいつまでもくよくよと考えること、悲しみに負けてしまうこと、過ちや恐れに縛られること、これらは進歩を阻む障害である



十二使徒評議員会会員
マービン・J・アシュトン

数週間前、3人の幼い子供たちを抱えて夫に先立たれた不幸な母親が、もう教会には来たくないと語っていた。「どうして行く必要があるんですか。4カ月以上も同じアパートに住んでいるのに、だれひとりとして声をかけに来てくれないんですよ。」

そこで私は彼女に、「それでは、私からそのことをお伝えしておきましょう」と言う代わりに、「あなたは引っ越して来られてから何軒の家に挨拶に回りましたか」と尋ねてみた。彼女は私の言葉にいきさか驚いた様子であった。

大勢の人がだれか自分を捜し出して助けてくれないかとじっと待ち、自分の進歩に壁を設けて、みすみす不幸を招いているようである。きょうの消極的な態度は、明日の停滞と悲惨を招く。豊かな人生を求めて熱心に努力して然るべき人々が、受けた痛手にこだわっていつまでもくよくよしている。私たちはみな神の子である。神を愛しているならば、自分の状態の善し悪しにかわりなく、どこにしようとも神の羊を養うはずである。私たちは何かに飢えを感じ、現在の群れに完全な

満足を覚えていない時の方が、かえって他の人々をよく養えることが多い。飢えと寒さに見舞われている人が、同じような経験をしてきた人から救われることがよくある。心身共に疲れ果て、弱っていても、状況が好転するのをただ黙って待っててはならない。むしろ、自分の力を行動や奉仕に向け、他人を引き上げるために用いる時、癒しの力が生じてくるのである。

合衆国の教育者、ブッカー・T・ワシントンは次のような名言を残している。「成功は、人が人生で到達し得た地位ではなく、成功をめざして克服してきた障害によってこそ測られる。」(*The International Dictionary of Thoughts* 「国際思想辞典」ジョン・P・ブラッドレー他編, p.698) 人生の勝利は、その道に横たわる障害物に立ち向かい、それを排除する能力から生まれる。私たちは自分自身の山を登りながら成長するのである。

トーマス・カーライルはこう述べている。「天上の最高の輝きを持つ王冠は、艱難の妒を通して試され、磨かれ、精錬されて美しくなる。」(*Vital Quotations* 「金言集」エマーソン・ロイ・ウェスト編, p.312)

ここで、個人の進歩と教会活動に対して障害となる4つの要因について考えてみたいと思う。(1)受けた苦痛のことをいつまでもくよくよと考える。(2)不幸や悲しみに負けてしまう。(3)良くない習慣や過ちに縛られる。(4)恐れが先に立って進歩を妨げる。

そこで、永遠の進歩を妨げるこれらの敵についてよく調べ、それを断ち切る勇気がどうすれば得られるかを皆さんと共に考えてみたい。

受けた苦痛のことをいつまでもくよくよと考える

私たちは毎日、神の助けを得て、他人の不注意な言葉によって自分の行く末や一日を左右されることのないように決心しなければならない。思いやりのない言葉によって心が傷つき、そのために有用な人生までも無にしてしまう例を時として見かけるが、それは実に悲しいことである。的確に素早く対処せずにかえって傷口を広げ、化膿させてしまっている。人生のレースを放棄することで相手に仕返しをしようとする人もいる。「あの人がいる限り、戻りたくない」という言葉を時々、耳にするが、これほどいじけた、有害なそして束縛的な言葉はない。時折、自分が傷つけられ、無視されるのを、傍観者のように見ている人がいる。他人から軽率な言葉をかけられるのを予期して聞き耳をたてたり、声をかけられる当てもないのに人から声をかけられるのを心待ちにしたり、また何か言われた時にまったく見当違いの解釈をしたりする人々もいる。

優秀なバスケットボールの選手のひとりに、一番の成功の秘訣は何かと尋ねた時、彼はこう答えた。「どんなに苦しくてもとにかく練習したことです。けがをしても、転倒しても、決して練習を少なくしたり止めたりはしませんでした。」

偉大な教師であり、そして指導者である御方は、このような冷酷な言葉や残酷な仕打ちを受けた時に、どう振る舞えばよいかその模範を世の人々に示しておられる。主はただこう言われた。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ23:34)

イエスはこの地上での務めを果たしている間、たとえそれが人々を傷つけ、不満のもととなるものであっても、遭遇したことはすべて有益な経験とされた。決して反対することもなく、またそれを恥じることもなかった。常に堅忍と忍耐を持ち、しかも雄々しく振る舞い、自分の御父の仕事を行なうのをためら

われたことは一度もなかった。そして他に類を見ない最大の苦悩と苦痛を味わわれた時にその偉大さを示された。どんなにとげのある言葉も非常な行為も、救い主の目的を阻むことはできなかった。いかなる人も傷つき、苦しみ、苦難を味わわずして人生を味わい尽くせるものではない。

賢い人ならば苦汁の水に端を発する苦痛と憎しみを回避することだろう。明らかに不正による障害物が目の前にあったとしても、彼ならば、立ち止まらずに救い主の道を歩み続けるであろう。狼狽することなく前進するかどうかは私たち次第である。赦すことや忘れることのできない人は、私たちが渡らなければならない橋を自ら壊す人である。私たちは人から無視されている、必要とされていない、ふさわしくないと思い込み、停滞に拍車をかけていることが意外に多い。結局自分で抑えるしかないのである。とすれば、同情も禁物である。一方、傷つけられる暇のない人たちを見ていると何とも爽快な気分になる。大切なのは、自分が何を持っているか、あるいははどう言われているかではなく、自分はどう対処しているかということである。

不幸や悲しみに負けてしまう

私たちはしばしば夫、妻、父、母、そのほか愛する人々を失うことによって人生の岐路に立つことがある。ある人々は、愛に満ち、しかも全知全能の永遠の御父がおられるのに、どうして自分にこのようなことが起こるのかと、良くない思いに捕われることがある。心の痛みに耐えかねて、私たちが苦難の最中にある時でも必ず守ると約束して下さった御方との固い絆を断ち切ってしまうことがある。絶望の瞬間に力と慰めと平安の懐から苦しみ飛び出してしまうこともある。また時には暗やみの中で「どうして神は私や家族をこのような不幸な目にあわせるのだろうか。一体私たちはどのような悪いことをしたのだろうか」といった疑問に心を悩まし、光を見失

うことがある。

ユタ州オーレムに住むルシル・F・ジョンソン姉妹は自分の経験を次のように語ってくれた。「ひとりのとても魅力的な女性がいました。だれもが彼女と親しくしたいと思っていましたし、また実際一緒にいると楽しいのです。彼女は人生や人間を心から愛しているのでしょう。いつも周囲の人を楽しくしてくれますのです。ある日、私は思いきって彼女に尋ねてみました。『あなたはいつも楽しそうにしていますが、どうしてですか。私にその秘訣を教えてください。』すると彼女はこう答えました。

『あるひとつの言葉によって私の生活が変えられましたの。』

『あなたを変えたその言葉は何ですか』と私は尋ねました。

『実は、悪性という言葉なんです』びっくりした私に、彼女はこう説明してくれました。『お医者さんはその言葉を使って、私の命もあとわずかだと言われました。そこで私はみんなをみじめにするか、みんなを幸せにするか、自分で決めなければならぬと思いました。そしてひざまずいて祈った時、たとえ自分は重い病気を背負っていても一日は一日だと気付いたのです。そうするとこれまで考えてもみなかったようなことがわかりました。夫も子供たちも、どのような人も皆、それぞれ信じられないような素晴らしいものを何か持っている。そう考えてみると、たとえ人生が1日であろうが、1年であろうが、それは素晴らしい賜だということがわかったのです。それから私は自分の人生を可能な限り楽しむと思うようになったのです。』

神のみ業がこのように癒しのかたちで表われるか、あるいはそれに立ち向かってゆくかたちで表われるかは、すべてを知り尽くしておられる御方の最終的な知恵に委ねられなければならない。不幸や悲しみにめげず少しずつ前向きに歩む人々の生涯はなんとすがすがしいことであろうか。

一隻の舟が東へ、もう一隻が西へ行く
同じ風を受けて。
進路を決めるのは、
風ではない、
帆の向きである。

人の行く手も
海を吹く風に似て、
人生の航海で
その目的を決めるのは、
なぎでもなければ、嵐でもない、
心の持ち方である。

(エラ・ウィーラー・ウィルコックス "The winds of Fate" Masterpieces of Religious Verse 『運命の風』「宗教詩傑作集」ジェームズ・ダルトン・モリソン編, p. 314)

良くない習慣や過ちに縛られる。

つい数カ月前に目的のある生活をし、教会活動に活発に参加する力強い歩みを始めたばかりの私の友人が、次のように語った。「長年の経験から申し上げますが、不活発で消極的な本当の理由を解明し、自分を変えていくよりも、人を非難し、社会の既成秩序を攻撃する方がはるかに容易です。」

自分を変えることはなかなか容易ではない。私たちの中には、悪い習慣を克服し、誤りを正そうとせずに、むしろ不活発であることの言い訳をしようとする人がいる。しかし、あるものをあきらめてさらに多くのものを得ようとするところに私たちの進歩があるのである。自分自身に正直であり、実現可能な望ましい目標を毎日定めるようにすれば、おのずと私たちの進むべき道は決まってくる。目標を書き出し、それぞれの価値を考えてみる。そして毎日少しずつ現状を変える。代価を払ってゆけばよい。そうすれば一時に途方もない代価を支払う必要はないであろう。

主は、完全な悔い改めの過程を経た者のその罪を忘れると約束しておられる。主がその

ように約束しておられるのに、なぜ私たちが
そうしないのであろうか。過ちは赦される。
習慣は変えられる。進歩を阻む障害は必ず取
り除くことができるのである。

逆に良くない習慣に安住し、より良い自己
管理ができる人間へと歩み出そうとしない人
を見ると、何とも悲しくなってくる。

ウイリアム・ジェームズはこう言っている。
「関心を持つことが行動を決定する。」真に悔
い改めた人は過ちから学び、過ちから離れ、
進歩成長をもたらす行為に目を転じる。私た
ちが自分を神に委ねることができるならば、
神は私たちの手を取って、私たちをさらに高
い標準へ引き上げて下さる。これほど大きな
慰めはない。自分の生活の過ちに気づき、代
価を払って主の道に立ち返ることは、個人に
とって素晴らしい勝利である。

恐れが先に立って進歩を妨げる。

私たちの永遠の進歩を妨げるもうひとつの
障害物は、恐れである。私たちは失敗や拒絶
を恐れて、意義あることを試みようとしな
いことがある。また、過ちを恐れて、教会や社会
における奉仕の機会を受け入れようとしない。

「神がわたしたちに下さったのは、臆する
霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。」

(Ⅱテモテ1：7) 私たちが日々の生活の中
で試みることを恐れ、決定することを恐れ、
主を信頼することを恐れ、あるいは誤った判
断をすることを恐れるとしたら、それは私た
ちにとって悲劇以外の何ものでもない。ペテ
ロが恐れを抱き、歩くのを止めて沈みかけた
時、救い主が何と言われたか覚えておられ
ると思う。

「ところが舟は、もうすでに陸から数丁も
離れており、逆風が吹いていたために、波に
悩まされていた。

イエスは夜明けの四時ごろ、海の上を歩い
て彼らの方へ行かれた。

弟子たちは、イエスが海の上を歩いておら
れるのを見て、幽霊だと言っておどろき、恐

怖のあまり叫び声をあげた。

しかし、イエスはすぐに彼らに声をかけて、
『しっかりするのだ、わたしである。恐れる
ことはない』と言われた。

するとペテロが答えて言った、『主よ、あな
たでしたか。では、わたしに命じて、水の上
を渡ってみもとに行かせてください』

イエスは、『おいでなさい』と言われたので、
ペテロは舟からおり、水の上を歩いてイエス
のところへ行行った。

しかし、風を見て恐しくなり、そしておぼ
れかけたので、彼は叫んで、『主よ、お助けく
ださい』と言った。

イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかまえ
て言われた、『信仰の薄い者よ、なぜ疑ったの
か』。(マタイ14：24—31)

信仰を持ち、目的を持って前進すれば、人
生の恐れは克服できる。

最後にもう一度申し上げておきたい。受け
た痛手をいつまでもくよくよしていることは
ちゅうちょして前進しようとする人の言い
訳に過ぎない。不幸や悲しみに負けてしま
うと、進歩が妨げられ、障害を克服する機会をも
逃してしまふ。良くない習慣や間違った行為に
縛られると、自ら自分の失敗の犠牲者となっ
てしまうことがある。恐れで進歩が妨げられ
るのは、失敗を恐れて試すことをしないから
である。永遠の進歩を阻む障害物は、だれも
ひとりで歩む必要はないとはっきり知った時
に、捨て去ることができる。神の助けがあれば
できないことはないと言った時に、幸福の
第一歩が始まるのである。

私たちがそのような幸福な日々をめざして
努力し、それを知ることができるように、心
から祈っている。神は確かに生きておられる。
私たちの祈りを聞いて答えて下さる。私はそ
のことを証申し上げる。イエス・キリストの
み名により、アーメン。

みたまは生命を与える

戒めは私たちを霊的に整え、神と共に住めるようにする律法である。そのため私たちは戒めを守るのである



七十人第一定員会会員
ローレン・C・ダン

末 日聖徒イエス・キリスト教会の特徴は、みたまの勧めと導きによって救い主がこの教会を治めておられることである。

教会の責任に召されている人々は、本来の能力を補い、あるいは能力以上のことをするために、よく祈り、みたまの靈感を求め。そして、教会がこの地上に存在する時はいつでも、導き手であるみたまの顕われがある。これは、指導者自身の過去の経歴を問わず、必ず目にするのである。

その典型的な例が、新約時代の偉大な予言者パウロと、教会の第2代大管長ブリガム・ヤングである。パウロはパリサイ人で、ガマリエルの弟子であった。また、ユダヤ参議院（サンヒドリン）の議員でもあった。もしある人がパウロの仕事を知識や学問を結集したものであると考えるならば、それも確かであろう。しかしパウロは改宗後、このような考え方をはっきりと区別している。そしてコリント人への手紙の中でこう述べた。

「ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜わった恵みを悟るため

である。

この賜について語るにも、わたしたちは人間の知識が教える言葉を用いないで、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである。」（Iコリント2：12-13）

一方、ブリガム・ヤングは分別があり、しかも徹底した実務家であった。彼は工芸職人であったが、予言者ジョセフ・スミス^{ジョセフ・スミス}の死後、教会の第2代大管長となった。彼は聖徒たちを道なき荒野へ導き、飢えから守り、砂漠に花を咲かせて新しい生活を築いた。（イザヤ35：1参照）宗教生活と神への奉仕における実務面の大切さを認めながらも、この予言者は、次のように語っている。

「目、耳、手など五感^{ごかん}は欺くことができる。しかし、神のみたまを欺くことはできない。みたまに靈感されると、全身は知識に満たされ、霊の眼で物を見、人の力では論駁^{ろんぱく}することのできないことを知るようになる。」（*Journal of Discourses*「説教集」16：46）

これらふたりの偉大な予言者の生涯からわかるように、言葉以上に、みたまからもたらされる力と強さを見いだすことが必要である。

私たちがみたまについて語る時、それは聖霊の賜のことを指している。キリストの光は世に来るすべての人を照らす^{あきらかにする}が、聖霊のみたまはそれよりさらに大きなものである。聖霊は神会の第3番目の御方であり、霊の御方である。聖霊は御自分のことは語らず、ただ万人にイエスがキリストであり、神の御子であることを証し、人に主のみ旨とみこころを伝える。（ヨハネ16：13-15参照）聖霊は人の身と霊を清める力を持ち、またみたまの賜の源でもある。エペソ書にあるように、主はひとつ、信仰はひとつ、バプテスマはひとつであ

るが(エペソ4:5参照)この聖霊の賜もひとつの方法でしか与えられない。バプテスマも聖霊の賜も、正しい権威があって初めて受けることができるものである。そのことは、パウロがエペソへ旅をした時にはっきりと示している。つまり、パウロはバプテスマを受けた人にもう一度バプテスマを施し、聖霊を授けている。(使徒19章参照)

聖霊のみたまは、この福音がイエス・キリストの福音であることを人に証するが、聖霊の賜はバプテスマを受けて教会に入ってからでないと授けられない。ただし、真理を求めて心から祈る人は、平安と確信を得ることによってそれがわかる。聖典にはこう記されている。

「然り、見よ、われ今汝に來りて汝の心の中に留るべき聖霊によりて汝の智と情に告げんとす。」(教義と聖約8:2)「これによりて汝にその正しきを感じしむ。」(教義と聖約9:8)

ある人々は、私たちがやがて受ける最後の裁きと報いは、どれだけ多くの律法と戒めを守ったか、またどれだけ多くの律法と戒めを守らなかったかによると考えている。ある意味でそれは正しい。しかし、それだけでは戒めを守ることもっと大きな靈的な目的が失われている。私は若い頃、バスケットボールに熱中していた。寝ても覚めてもそのことばかりで、時間があれば練習をした。すると次第に、頭で考えなくても動きが取れるようになってきて、体も気持ちも反射的に動けるようになった。練習を重ねた結果、それがすっかり自分の身についたのである。

これと同じように、私たちは靈的な状態を整えるために福音の教えや戒めを守っている。問題はどれだけ多くの律法を守っているかではない。私たちが戒めを守るのは、それがみたまを支配する法則だからである。みたまは私たちを清め、私たちの靈的な状態を整えて、やがて私たちが神の住む王国に行けるようにして下さるのである。聖典には次

のように記されている。「わが汝らに与えたる律法、すなわちキリストの律法によりて聖められざる者たちは別の王国……をつがざるべからず。」(教義と聖約88:21)みたまを支配する律法はまさしく教会を治める律法でもある。また、予言者をはじめ、他の管理の職に召されている人々を喜んで支持する者には、あふれんばかりのみたまが注がれるのである。

確かに、みたまは私たちの生活に活力を与えることができるし、また私たちも生活の活力を得るようにしなければならない。そして私たちはみたまに関するはっきりとした証を持たなければならない。私たちは、キリストの律法と戒めを守るすべての人に約束されているみたまの賜には、いろいろなものがあることを心に留めるべきである。

私たちは戒めを守り、信仰の祈りによってみたまを求めなければならない。ふさわしい状態で聖餐にあずかることもそのひとつである。そうすれば「御子の『みたま』」を受けることができる。(教義と聖約20:79参照)

かつて、モーサヤの息子たちはレーマン人への伝道の準備のために断食と祈りをして、主のみたまが少しでも自分たちの上に注がれるように願った。その祈りの答えがこう記されている。「それで主は『みたま』をかれらに与え、安心せよと言いたもうたのでかれらはそれで心が安らくなった。」(アルマ17:10)主がみたまによってあなたに同様の経験を与えて下さるならば、あなたはどんなに大きな安らぎを感じることであろうか。

予言者アルマはこう言っている。「わが教会の兄弟諸君よ。私はあなたたちに聞くが、あなたたちは今日霊によって生れ神の子になっているか。あなたたちは神の御姿を自分の身に受けているか。あなたたちは今言ったような大きな改心をすでに感じているか。」(アルマ5:14)

アルマは、教会員は聖霊の賜を授かっているだけでなく、大いなるみたまの清めの力をも受けているとはっきりと述べている。霊に

よって生まれ、新たに生まれ変わる時に、それがどういふことかわかるとアルマは述べている。アルマは、心の持ち方や気持ちが良い方に変わり、外見がキリストの姿に似はじめると言った。

この聖霊の賜は何と頼もしく力強い伴侶であろう。確かに、救い主の教えに立ち返ってその律法を守るすべての人はみたまによって癒される。(Ⅲニーフアイ9:13参照) 彼らはキリストの思いを持ち(Ⅰコリント2:16参照)、神の性質にあずかる者となり(Ⅱペテロ1:4)、キリストの御姿を自分の身に受ける(アルマ5:14参照)ようになるのである。実にこの福音は、パウロの言うように、言葉だけでなく、聖きみたまの清めと人の身と霊を高める力とによって伝えられるのである。(Ⅰテサロニケ1:5参照)

予言者ジョセフ・スミスの死後、ブリガム・ヤングは夢を見た。その夢の中にジョセフ・スミスが現われてこう助言した。「兄弟たちに、聖霊が訪れた時に受け入れることができるように、自分の信仰に対して心を開いておくように伝えなさい。主のみたまはほかの霊とは明らかに異なっている。主のみたまは人々の心に静かな平安と喜びをもたらし、心から悪意と憎悪と争いなどのあらゆる悪を取り去る。そしてすべての願いが善を行ない、義をもたらし、神の王国を築くことへとつながっていく。兄弟たちに、主のみたまに従えば、道を踏みはずすことはない」と教えなさい。人々に、みたまを失うことがないように告げなさい。」(エルデン・J・ワトソン編、*Manuscript History of Brigham Young*「写本ブリガム・ヤング伝」pp. 529-30)

最後に、教義と聖約からひとつ読んでみたい。「故に、汝らの心誠心誠意神に向わんがために、汝ら自ら聖くせよ。さらば、汝ら神を見るの時あらん。そは、神その面を汝らに現わすべければなり。而してそは神の時、神の欲するまま、神の旨によりて起るべし。」(教義と聖約88:68)

このように、みたまの働きの最後は、私たちが救い主であり贖い主であるイエス・キリストに直接まみえることができるようにすることである。

予言者に忠実で、神のみ言葉に祈りをもって従うならば、必ずみたまの力を得ることができる。みたまの影響力は、私たちを清め、霊的に整えて、私たちが主に直接まみえ、人と人とが語るように語り、神の王国すなわち日の光栄の王国に住めるように備えてくれるのである。

聖霊の証、

それを知る人から伝わり、
私を再び高さあなたに近づけた、
魂の父よ。

彼らの証を聞く、
私の心をみたまが満ちし、
闇は去り、義は力を得る。
告げるのは、汚れなき真理。

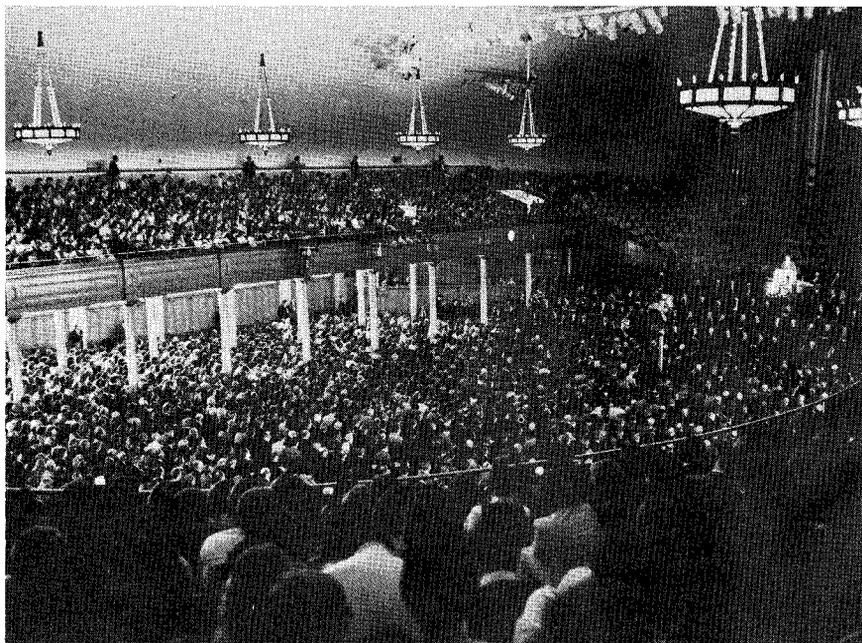
あなたは天におられる。
救い主は治めておられる。
予言者は語る、
私たちの永遠の恵みを願いながら
聖きみたまはすべての疑いを取り去り
人の心を照らす。
万人に言う。「我に立ち返れ、
我が大いなる計画に従え」と。

眼は濡れ、心はあふれ、
みたまは今も語る。
ああ、主よ、私の生活を新たにし、
私の胸に留まりたまえ。

証は心を満ちし、
日々の痛みを和らげる。
一瞬、天国の景観が
眼前に留まる。

私たちが人の世の言葉を越え、この詩の大
いなる精神を理解することができるよう、主

の助けを祈る次第である。イエス・キリストの
み名により申し上げる。アーメン。



大会の光景

愛が必要である

現代人は愛する能力を失っている。イエスが警告されたように、愛が冷やかになることは末日の特徴である



七十人第一定員会会員
セオドア・M・バートン

兄 弟姉妹ならびに、友人の皆さん、大管長会からこの大会で話すように依頼された時、私は「ヨーロッパの人々にとって今一番必要なメッセージは何だろうか」と考えてみた。この大会の様子はヨーロッパでも放送されることになっているので、そのことについてお話ししたいと思います。また、ヨーロッパの人々にとって最も必要なことは、取りも直さず全世界の人々に必要なことである。

ヨーロッパの人々が今最も必要としていることは、まことの愛の原則について学ぶことである。私はきょう、利己心をなくすための愛についてお話ししたいと思います。まことの愛は、世界を包み込んでいるように思われる現代の利己的な考えとはまったく相反する考え方である。利己心は互いの人間関係をゆがめ、家族の絆さえも弱めてしまうからである。

まことの愛の基は無私の心にあるが、現代の世の中では、そのことがよく理解されていないようである。現代人は愛する能力を失っている。イエスは、末日の特徴のひとつは人々の間から愛が次第に失われてゆくことであると警告された。「不法多くなるが故に多くの

人の愛ひややかにならん。」(ジョセフ・スミス1:10。マタイ24:12も参照) 主が述べられたこの不法は、個人の利己心に根ざしていると、私は思う。人々の間に愛が失われていくのもこの理由にほかならない。

またイエスは、末日の不法がはなはだしく増長し、「為し得べくんば、誓約によりて選民たる真の選民をも騙さんとするなり」(ジョセフ・スミス1:22。マタイ24:24も参照)と警告しておられる。私はこの言葉を、主と誓約を交わした、最も忠実な聖徒たちでさえも、現代の思想に脅かされ、あるいは汚染される時が来るという意味に理解している。そのため、主の再臨が早くなければ、いかなる人もこの潮流に押し流されずに立ってられないことだろう。

このような現代社会の利己主義こそ、世の人々の不幸な生活の大きな原因となっているように思われる。それは私たちの毎日の仕事にも見られる。例えば、仕事を紹介された時、その仕事がどれだけ人のためになるか尋ねる人はまれで、まず頭に浮かぶのは、「この仕事は私にとってどれだけ好都合か」という考えである。給料が安すぎる。引越してほかの町に住むなんて私にはできない。旅行はいやだ。机にすわりきりはごめん。勤務時間が長すぎる。また、働き始める前に、「退職金はいくらもらえるだろう」と考える者もいる。難しい仕事をきらい、ただ安定のみを求めて仕事を選ぶという具合である。

まず若人の皆さんに、男女交際をする時の利己的な態度についてお話ししたい。そもそもデートの目的は何であろうか。相手が将来どのような伴侶になるかを互いによく知り合うことではないだろうか。相手の性格や趣味、

才能、能力を知ることではないだろうか。それとも、デートは単に欲望を満足させる機会にすぎないのだろうか。人は皆一度はこの問いに自分で答えなければならない。その確かな道しるべとなるのが、救い主の次のようなみ言葉である。「われ重ねて汝らに告ぐ、汝ら皆己が身の如くに兄弟を思うべし。」(教義と聖約38：25)

交際期間中にこの非利己的な愛を实践することほど、結婚生活にとって必要なものはない。ロマンスだけを求める人は、すぐに現実の結婚生活を見て、それに耐えられなくなってしまふ。ところが本や雑誌ではこのロマンスや物質的な喜びのみが強調されている。広告はそれをアピールし、映画やテレビでも繰り返し放映されている。まさにポルノ文学の宣伝手段以外の何ものでもないのである。人はすっかりそれに慣らされ、個人的な満足を得ることのみを期待する気持ちがふくらんでゆく。このような個人の利己心こそ世界的に離婚が増加している主な原因である。

自分の満足のみを追求する気持ちが強くなってくると、結婚生活に一致がなくなってくる。自分のことしか関心がない夫婦は意志の疎通がうまくいかない。意志の疎通がうまくいかないと、それはまことの愛を養う上で大きな障害となる。そして夫婦の間に意志の疎通がなくなると子供を生むことも後回しにされ、さらに重大な罪である墮胎へと走るようになる。このこともその根底にあるのは利己主義である。レビ記には、子供を鉄でできたモレクの神に捧げた当時の偶像礼拝者のことが記されている。この記事を読むと身震いがする。ところが、現代人は墮胎によって自分の子供を利己的な物質主義という偶像のいけにえとして捧げている。はたして、墮胎につながる利己心を持っていて神の目に背いていないと言えるのだろうか。

ヨーロッパでは、家族数に制限があって、夫婦で子供を2人以上持つと隣人や友人から白い目で見られるという状態がある。ある国

では産児制限と墮胎が当たり前のこととされ、人口が下降線をたどり始めている。その上、多くの主婦が、家や車、カラーテレビ、豪華な旅行のために外に出て働いている。そのような夫婦にとって、子供は不要のお荷物、余計な出費にすぎないのである。

子供がほしくなければ、どうして結婚をするのだろうか。お互いに飢きてきたら相手を変えればいいと思っているのなら、なぜわざわざ結婚の重荷を負うのだろうか。自己満足だけを求めている人に、どうして貞節が必要なのだろうか。人間が自分の快樂と満足しか興味を示さない世にあって、真理の回復が必要だとすれば、それは今をおいてほかにない。

今日、ヨーロッパだけでなく、世界各地で多くの人々が互いに争い合い、敵対している。その様子を見ると、イエスが絶えず愛の必要性を強調されたわけがよくわかる。イエス・キリストの福音は愛の福音である。しかし、特に隣人の争いや家族の中のいがみあいが日常茶飯事のこととなっている現在、このような愛のある生活を営むことは、決して容易ではない。人々はこれまで傷つくことがあまりにも多かったために、他人に対して常に警戒するようになってきた。自分の周囲に堅い壁をめぐらし、なかなか中へ入れようとしない。彼らは愛について学ぶことが必要である。

家庭の不和は妻子の虐待に通じる。これもまた個人のわがままから来る。これは世の中だけでなく、すでに教会の中にも忍び込んでいる。教会の急速な発展に伴い、私たちはますます愛について教えることが急務となっている。そのためにも、教会指導者はホームティーチャーを通じて担当家族を見守るよう勧めなければならない。聖典にはこう記されている。「教会員を守護し、彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす。

また教会員の中に邪曲なきよう、互いの間に頑固なることなきよう、また虚言、蔭口、悪口などもなき様注意すべきものとす。」(教義と聖約20：53—54)。

イエスは純粋な無私の愛から、私たちのために命を捨てられた。イエスがもしも今日の私たちのように利己的であったとしたら、贖罪はなかったであろう。私たちは永遠に神のみ前から絶ち切られて、肉欲と悪徳の真っただ中に取り残されていたことだろう。しかし、イエスは利己的ではなかった。イエスは、すべての人が人生で幸福と大きな喜びを見いだすことができるように道を備えて下さった。しかし、その喜びは無私の愛による主の方法でしかもたらせないのである。

私は今、イエスがなぜあのように論争や争いをしないようにと強調されたのがよくわかる。争いは神ではなく悪魔から来る。現代の予言者が神と交流を持たなければならないわけも、私にはよくわかる。神の子供たちを真理と正義に導こうとする予言者たちの努力がわかる。彼らの言葉は、たとえ人気を博すことがなくても、必要なのである。なぜなら、

これをおいてほかに幸福に通じる道はないからである。教会の内外を問わずすべてのの方々に申し上げたい。今私たちが住んでいるのは末の時代で、愛が冷ややかになっている時代である。これらの警告の声に聞き従わない人は、自ら滅びに備えていることになる。イエス・キリストはやがて力と栄光をもって米臨される。主が来られる時、神を愛し、互いに心と体力と精神と力を尽くして愛し合うことを実践している人々だけが命を救われることだろう。

私は、神が生きておられ、イエスがよみがえられたキリストであることを証する。神は現在も、神より召されて物事の真理を知っている予言者たちを通じて私たちに語っておられる。どうか、彼らの言葉に耳を傾けていただきたい。イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



大会の説教に聴き入る聖徒たち

「私のことじゃないのよ」

悲しいことだが、主が約束された慰めと赦しの祝福が自分に対するものであるということを信じられない人々がいる



七十人第一定員会会長
マリオン・D・ハンクス

きょう、私は感謝の証を述べたいと思う。数日前の夜に開かれた家族の集まりで、きょうは私たちの母親の誕生日だという話が出た。夜、私はこれまでどれほど多くの世代が互いに助け合い、教え合ってきたか考えてみた。そして私たちは互いに愛し合い、感謝し合うべきだと思った。私の甥のひとりが、ある時自分の幼い娘が本を読む時に自分そっくりに人差し指を湿らして絵本をめくっているのを見て、びっくりしたと話していた。実を言えば、その娘は左手の指を湿らして、右手の指でページをめくっていたのである。このことから、私は改めて模範の力の大きさを痛感し、さらに私たちと同様、彼女もまだまだたくさんのことを勉強しなければならないということがよくわかった次第である。

その晩、私は大きくなった愛するふたりの娘を見ていて、昔のひとつの出来事を思い出した。そのことを中心にきょうの話を進めたいと思う。私はその出来事を思い出すたびについ涙っぽくなる。ちょうど、下の娘が生まれたばかりの頃で当然のことながらみんなから可愛がられていた。それまで私は上の娘を

「王女さま」と呼んでいた。しかしよく考えてみると、2番目の娘もその称号を受けてしかるべきである。どうせなら2番目の娘も「王女さま」と呼ぶのがよいだろうと考えた。

そんなある日、私は上の娘に「さあ、王女さま、一緒にママのおつかいに行こうよ」と呼びかけた。しかし娘には聞こえない様子であった。そこで妻が声をかけた。「パパが呼んでいますよ。」

すると、娘は見るからに悲しげな様子で、「でも、私のことじゃないのよ」と答えたのである。私は胸を引き裂かれる思いがした。

私は今でも、娘が自分のことじゃないのよ、と言った時の娘の声と顔の表情をはっきりと覚えている。

神はすべての子供たちを愛しておられ、決して愛することを止めたりなさらない。また私たちに絶えず望みをかけ、手を差し伸べて待っておられる。私もそれを信じる者のひとりである。イザヤ書にはこう記されている。

「それゆえ、主は待っていて、あなたがたに恵みを施される。それゆえ、主は立ちあがって、あなたがたをあわれまれる。」(イザヤ 30:18)

しかし私はこれまで長年世界各地を訪問して、神の立派な子供たちの中にも、主が自分たちに心を掛けておられるということを心から信じるのでできない人々がいることを知った。彼らは、主が慰めと赦しと平安の源であること、また主を求め、扉を叩き、主の愛を受け入れなければならないことを知っていたながら、主の約束された祝福が自分たちのためにあることを窮地の最中であってなかなか信じようとしないのである。ある人々は神と自分の良心に反することをした後で心から

後悔はするが、喜んで自分自身を赦そうとせず、また、神が赦して下さることをなかなか信じようとしないでかえって障害物を設けていることがある。そして時折、心から赦し、心から忘れ、心から喜ぶことをなぜか渋ったりして、それが引き返す時の大きな障害となっていることがある。

主の計画と約束は聖典にはっきりと記されている。この計画の真髄は、今朝ほど合唱団が歌った感動的な歌にも述べられている。その歌詞の告げる聖句は次の通りである。

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。」(ヨハネ 3 : 16—17)

キリストが来られたのは、私たちを救うためであった。そのことをよく理解していたひとりの子言者は、その計画を「贖いの計画」「憐みの計画」「幸福の計画」(アルマ42 : 13, 15, 16)と呼んだ。主は字句にのみ捕われていたパリサイ人たちに、「迷った小羊」、「失くした銀貨」「放蕩息子」などのたとえ話をして、神の子供たちすべてに価値があることを述べ、「罪人がひとりでも悔い改めるなら、……大きいよろこびが、天にあるであろう」と言われた。主はまた、自分の悪行に気づいて戻って来た息子を憐れみ、走り出て迎えた父親の心情を私たちに教えておられる。(ルカ15 : 3—32参照) このような数々の教えの中に、私たちは互いにどう交わるべきか、さらに私たちは主に対してどのような責任があるかといった点で主の愛と期待をよく知ることができる。

パリサイ人シモンの家で、涙で主の足を濡らし、髪の毛で足をぬぐい、それから香油を塗った女のことを思い出していただきたい。(ルカ 7 : 37—39参照) また救い主は、金貸しとふたりの男の話をして、批判的なシモンに教えを説いた。「『ある金貸しに金をかりた

人がふたりいたが、ひとりには五百デナリ、もうひとりには五十デナリを借りていた。

ところが、返すことができなかったので、彼はふたり共ゆるしてやった。このふたりのうちで、どちらが彼を多く愛するだろうか。』

シモンが答えて言った、『多くゆるしてもらったほうだと思います。』イエスが言われた、『あなたの判断は正しい。』(ルカ 7 : 41—43)

それから主はその女のことをこう言われた。「この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない。』

そして女に、『あなたの罪はゆるされた。』と言われた。……

『あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。』(ルカ 7 : 47—48, 50)

当然のことながら、ここでは罪そのものをいささかも認めてはいない。女はすでに改心し、心から悔い改めていたので、これからは主の戒めに従い、赦しを受け入れることだろう。そして、天にも地にも喜びがあることだろう。

モルモン経の予言者アルマのことは、昨日もここで述べられたし、皆さんもよく御存じである。アルマはこの原則を勇氣と類まれな愛情をもって教えた。アルマは彼自身偉大な予言者の息子でありながら、若い数人の仲間と重大な罪を犯していたが、天使の訪れを受けて良い道に立ち返った。こうして悔い改めて生まれ変わったアルマは、主のために働く力強い指導者となったのである。彼は「罪悪は決して幸福を生じたことはない」(アルマ 41 : 10) と述べ、心から悔い改めた者に赦しをもたらす「憐みの計画」について感謝を述べながら証した。(アルマ 42 : 15 参照) 彼は民の指導者として断固正義を守り、悔い改めて悪から離れた人々に温かい愛情を注いだ。アルマは、道徳上の重大な過ちを犯した息子を含むすべての子供たちに、罪がもたらす苦

悩、さらに悔い改めと赦しによってもたらされる言い尽くせぬ喜びについて説明した。

「わが子よ、お前に言うが、私がおの時に感じたほどの劇烈な苦痛がこの世にまたとあろうか。またその時に感じたほどの甚しく美しい喜びがこの世にまたとあろうか」。(アルマ36：21)

氣取ったところのまったくこの偉大な高潔の士は、やがて最初、大判事、大祭司として教会を治めるようになった。彼は「身も霊も劇烈な苦痛を感じ、主イエス・キリストに憐れみを願い求めて祈り、身も霊も安らかに」(アルマ38：8)になった。そこで大勢の人人が主に立ち返って戒めを守り、「悔い改めをする人々に及ぶ」(アルマ42：23) 憐れみを受けられるように力と愛をもって教えたのである。

これは聖典を貫くメッセージである。氣高い青年予言者ニーファイは、私たちを励まし導く悔悟と、信仰の麗しい歌をニーファイ第二書の4章に記している。「と言うものの、主がその驚嘆すべき大御業を私に示したもうとときに現われる恩恵が大きいものにも関わらず、私は心の中で叫ぶのである。『ああ、私は不幸な人間である』と。まことに、私はわが肉体のために心に憂いがあり、自分の罪悪のために私の心は悲しむ。

私は非常にたやすく迫ってくる誘惑と罪悪とのために取り巻かれている。

故に私が喜ぼうとすると、自分の罪のために私の心は苦しみにうめく。さりながら、私は今までに誰を頼みにしているかを知っている。」(IIニーファイ4：17—19)

ニーファイは、真の後悔は呪いではなく、神からの恵みであり、祝福であることも理解していた。真の後悔には悲しみも苦しみもあるが、その悲しみには意義があり、前向きで清めの働きの伴うものである。そしてそれは「この世の悲しみ」ではなく、「救いを得させる悔改めに導く」「神のみこころに添うた」悲しみである。(IIコリント7：10)

また、主は予言者エゼキエルを通して、神の子供たちが罪のために苦しむのを決して好まないと思えられた。主が喜ばれるのは、悪人がその行った悪を離れて、「自分の命を救う」ようになることであると、エゼキエルは述べている(エゼキエル18：23、27—28)

使徒パウロはコリントの聖徒たちの行状に失望し、それを叱責する手紙を書いた。そこでコリントの聖徒たちは悔い改めた。それを知ったパウロは、大いに慰められたと再び手紙で書き送った。「今は喜んでいる。それは、あなたがたが悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めるに至ったからである。」(IIコリント7：9)

これらのことのまとめを、アルマが気まぐれな息子コリアントンに語った言葉から捜してみよう。彼はその力強い説教を非常に含蓄のある言葉で締めくくっている。この言葉によって救われる人も多いことであろう。

「今わが子よ。私はこれからお前がこれらのことについて心を悩まさず、ただ自分に悔改めをさせるような心配を以て自分の罪について心を悩まして欲しい。」(アルマ42：29)

全能の神は、私たちが心から悔い改めたならば、罪を赦し、忘れ、二度と取りあげることにはないと約束された。そして神は、私たちがその罪を建設的に、感謝しながら、自己をへりくだらせるものとして覚えるように人々に悔悟の念を授けて下さった。「どのようなささいなことでも、神の正義にさからって、自分の罪を弁解しようとしてはならない。むしろ、神の正義と憐れみと寛容とを自由にお前の胸の中に往き来させて、自分の心を地にひれ伏すばかりにへりくだらせよ。」(アルマ42：30)

こうしてコリアントンもまた、み言葉を宣べ伝える者として世に出ていったのである。

私たちは指導者として、神の最も尊くかつ繊細な被造物である神の子をあくかっている。

悪から教会を守る責任を果たす上で、私たちは次のことをよく考えてみる必要がある。

「大虐殺は原子爆弾だけが引き起こすのではない。大虐殺はひとり人間が恥辱にさらされた時にも生じる。」(アブラハム・ジョシュア・ヘッセル)

ジョセフ・スミスは、合衆国外に住む聖徒たちに次のように書き送った。

「すべての人はぶどう園で働く備えをし、少しでも時間を取って、嘆き悲しむ人を慰め、失意にある人を励まし、背教した人を改心させ、迷う人を連れ戻すようにしてほしい。また、教会から切り離された人を再び王国に招き、熱心に働き、義の働きをするように彼らに勧めしてほしい。喜んで事に従う者たちが祝福を受ける約束の良き地、シオンの曠いに精出す備えを、心をひとつにし、思いをひとつにして行なってほしい。神の目から見れば、

人間はいつの時代にあっても大切な存在である。長老たちは人を地獄に落とすために召されているのではない。全地のすべての人々に悔い改めを説き、彼らが救いを受け継ぐ者となれるようにすることが長老たちの召しなのである。」(*History of the Church*) 「教会歴史」2：229)

私の娘は、初め私の呼びかけが自分に対するものだと気づかなかった。妹のことだと思っていた。「でも、私のことじゃないのよ。」きょう、私の話をお聴きになっている皆さんの中に、神が悔い改めを呼びかけ、慈悲と救いと愛を与えようとされているのが自分のためだという確信を得たいと思っておられる方に、私は心からそのことを証申し上げる。イエス・キリストのみ名により。アーメン。



大会に集う聖徒たち

「あなたがたはキリストをどう思うか」 「あなたがたはわたしをだれと言うか」

すべての人は永遠の進歩のいずれかの時点で、いつの日かこれらの質問に答えなければならない



七十人第一定員会会員
□バート・D・ヘイルズ

英国の聖徒と宣教師から、特に私の愛する伴侶であるメアリーと共に働いているロンドン伝道部の聖徒と宣教師からのあいさつを皆さんにお伝えしたい。

この偉大な回復された教会の七十人に召され、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師として、また特別な証人として、お話できることは何と大きな喜びであろうか。イエス・キリストについての証を柔和に、そしてへりくだった気持ちで、友人や家族、隣人に宣べ伝えることは、宣教師だけでなく、すべての教会員に与えられた権利である。いや、義務と言った方がよいかもわからない。

世のすべての人は永遠の進歩のいずれかの時点で、真理について考え、「あなたがたはキリストをどう思うか」(マタイ22:42)という質問に答えなければならないであろう。

お考えいただきたい。永遠の進歩のいずれかの時点で、私たちは皆、イエス・キリストがどのような御方であるか答えなければならないのである。聖典にはすべての目は見、耳は聞き、あらゆるものがひざをかかめ、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と

告白すると記されている。(ピリピ2:10-11参照)「終りの日に万民が贖い主に裁判を受けるために立つ時かれらは贖い主が神であると認める。」(モーサヤ27:31。ローマ14:11; 教義と聖約76:110も参照)

「あなたがたはキリストをどう思うか。」(マタイ22:42)「あなたがたはわたしをだれと言うか。」(マルコ8:29)

「パリサイ人たちが集まっていたとき、イエスは彼らにお尋ねになった、『あなたがたはキリストをどう思うか。だれの子なのか』。彼らは『ダビデの子です』と答えた。

イエスは言われた、『……このように、ダビデ自身がキリストを主と呼んでいるなら、キリストはどのようにしてダビデの子であろうか』。

イエスにひと言でも答えよう者は、なかったし、その日からもはや、進んでイエスに質問する者も、いなくなった。」(マタイ22:41-43, 45-46)

またある時、人々はイエスに向かって言った。「『その人の子とは、だれのことですか。』このように多くのしるしを彼らの前でなしたが、彼らはイエスを信じなかった。」(ヨハネ12:34, 37)

さらに、イエスは弟子たちに尋ねて言われた。「人々は人の子をだれと言っているか。」(あるいは言い換えて、人々は神の子をだれと言っているか)

「彼らは言った、『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります』。

そこでイエスは彼らに言われた、『それでは、

あなたがたはわたしをだれと言うか。』

〔先任使徒の〕シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです。』（マタイ16：13—16）

またほかの折に、イエスはサマリヤの女と話をされた。「女はイエスに言った、『主よ、わたしはあなたを預言者と見ます。……

（さらに）女はイエスに言った、『わたしは、キリストと呼ばれるメシヤがこられることを知っています。そのかたがこられたならば、わたしたちに、いっさいのことを知らせて下さるでしょう。』

イエスは女に言われた、『あなたと話をしているこのわたしが、それである。』（ヨハネ4：19、25—26）

それでは皆さんはキリストをどうお思いだろうか。キリストはどのような御方であろうか。イエス・キリストに従うと告白しながら、イエスを知らないクリスチャンが大勢いる。

「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ17：3）

多くの人々が、自分はクリスチャンであると告白しながら、イエス・キリストは文字通り神の御子であり、実に父なる神の長子であることを信じていない。人々はイエスの教えの一部に喜んで従おうとするが、イエスが神の御子であり、その永遠の目的、さらにはイエスの生涯が全人類にとってどれほど重大な意味を持っているかについては知ろうとしないのである。「あなたがたはキリストをどう思うか。」さらに「あなたがたはわたしをだれと言うか。」これらの質問は、イエスが人々に考えさせるために出された質問であり、それによって人々に御自分が何者であるかを教えようとしたのである。またイエスは、人々が自由意志を行使し、自らの結論を出し、決心し、主に従い、御自分が神の御子であり私たちの贖い主であるという証を得るようにならされたのである。

私たちは聖典を読むことによって、イエス・キリストについて知ることができる。イエスは単に偉大な教師にとどまらず、救い主である。イエスは私たちのために自ら進んで命を投げ出された。また、イエスはそれがおできになるただひとりの御方である。そのことを聖典は証している。

「この人による以外に救いはない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである。」（使徒4：12）

「われは主なる汝の神なり。われこの誠命を汝に与う。すなわち人はわれに由らずまたわが律法なるわが言によらずして父に来るべからず、と主は言う。」（教義と聖約132：12）

「イエスは彼に言われた、『わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』（ヨハネ14：6）

イエスは一体どのような御方であろうか。聖典からイエスについて調べてみよう。まず、キリストの光はすべての人の中にあり、人々が福音を受け入れ、キリストについての証を得るように導く。すべての人々が善悪をわきまえるのは、良心の導き、すなわちイエス・キリストの光によるのである。（モロナイ7：12—19参照）

イエス・キリストは神である。旧約聖書のエホバであり、新約聖書の救い主である。（アブラハム2：7—8参照）

イエス・キリストは、御父と共に天上に住んでおられた。そして私たちも、父なる神の霊の子供として御父やイエス・キリストと共に住んでいた。（ヨハネ1：1—5参照）

イエス・キリストは御父の永遠の計画を提示され、私たちは今その計画に従って生活している。この試しの期間を過ごし、すべてのことには反対のものがあることを知るために、私たちはこの地上にやってきた。そして、自由意志という永遠の原則によって、私たちは義しい生活を送るならば自由と永遠の生命を

得て、神のみもとに帰ることができるし、逆に束縛と霊の死を選ぶこともできるようになったのである。(モーセ4：1—4参照)

イエス・キリストは、御父の指示の下にこの地上の万物を創造された御方である。(モーセ1：33；エペソ3：9参照)「父が御子を世の救い主としておつかわしになった。」(Iヨハネ4：14)

イエス・キリストは、死すべき体を持った母マリヤから生まれ、この地上にやってこられた。イエスの御父は全能なる神である。(ルカ1：26—35参照)

イエス・キリストがバプテスマのヨハネによって水に沈められるバプテスマを受けられると、次いで聖霊が「はどのように」イエスに下った。そして天父は言われた。「あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」(マルコ1：10—11)

イエス・キリストは教会を組織され、十二使徒や予言者、七十人を選ばれた。(エペソ4：11；ルカ6：13；10：1)

イエス・キリストが伝えるメッセージほどかけがえのないものはない。イエスは私たちと天父の間に立つ仲保者である。(教義と聖約76：41—43；ヨハネ3：17参照)イエスを通じ、イエスによって、全人類は救われるのである。

イエス・キリストは、贖い主であり、私たちの救い主である。自分の死によって贖いを成就し、全人類を救うことができるのは、死すべき体を持った母と、不死不滅の体を持った父を両親に持つイエスただおひとりである。しかもイエスは、自らの自由意志と選びとによってそれをされたのである。(マタイ26：39；マルコ14：34—36；ルカ22：41—42参照)

イエス・キリストは復活し、その後多くの人々に現われたもうた。(ヨハネ20：11—18、24—30；ルカ24：13—44参照)そしてイエスは、復活した者の物理的な特徴について教え、またイエスの模範に従うならば、進歩してイエス御自身のようになることができると言わ

れた。

イエス・キリストは、弟子たちの見ている前で昇天された。しかし、将来再び同じ有様でまたおいでになると約束されている。(使徒1：9—11参照)今日、主の再臨のしるしが数々現われていることから、イエス・キリストの再臨が間近いことがわかる。

イエス・キリストはこの末日に御父と共に現われ、昔この地上に住んでおられた時に設立されたと同じ組織を、予言者ジョセフ・スミスを通じて回復された。そして聖書のほかに、イエスの神聖な召しと働きを証するもう一冊の書物、モルモン経が世に出された。イエス・キリストは、現在でも、予言者に啓示を与え、御自分の教会を導き、指導しておられる。そして今日も、スペンサー・W・キンボール大管長や副管長、十二使徒たちを召し、イエス・キリストがこの地上におられた時と同じように教会を導いておられるのである。

(教義と聖約102：9，23；信仰箇条第9条)

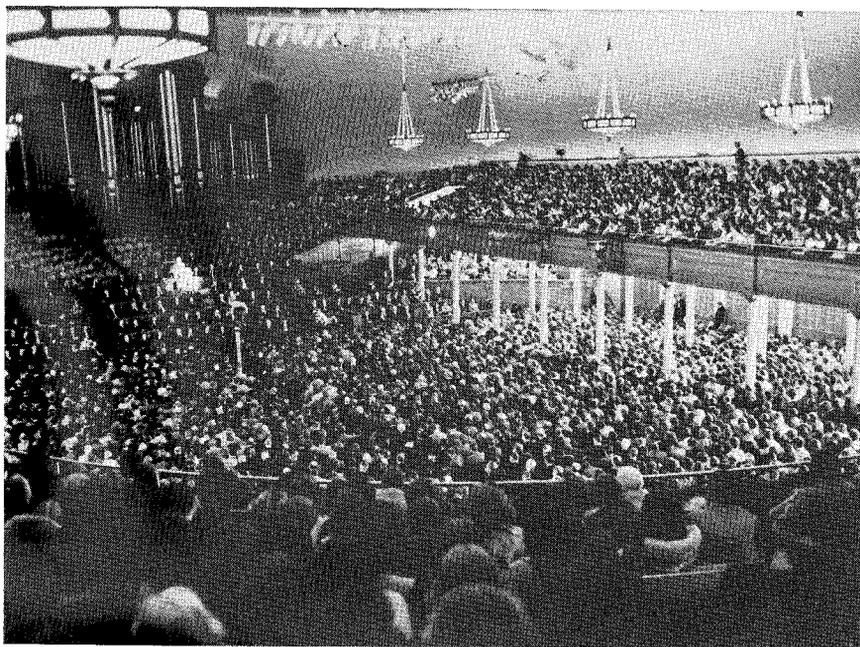
イエス・キリストは「わたしに従ってきなさい」(ヨハネ21：22)と言われたが、これは私たち一人一人に与えられたチャレンジである。イエスはこの世に生を受ける前、霊界で父なる神と共に住んでおられた。すなわち、イエス・キリストは神の御子である。また私たちは死すべき体を得た。そしてこの世で、数々の経験を積むのである。また私たちは将来死を味わう。けれども、イエス・キリストの贖いの犠牲によってやがて復活する。イエスは栄光をお受けになるだろう。そして私たちも、ふさわしい生活をすれば、イエスと同じ光栄の位、すなわち日の光栄の王国を受け継ぎ、再び父なる神と御子イエス・キリストと共に永遠に住むことができるのである。

きょう初めてこのメッセージを聞かれた方も大勢おられると思う。よく心に思いはかっただきたい。そして、末日聖徒イエス・キリスト教会の教会員か、宣教師に尋ねていただきたい。また、もし以前にこのメッセージをお聞きになったことがあり、みたまによ

って心を動かされ、それが真実であるという証を持ったことがありならば、もう一度末日聖徒イエス・キリスト教会の活動や交わりの中に戻ってきていただきたい。若い方々も、退職して余生を送っておられる方々も、世の人人にこのメッセージを伝えるために伝道に出るよというみたまの勧めを感じたならば、その勧めに従うことを今すぐ決意していただきたい。私の両親も退職後に伝道に出た。それはふたりの息子、ひとりの娘、そして11人の孫と4人の曾孫のよい模範となっている。

この復活祭の時期にあたって、私は特に証を述べたい。イエスはよみがえり、現在生きておられる。イエスは神の御子であり、御父の独り子であり、約束されたメシヤであり、

贖い主、救い主である。そして、イエスは模範によって福音を教えるためこの世に来られた御方である。ああ、私に天使のラッパとみ声が与えられ、このことを全人類に告げ知らせることができたらよいものを。イエス・キリストは、私たちをイエスのみもとに立ち返れるように教え導き、私たちを永遠の生命へ導くという神聖な使命を負っておられる。救いはイエスのみ名により、イエスのみ名を通して得られるものである。(使徒4:12; 教義と聖約132:12; ヨハネ14:6 参照) このことを私たちの救い主、贖い主なるイエス・キリストの聖なるみ名によって申し上げる。アーメン。



大会の光景

「うわべて人をさばかないで」

教会の指導者が何か良くないことをしているという話を聞いて信仰が揺らいでいる方々へ



十二使徒評議員会会員
ボイド・K・バックナー

私は、だれにでもありがちな信仰の試しと闘っている教会員にお話したい。

信仰がぐらついているその人の手を取り、支えることができるならば、そのためにはほかの方々の時間を少しいただくこともよいかと思う。

時折私のところへ、教会の指導者であるだけそれが良くないことをしているそうだと聞いて、信仰を失いかけている人がやってくる。

例えば、ある青年は教会で活動していることを仲間からいつも馬鹿にされていた。その仲間は、監督が仕事でだれかをだましたとか、ステーキ部長が契約の一部を偽ったとか、伝道部長が借金をしているとか、そのようなことを言いふらしていた。

また、ある人に冷たくして神殿推薦状を発行しなかったのに、資格のないことが明らかなの人にはひいきをして推薦状を発行したとも言う。

おそらく彼らは教会指導者についても同様に言っていることだろう。そして、この種のことが、福音は真実でない、教会は神から靈感を受けていない、あるいは間違っ

ているということの証拠として話される。

青年はそのような非難に満足な答えができなかった。そして何らなすすべなく、そのようなことを愚かしく感じた。その上、教会を批判する仲間に引かれそうな気持ちにさえなった。

彼は聞かされた話を鵠呑みにしたのだろうか。それはわからない。しかし、多少はそのことを信じだに違いない。

もしあなたがそのような信仰の試しに遭遇したらどうであろうか。私とその青年に尋ねた質問に答えてみていただきたい。

あなたはこれまで、神権会、聖餐会、扶助協会、日曜学校、大会やファイアサイド、セミナーの授業や神殿のセッション、その他教会が主催する会に出席して、不正直や仕事上の不正や詐欺を奨励されたことがあっただろうか。

青年はいいえと返事した。

次の質問である。

あなたは教会のパンフレットや聖典、レッスンのテキスト、教会誌で、うそや盗み、不正、詐欺や不道德、無作法、冒瀆、野蛮、生き物の虐待などを肯定している記事を読んだことがあるだろうか。

青年はじっくりと考えた末に、またもいいえという返事であった。

あなたは訓練会や指導者会や面接などで、罪や不正を奨励された経験があるだろうか。過激なことや、無分別なこと、極端なことを勧められた経験があるだろうか。

青年はいいえと答えた。

あなたは教会にいて、監督や扶助協会会長、高等評議員、ステーキ部長、教会幹部などと身近に接している。これらの人々が、これま

で述べたような行ないをしているように見えるだろうか。

青年はいいえと答えた。

あなたは教会に活発で、責任を与えられてきた。教会がこれまで述べてきたことを微塵も推賞していないことはよく御存じのはずである。

その通り、よく承知していると彼は答えた。

私は彼に尋ねた。それでは、そういう話を聞いた時に、なぜ教会が悪いと考えるのだろうか。

教会の教えや教義には、不正直でよい、不道徳でも無責任でも無頓着でもよいとは一言も言われていない。

あなたはこれまでの人生で、教会員が、それも特に高い職にあればなおさらのこと、何かの点で資格がないと言われる時、それは教会の標準に反していることだと教えられなかったであろうか。そのような人は教会の教えや教義と調和せず、指導者らしくない。

そうであるとすれば、ほとんどの噂は間違いか、あるいは偽りである。そのような人づての話によって自分の信仰を弱くしてよいものだろうか。

だれかが落胆していると、教会が原因だと考える人々がいる。離婚する人があると、どういうわけか教会が悪いと言われる。そのような例は数々ある。

大きな事件で人物や内容が報道される時、当事者が教会員であると、たいていそのことが情報として載る。

しかし、皆さんは強盗や窃盗、横領、殺人、自殺の記事で、バプテスト教会やメソジスト教会、あるいはカトリック教会が関係団体として報道されているのを見たことがあるだろうか。おそらくないと思う。

では、不幸なその人物がモルモンであることをわざわざ記事にするのはなぜだろう。

実際、それは逆説のほめ言葉である。教会員は善良で行ないも良いとされているので、それに反したことがあると、教会が引き合いに出されるのである。

論争と争いを促す人々に注意していただきたい。「まことに、まことに汝らに告ぐ、争いを好む心ある者はわれに属く者にあらずして悪魔に属くものなり」と主は言っておられる。(III ニーファイ 11 : 29)

次の質問は、あなたの信仰を揺るがす人々についてのものである。

彼らの言うことは本当に公正だろうか。教会の高い標準に従えない言い訳や自分の怠慢をつくろうために、教会に責任を転嫁して人の行状を云々しているとは考えられないだろうか。これは一般によくあることである。

では、教会の責任ある役職の人がふさわしくない言動をすることは、果たしてないだろうか。

当然ながら、「ある」というのが答えである。例外ではあるが、しかしある。

私たちはステーク部長や監督を召す時、次のように言うことがある。

「あなたの責任は会員たちを管理することです。彼らは常に誘惑に遭います。ですから、その闘いに勝てるように彼らを助けてあげてください。彼らが成功を取めることができるように、適切な方法で管理してください。そのために自分を捧げて働いて下さい。

ついですが、管理するあなたも試練や誘惑を必ず受けます。指導者ですから、誘惑や試練はなおのこと大きいでしょう。最善を尽くして、御自分の闘いに勝ってください。」

もしも指導者にふさわしくない行為があった場合、それは教会が主張するものへの敵対行為であり、その人は解任されるべきである。

ごくまれにはあるが、重大な不法行為や道徳的問題で指導者を教会から破門しなければならぬことがある。そうすることは悲しい責任である。

しかしそれが教会に対する教会員の信仰と非教会員の教会に対する信用をぐらつかせることはない。むしろ信頼を増すはずである。

私が学生であった頃、私の信仰にとって一番の試しは三人の見証者の背教であった。も

しも教会の体面を繕って教会の原則に妥協を加えるという誘惑がかつてあったとすれば、それは見証者の背教の時であったと思う。しかし教会は妥協しなかった。そのために、かつて私の信仰を揺るがせたその出来事が、逆に信仰を強くするひとつの錨と変わったのである。

人の話を聴く時は、賢明であってほしい。みんなと話して、すべてのことを聴くのでなければ、所詮本当のことはわからないからである。混乱の中に首を突っ込んでしまわないように、注意していただきたい。

当事者として全部を知っているのだから、人を裁かない方がよい。

「人をさばくな。自分がさばかれたいためである。

あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ……るであろう。」(マタイ7:1—2)
何年も前のことになるが、私は裁きについてひとつのことを学んだ。

私がブリガム・シティーの市議会議員を務め、またステーキ部高等評議員の責任があった時のことである。ある晩遅く、高等評議員会を終えた後、その会のことをあれこれ思い返しながら帰宅の途に就いた。

その途中、私は、赤いライトをともし、サイレンを鳴らしたパトカーに捕まり、時速45キロの制限区域を70キロで走ったということ違反切符を渡された。私は自分の不注意だと思ったので抗議せずに切符を受け取った。

そして翌日、判事はいつも朝が早かったので、私はセミナーを教える前に手続きを済ませたいと思い、彼のところへ出向いた。

当時、判事は新しい備品の購入願いを出したばかりで、私もひとりの市議会議員として、申請の承認と書類の署名に携わる立場にあった。

彼は私の違反切符を見ると、笑いながら、「まあ、時には例外もありますよ」と言った。私は彼に、自分の立場上、一般の市民と同様に扱ってもらいたいと言った。

「では、15ドル支払って下さい。」

こうして私は罰金を払った。

それから2日後の夜、市議会でバンディー議員が警官の免職処分の報告をした。そこで市長が理由を尋ねると、こういう返事であった。「はい、彼はいつも見当違いの逮捕をするものですから。」

あとで、バンディー議員は町に蛮行があったことを説明してくれた。夜中に何者かが改造車を使って、フォレスト通りに植えられた若木をみんな折ってしまったのだという。共同墓地にも被害があった。

その時、警官はどこにいたのであろう。掲示板の陰にひそんで違反運転者を待っていたのである。

バンディー議員は、ここ数週間、警察官に深夜のパトロールを申請していたが、若い警官がひとりだけ一向に腰を上げようとしないので、彼を解雇したというのが真相である。

その警官は、私に違反切符を渡したあの警官であった。2日後に彼は免職になった。市議会で数人の証人が出て、「彼はいつも見当違いの逮捕をした」という証言を並べた。

さて、その警官は自分が解雇された原因が私にはないことを信じてくれるであろうか。

私がもしそのことをうわべだけ見ていたら、彼の解雇に反対するか、時期を遅らせようとしたことだろう。

とにかく、うわべだけで判断すれば、私が権限を不当に行使した様子が濃厚であった。

もうひとつ別の例である。何年前かに、教会の学校でひとりの教師が即時解雇された。しかし同僚たちは、公表された解雇理由に承服できなかった。

代表者たちが校長室へ行き、その教師の復職を要求した。校長はそれを拒否し、それ以上の説明は何もしなかった。

そのため、その代表者たちは校長の独断だと結論した。校長とその教師との間に、考え方の大きな開きのあったことが知られていたからである。

その教師は、よくあることだが、被害者然とした行動で同僚たちの抗議をあおった。

しかし、教会教育委員会は、その教師がある重大な過ちを犯していることを知っていた。もしそれが公になれば、教師として再就職できるかどうか危ぶまれるほどの過ちであった。

しかし、校長にはある信念があった。事が表ざたにならなければ、彼は悔い改めることにより、教会の学校で再び教えられるようになる考えたのである。

この校長は長い間多くの非難を浴び、悪口を言われた。けれども彼は、自分の仕事上の一時的な評判よりも、教師の家族や教師自身の復帰の方が大切だと考えていた。

私は彼の模範に励まされた。これは教会のワード部やステーク部でそれこそ何百回、何千回と繰り返されていることである。

監督やステーク部長の行動が、真実を十分に知る立場にない人々から誤解されることはよくある。

監督も彼の裁きを受ける教会員も、問題を一般の会員に公表する義務はない。監督は秘密を守らなければならない。

万事を語り尽くし、なし尽くしたところで、ほとんどの場合、私たちには関わりのないことがはっきりしている。

問題を監督に持って行かないで、直接教会幹部のところへ行こうとする人がいる。監督は秘密を守ってくれない、ワード部のだれかが監督のところへ行くと問題がたちまちみんなに知れわたると言うのである。

そのような例を調べてみると、初めに当の教会員が隣人に打ち明けていることが多い。打ち明けられた隣人は解決策がわからずにそれを親友に話し、また自分の姉に話すと意見が食い違ってしまった。やがて彼女の夫が、車に乗り合わせた男性から監督のところへ行く方がよいと言われたというように、口から口へ伝わる例が多い。監督が他言したのではない。監督は秘密を守る人だからである。

使徒ヨハネはこう勧告している。

「うわべで人をさばかないで、正しいさばきをするがよい。」(ヨハネ7:24)

地にしっかり足をつけ、自分の信仰を守っていただきたい。私はイエス・キリストの福音が真実であると証申し上げる。神は生きておられ、み業を導いておられる。教会は正しい道を歩んでいる。予定通りに進んでいる。教会が神の予言者により正しく導かれていることを証申し上げる。

今はつまずきの石となっていることが、いつの日かあなたの踏み石となるであろう。

しかし、この教会あるいは教会員が反対や批判や迫害をまったく免れる日が来ることを期待してはならない。そのような日は来ないであろう。

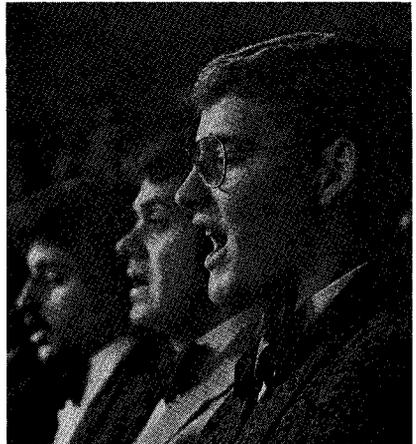
ただ、このことを心に留めていただきたい。

「わたしのために人々があなたがたをのしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。

喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。」

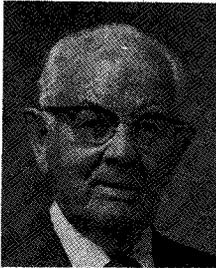
(マタイ5:11-12)

イエス・キリストのみ名により申し上げる。
アーメン。



より高い地点に向かって前進しよう

教会はすでに成長と円熟の域に突入し、私たちがさらに前進を遂げるために最後の準備をする時に来ている



大管長
スベンサー・W・キンボール

愛する兄弟姉妹の皆さん、今大会は素晴らしい大会であった。大会のためにいろいろな場で働いて下さったすべての方々に感謝申し上げる。私はこの大会で耳にした話や歌に深く胸を打たれた。そして心は喜びにあふれ、思いが高められて様々なことが心に浮かんできた。

さて、兄弟姉妹の皆さん、教会はすでに成長と円熟の域に突入し、私たちがさらに前進を遂げるために最後の準備をする時に来ている。このような印象を私はどうしても拭い去ることができない。これまでに数々の事項が決定されてきた。またほかにも懸案事項が残されているが、それもやがて組織的に明確にされてくることだろう。しかし、私たちがひとつの民として前進を遂げるために必要な基本的決定は、教会員一人一人が行なわなければならない。教会の歩みは私たち各個人歩みにかかっているのである。

私たちは平坦地で十分に休んだ。これからは、より高い地点に向かって前進しようではないか。家庭でも、ワード部でも、隣近所でも、他の人々に不承不承手を差し伸べるよう

な態度は今後終わりにしようではないか。個人として、また全体として前進するために、これまで時には忘れることがあった基本原則に、今こそ心を集中しなければならない。

教会員の努力は見かけは小さくても、それを結集すれば、かつてなく教会を前進させる大きな力となることだろう。兄弟姉妹、もしも活発な家族が来年の4月大会までに別の一家族または個人を教会に導くとしたら、どのようなことが起こるか考えてみていただきたい。何十万という新教会員が生まれることだろう。各ワード部からもう一組ずつ円熟した夫婦が専任宣教師に召されたら、宣教師数は27,500人から40,000人以上になる。各家族が今から来年の4月大会までに不活発な家族をひとつまたは個人をひとり助けて再び教会に導いたとしたらどうなるか、その結果を考えてみていただきたい。それら大勢の人々の中で、私たちがいかに大きな喜びを得ることだろう。

もしも神殿推薦状を所持している人が今年度中にもう1回余計にエンダウメントを受けるとしたら、現世と暮の彼方の両方でいかなる祝福があることか。10月大会までに、教会に関心があるかないかは問題にせず、隣人や友人にクリスチャンらしい静かな奉仕の行ないを1回余計にするとしたら、どう感じてもらえることだろう。

もしも伴侶や子供たちに毎月もう少し多くの時間を割いて心に向けたならば、家庭生活がさらにどれだけ豊かになることだろう。

兄弟姉妹、私たちは大きい祝福を生むことのような一見小さいことを行なう用意があるだろうか。もちろんあると、私は思う。私は、主の教会は今や霊性の飛躍間際にあると思う。

私たち一人一人の霊的成長こそが、王国が目に見えて大きく成長する鍵である。教会は、数年前にはできなかったことを今や行なう用意を整えている。そして私たちにもまた、教会員としてその用意がある。私のこの勧告を受け入れて下さるならば、皆さんは教会員として、これらのことを実行に移すその用意が自らに整っていることを知るであろう。

兄弟姉妹、霊的成長の一步を踏み出すことをためらって家族や隣人に奉仕する新たな機会を逃すことのないようにしようではないか。

主に信頼を寄せて、それぞれの生活の中で次の一步を踏み出そうではないか。主は御自身のことを、私たちの備えの程度を計る優しい養育掛であると言っておられる。

「汝らいますべての事に堪うる能わず、さりながら心安かれ。われ汝らを導きて行けばなり。」(教義と聖約78:18)

主は私たちに力以上のものを求められず。まだ用意のないことを強いられない。しかしまた、私たちは歩む用意のある時に、いつまでも待っていてはならない。

教会には、歩みが進まない理由が大きく分けてふたつあるように思われる。第1は、罪の結果として生じる無関心や停滞や罪悪感、第2は、立派な教会員が自分の模範を過小評価したり、光を輝かすのを恥ずかしがったりして、あと少し奉仕の手を伸ばすことをためらうという状態である。しかし今こそ、見た目には小さな一步でも、結果すれば教会の大きな進展につながる歩みを、皆で踏み出そうではないか。

今私たちが直面している大きなチャレンジは、急増する教会員のために訓練を積んだ指導者を用意することであり、教会員が世の汚れに染まらないように助けることである。

世の侵害は私たちの生活を非常におびやかしている。多くの人々にとって、世にありながら世のものとならないことはいかに難しいことか。

教会員が義しい生活を送って清められるよ

うに、私たちは日々絶えず祈り、またそのために努力している。私たちは教会員に、「聖き所に」(教義と聖約87:8)立つようにと勧告したい。

今日の世の状態と、悪が広がる現状に不安感を抱く人もいるであろう。しかし主は、「もし汝らに備ええらば怖るることなからん」(教義と聖約38:30)と言っておられる。

福音は私たちの生活に目的を与えてくれる。それは幸福への道である。個人あるいは教会全体としての成功は、私たちがどれだけ忠実に家庭で福音を守るかにかかっている。

個人の責任と、家庭や家族の役割をはっきり認識した時に初めて、私たちは神権定員会や補助組織、さらにワード部やステーキ部の存在する目的、すなわち教会員が家庭において福音を実践できるように助けるためにそれらが存在するというを理解できるのである。教会のプログラムは、福音を中心とした家族の活動を減ずるものではなく、それを支援するものでなければならない。

教会員は個人と家族の備えを十分に行ない、自分の家族や他の人々を主の方法によって物質的にも霊的にも助け、強めるようにしていただきたい。

皆が力を合わせて、家庭を居心地の良い所、語り合い、学び合う場所、お互いに愛と支持と感謝と励ましを感じる場所にさせていただきたい。

心安らかでいよう。主は約束通り私たちを導き、道を示して下さるからである。私たちが自分の時間と才能を日々どのように使うかを決める時に助けて下さるからである。焦らないようにすれば、前進は早まるであろう。基本を大切にすれば、本当の進歩が得られるであろう。また、奉仕すればするほど、多くのことが理解できるようになる。多くのことに耐えられるようになれば、さらに多くのことが教えられるであろう。(ヨハネ16:12、マルコ4:33参照)

主は私たちが大きく進歩できるように、私

たちの準備を助けて下さっている。さあ、出かけて行って、世の人々を主の再臨に備えさせようではないか。

兄弟姉妹の皆さん、私は、よく準備をして福音の原則を説いて下さった教会幹部の兄弟たちの説教を聴き、深い感動を覚えた。非常に明瞭で、わかりやすい話であった。

私はここで、これまでに引用された聖句を幾つか再び取り上げてみたい。ひとつはこれである。

「イエスがピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、弟子たちに尋ねて言われた、『人は人の子をだれと言っているか』。

彼らは言った、『ある人々はバプテスマのヨハネだと言っています。しかし、ほかの人たちは、エリヤだと言い、また、エレミヤあるいは預言者のひとりだ、と言っている者もあります』。

そこでイエスは彼らに言われた、『それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか』。

シモン・ペテロが答えて言った、『あなたこそ、生ける神の子キリストです』。(マタイ16:13—16)

これが私たちの伝えるメッセージである。あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、天下の万人が具体的にこのメッセージを聞くことができるように、私たちが世に伝えようとしているのはこのメッセージである。

先程の聖句の先を続けよう。「すると、イエスは彼にむかって言われた、『バルヨナ・シモン、あなたはさいわいである。あなたにこの事をあらわしたのは、血肉ではなく、天にいますわたしの父である。……

わたしは、あなたに天国のかぎを授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつなぐがれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう』。(マタイ16:17, 19)

これは、私たちが世に出て行く時の役割の大切さを語っている。私たちは世の人々に真理を教え、その真理にどのように従うべきかを教え、そして真理を授ける権利が私たちに

天から与えられるというその祝福を約束する。

死期を間近にしたペテロの言葉を少し引用してみたい。

「それは、わたしたちの主イエス・キリストもわたしに示して下さいのように、わたしのこの幕屋を脱ぎ去る時が間近であることを知っているからである。

わたしが世を去った後にも、これらのことを、あなたがたにいつも思い出させるように努めよう。

わたしたちの主イエス・キリストの力と来臨とを、あなたがたに知らせた時、わたしたちは、巧みな作り話を用いることはしなかった。わたしたちが、そのご威光の目撃者なのだからである。

イエスは父なる神からほまれと栄光とお受けになったが、その時、おごそかな栄光の中から次のようなみ声がかかったのである、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』。

わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて、天から出たこの声を聞いたのである。

こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確かなものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。

聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。」(IIペテロ1:14—20)

さらに、近代の聖典からつけ加えたい。

「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。

われらは、彼がすなわち神の右に座したもうを見たり、また、御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。

すなわち諸々の世界は彼の手により、彼の手を経て、また彼に因りて先に作られ、また現に作られ、これに住む者たちも皆神より生

れたる息子と娘なることを証したもう。」(教義と聖約76:22—24)

またこのような聖句もある。「されど、今やわれこの目を以て神を見奉りき。されど、肉眼にてはあらず靈眼を以て見奉りたるなり。何となればわれ肉眼にて見奉り得る善なかりし故なり。そは、神の御前に於てはわれ枯れ萎みて死にしならんためなり。されど、神の栄光わが上にありて、われ御顔を見奉りたり。これ神の御前に於て、わが身の変りし故を以てなり。」(モーセ1:11)

またもうひとつの聖句を引用したい。

「彼らが食事をすませると、イエスはシモン・ペテロに言われた、『ヨハネの子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか』。ペテロは言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです』。イエスは彼に『わたしの小羊を養いなさい』と言われた。

またもう一度彼に言われた、『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか』。彼はイエスに言った、『主よ、そうです。わたしがあなたを愛することは、あなたがご存じです』。イエスは彼に言われた、『わたしの羊を飼いなさい』。

イエスは三度目に言われた、『ヨハネの子シモンよ、わたしを愛するか』。ペテロは『わたしを愛するか』とイエスが三度も言われたので、心をいためてイエスに言った、『主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています』。(ヨハネ21:15—17)

主は、ここに集っておられるすべての方々と、この教会に加入したすべての方々に、「わたしを愛するか」と言っておられる。それならば示しなさい。そのことを示しなさい。わたしの羊を養いなさい、と。この地上の多くの国々で、喜びに満ちた素晴らしい人々の数が増している。皆さんに再び主のみ言葉を告げよう。「わたしの羊を養いなさい。」私たちがそれをしているかいないかは主が御存じである。主はいつでも知っておられる。言葉に

する必要はない。何も説明する必要はない。ただ、実際に主の羊を養えばそれで十分である。

私はもうひとつ、ヘイト兄弟が言われたこと、つまり年配者が福音を教えるということについてお話ししたいと思います。これは今まで見過ごされてきたことではないだろうか。私たちはむしろ忘れていた。これまで私たち年配者は退職すると、キャンプの道具を持って気楽に出かけられる場所を捜してきた。自分の考えや良心を安易な方法で満足させて、み業は進むはずだ。自分の子供を送り出すからと言ってきた。

私はヘイト長老が述べたことに同感である。私たち全員に責任があるのである。ひとり残らず全員に力がある訳ではないが、大勢の人に、私たちの多くに、その能力がある。何万、何十万という末日聖徒は、与えられているままに福音を思慮深く賢明な方法で宣べ伝えることができる。

主は私たちに、必要な助けと力と靈感を与えると約束して、ただこう言っておられる。「わたしの羊を養いなさい。わたしの子羊を養いなさい。」世界の諸国に、養うべき子羊は何千、何万、何百万という。

兄弟姉妹、私たちがこれまで提案してきたことを行なうように、ここで再びお願いしたい。自分の家庭をしっかりと守ること、日記をつけることなどは、その一例である。すべての人が日記をつけていただきたい。日記はだれでも書けるはずである。それを、家族に大きな祝福と幸福をもたらす啓蒙の書としていただきたい。日記をつけていない方がおられたら、きょう悔い改め、生活を変えていただけないであろうか。

もう話を終えなければならぬ。兄弟姉妹の皆さん、私たちは心から皆さんを愛している。皆さん全員を愛している。皆さんの働きを感謝すると共に、さらに多くのことを行なって下さるように願っている。

祝福を求めている隣人にあなたの祝福を及ぼし、また今祝福を必要としている世界の各

地域に福音が届くよう、天の御父が皆さんに祝福を分かち与える力を授けたもうのように願う次第である。今から次の大会まで、そしてその後も、天父が皆さんと共におられるように祈るものである。ここで再び申し上げる。イ

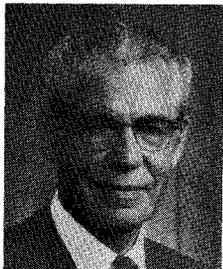
エスは私たちの光であり、私たちを支えて下さる御方である。私たちの救い主である主は、確かに生きておられる。この証を、イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



説教中のスペンサー・W・キンボール大管長

教会の評議会

教会の宗務と実務を相互調整するために地域、複合地区、地区の評議会が設けられた



第一副管長
N・エルドン・タナー

キンボール大管長の要請により、ここで皆さんに、地域と地区における教会の諸務を取り扱う手続きが拡張されたことについてお話ししたいと思います。教会の著しい発展と国際化に伴い、また全世界の教会の宗務と実務の統一化を図る必要性が増したことで、教会の評議会の役割がさらに強化されることになった。

これによって、すべての管理レベルで教会の活動の運営が秩序正しく保たれることになる。このあと、十二使徒評議員会のエズラ・タフト・ベンソン会長と、ピクター・L・ブラウン管理監督がその詳細を説明し、教会の各部においてこれがどのように変更されるかを語って下さるはずである。

教会は、設立後現在に至るまで、指導者により構成される評議会によって運営されてきた。教義と聖約の中で繰り返し説明されているように、神権評議会は教会の基本体制である。

これらの評議会は時に、諮問機関の働きをする。例えば、補助組織の指導者がワード部の諸事について監督やメルケゼデク神権指導

者に助言を与えるワード部評議会がその例である。

また評議会が統制機関となることもある。1977年に大管長会より発表された教会中央相互調整評議会がその例である。この評議会は大管長会、十二使徒評議員会、ならびに管理監督会から構成される。この評議会では、教会の方針と手続きが決定され、教会の活動が相互調整される。

この教会中央相互調整評議会は、十分な検討を行なった結果、教会の地域と地区における評議会の設置を承認した。また、必要であれば複合地区評議会が設置される。

これらの評議会が設けられることにより、今後は教会の諸事がすべて機能的に統合されることになる。すなわち、地区や地域の指導者は、各レベルに何が必要で、何が大切で、それを満たすどのような機会があるかを十分に討議することによって、教会の諸事を計画し、相互調整し、規定することができるようになる。

またこれらの評議会は、管理監督会の下にある実務機関の業務がさらに効果的に実施されるように必要な手段を提供することになる。

地域評議会は七十人第一定員会の会員が、また地区評議会は地区代表がそれぞれ指導し、各レベルにおける活動の相互調整と統合が確実に図られることになる。これらの評議会が適切に組織され、運営されるならば、教会の宗務と実務の活動の一体化が図られ、個人と家族に豊かな祝福がもたらされることだろう。

この神権評議会の拡張が、効率化と調和を増すだけでなく、教会員の靈性の高揚をも促すものと、私たちは確信している。パウロがエペソ人への手紙4章の中で、美しい言葉を

もって語っているように、教会があるのは、「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。」(エペソ4：12-13)

また、それに続く2節の聖句を特に強調したい。これらの聖句は普通あまり引用されないが、この度発表された神権評議会を考えた時に、特に深い意味を持つものである。

「愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。」

また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれの部分は分に応じ

て働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていくのである。」(エペソ4：15-16)

兄弟姉妹の皆さん、全身がすべての節々すなわち評議会の助けにより結び合わされるといふところに注目していただきたい。今日この方針によって、神権の鎖は宗務と実務の両面で完全に結ばれるのである。指導者の皆さんは各レベルの神権評議会によって力を授かり、同時に祝福を与えられることだろう。私たちはそのことを知っている。

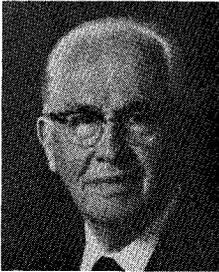
シオンを確立し、聖徒たちを地上における主の最終的な統治に備えさせるこの偉大なみ業を進めるにあたって、主の祝福が豊かに注がれるように願っている。これらのことをイエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



説教中のN・エルドン・タナー第一副管長

評議会による教会管理

きょう、私たちは王国の発展のために、一步踏み出す。この結果、さらに大いなる一致が得られ、効率よく主の王国を建設できるようになることだろう



十二使徒評議員会会長
エズラ・タフト・ベンソン

愛する兄弟姉妹の皆さん、タナー副管長から発表のあったように、この度地域や地元における教会の管理制度が多少変更されることになった。最初に申し上げておくが、これから皆さんにお話することは、私たちが数か月間祈りをもって研究し、熟考した末に決定した事柄である。教会の評議会に関するこの発表は、新しいものではなく、聖典の記述と、従来の教会管理手続きに基づく原則を強化するものである。合衆国に住む方々の中には、これが地区集会の半年後に催される集会ですでに行なわれていることとまったく同じであることにお気づきの方もあろう。

これは非常に大切な事柄なので、必要に応じてスライドを使いながら説明したいと思う。しかし、まず皆さんに、この発表が大管長会、十二使徒定員会、七十人第一定員会、管理監督会の一致した承認を得たものであることをお伝えしておきたい。きょう皆さんにお話する事柄が、教会の各レベルの伝達と一致を大いに促し、王国の発展に寄与することに、何ら疑いはない。

評議会の設置の意義をよく理解できるよう

に、少しその背景についてお話ししよう。

教会が設立されてから、一般に宗務は十二使徒定員会、実務は管理監督会がそれぞれ携わってきた。これは今日でもそのまま実施されている。

もちろんすべての方が御存じのように、管理の系統は大管長会から十二使徒定員会、七十人第一定員会会長会、地域担当教会幹部、地区代表、ステーキ部長を経て監督に至る。今後もこの権能の系統に何ら変更はない。

先頃、各地の実務を効果的に処理する必要が生じたことから、ある国々に地域管理監督を召すことが認可された。地域管理監督は地域担当教会幹部と協力して働き、実務に関する自分の責任について管理監督会に報告してきた。次いで、管理監督会が大管長会に報告する制度がとられていた。

かつてデビッド・O・マッケイ大管長の第一副管長スティーン・L・リチャーズ長老は次のように語ったが、私たちはその原則をここで再び強調したい。

「教会管理の真髄は評議会により管理するところにあると思う。大管長会評議会、十二使徒評議員会、ステーキ部長会評議会……監督会評議会など……私はこれまでの経験から評議会の価値を十分に認識している。……ここに知恵がある。神の王国を治めるために評議会が設けられたのは、神の知恵によるのである。人々は同じみたまの下に働くならば、表面上異なる考えを持ち、また過去の経験に大きな相違があっても、必ず意見をひとつにすることができる。そして、みたまの導きの下で互いに話し合うならば、一致に到達できるのである。」(Conference Report 「大会報告」1953年10月, p. 86)

大管長会、十二使徒定員会、管理監督会は、中央、地域、地区の各レベルで評議会を組織することを決定した。これらの評議会は、教会相互調整評議会（中央レベル）、地域評議会、複合地区評議会（必要な場合のみ）、地区評議会と呼ばれる。そのほかに、現在のステーク部やワード部で行なわれているコーリレーション評議会がある。

各レベルの管理運営を効率よく行なうために、これらの評議会がすべての教会プログラムを代表するという広い理解を持ち、それぞれを各レベルにおける相互調整、企画、決議機関とすることになった。正しく組織し、運営すれば、これらの評議会は、教会の宗務と実務の処理を一体化できることだろう。

また、「地域担当教会幹部」の名称が「代表役員」に、さらに合衆国とカナダ以外の国では「地域管理監督」が「地域監督」にそれぞれ変更されることになった。この名称変更は直ちに発効する。合衆国とカナダでは、管理監督会が、教会本部または地域から、実務を取り扱う代表者を任命することになる。

さてここで、地域、地区、その他のレベルで評議会の管理運営に携わるすべての方々に一言申し上げておきたい。十二使徒定員会は引き続き実務に深い関心を寄せ、管理監督会も宗務にかかわりを持つ。私たちにとって、これはひとつの大きなプログラムである。この責任の分担は、管理上の便宜を図るために定められたものに過ぎない。主にかかわるすべては霊のことだからである。（教義と聖約29：34参照）

では、各レベルにおける評議会について簡潔に説明しよう。

1. 教会相互調整評議会

この評議会は、大管長会、十二使徒定員会、管理監督会から成る。

また、七十人第一定員会会長は、この評議会と、中央福祉活動委員会に招待される。

教会相互調整評議会は、方針を定め、例外

があればそれを認め、履行を認可し、地域評議会で解決できない問題を処理する。

教会相互調整評議会と地域との連絡は、教会の宗務と実務のラインを通して行なわれる。

さらに、この評議会は（必要な範囲内で）優先順位を定め、地域と地区の評議会が設定された指針に沿って運営できるようにする。またこの評議会は、教会の様々なプログラムや活動に当てられる時間と資金の配布のバランスをとるという大きな役割を果たす。例えば、各地の地域評議会から年間に800の建物の建築申請が出されたが、教会の資金と時間は600分しかなかったとする。その場合、教会相互調整評議会が、必要度の最も高い場所はどこかを判断する。

この評議会はまた、様々な方針が履行される前に、宗務と実務に関するすべての計画を検討し、認可する。

2. 地域評議会

地域における各種の事項を相互調整し、計画し、決議する主体となる評議会は、地域評議会である。この評議会は、代表役員の指示の下に運営される。地域評議会は、地元に関連する事項を考慮し、また教会本部で認可されたプログラムや活動をすべての地区とステーク部の役員に伝達する。また、この地域評議会は少なくとも3カ月に一度会合を開く。

地区代表は地域評議会に出席し、代表役員に協力して働く。また地区代表は、代表役員とステーク部長の間に立つ役員である。ただし、この管理権には例外があり、それはすでに通達されている。この評議会制度では、地区代表も管理者とみなされる。現在、地区代表は地区レベルで教会の諸務を管理する責任を負っている。

地域評議会は、地域のための計画、すなわち大規模な活動や目標を概説した一般的な指針を定める。そして、実務担当者は、実務に関する詳細な計画を進める。他方、地区代表、伝道部長（招待された場合）、ステーク部長

(招待された場合)は、宗務に関する詳細な計画を進める。代表役員と実務担当者は、それぞれの計画を実行に移す前に、地域評議会にすべての計画を提示し、検討を加え、認可を受ける。

それでは、地域評議会の果たす役割を、合衆国ならびにカナダ以外の国と、その両国の地域に分けて見てみよう。

A. 合衆国とカナダ以外の国における地域評議会

合衆国とカナダ以外の国における地域評議会は、以下の人で構成される。代表役員、地域監督、地域内のすべての地区代表。

また、話し合う内容に応じて以下の責任者が招待される。地域福祉部長、地域総合施設部長、地域財務部長、地域資材管理部長、地域情報管理部長、教会教育部地域ディレクター、教会広報地域ディレクター。必要に応じて、代表役員は伝道部長を招待することができる。

全世界の代表役員の責任は次の通りである。

1. 地域を管理し、宗務面での指導を与える。
2. 地域評議会の集会を管理する。
3. 優先順位を決める。
4. 計画の管理を行なう。
5. 教会の方針からはずれないように見守る。
6. 訓練する。

地域監督の責任は次の通りである。

1. 宗務面の必要が満たせるように業務の運営を行なう。
2. 計画に必要な援助を与える。
3. 技術的な援助を提供する。
4. 訓練を助ける。

代表役員(教会幹部)と地域監督(管理監督会の代表者)はそれぞれ独自の管理の職を与えられているが、達成する目標は共通である。地域の諸事をすべて相互調整するために、合衆国とカナダ以外の国では、代表役員と地域監督で構成される評議会の役員会を設けることが認可されている。代表役員と地域監督

は協力して評議会のアジェンダを決定し、指針を計画し、四半期評議会でのような実務的事項を取り上げるかを決める。また、その際秘書の援助を受ける。このような協力体制を組むことによって、報告系路はそれぞれ違いながら、共通の目的を達成できるようになる。役員会は通常週に一度開く。あるいは状況に応じて頻度を増してもよい。

では、合衆国とカナダにおける地域評議会について見てみよう。

B. 合衆国とカナダにおける地域評議会

地域評議会の構成員は、代表役員と地域内のすべての地区代表である。必要に応じて、代表役員は伝道部長を招待することができる。

また、話し合う内容に応じて以下の責任者を招待する。福祉活動地域ディレクター、教会広報地域ディレクター、教会教育部地域ディレクター、その他必要とされる人々。福祉活動に関する事柄は、福祉活動地域ディレクターの出席がなければ話し合ってはならない。

合衆国とカナダにおける地域評議会の役割は、他の国々における地域評議会のそれとは異なっている。合衆国とカナダには地域監督がないからである。したがって、教会本部が代表役員と協議した上で、福祉活動と総合施設の部門を担当する人々を選任する。これらの人々は代表役員と協力して働き、必要に応じて地域評議会に出席する。管理監督会は、実務担当者を選任するか、さもなければ定期的に開催される地域評議会への教会本部の職員を招待を認可する。管理監督会により選任されたこれらの人々の責任は、次の通りである。

1. 宗務面の必要が満たせるように業務の運営を行なう。
2. 計画に必要な援助を与える。
3. 技術的な援助を提供する。
4. 訓練を助ける。

3. 地区および複合地区評議会

福祉活動には、複合地区レベルの評議会が必要である。ここで、複合地区評議会について見てみよう。

A. 複合地区評議会

複合地区評議会には、福祉活動を取り扱う権限が与えられている。この評議会を管理するのは代表役員で、運営方法は地域評議会に準じる。また、複合地区評議会を構成するのは、代表役員、福祉活動地域ディレクター（必要な場合）、該当地区の地区代表、複合地区福祉活動ディレクターである。福祉活動について話し合う場合は、代表役員が指定したひとつの地区評議会から、ステーキ部監督評議会議長とステーキ部扶助協会会長が出席する。複合地区評議会の会合は必要に応じて開催される。

では、地区評議会に話を移そう。

B. 地区評議会

地区評議会は、地区代表とステーキ部長で構成される。

また、話し合う内容に応じて以下の責任者を招待する。地区福祉活動主任、地区広報ディレクター、教会教育部地区指導主事、その他必要に応じて宗務と実務プログラムの代表者。福祉活動について話し合う場合は、地区代表により指名されたステーキ部監督評議会議長とステーキ部扶助協会会長が出席する。代表役員から許可を得れば、伝道部長を招待することもできる。

地区評議会は、教会の中央、地域、複合地区の各評議会の活動をすべて伝達し実施するだけでなく、複数のステーキ部に関係する管理運営事項と相互調整事項を処理する。地区評議会の集会は少なくとも3カ月に一度開く。集会を簡易化して不必要な旅行を避けるために、中間打合せ会を開いて、地区評議会の集会の改善を図る。

地区代表の果たす義務は、地域評議会における代表役員のそれに準じる。

地区評議会の業務を促進するためには、地区レベルにおける福祉活動の運営を担当する

地区福祉活動の主任を召す必要がある。

4. ステーキ部評議会

ステーキ部コーディネーション評議会とステーキ部福祉活動委員会の構成員は、現状のままである。

5. ワード部評議会

教会の評議会について強調されたことが、そのままワード部に当てはまる。ワード部コーディネーション評議会とワード部福祉活動委員会の構成員に変更はない。

各レベルにおける評議会制度の概要は、以上に述べた通りである。

6. 家族会議

家庭の団結と一致が大切であるので、家族会議について触れておく。家族会議を開くように両親に奨励することにより、天の家庭に倣ってこの世の家族を築くようにしていただきたい。

愛するステーキ部長の兄弟たちに申し上げたい。

現在は過渡期である。これまでステーキ部長が手がけてきた福祉活動や広報活動に関する責任の多くは、現在地区代表の手に移されている。この変遷の時期に支障を来さないようにしていただきたい。ステーキ部長やその他、現在責任を与えられている人々は、代表役員によって正式に解任されるまで、担当する地区、複合地区、あるいは地域の責任を続けて果たしていただきたい。この変更にあたって、代表役員は教会教育部や広報部の代表者、また特に福祉事業部の代表者に会って、（担当者の召しと解任も含めて）業務のすべての面について十分に検討することが必要である。

終わりにあたって申し上げたい。

教義と聖約には、教会を導く定員会に特に与えられたものであるが、すべての評議会に適用できる原則が記されている。教義と聖約

第107章から引用しよう。

「而して、以上の何れ^{いづれ}の定員会〔「評議会」に置き換えることができる〕の為す決議も、ことごとくその一致の挙手によって為さざるべからず。すなわちこれら定員会〔評議会〕の全会員は……一人一人皆その決議に賛同せざるべからず。……

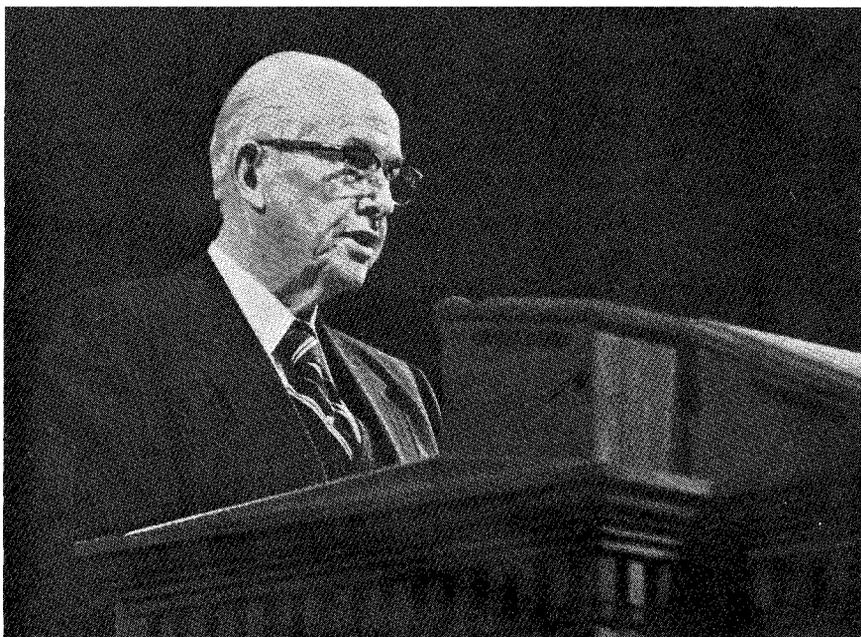
これらの定員会〔評議会〕……の為す決議は、全くの正義、神聖、謙遜、柔和、堅忍、信仰、善徳、知識、節制、忍耐、敬虔、同情、仁愛などによりて為されざるべからず。

そは、もし彼らこれらの徳に富む時は、主に就ける知識に乏しからざるべし、との約束ある故なり。」(教義と聖約107:27, 30-31)

主は私たちがこの規範に倣って、教会のすべての管理レベルで神権評議会を運営するように期待しておられると、私は思う。私たちはこの業のすべての面において、すなわち宗務と実務において、ひとつにならなければな

らない。私たちが主と崇^{あが}めている御方にとって、すべては霊にかかわることだからである。教会の諸事の管理運営について考えた時に、今大いなる一致に向かって大きく一步を踏み出したことがおわかりいただけたと思う。私たち神権者は、先程引用した啓示の中で主が告げておられるように行動する必要がある。

兄弟姉妹の皆さん、このことを理解していただきたい。私たちは王国にとって最善のことは行なうために、すべての力を注いできた。きょう、私たちは王国の発展のために新たな一步を踏み出している。この神権評議会の制度を実施しようとする私たちの働きを、主が祝福して下さるように願っている。そして、みたまの導きの下に、さらに大いなる一致が得られ、効率よく主の王国を建設できるように、イエス・キリストのみ名によって祈る。アーメン。



説教中のエズラ・タフト・ベンソン十二使徒評議員会会長

実務面の計画と優先順位

評議会と、教会の総合施設、財務、福祉事業、資材管理、情報管理の各部門の間には深いつながりがある



管理監督
ビクター・L・ブラウン

愛する兄弟姉妹の皆さん、ペンソン会長が提示された事柄の幾分かでも、皆さんが理解して下さればと願っている。これは、教会管理における画期的な第一歩であり、これまでにない教会の発展に神権者を備えさせるものである。また、かつてなく効果的に計画と決定を行なう機関を導入するものである。私は今、畏敬の念を持ってここに立ち、主のみ手がこの神の王国の僕たちを導いておられることを証する。地区、複合地区、および地域の評議会が設けられたことは、まさに画期的な出来事である。管理監督会は、これまで述べられたすべての事柄に心から賛成の意を表したいと思う。

御存じのように、管理監督会は、大管長会の指示の下に、実務面の多くの諸事を管理する責任を負っている。総合施設、財務、福祉事業、資材管理、情報管理がこれに含まれる。

私たちはこれらの実務組織を管理しながら、全世界の神権者の必要を満たし、教会活動を支援しているのである。合衆国とカナダでは、教会本部の実務ディレクターと管理運営チームがこれにあたる。しかし中には、施設管理

部門のように、各地に分散している部門もある。合衆国とカナダ以外の国々では、これらの部門はすべて各地域に分散され、各地域の地域監督によって管理されている。そして、地域事務局が上記の活動のすべての責任を負うようになっている。

ここで、地域事務局の職員が負っている4つの主要な責任について、さらに詳しく御説明したい。これらの責任の幾つか、中でも福祉活動に関する業務は、ステークス部長や地元の委員会、その他の人々の協力により現在まで実施されてきたので、特に留意いただけるものと思う。

第1に、私たちは宗務上の必要を満たすために働かなければならない。つまり、実務担当者は、土地の購入、建物の建築、デゼルト産業、監督の倉庫、雇用センター、社会福祉機関の運営、教会出版物の配送などを行なう。しかし、福祉生産事業はこの中に含まれない。

教会本部の5つの部門の管理運営チームと地域監督はそれぞれ、予算を組み、業務の調整を図り、実績を調査し、法律や税制上の制約を守りながら、業務を遂行する責任がある。私たちは、これが非常に大切な責任であることを理解している。

第2に、地域評議会を通じて計画の援助を与える。み業を推進する上で必要な計画は、宗務と実務の双方の指導者が協力して立て、代表役員の指示の下に遂行される。時折、技術を要する計画があるが、その場合詳しい計画はおもに、実務担当者が立てる。この中には、各部門あるいは各組織に必要な情報の収集、物質的な援助の要求に関する調査、印刷物の要求見通し、経費節約計画の立案、福祉事業の物理面の本計画などが含まれる。しか

し、決してこれだけではない。

第3に、広範な技術援助を提供する。例えば、集会所の設計、福祉農場の業務監査、会員記録制度の確立などがこれに当たる。

第4に、いつ、どこで、どの程度の訓練を施すか地域評議会で決定されたことに基づいて、訓練を施すのを手伝う。その際、訓練資料の準備と、業務の技術面に関する教育の両方で援助を提供する。

これらの責任を果たす時に大切なのは、最小の経費で最大の効果をあげることである。このことは、全世界どこの地域においても言えることである。

幾つかの地域では、すでに私たちの職員がこれらの業務を果たしている。これら実務担当者が適切に責任を果たす時、宗務の指導者にかかっている時間や労力の重荷を取り除くことができるのである。

例えば、アイタホ州ボイシの場合、評議会の基本である協力と相互調整の体制が複合地区でできあがっており、この一年間その体制で運営が速められてきた。そのために、地元の福祉面での自立が目に見えてよくなり、生産物も7種類から21種類と、約3倍の増加を見ている。また、地元でかん詰にされる生産物も3種類から11種類に増え、それだけ現金による支出が減っている。76,000ドルもあった支出が、現在ではわずか3,000ドルに減っているのである。また、1980年の計画では、さらに18種類の生産物を増やそうとしている。このことによって、監督の供給指示書の中に含まれる基本食料品が、44種類にもなろうとしているのである。

また、農場間の生産物の流通も次第に統合されつつある。例えば、福祉プログラムで酪農業を行なっている農場は、干し草を作っている別の福祉農場から必要な干し草を購入する。これが効率よく行なわれると、一般の市場で取引するの必要がなくなり、倉庫資源制度の下で生産されたものがますます多く使われるようになってくる。これが行なわれるよ

うになったのは、ボイシ地域の神権指導者が自分たちのなすべき事柄についてビジョンを持ち、実務担当者の協力を得てその計画を実施してきたからである。計画は実行に移され、その結果、自給自足という大きな目標に向かって着実な進展を見ることができたのである。

先程ベンソン会長が、この評議会の全般的な概念を説明して下さったので、そのことについては私がここで繰り返すまでもないと思う。しかしただひとつ、合衆国とカナダにおける地域評議会の組織と、他の国の地域評議会の組織との間に、非常に重大な違いがあることを強調したいと思う。管理監督会は合衆国とカナダでは地域監督を任命しない。その必要がないからである。そのために、権限を分散している教会本部の実務部門、例えば福祉事業部や、あるいは現場での仕事の主になる総合施設部などでは、管理監督会により指名された地域ディレクターやその担当者と、教会本部の実務ディレクターが、代表役員と協力して働く。合衆国やカナダにおけるこれらの担当者は、他の国の地域監督が一括して負っている同じ義務と責任を果たすのである。

すでに広範な福祉活動が進められている合衆国とカナダでは、地域福祉活動ディレクターの全員が任命されるまで、なお数週間を要するであろう。そこで、今現場で業務に携わっている人々は現行の報告体制を維持し、新しい組織が設けられて、地域評議会とのつながりが明確になるまで、現在の業務を継続するようお願いしたい。この大会の後、これらの変更が皆さんの地域でどのように行なわれるか、詳しく説明されることになっている。

複合地区と地区の評議会は、複数の地区あるいはステーキ部の活動を管理し、相互調整する。同時に、地域評議会で決定された事項を伝達し、実施する。この複合地区と地区の組織は、合衆国でも、カナダでも、それ以外の国々でもまったく同じである。

地域評議会と複合地区および地区評議会と

の大きな違いは、複合地区と地区レベルでは、現在の福祉活動評議会あるいは委員会が含まれることにある。簡単に言えば、福祉活動について話し合われる時はいつでも、ステーク部監督評議会議長と指命されたステーク部扶助協会会長が正式な一員として評議会の集会に出席する。合衆国とカナダ以外の国々では、地域監督は、討議事項を見計らって、複合地区評議会と地区評議会に適切な実務面の代表者を出席させるようにする。

今回の評議会に関する変更の特筆すべき点は、それぞれの地域で優先事項を判断して、それを進めるための計画を立てられるようになったことである。宗務の系統を通して指示されるままに、代表役員は、地域の必要を満たすために何を優先する必要があるかを明らかにする。そして、私たち実務担当者は、これらの優先事項を実施するのである。これは特に、教会の福祉活動に関して言えることである。

ここ数年間、地元の指導者からしばしば次のような質問を受けてきた。「私たちのワード部、ステーク部、地区ではどういうことをしたらよいのでしょうか。福祉活動のどういう点を強調したらよいのでしょうか。」ここに出席しておられる神権指導者の皆さんも、一度はこのような疑問を持ったことがおありのことと思う。とりわけ、40年間福祉活動が実施されてきた合衆国の西部以外の地域のステーク部指導者は、そう感じているのではないだろうか。

福祉活動が広範囲に及ぶこと、特に倉庫資源制度の運営が幅広いために、かなり入念な検討が必要である。その上で、計画が正しいかどうか、それが主に受け入れられるものかどうか主に尋ねてみる必要がある。

大管長会は神権指導者に、地元の教会員の自立を促す計画を慎重に祈りの気持ちをもって立てるようにと勧告している。会員が必要としているものが変わってきたこと、教会の急速な発展、不確実性の時代、困っている教

会員に援助の手を差し伸べるといふ教会の義務、自立するよにという主の戒め、これらのかを考へる時に、このことが特に重要になってくる。しかし、これは秩序正しく、時宜を得て行なわなければならない。

私たちは中央福祉活動委員会の一員として、教会の総大会時や、あるいは全世界の各地を訪れた折に皆さんにお会いして、皆さんが広範な福祉活動に積極的に参画したいと願っていることをよく知ることができた。事実、総大会に出席する大勢の指導者が、この西部山岳地帯で実施されている高度な福祉活動の実際の姿を見て、地元でもそれを行ないたいと強い励ましを得て帰って行く。しかし、十分な計画を立てずに行なうと、成果が上がらずに挫折感のみを残し、結局指導者にとっても教会員にとっても大きな失敗を招くことになる。

もちろん、必要としている事柄、時機の問題、あるいは援助手段など状況はそれぞれ違っており、私たちはそのための手段や方法を開発して、皆さんのお役に立ちたいと考えている。

計画の立て方は2段階あると思う。つまり、基本計画と本計画である。

基本計画は正式の計画ではなく、まずワード部レベルから始まる。監督はまず、ワード部福祉活動委員会を確実に開くようにする。名前が示す通り、これはあくまでも基本計画であり、福祉活動委員会と評議会を組織し、福祉活動に関連した福音の原則を教え、個人と家族の備えを推進し、断食献金から教会員に援助を与えることなど、基本的なことのみを行なう。

地域や地区の組織が十分整い、倉庫資源制度を実施する準備ができている所では、さらに広範で密度の濃い計画が必要となる。これが、福祉活動の本計画である。

福祉活動の本計画は、次のような段階を踏んで立てる。

1. 福祉活動の原則を教える計画を立てる。

2. 貧しい人、困っている人、悩んでいる人の必要を明らかにする。
3. これらの必要を満たすために教会の援助手段を調整する。

この本計画が完全に実施されるようになると、貧しい者、悩んでいる者の世話をする監督を援助する倉庫資源制度の要素が地域内に生まれてくる。(教義と聖約52:40参照)

この本計画の目的を達成するための一番良い方法は、段階的に進めることである。まず第一段階では、机上に図表を広げて検討し合うといった大局的な話し合いが持たれる。この第一段階の計画では、その地域で現在行なわれている福祉活動の状況を調べ、今後どうなるべきか、あるいはどうなっていくかについて記述する。第二段階はむしろ、技術的すなわち運営上の問題である。この第二段階では、地域やゾーンが自立できるように倉庫資源制度をいつ導入すればよいか、その青写真を作る。

この本計画を実行に移すためには、7つのステップが考えられる。宗務および実務双方の役員は、地域評議会を通じて以下の事柄を段階的に行なう。

1. 原則とプログラムとを教えるための正式な地域計画を立て、それを実施する。
2. 地域の必要と援助手段の調査を行なう。
3. 監督の倉庫の在庫を調べる。
4. 法律、税制、農業政策等、地元の状態と制約とを研究する。
5. 宗務上の管轄区域と、工場や施設の設置予定地を記入した地図を準備する。
6. 必要な事業、施設、活動を推薦する。
7. 計画案を中央福祉活動委員会に提出し、承認を得る。

本計画では複雑なところは何もないが、ただ時間と努力を要する。そこで、地域の代表役員の指示の下に、地区代表とステーキ部長は、この福祉活動の本計画を進めるために必

要な手続きを開始していただきたいと願っている。皆さんの計画が完全に近ければ、それだけ私たちは皆さんの地域の福祉活動が適切に実施されるよう協力できるということを御理解いただきたい。福祉事業部の職員は、いつでもお役に立ちたいと願っている。彼らは受け入れ態勢を整え、経験を積み、将来への展望を持っている。したがって、皆さんが靈感と思いを地元の必要に向けるならば、やがて数年後に福祉活動を実施できるように、指針となる青写真が描けることだろう。

ここで、その基本計画と本計画の一例を御紹介したい。

皆さん方の中には、昨年10月の大会で、私がメキシコのベルメヒロ支部のことについて述べたのを思い出される方もおられると思う。支部長と福祉活動委員会は、福祉活動宣教師の助けを得て、教会福祉活動の基本プログラムを支部内で実施する基本計画を立てた。その結果、教会員の生活に大きな変化が見られた。教会員たちは自分の家屋にペンキを塗り、家畜の囲いを作り、さらに個人と家族の備えの基本を教えて健康を維持することの大切さを生活に取り入れてきた。

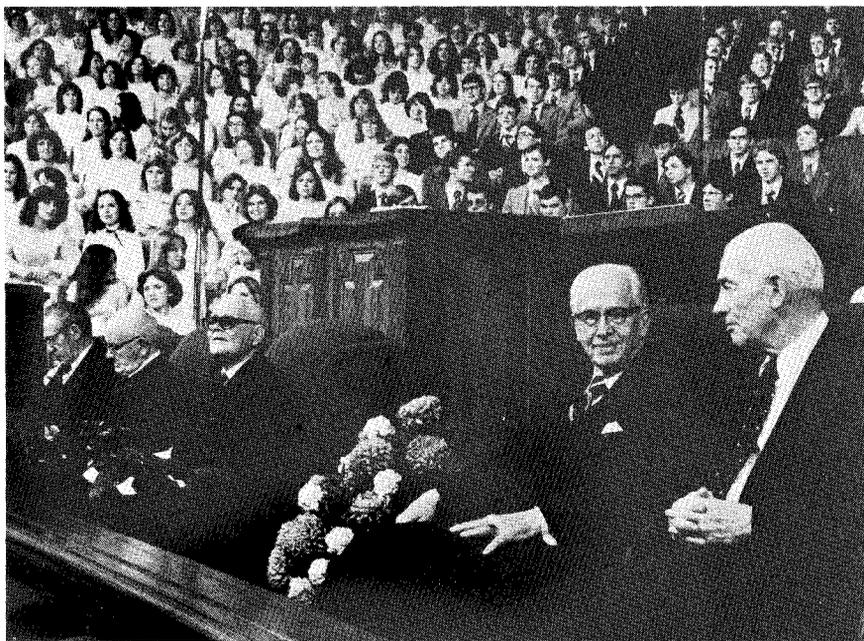
そして、現在彼らは教会の礼拝堂を建てている。それも、レンガ造りから始め、ほとんどの仕事を自分たちの手で行なっている。また、ロドルフォ・ウィリアム・モーテンセン伝道部長によると、ベルメヒロ支部はすでにワード部になっているという。ほとんどの家族が菜園を造り、中には蜜蜂を飼って蜂蜜をとっているところもある。さらに、大半の家族が一年分の食糧貯蔵を始めている。この一年、改宗者のバプテスマも急激に増加した。これらはすべて、8年前に改宗したカスタンエタ監督が、ベルメヒロの人々を福音に添った生活をするように導く方法についてビジョンを持った結果として起こったことである。まず教会員の福祉から出発し、徐々に生活のすべての面へ援助の手を伸ばしてゆく基本計画によって、このワード部は以前には想像も

つかない高さにまで高められたのである。

ここでもうひとつ、これとはまったく違う例を合衆国の中から拾ってみよう。ジョージア・アラバマ複合地区では、本計画の7つのステップを実行に移した。教会本部でその計画が承認されると、福祉活動ディレクターとその事務所を通じ、ステーキ部の福祉活動委員会、ならびにこの複合地区を構成する2つの地区評議会の協力を得て、直ちにこの計画が実行に移された。それから15カ月間に、23の生産事業が行なわれるようになった。以前は何もなかった所なのである。そして現在、資金も集まり、倉庫を建築中である。この倉庫は、今年の夏の終わりまでには完成する見込みである。また、末日聖徒社会福祉機関もすでに開設されている。このため、監督たちも困っている人々を助ける適切な訓練が受けられるようになり、聖徒たちもこのプログラム

に参加することによって、非常に大きな安心感を覚えるようになってきた。そして、15カ月前に抱いていたような怖れを抱く必要がまったくなくなったのである。主はこう述べておられる。「もし汝らに備えあれば怖ることなからん。」(教義と聖約38:30)

私たちがこれまで実際に日にしてきたように、神権指導者と実務担当者がまず、主の望んでおられる事柄を理解し、評議会を聞いてよく計画を立て、その計画を実施するならば、この現代の子言者の教えも、古代のものと同じように必ず実行できるはずである。願わくは、私たちがこの大会を機に、さらによく自分の義務を理解し、任命された務めを勤勉に果たすことができるように。(教義と聖約107:99参照) イエス・キリストのみ名により申し上げる。アーメン。



大管長会のN・エルドン・タナー第一副管長、スペンサー・W・キンボール大管長、マリオン・G・ロムニー第二副管長と十二使徒評議委員会会員のエズラ・タフト・ベンソン、マーク・E・ピーターセンの各長老(左より)

「一切の生くる者の上に自立せん」

自分や子孫の上に振りかかるあらゆる事柄に備えて、自分の持てる才能、体力、活力、能力、手段を十分に利用する必要がある



十二使徒評議委員会会員
ブルース・R・マッコンキー

私 は本日、教会員の皆さんの前に立ち、警告の声を発したいと思う。これは予言者の声である。なぜなら、私が話すことは、かつて私たちの時代について使徒や予言者たちが語ったことだからである。

それは、オリブ山上でのイエスのみ声であり、バトモス島でのヨハネの声であり、ミズーリ州における暴虐と虐殺のさ中でのジョセフ・スミスの声である。それは、今にも世の人々に注がれようとしている測り知れない苦難と滅亡に備えるよう主の民に呼びかける声である。

平和と繁栄の時代はわずかの間であり、いつまでもそれが続くわけではない。前途には大きな試練が待ち受けている。過去の悲しみや危機は、来るべき出来事の前兆に過ぎない。今や私たちは、物質的にも霊的にも自らを備えなければならない。

霊的な備えは、神の戒めを守り、聖きみたまの導きに従うことによってできるのである。この備えのある人は、この世を去った後に、パラダイスで安息と平安に就き、日の光栄の王国において究極の栄光と榮譽を受け継ぐこ

とだろう。

また、物質的な備えは、主が定められた方法で地球の資源を用いて、生活の必需品をまかなうようにすることによってできるのである。主は次のように言われた。「あらゆるものはわがものなれば、わが聖徒らを扶養するはわが目的なり。されどその事たるや、必ずわが道に適いて行われざるべからず。」(教義と聖約104：14—18参照)

一般によく言われることであるが、物質面で人を救うことのできない宗教は、霊的にも人を救う力を持たない。この世における物質的な必要を満たせなくて、どうして来るべき世において霊的な祝福を得ることができるであろうか。

土地や家屋や作物、労働や汗や苦勞、人間アダムが顔に汗してパンを食べたことなど(創世3：19参照)、物質的な事柄について主は次のように言われた。「汝らもし、日の栄の世界に一つの所を得んことをわれに願わば、わが命じて汝らに求むるところを行ないてその備えを為さざるべからず。」(教義と聖約78：7)

そして主は、教会とその会員に、福音の律法に従って物質的な「備えをなし且つ組織」するように命じられた。さらに次のように言われた。「これ、汝らに如何なる艱難下るといへども、わが摂理によりて日の栄の世界の下に在る他の一切の生くる者の上にわが教会員の自立せんがためにして、また、汝らが来りて汝らのために備えられたる冠を得て、多くの王国の統治者とせられんためなり。」(教義と聖約78：11、14—15)

福音をもたらず教会と同様、福音を受け入れた聖徒も、この世のあらゆる権力に左右されることなく、主を畏れかしこみ、霊的にも

物質的にも自らの救いを全うするようにすべきである。

しかし、艱難が間近に迫っていることを忘れてはならない。戦争が国から国へと広がってすべての国々を覆い、武装した2億人の兵士がハルマゲドンに集まるであろう。

すでに地から平和は取り去られ、殺りくの天使が働き始めている。殺りくの天使の剣は、平和の君が来られて悪人を滅ぼし、大いなる福千年の到来を告げられる時まで、さやに納められないであろう。

地震や洪水や飢饉が起り、津波が押し寄せ、雲は雨を降らせず、地の作物は枯れてしまうことだろう。

伝染病、疫病、疾病が蔓延し、死を招くであろう。また、激しい苦悩が地を覆い、荒廃を招く病気が全地に広がるであろう。あぶはこの世に住む人々にとりつき、そこにうじを生じさせ、「人々の……肉は骨より離れ眼は落ちくぼむ。」(教義と聖約29:14—20参照)

ガデアントン流の強盗団がすべての国々に横行し、不道徳な行為や殺人、犯罪が増加するであろう。また、兄弟同士争い合うような状態となるであろう。

これらの事柄について、これ以上説明する必要はないであろう。私たちは聖典を調べるように命じられている。聖典には、これらの事柄がはっきりと記されており、これらの事柄は必ず現実となることだろう。

和平条約を結ぶ外交官によって平和が得られる、人類が平和に暮らして神の戒めを守るようになれば福千年が来る、予言された末日の災いや破滅は何らかの方法で回避できる、これらはいずれも現代における悲しむべき邪説である。

私たちは平和を宣言し、戦争を避け、病気を癒し、天災に対して備えるために全力を尽くさなければならない。しかし、そのように力を尽くしても、なお来るべき出来事から逃れることはできないであろう。

自分の知識を吟味し、自分に与えられてい

る光と知力を働かせて、個人として、また教会として私たちは備えなければならない。自分や子孫の上に振りかかるあらゆる事柄に備えて、自分の持てる才能、体力、活力、能力、手段を十分に利用する必要があるのである。

悪人が滅ぼされる世の終わりの時まで、世の邪悪な状態は続くであろう。私たちはこの世の中で引き続き暮らさなければならない。しかし、主に助けを求めるならば、世のものとはならない。私たちはあらゆる種類の肉欲や世欲を克服するように努める。そして、すべての人に、バビロンから逃れて教会に加わり、末日聖徒として生活するように勧めるものである。

至高者の聖徒として、私たちは「且の栄の下に在る他の一切の生くる者の上に……自立」(教義と聖約78:14)するよう努める必要がある。私たちの望むことはただ、罪の束縛から解放され、暗黒の鎖を断ち切り、世の人々の上に立ち、高潔な生活を送ることである。

常に主を信頼し、世に染まることなく、自立しなければならない。神から授かった自由意志を働かせて、経済的、物質的な問題を解決するようにすることが必要である。

私たちは今働くためにこの世にいる。長時間、一生懸命に、勤勉に働き、背中が痛み、筋肉が疲労して固くなるまで一日中働くのである。この死すべき試しの世では、元の塵に帰る日まで、顔に汗してパンを得なければならない。

労働は人生の律法であり、末日聖徒の生活を支配する原則である。体力が続く限り、自活するという責任を他の人に委ねてはならない。施しは悪に満ちている。勤勉、儉約、自立は、救いに不可欠な要素である。

私たちは自分自身の健康を管理し、畑に種をまき、食糧を貯蔵し、日常生活の諸事を処理するために教育と訓練を受けることが必要である。霊的にも物質的にも、自分自身の救いを全うできる人間は、自分以外にいないからである。

私たちは、家族の必要を満たすためにこの地上にいる。妻は夫に、子供は両親に、年老いた両親は子供に、兄弟や親戚はそれぞれ互いに扶養を求める権利があるのである。

教会の目的は聖徒の自活を促し、また必要に応じて食物や衣服、他の必需品を作る助けを与えることである。これは、聖徒が施しというバビロンの悪に頼ることのないようにするためである。貧しい人々を助けるために、教会は農場を経営し、ぶどう畑を作り、酪農場や工場を経営するなど、多くのことを行なっている。いずれも、世の悪の力から自立するためである。

いつ末日の災害や苦難が、私たち個人の上に、あるいは聖徒の群れの上に注がれるか、私たちは知らない。それらはすべて、死すべきこの世で受ける試練と経験の一部である。しかし、主は故意に再臨の時と、それに先立つ艱難の訪れる時を私たちに知らせることを控えておられる。そして、主は私たちに、目を覚まし、常に備えているようにとだけ告げておられるのである。

私たちが最善を尽くして将来起こることに備えるならば、主は私たちに必要なものを与えて助けて下さると、私は確信している。

主はイスラエルが飢えのために滅びることのないように、40年の間、週に6日、天からマナを降らせて下さった。ところが、カナンの地で焼いたパンを食べられるようになると、翌日からマナは降らなくなった。そして、自分の手で食物を得るように求められたのである。(出エジプト16:3-4, 35参照)

また、荒野にいた40年の間、イスラエルの人々が身に付けていた着物と、足に覆っていたくつは古びなかった。しかし、約束の地に到着すると、主は彼らに、自分の着物は自分で作るように命じられた。(申命29:5参照)

エリヤ(エライジャ)の言葉により、イスラエル全土に飢饉があった時、主が再び地の表に雨を降らせて下さるまで、やもめの家のかめの粉は尽きず、びんの油は絶えなかった。

(列王上17:10-16参照) イエスの次の言葉は注目に値する。「そこには多くのやもめがいたのに、エリヤは……ひとりのやもめにだけつかわされた。」(ルカ4:25-26)

来るべき滅亡の日にすべての聖徒が救われるとは断言できない。しかし、ここで申し上げられるのは、主を愛し、主から命じられたすべてのことを行なおうと努めている人々以外に、安全や保護を約束される人はいないということである。

例えば、将来確かに訪れるであろう原水爆の大破壊から個人や集団を守るのは、信仰の力と神権の権能を除いてほかにない。

そこで、私たちは警告の声を挙げて申し上げるのである。「警戒しなさい。備えなさい。目を覚まして準備しなさい。」従順と一致と正義以外に安全な道はない。

主は次のように言われた。「主の責罰は夜となく昼となく来り、またその風説はすべての人々を悩ますべし。誠にそは、主の来るまで止めらるることなからん。……

さりながら、シオンもしわがすでに命じたるところを何にてもすべて守り行わば免れん。

されど、シオンもしわがすでに命じたるところを何にても守り行わざる時は、われ激しき苦悩、疫病、災、剣、応報および焼尽す火をもて、すべてシオンの為したる業に従いてこれを報いん。」(教義と聖約97:23, 25-26)

父なる神よ、旋風のごとく全地に来る艱難の日に、平安と安全と保護とを私たちに与えたまえ。

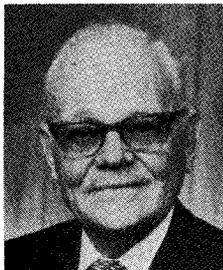
悪の力を退け、私たちの前に道を開き、汝の民を個人として、教会員として、日の光栄の世界の下にある他の一切の生くる者の上に自立させたまえ。

私たちを汝の愛のみ腕の中に永遠に抱きかかえ、私たちに、汝の王国における永遠の救いを得させたまえ。

イエス・キリストのみ名により申し上げる。
アーメン。

教会福祉の基本

主は断食献金を惜しみなく納めるように言われた。これを行なう者には豊かな報いが与えられる



第二副管長
マリオン・G・ロムニー

私はこの集会で、教会福祉の基本について話す責任を与えられた。皆さんは、マックコンキー兄弟の説教をお聴きになって、教会福祉の基本がよくおわかりになったことと思う。

自らの労働によって生活するようというのが、教会福祉の基本である。主は、私たちの始祖に言われた。「あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る」(創世3:19)と。

私たちは世の方法を取捨して、生活必需品の支給を政府に求めるという、世間一般に見られる態度を拒絶しようではないか。この慣例が、もしも全面的に取り入れられることにならば、自由社会は隷属社会になってしまうことだろう。労働の大切さを教える福音を擁護しようではないか。そして、自立しよう。救いは個人の問題であり、集団の救いなどあり得ない。ある人々は、パウロの次の言葉を誤って理解している。「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。」(エペソ2:8-9)この聖句から、行ないすなわち労働は不必要で

あるという誤った解釈をしている人がいる。

しかし、ニーファイは次のように真理を語った。「人が最善をつくしてはじめて、神のめぐみにより救われる。」(IIニーファイ25:23)

イエス・キリストの贖いの血の効力を自身自身に招いて救いを得るには、最善を尽くすことが必要である。政府の施しを受けていては、真珠の門をくぐることはできない。また、だれかの助けを当てにしている人も、その門をくぐることはできないのである。

したがって、教会福祉における行動の第一の原則は、できるだけ自活することである。

第二の原則は、家族が団結して、互いに支え合うことである。両親は子供を扶養するように神から命じられており、子供たちは両親を養う責任を課せられている。

しかし、自活できず、家族からも援助を受けられない教会員には、教会福祉の第三の原則が適用される。すなわち、神が命じておられるように、教会員がそのような人を援助するのである。

福音の神権時代ごとに、主は聖徒たちにこれらの原則を教えられた。

ここで私は、自活することの大切さについてお話ししたいと思います。多分皆さんは何回となくこのことを耳にされたことだろう。皆さんは、過去のいかなる時代にも増して、生活物資の不足する日に対する備えを今十分に行なっておかなければならない。その日はやがて来る。私は、その日があまり速く来ないように願っている。自分の生きている間に来ないことを願っている。しかし、遅かれ早かれその日は来ることであろう。

たとえ数年前ほど、自給の大切さについて多くのことを聞かなくなったとしても、決し

てこのことを忘れてはならない。それは、聖徒たちがこの盆地に到着して以来、ずっと教えられてきた基本原則だからである。私たちは、収穫の日に、次の収穫日まで自給できるだけの物を蓄えるように勧められている。欠乏の時代に自給できるだけの備えをしていたきたい。

私は、どのようなことが起こるか知らない。私に次のように尋ねる人がいる「どうすればよいのでしょうか。もし私たちが一年分の貯蔵をしても、他の人々がしなければ、貯蔵品は一日でなくなってしまうです。」確かに、貯蔵品が尽きれば終わりである。しかし、私はそのような心配をしていない。主から告げられたことを行ないさえすれば、主は必ず私たちに必要な助けを与えて下さるであろう。

主はイスラエルの民にエジプトの地を出るように告げられた。そして、御存じのように、彼らはエジプトを出た。しかし、彼らが紅海にたどりついたところで、パロの軍隊に追い付かれた。どうしたらその軍隊から逃れることができるか、イスラエルの民は思い悩んだことであろう。彼らにはその方法が分からなかった。しかし、主は御存じであった。その時が来ると、主はモーセに言われた。「あなたのつえを上げ……なさい。」(出エジプト14：16)モーセがつえを上げると、紅海の水が分かれて乾いた地が現われ、イスラエルの民はひとりの命も失われずにその海を渡った。もし彼らが主から命じられたことを行なっていなければ、そのように守られ、救われることはなかったであろう。

主から告げられたことを行なおうではないか。そして、主を信頼しよう。そうすれば、欠乏の時代にも、主は私たちに必要な助けを与えて下さるであろう。

主から告げられた大切な戒めのひとつに、惜しみなく断食献金を納めることがある。この戒めを守る者には、物心両面の豊かな報いが与えられることを知っていただきたい。主が言われるように、私たちの祈りが答えられ

るか否かは、貧しい人々に寛大であるかどうかによる。イザヤの時代に、主はこのことを明らかにされた。当時、人々は次のように不平をもらした。「われわれが断食したのに、なぜ、ごらんにならないのか。われわれがおのれを苦しめたのに、なぜ、ごぞんじないのか。」(イザヤ58：3)すると主は答えて言われた。

「このようなものは、わたしの選ぶ断食であろうか。人がおのれを苦しめる日であろうか。そのこうべを^{かぶ}輦のように伏せ、荒布と灰とをその下に敷くことであろうか。あなたは、これを断食ととなえ、主に受け入れられる日と、となえるであろうか。」(イザヤ58：5)

私たちはどうであろうか。断食をする時に、顔をしかめていないだろうか。今にも飢え死にしそうな顔をするのではないだろうか。古代のイスラエルの民に、主は次のように問いかけておられる。

「わたしが選ぶところの断食は……飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸の者を見て、これに着せ、……などの事ではないか。」さらに主は言われる。

「そうすれば、あなたの光が暁のようにあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。

また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。……

飢えた者にあなたのパンを施し、苦しむ者の願いを満ち足らせるならば、あなたの光は暗きに輝き、あなたのやみは真昼のようになる。」(イザヤ58：6-10)

これらの比類ない祝福について考えていただきたい。すべては、貧しい人々に惜しみなく与える人への約束である。

「主は常にあなたを導き、良き物をもってあなたの願いを満ち足らせ、あなたの骨を強くされる。あなたは潤った園のように、水の

絶えない泉ようになる。」(イザヤ58：11)

モルモン経の偉大な予言者、アミュレクの教えによれば、祈りが答えられるか否かは、貧しい人に寛大であるかどうかによる。この偉大な予言者は、アルマの伝道中の同僚である。アルマ書第34章に記されている彼の説教は、モルモン経の中で最も偉大な説教のひとつに数えられている。彼はキリストの贖罪について語った後、次のように述べている。

「それであるから私の兄弟らよ、ねがわくはあなたたちが悔改めを生ずる信仰を起し、神が自分たちを憐みたまうよう、神の御名によって祈り始めることを神が許したまわんことを。」(アルマ34：17)

ここでアミュレクは、美しい言葉で祈りについて教えている。

「家に居る時はあなたの家族全体について朝も昼も晩も神に祈れ。……

一切の義しいことに敵対する悪魔を防ぐことができるように神に祈れ。

あなたの田畑の収穫が豊であるよう、その作物について神に祈れ。……

こればかりではない、あなたが一人で部屋に居るときも、秘密の所に居るときも、また野に居るときも心にあることをうち明けて祈れ。

声をあげて主に祈らない時でも、自分の為また自分のまわりの人々の為を思ってたえず心の中で主に祈れ。」(アルマ34：21, 23—24, 26—27)

さて、このように祈る人々は極めて善良であると考えられる人がいるかもしれない。しかし、アミュレクはもうひとつ大切な資格を付け加えている。

「私の愛する同胞よ。これで満足だと思っ
てはいけない。たとえこれらのことをみな行っても、もしも貧しい者や着る物のない者の願いをことわり、病んでいる者、あるいは悩んでいる者を見舞わず、持物がありながらその幾分を貧しい者に施さないならば、あなたたちの祈りは空しくなってその効果はなく、

またあなたたちの神の言葉を否定する偽善者のようになるであろう。

それであるから、もし忘れずに慈善を行わないならば、あなたたちは金銀を精製する人たちに(価がないから)棄てられて、人の足で踏まれる鉄かすのような者である。」(アルマ34：28—29)

貧しい人に寛大でなければ、このような恐るべき結果に見舞われるということは、何とも驚くばかりである。旧約聖書やモルモン経の聖句には拘束されたくないと考える人は、教義と聖約から引用する次の聖句を考えていただきたい。

教義と聖約第104章から数節をお読みしたいと思うが、その前に、その聖句の内容について御説明しよう。ここで主は、地球が御自分のものであることを宣言され、私たちが主から離れて独自に管理したり所有したりできないと述べておられる。貯蓄や債券の額がどれほど多くても、また所有する土地や財産がどれほどあっても、それらはすべて私たちのものではない。主のものである。さらに主は、私たちにすべての祝福を授け、それらを管理する責任を与えるとされる。主の目的は聖徒たちを扶養することにある。しかも、主の方法で行なうように、主は求めておられる。その方法とは、持てる者が持たない者に与えることである。主は私たちを管理の職に任じるにあたって、私たちに自由意志を与えて下さっている。これらの祝福を受けていながら、貧しい人々に自分の持ち前を分かちことを拒む時、その人はどこに行くのか、主はそれを告げておられる。では、その啓示を読んでみよう。

「そは、わが生くる者の為^{つかさ}に造りて備えたるこの世の幸福を掌^{つかさ}どる者として、すべての人をしてその責に任せしむるは主なるわれ必要とするところなればなり。

主なるわれは諸々の天を上げ、わが手づから創れるもの、すなわちこの地を築きたり。されば、その中にあるよろずのものはわがも

のなり。

あらゆるものはわがものなれば、わが聖徒らを扶養するはわが目的なり。

されどその事たるや、必ずわが道に^{から}適いて行われざるべからず。見よ、この道は主なるわれ、わが聖徒らを扶養するため命を下したるところにして、貧しき者は高くせられ、それにて富める者は低くせられんことなり。

地は物に満ち足りて余りあり。然り、われよろずの物を備えて人の子らにこれを与え、人各々を自由意志^{なごび}によりて動くものとなす。

この故に、もし何人たりともわが造りし多くの物の中より取り、わが福音の律法^{おきて}に従いてこれを貧しき者乏しき者に自己の取前^{とりまへ}をわかつことをせざる時は、悪人と共に地獄に落ちて苦悩を受け目を挙げて望み視ん。」(教義と聖約104：13—18)

この啓示は、私たちへの指針としてこの神権時代に与えられたものである。この啓示に照らして考えた時に、貧しい人々に目をくれないで、主の祝福を受けられるといえるだろうか。言えるわけがない。主に従わなければ、罰が科せられるであろう。

教会福祉の原則と意義について、もうこれ以上話す必要はないと思う。次に、神権指導者の果たす責任について少しだけ申し上げておきたい。

実施

今朝皆さんは、神権評議会について簡単に説明を受けた。これは何ら新しいものではなく、その適用範囲をステーク部レベルから中央レベルの間に拡張したに過ぎない。私は長年の間、各地の教会を訪れて、ステーク部長と共に地区の福祉集会に出席する特権を得た。この集会が地区や複合地区レベルの問題を処理するのにどれほど大切か、私は十分承知している。福祉に携わる多くの人々がすでに何年間も行なってきたことが、今朝、正式に承認されたのである。私たちは確かに長年福祉の仕事に携わってきたが、まだ行なわなければ

ならないことはたくさんある。そこで、地区、複合地区、地域の評議会は福祉活動をどのように確立したらよいか、その方法を提案したいと思う。

最初に申し上げておくが、教会の多くのプログラムは大管長会から宗務あるいは実務の指導者に割り当てられる。けれども、福祉活動はどちらか一方にだけ割り当ててはできない。

福祉活動は、中央福祉活動委員会より運営の指示を受ける。この委員会は、大管長会、十二使徒定員会、管理監督会、中央扶助協会会長会、および福祉事業部の実務ディレクターにより構成される。また福祉活動は、管理監督会の指示の下に実施される実務的な活動に似ているので、福祉事業部は管理監督会を経由して中央福祉委員会に報告する。しかし、福祉事業部は、福祉活動で重要な役割を果たす宗務および実務の指導者の援助機関を務める。

代表役員の役割

地区の代表役員の皆さんは、鼓舞し、計画し、方針からはずれないように見守ることによって、担当地域の福祉活動が順調に実施されるようにしていただきたい。また、地区代表が福祉活動の原則と実施についてよく理解できるように訓練を施す責任もある。この訓練を効果的に行なうには、管理監督会と福祉事業部の援助を仰ぐことである。これらの組織には、今朝ここで提示された各評議会のレベルで、代表役員と協力して働くようにすでに依頼してある。

十二使徒定員会と七十人第一定会会長会から与えられる指示に従えば、あなたの管理するすべての地域で、福祉活動の偉大な成果を期待できるであろう。

地区代表の役割

地区代表の皆さんは、福祉活動プログラムについて教え、その実施を促す大切な責仕を

負っている。

皆さんは、宗務の指導者、特に代表役員から、教会福祉活動の原則と教義について教える際に指導を受ける。皆さんには直接運営に携わる責任はないが、地区や複合地区の福祉活動担当者に協力する必要がある。

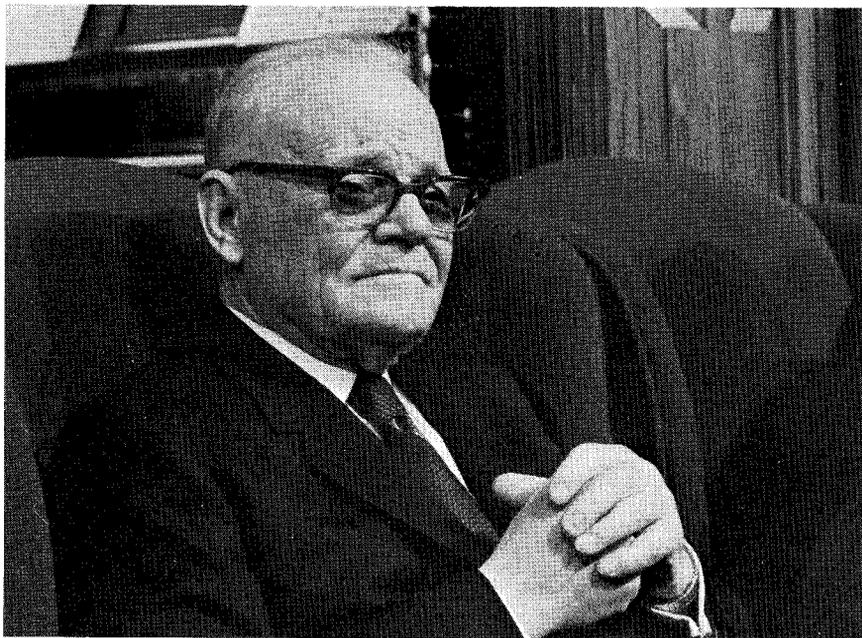
皆さんは、第1回の正式な地区評議会を召集すると同時に、担当地区における福祉活動の責任者となる。そして、地区福祉活動主任と協力して、代表役員の指示通りに福祉活動を運営しなければならない。そのようにする時に、霊的に深い満足感を味わうであろう。

私は、教会福祉活動の実施にあたって、地区代表がきわめて重要な位置を占めていることを強調したいと思う。地区代表の働きいかんで、担当するステーク部の福祉活動プログ

ラムは、成功もするし、失敗もするのである。

ステーク部長と監督は長年、ステーク部やワード部で福祉の基本原則を教え、実施する大きな責任を果たしてきた。これらの方々の働きは、今朝発表された新しい組織を通じて、大いに高められるべきである。特に監督の皆さんが、これから数カ月先、あるいは数年先に、この福祉活動において大きな成果をあげて下さることを期待している。

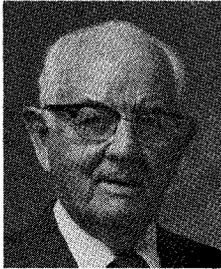
私たちすべての者が各自の義務を一生懸命に果たし、教会福祉活動プログラムを実施して、これを生活に取り入れることができるようにへりくだって祈るものである。これらのことを私たちの贖い主イエス・キリストのみ名によって申し上げる。アーメン。



マリオン・G・ロムニー第二副管長

福祉活動の原則を適用する

地区と地域の評議会が設立された目的は、ステーク部やワード部における教会の業を促進することであり、また特に家族を助けることである



大管長
スペンサー・W・キンボール

愛する兄弟姉妹の皆さん、教会の総大会は人々の胸に何と大きな喜びを与えることだろう。今またこの会で皆さんと共にみたまの導きを感じ、また皆さんの熱意と力に触れ、皆さんがこれまで行なってこられた業と成果を伺い知ることができ、心から感謝している。

1970年代のこの10年間に、教会は著しい発展を遂げてきた。主はこの教会に祝福を与えて下さっており、この教会の発展は今後さらに加速されることだろう。今朝、数名の教会幹部の方々から説明があったように、神権評議会が地域や地区レベルにまで拡張されたのは、このような教会の発展に則応できるようにするためである。

主は啓示を下して、この変化と発展に対応できるように、教会の神権組織を備えて下さったのである。そのことについては、すでに十分に説明があったので、改めて詳しく述べる必要もないと思う。しかし、きょうの発表の先例となる出来事を教会歴史の中からひとつ引用して御紹介したい。

「きょうの午後、十二使徒会は評議会を開き、一同が告白する機会を設けた。……私た

ちの別れる時が近づいてきた。この次いつ会えるか、それは神のみが御存じである。そこで私たちは、私たちが予言者、聖見者として認めている人に尋ねた方がよいと感じた。そうすれば、彼は私たちのために神に尋ね、啓示を受けて下さるであろう。そして、(その啓示が変わらない限り) 私たちは別れる時、その啓示に従えばよい。そうすれば、私たちの心は慰められるであろう。……まことに大いなる啓示を与えて下さるようお願いした。啓示は、私たちの心を広げ、苦難の中で私たちを慰め、暗黒の力の真ただ中で希望の光を投げかけてくれるからである。」(History of the Church「教会歴史」2:209-10)

この要請に答えて、予言者ジョセフ・スミスは主に伺い、現在の教義と聖約第107章にある啓示を受けたのである。

「十二使徒会は、巡回管理高等評議員会にして、教会の大管長会の指揮下に於て、天のきんけん制にあて適うよう主の御名によりて職務を行う。すなわち、これらの者は教会を設立し、よろずの国民に於ける教会のあらゆる事務を整理し、まず異邦人より始めて次にユダヤ人に及ぼすべき者たちなり。

『七十人』は十二使徒会すなわち巡回高等評議員会の指揮の下に教会を設立し、またよろずの国民に於ける教会のあらゆる事務を整理するに主の御名によりて行い、まず異邦人より始めて次にユダヤ人に及ぼすべき者たちなり。」(教義と聖約107:33-34)

つまり、十二使徒会は、教会の大管長会の指示の下に主のみ名によって職務を行なう。そして、七十人は、十二使徒会の指示の下にその職務を果たすのである。またこの啓示には、主のみ業で必要とされる時に、地区代表

やその他の人々が備えられることも述べられている。

「然るに十二使徒会にも『七十人』にも属せざる他の教会職員は、すべての国々を巡回する責任を有することなし。されど事情の許すかぎりには巡回すべきものなり。而して教会に於て重要にして責任ある地位を有することを得。」(教義と聖約107:98)

主は、神権による教会の管理を完全なものとするために、「監督職に就けるすべての事務を処理する」方法と、王国の実務を行なう方法を示して下さった。(教義と聖約82:12参照) 再び、教義と聖約第107章を読んでみよう。

「そは監督の職は、すべてこの世に属することを執り行えばなり。……

さりながら、メルケゼデクの神権の大祭司は、真理の『みたま』によりてこの世に属ける知識を有つ故に、この世に属けることの奉仕をなすために特に任命せられ得べし。

またこの大祭司は、イスラエル人の中の判士となり、教会の事務を執り……」(教義と聖約107:68, 71—72)

ここ数年の間に、この啓示された方法はますますよく応用されるようになってきた。そして今日私たちは、全世界の国々に教会を打ち建てるためにこの啓示をどのように適用するか、その方法をさらにはっきりと理解しなければならない。世界の動きを見てみると、王国の諸事を処理するこの方法は現実には現しているだけでなく、数年後には必ず必要とされるものである。

このように王国が組織されると、十二使徒定員会の兄弟たちは教会を巡回し、必要な秩序を打ち建てることができる。しかし、従来行なっていたようにプログラムや各部門の管理の責任は負わないのである。各部門やプログラムの指導と管理は、今後、七十人第一定員会の教会幹部の仕事になるからである。また、七十人第一定員会の兄弟たちは、管理監督会および教会の実務部門から積極的かつ有能な支援を得ることが出来る。これらはすべ

て、私たちが一致協力してさらに前進し、かつてなかったほどの速度で歩みを速めてゆくためである。

地区と地域に神権評議会を設立した目的は、ステーク部やワード部における教会の業を促進することであり、また特に家族を助けることである。兄弟姉妹の皆さん、このことを御理解いただきたい。

ステーク部長の皆さんには、今回の発表が皆さんの肩の重荷を幾らかでも軽くするものであることを理解して下さるように願っている。これらの責任の大部分は今後、地区代表に移行され、皆さんは自分のステーク部の諸事に全力を傾注できることになった。そこでこのことを踏まえた上で、福祉活動を含む教会の諸活動を管理、指導するステーク部長の義務と特権について少し述べておきたい。

ステーク部長の仕事的印象深く感じた最初の模範は、私の父、アンドルー・キンボールである。父は1898年から1924年まで、実に26年半の間、シオンのセントジョセフ・ステーク部の部長を務めた。このステークの名前は、殉教した予言者の栄誉をたたえて付けられたものである。家族はつましい生活をしていたが、父は、どのように貧しい人々の世話をすればよいかを監督に教えただけでなく、しばしば苦難にあえぐ人々を自ら助けていた。そのような人々に対する父の献身は、かつてジョセフ・F・スミス大管長が授けて下さった祝福の成就だと私は思う。父はジョセフ・F・スミス大管長から、ヒーラ盆地の人々がやがて父を、「親を慕う子供」のように慕ってくるであろうとの約束を受けていた。もちろん、当時の私には、父の行なっていることがすべて理解できたわけではない。けれども、父が示してくれた模範は、どのステーク部長にも必要なことだと思った。

父は自分が説くことを自ら実践した。ただ人々に、自給自足をしようと説くだけではなかった。私たちはいつも家族として模範を示すように教えられた。私たちは自分たち

の食糧のほとんどすべてを自分たちの手でまかなった。父はいつも菜園の手入れをしていた。食物を得、素晴らしい香りを与えてくれる菜園の手入れをした。私はよく水をくみ、菜園に水をやった。そのほか、牛の乳しぼりをしたり、果樹園の木を刈り込んだり、囲いの修理を手伝ったりした。私には兄がふたりいたが、彼らはいつも簡単な仕事をして、いつも大変な仕事を私に回した。しかし、私は不平を言わなかった。その結果、私は体が強くなった。

私もまた、ステーキ部長として奉仕する特権に浴した。1938年にセントジョセフ・ステーキ部から分かれてできた、マウントグラハム・ステーキ部の最初のステーキ部長に召されたのである。ステーキ部長の皆さんが経験しておられるように、私もまた、苦難を負っている人々と悲しみや喜びを共にしてきた。

1941年9月の洪水のことを、私は今でもよく覚えている。ステーキ部大会の開かれる週末に雨が降り続いた。そして、ステーキ部大会の翌日、ついにヒュー川は氾濫し、アリゾナ州のダンカンとその一帯に洪水が起こった。私は、聖徒たちが早急に必要なものについて、第一副ステーキ部長のバーノン・マクグラス兄弟と話し合い、直ちにサフォードにあるステーキ部共同の福祉倉庫から物資を車に積んで、60キロほど離れたダンカンに向かった。私たちはその地に到着すると、必要な手配を整えた後、車では橋が危ないということで、バーデンまで13キロの道のりを歩いて行った。私は、洪水で破壊した家や農地の荒れた様を見た時、まったく悲しくなってしまった。しかし、それからの数週間、私はステーキ部長の在任中で最も充実した経験をする事ができた。私たちは高等評議員会とワード部監督会の力を得て、再建に乗り出した。福祉倉庫からの支給品と地元の人々の労働によって、再建工事を開始した。地域の聖徒たちは素晴らしい献身振りで、私たちは結局、中央福祉委員会に援助を要請しなかった。地元の力だ

けで処理したのである。

これとはほぼ時を同じくして、教会員に、経済的な自立を図り、負債を避けるようにと切に助言したことを覚えている。私が召された時は、まだ大恐慌の余韻が残っていた。当時はまだ個人と家族の備えという呼び方はしていなかったが、私たちはステーキ部内の聖徒たちに、自分の必要は自分で満たすようにと教えた。多少言葉の違いはあったが、私たちはすでに労働、自立、愛、奉仕、奉獻、管理の基本原則を説いていた。

私は自らこのような体験をしたこともあって、1936年に福祉活動が再び強調されるようになって以来、教会がこのように大きな発展を遂げてきたことを思うと感慨無量である。

自分の過去の経験と、現在聖徒たちが必要としている事柄を考慮した上で、もしも私が今ステーキ部長の職にあるとしたら、福祉活動の中でこうするであろうと思うことを述べてみたいと思う。

まず第1に、私はプログラムを研究する。聖典や手引き、それに福祉活動に関する資料を研究する。そして、福祉活動こそ「福音の実践」であることを理解するであろう。

福祉活動は次の3つの部分から成っていると思う。第1に、将来を見越した生活をする事によって問題が起こるのを予防する。第2に、緊急の助けを必要としている人々に一時的な援助を与える。第3に、根の深い、あるいは長期的な問題を抱えている人々を社会復帰をさせる。

私は40歳の初めに、ステーキ部長として教会の総大会に出席し、クラーク副管長がこれらのことについて話されるのを聴いたことを今でも覚えている。これらのことは当時と同様、今日でも言えることである。

ステーキ部長である私が行なわなければならない重要なことは、ステーキ部福祉活動委員会の委員長としての義務を学び、また地区福祉活動評議会に活発に参加することである。兄弟の皆さん、ある種の福祉活動は地区また

は複合地区レベルで行わなければならないということをよく認識していただきたい。たとえ、すべての設備を自分のステーキ部に設置する方が便利だとしても、地区評議会で他のステーキ部に設置することが決定されたら私はそれを支持するであろう。

物事は、自分の生活に応用して初めてよくわかるものである。私は福音の基本原則が自分の生活に、また家庭に欠けている状態を目にしたくない。私は個人と家族の備えの教えに従いたいと願っている。すなわち、菜園を造り、家族の資源を上手に管理し、教育の視野を広げたい。また、健康を保ち、家庭貯蔵を増やし、家屋や敷地の手入れをしたい。そのほか主から命じられたすべてのことを行ないたい。

ステーキ部長として、父が地域社会に示したもうひとつの模範がある。父はいつも努めて家の中や庭をきれいに整えていた。ごく当たり前のことのように父はそれを行っていた。サフォードに年老いたひとりのカウボーイが住んでいた。ちょうどそれは、私が使徒に召された頃のことだった。そのカウボーイは私の家に来ると、こう言った。「スペンサー、わしは昔、集会に行く時、いつもあなたの家のそばを通ったものだ。それで気がついたんだが、大会のある時は、いつも家の周りがきれいに掃除されていた。だが、そうでない時は、あまりきれいになっていなかったね。」

さらに私は、福祉活動のために自分の持ち物を捧げるようにしたい。私は、断食献金を惜しみなく納め、定員会会員として福祉活動の割り当てに喜んで応じたいと思う。

第2に、自分でできるだけ学んだ後、その福祉活動の原則と実施方法をワード部やステーキ部の役員に教える。同時に、福音の原則と義務、それに具体的な割り当ても教える。副ステーキ部長と共に、聖典に記されているように、監督に「貧しき者を探ねて富める者おごれるものの謙りへりくだによってその乏しきにきを賑わしめ」(教義と聖約84:112)のことの大切

さを教えよう。

聖句を引用してその理由を述べ、また断食の律法と倉庫の利用法、個人の必要の判定基準、被援助者に与える仕事の種類、個人的な問題を抱えている人々への助言の仕方などについて教える。しかし、私たちが決して忘れてならないことは、このような困っている人人に実際に援助の手を差し伸べるのは、監督のみに委任された責任であるということである。

また、私たちは、ステーキ部扶助協会の姉妹たちに、家庭訪問によって監督を助けるにはどうすればよいかなどという事柄について、ワード部の姉妹たちを訓練するように教える。さらに、定員会指導者には、有意義なホームティーチングを行なうこと、個人と家族の備えを促すこと、重大な問題を持つ兄弟を助けることなどについて指導する。

第3に、ステーキ部でできる範囲で福祉活動を実施する。本当の祝福は実行することによって得られるからである。「実行!」これが私たちのモットーである。しかし、今朝の話を伺っていると、こう書き加えた方がよいかもしれない。「計画をして実行する!」と。とにかく、全体の一部であるかもしれないが、私たちは計画した後に、それを実行し、仕事を成し遂げるようにすることが必要である。

奉仕の機会はたくさんあり、満たすべき必要は数々ある。デゼレト産業の資材集めから、生産の増加、さらに定員会を通じて行なう就職のあっせんまで、実行しなければならないことはいろいろある。また、断食献金を集め、レーマン人の兄弟姉妹のために里親を見つけることもそうである。自己を犠牲にすること、互いに助け合うことも福祉活動の実践である。

結局、この偉大な計画は、与える者と受ける者の双方に祝福をもたらすものである。与える者は、「彼らのいと小さき者に捧ぐるとも皆われに捧ぐればなり」(教義と聖約42:38)という聖句、また受ける者は、「あらゆるものはわがものなれば、わが聖徒らを扶養するは

わが目的なり」(教義と聖約104:15)という主の約束を忘れないようにすることである。

教会はいつもすべての主の子供たちに関心を持ってきた。私は、1907年の中国の大飢饉のことを思い出す。当時の大管長会のジョン・R・ワインダー副管長は、苦難にあえぐ民に20トンの小麦粉を送ることを総大会で発表した。その時、B・H・ロバーツ長老がこの決定を支持してこう述べた。

「いかなる災難も、私たちの慈愛の心が及ぶ限り、決して天父の子供たちの上に降りかかることはない。この計画は、本大会で全会一致の支持が得られるものと私は信じている。この計画は、愛と宗教的な目的のために物資を集めるといふ私たちの方法が賢明なものであることを証している。この地上に、絶えず愛の集積されている組織があることを、神に感謝したい。必要な時に、人の子らに恵みを施す手段があることを感謝したい。また、キリストの教会の中にこのような蓄えをするよう教えて下さった神の知恵に感謝したい。私は心から、ワインダー副管長の発表された決議を支持するものである。」(Conference Report「大会報告」1907年4月、p.59)

決議案は全会一致で採択された。

先日、合衆国とカナダ地域、さらに多くの穀物貯蔵庫を建設する認可を出した時、私はこの話を思い出した。そして、きょうも、指導者の方々に福祉プログラムを実施する義務のあることをお話ししながら、この話を思い出した。

先程も申し上げたように、行なうことによって、実行することによって初めて、本当の祝福は来るのである。私は、現在の教会の発展を非常に喜んでいる。私たちは皆さんに大きな期待を寄せている。また、今後も引き続き皆さんの管理の職の範囲内で築き、改善し、働き、歩みを速めるようお願いしたい。と同時に、皆さんが立派に働いておられることを知り、この公の場を借りて感謝の言葉を述べたい。

次に、インディアン学生里親プログラムのために奉仕し、犠牲を払って下さっている方に愛と感謝の気持ちをお伝えしたい。素晴らしいインディアンの両親の皆さんに、私たちの愛をお伝えしたいと思う。皆さんが子供たちを手放して教会の完全なプログラムに託し、立派な教育を受けさせようと多くの犠牲を払っていることを、私たちはよく知っている。このような皆さんの愛は、子供たちの生活に祝福をもたらすと同時に、彼らの家族をも強めることになる。また、自分の生活と時間、さらに財産をも差し出して協力して下さっている里親の皆さんにも、心から感謝を申し上げたい。このようにレーマン人の青少年を受け入れるには、愛と2里行く精神が必要である。人々に愛を示し、無私の奉仕をして下さっている皆さんと皆さんの家族には、多くの祝福が与えられることだろう。このプログラムから、里親の家族も、インディアンの家族も祝福を受けることができるのである。この里親制度は主から靈感されたプログラムである。すでにレーマン人の青少年の多くが教会の力強い指導者となっている。また、地域社会、ひいては世界の指導者として活躍している人も多い。

監督の皆さんには、教会公認のこの大切なプログラムを今後も継続してゆくようにお勧めしたい。このプログラムによって恵みを受けることのできるレーマン人の青少年を捜し、彼らがバラのような花を咲かせることができるよう導いていただきたい。ステーキ部長の皆さんは、このことを監督に指導するようにしていただきたい。

次に、福祉農場を効率よく、経済的に、しかも安全に経営し、その農地をきれいによく整えていると自信を持って言える方々にも感謝したい。福祉農場は、ステーキ部長が管理の原則について教える絶好の場である。この発展を阻止する要因があるとすれば、それは指導者の問題であろう。この福祉農場のために委員会を組織し、効果的に委任をし、そし

て報告を受ける面接を定期的に行なっている
ステーク部長の皆さんに心から感謝している。

また、質の向上を計ることの大切さを理解
しておられる方々にも感謝申し上げたい。主
にとっては、質の限界というのではない。自分
たちの福祉農場で生産する物を主のみ業のた
めに使えるということは何と素晴らしいこと
ではないだろうか。

私たちはまた、新しい倉庫、かん詰め工場、
デゼルト産業ビルの建設の報告を受け、非常
に喜んでいる。これは大きな犠牲によってで
きたものである。十分な力が備われば、この
業務を担当する人々から認可が得られるであ
ろう。私たちがこのような倉庫を持つことは
主の願いである。これらの倉庫を通して、私
たちは貧しい人や困っている人を助けること
ができるのである。

主は、教会の最初の管理監督に次のような
勧告を与えられた。

「また監督たる者はこの教会に一つの倉庫
を指定し、この民の必要以上に余れる金銭糧
食は両つながらすべて此所に保存し、監督の
手に於てこれを管理すべし。……

かくの如く、われこの民にわが律法に従い
て組織する特権を許す。……

見よ、これはエドワード・パートリッチに
示された一つの範例にして、こは他の土地
にてもすべての支部教会にても以て範例とな
すべきことなり。」(教義と聖約51:13, 15,
18)

主は今日でも、主が示された範例に従うこ
とを望んでおられる。現在のブラウン管理監
督は、事情の許す限り、すべての支部教会が
この範例に従うよう導く責任がある。そのた
めに努力を払っておられる方々にも、私たち
の愛と感謝をお伝えしたいと思う。

ここで今一度、私たちが今行なっている業
は、単に私たちの業ではなく、主のみ業である
ことを申し述べておきたいと思う。私たちは
主の王国を建設している。そして、その王国
の一員としての特権を受けている。そのよう

な重大な責任を持つ私たちは、主が教義と聖
約第105章の中で述べられておられる勧告を
そのまま実行する義務があるのである。

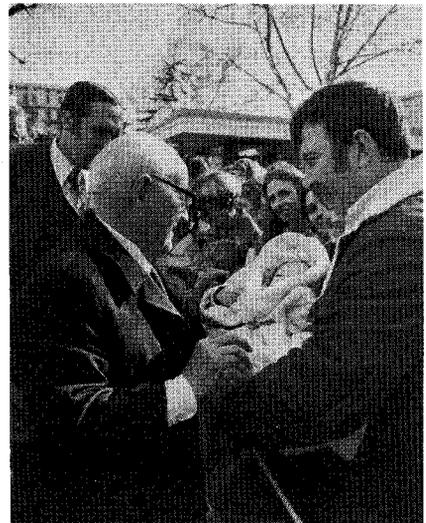
「およそ日の栄の王国の律法の諸原則によ
らずんば、シオンを建つこと能わず。これ
によりて建てずば、シオンをわれに受け入る
ことかなわざるなり。

されば、わが民の律法に従順なることを覚
るまでは必ずこれを懲しむるを要す。もし必
ず要すれば、彼らの受くることによりて打ち
懲しめらるるなり。……

シオンの王国は誠にわれらの神とそのキリ
ストの王国なれば、いざわれらその律法に従
うべし……」(教義と聖約105:5-6, 32)

最後にもう一度、これまで皆さんが行なっ
て下さったすべての事柄に心から感謝を申し
上げたい。

神が生きておられ、これが神のみ業である
ことを私は知っている。私は、これからも絶
えず神の靈感があって、私たちが正しい判断
ができるように主に祈っている。これらをイ
エス・キリストのみ名により申し上げる。ア
ーメン。



赤ん坊をあやすスペンサー・W・キンボ
ール大管長

地区代表セミナー報告

1979年3月30日に開催された本セミナーでは、スペンサー・W・キンボール大管長の説教が特に強い印象を投げかけている。(p. 149 参照) この金曜日のセミナーでは、ほかにも何人かの教会幹部が、組織上の変更を提示した。キンボール大管長も、「この末日における主のみ業の進展を速めなければならない」と語っている。

エズラ・タフト・ベンソン会長とビクター・L・ブラウン監督は、地域と地区に評議会を設置することについて説明した。(詳しくは、福祉部会での説教を参照 pp. 128—132)

その後、ゴードン・B・ヒンクレー長老の司会で、質疑応答の場が設けられ、L・トム・ベリー長老、トーマス・S・モンソン長老、デビッド・B・ヘイト長老、J・リチャード・クラーク副監督が質問に答えた。そこでヒンクレー長老は、変更がそれほど大きなものではないことを強調した。

1. 地域担当教会幹部と地域管理監督の役職名がそれぞれ、代表役員、地域監督と変更された。
2. 地域および地区の評議会は、中央、ステーク部、ワード部の評議会で行なわれていると同様に、宗務と実務の両方について相互調整する。
3. これまでステーク部長に課せられていた複合ステーク部に関する責任は、今後地区代表が担当する。

N・エルドン・タナー副管長は、これらの組織上の変更がすべての教会幹部から全面的

な支持を受けたものであることを述べた。「これによって主のみ業の進展が速まりあらゆるレベルにおいて教会の諸事の管理運営が確実に行なわれるようになるであろう。」

また、他の話者からの助言を確認して、タナー副管長は次のように語った。「評議会の制度によって教会を運営する一方で、忘れてならないのは家族会議である。私たちが教会で行なっていること、また行なうべきことの多くは、個人と家庭を助けることを目的としている。したがって家族会議を忘れないようにしましょう。そして、教会の基となる家庭を守り、強めるために、最善を尽くそうではないか。」

ハワード・W・ハンター長老は、新たに地区代表に与えられた幾つかの責任について触れ、地区代表は「担当する地区の管理者としての役割を担い、……ステーク部長たちと『会議を開き』……代表役員が地域評議会で行なうと同じように、地区評議会で優先順位を定め、計画し、見守り、訓練を施す必要がある」ことを述べた。また、地区代表は「代表役員のスタッフ」であり、若干の例外事項はあるが、多くのことについて「ステーク部長を管理指導する立場に立つ」と説明している。

また、ハンター長老はある興味深い調査結果を述べた。「ワード部の霊的健康と活動の鍵を握るものは数多いが、中でも成功と失敗のパロメーターとなるのが、ワード部男性会員に対するメルケゼデク神権者の割合である。不活発な長老や長老見込み会員の活発化や昇進に時間を効果的に充てると、ワード部全体

の靈性が高まることは明らかである。同時に、子供たちや青少年を助けたいと思うならば、まず両親を援助しなければならないこともわかりだろう。」

さらに、伝道活動については次のように語っている。「私たちの手元に、素晴らしい情報があるので御紹介したいと思う。それは、改宗者の人数が専任宣教師の人数ではなく、教会員数に大きく左右されるということである。改宗者のバプテスマ数を大幅に増すために私たちにできることは数多くあるが、中でも教会員が効果的に伝道活動に参画することが、その第一に挙げられる。」

セミナー午前の部の最後の話者であったマーク・E・ピーターセン長老は、「地区代表という言葉から受けるイメージ」は、召しに関係なく他のすべての神の僕から受けるイメージと何ら変わらない、と述べた。

さらに、イエス・キリストを私たちの模範とし、「キリストのごとく」なること、イエスがキリストであることを人々に証すること、またイエスと御父が一致しておられるように私たちもひとつとなることの大切さを強調した。

またピーターセン長老は、各人が義しい者となることの大切さに触れ、み業に携わる者としてふさわしい徳を身につける責任のあることを地区代表たちに訴えた（教義と聖約第4章参照）。「自分がキリストのようになれば、人にもそうなるように教えるであろうし、自らを主に捧げていれば、人にもそうするよう教えるであろう。そして、自ら率先してプログラムに従えば、人々にもそうするよう教えられるのである。」

家庭の中で模範を示すことも同じように大切である。「私たちは、キリストのような模範を示し、妻や子供たちに主を信じる信仰を持たせるようにしているだろうか。」

ピーターセン長老はまた、「教会における地位や誉れなどに対し」不当な大望を抱くことを警告している。「指示に完全に従う態度を持

ち、細い点まで指示通りに行なうことである。……どのような場合でも、献身的に義務を果たすことを目指していただきたい。」

話の結びに当たって、長老はこう述べた。

「主は私たちに生産者となるよう望んでおられる。豊かな実を結ばせるように命じておられる。……私たちの実がいつまでも残るような働きをするために、私たちは召され、聖任されているのである。言葉を変えて言うと、私たちは目標に向かって計画し、祈り、実践しなければならない。私たちの怠慢のために落ちこぼれる者がいない、証を失う者や不活発になる者もないという目標である。」

私たちが忠実に歩む時、「貴い約束が与えられる」と、ピーターセン長老は言う。救い主はこう約束しておられる。「もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。」（ヨハネ15：10）

このセミナーで紹介された新しい地区代表は、以下の12名である。日本大阪の安芸宏；メキシコ、チワワ州コロニアアレスのウォールド・ブラット・コール；南オーストラリア、バラヒルズのドナルド・W・カミングス；ウルグアイ、モンテビデオのエイリエル・アルサイセス・フェドリゴッティ・シニア；南アフリカ、ヨハネスバーグのルイス・P・ヒーファー；カナダ、アルバータ州カルガリーのブレイン・L・ハドソン；イタリア・トラバグリアトのレイオポールド・ラシェイ；オーストラリア、エッピングのアイアン・グッドウィン・マッキー；ユタ州ソルトレーク・シティのスペンサー・ハムリン・オズボーン；アルゼンチン、ブエノスアイレスのアルツォ・パールメリー；韓国京城の韓仁相；バージニア州リッチモンドのニール・ウッドロウ・ズンデル。

☆

☆

キンボール大管長、 伝道活動のビジョンを語る

副主幹 マービン・K・ガードナー

1979年3月30日金曜日の地区代表セミナーの冒頭で、スペンサー・W・キンボール大管長は、中国における伝道活動に備えをするように語った。

キンボール大管長は、合衆国と中華人民共和国との国交が正常化することを「殊の外、深い関心をもって」見守っていたと語る。また、1979年1月9日に上海で開催された宗務部の第一回宗教会議についても触れた。この会議では、カトリックやプロテスタント、仏教、ヒンズー教などの宗教代表者800名が、宗教活動について話し合った。

「私たちは前回の大会で、すべての国、特に中国に平和がもたらされるよう全会員に真剣な祈りをお願いした。また、私たちの宣教師が入国できるように祈ることをお願いした。それ以来、大勢の人々が中国を訪れ、多大な関心が向けられた。私たちの嘆願を聞き届け、偉大な隣人である中国を、主イエス・キリストにぬかずく大家族に加えて下さるように天父にお願いしたいと思う。」

次いで、キンボール大管長は、この大國での伝道活動を開始するためのいろいろな方法について語った。「私たちはもっと言葉の勉強をする必要がある。中国の北京官語に通じた人がもっと必要である。」

大管長はまた、中国人自身ができることを幾つか挙げている。「中国人の教会員は、中国において主のみ業が発展するように祈っていただきたい。独身の中国人の青年はすべて伝道に出る準備をしていただきたい。」これを援助するために、香港ではすべての教会堂で北京官語のクラスが設けられている。

「中国の子供たちは、中国で伝道するのに備えて、貯金をしていただきたい。合衆国やカナダにいる中国人の会員たちを強めること

も必要である。」

キンボール大管長は、デビッド・O・マッケイ大管長とヒュー・J・キャノン長老が、1921年に中国を福音伝道のために奉獻したことを出席者に思い出させた。「彼らは急速に朽ち果てている神社や塔、寺院を通り抜け、いと杉の森に入った。すると敬虔な思いにかられ、何かが頭上にとどまるのを感じた。彼らは目に見えない聖い御方が自分たちを導いておられることを確信したのである。そして、世界で最も人口の多い国の中心地、北京で、何人にも妨げられることなく、マッケイ大管長は奉獻の祈りを捧げたのである。」

キンボール大管長はまた、ナイジェリアとガーナでの宣教師の働きについて語った。その地で働いているレンデル・N・メイビー長老とエドウィン・Q・キャノン・ジュニア長老からの最近の手紙を紹介した。

「主のみ手が、私たちの訪れる先々であらゆる事柄の上に及んでいることがはっきりと分かります。……これほどの成功を取めるとは考えてもみませんでした。……私たちはまるで、話に聞いた初期の宣教師のような活動をし、成功を取めています。これほど容易に人々が福音に引きつけられるところは、世界のどこを捜しても恐らくないでしょう。手を差し伸べさえすれば、機会はそこにあるのですから。一軒一軒戸別訪問する必要などありません。チラシを用意しておくだけでよいのです。せわしく通りを歩いている人でも、立ち止まって話してくれます。建築現場で働いている人でも、チラシを受け取ってくれます。そして、1時間ほどしてその現場を通ると、彼らがチラシを読んでいる光景を目にします。このようなことは、珍しくありません。

先日、バプテスマと組織のことで南部に車

を走らせていたところ、ウムアヒア市の中央でタイヤがパンクしてしまいました。すると、制服を着た消防士がわざわざ立ち止まって、タイヤの交替を手伝ってくれたのです。そこで私たちは彼に、『ジョセフ・スミスの証』のパンフレットを渡しました。すると、15分もしないうちに、その消防士は私たちのところにやって来て、この教えをずっと待っていた、と言うのです。そして、バプテスマを受けたいと言いました。それから、自分の村の人々もこの福音を受け入れるに違いないと話してくれました。その村は、私たちのいた道路から、45キロほど南方にありましたので、私たちはそこに立ち寄りしました。最初に出会った村人は、学校の教師をしている人で、偶然にも先の消防士の親戚でした。私たちはその人の家に案内され、消防士の奥さんと6人の子供たちをはじめ、大勢の人々の歓迎を受けました。教師にモルモン経を1冊贈り、私たちはあなたにこの書物を渡すために地球の反対側から旅をしてきたので、是非読んでいただきたいと言いました。すると彼は、自分だけでなく、村人にもそれを読んで聞かせたいと答えてくれたのです。」

キンボール大管長の語るところによると、改宗者のバプテスマの総数は、ナイジェリアで483名、ガーナで430名である。大管長は、教会が今や大管長会特使のデビッド・M・ケネディー兄弟の援助もあって、新しい地域に広がっていることを指摘した。

「私たちは、あらゆる地域で、真理を求めている人々や、生活を改善したいと望んでいる人、家庭を見直そうとしている人、福音のメッセージを聞いてその真理を認める人、そのような人々を見いだしている」と大管長は語る。

しかし、国内で福音を宣べ伝えることを許可しない政府があるので、「私たちは個人的にも、また家庭や評議会や集会の場にあっても、主の助けによって、中国やソ連、東ヨーロッパの諸国、中東の国々の指導者の心を和らげ

る方法を見いだせるように祈り続けたい。イエス・キリストの福音と真理を教えることを制限し、あるいは全く禁じているすべての国の指導者の心が和らぐように祈りたい。そして、命じられているように、全世界で主のみ業が推し進められるように願っている。天父は私たちの祈りを聞いて下さるだろう。私はそう確信している。ただし、私たちは揺るぎない信仰を持って願わなければならない。そして、門が開かれた時に足を踏み入れる備えをしなければならない。」

キンボール大管長はまた、レーマン人の中で教会が発展していることに喜びを示し、ジョン・テイラー大管長の言葉を引用した。「神からの承認を保ちたいなら、レーマン人の中における主のみ業を引き延ばしてはならない。」

レーマン人の中で伝道している宣教師の数については、「教会の中にレーマン人の新たな世代が誕生している」と述べている。そのため、レーマン人宣教師の数は、昨年よりも27パーセント増加している。

しかし、教会全体を見渡し、会員総数と宣教師数とを比較した場合、その割合ははるかに低く、大管長は落胆した様子であった。

教会員の1パーセント（現在0.67%）が伝道に出れば、宣教師は41,000名を越えるはずである。しかし、残念なことに、現在はずか27,699名である。各ワード部、支部からもう一組夫婦の宣教師を出すだけで、16,500名の新しい宣教師が生まれる。各ステーキ部からあと5組夫婦の宣教師を送れば、10,000名以上増える。「家に帰る道すがら、このことを考えていただきたい。」

キンボール大管長は宣教師に関するもうひとつの点に触れた。「私は、主要都市に住んでいる、言葉を異にする少数民族に手を差し伸べるために、何かをしなければならないと痛感している。」¹ 実に、合衆国には、スペイン語や中国語、ギリシャ語、ポルトガル語、イタリア語、ポーランド語など様々な言葉を話す人々が何百万人もいる。

末日聖徒イエス・キリスト教会 教 会 幹 部

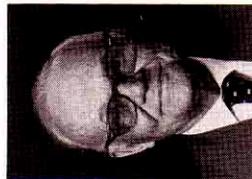
大 管 長 会



第一副管長
N. エルドン・タナー



大管長
スベンサー・W. キンホル



第二副管長
マリオン・G. ロムニー

十二使徒評議員会



エズラ・タフト・ベンソン



マーカ・E. ピーターセン



リッパント・リチャーズ



ハーワード・W. ホイル



ボイド・K. パッカー



トーマス・S. モンソン



ジェームズ・E. ファウスト



ジョセフ・J. アシュトン



L. トム・ペリー

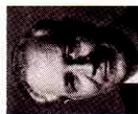


ロバート・B. ヘイト



ブルース・R. マッコンキ

大祝福師



エルドレッド・G. スミス

七十人第一定会会長会



W. D. Grant
W. D. Grant



H. H. Dan
H. H. Dan



H. H. Dan
H. H. Dan



H. H. Dan
H. H. Dan



H. H. Dan
H. H. Dan



H. H. Dan
H. H. Dan



H. H. Dan
H. H. Dan



H. H. Dan
H. H. Dan

七十人第一定会



M. H. Barton
M. H. Barton



P. P. Brockbank
P. P. Brockbank



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



A. E. Charles
A. E. Charles



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



R. R. Bradford
R. R. Bradford



M. S. James
M. S. James



M. S. James
M. S. James



M. S. James
M. S. James



M. S. James
M. S. James



M. S. James
M. S. James



M. S. James
M. S. James



M. S. James
M. S. James



M. S. James
M. S. James



M. S. James
M. S. James



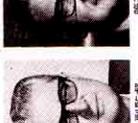
E. E. Fullerton
E. E. Fullerton



E. E. Fullerton
E. E. Fullerton



E. E. Fullerton
E. E. Fullerton



E. E. Fullerton
E. E. Fullerton



E. E. Fullerton
E. E. Fullerton



E. E. Fullerton
E. E. Fullerton



E. E. Fullerton
E. E. Fullerton



E. E. Fullerton
E. E. Fullerton



E. E. Fullerton
E. E. Fullerton



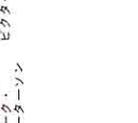
S. W. Young
S. W. Young



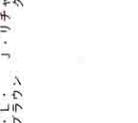
S. W. Young
S. W. Young



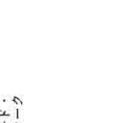
S. W. Young
S. W. Young



S. W. Young
S. W. Young



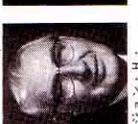
S. W. Young
S. W. Young



S. W. Young
S. W. Young



S. W. Young
S. W. Young



S. W. Young
S. W. Young



S. W. Young
S. W. Young

七十人第一定会名譽會員



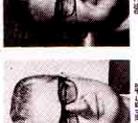
J. A. MacCallum
J. A. MacCallum



J. A. MacCallum
J. A. MacCallum



J. A. MacCallum
J. A. MacCallum



J. A. MacCallum
J. A. MacCallum



J. A. MacCallum
J. A. MacCallum



J. A. MacCallum
J. A. MacCallum



J. A. MacCallum
J. A. MacCallum



J. A. MacCallum
J. A. MacCallum



J. A. MacCallum
J. A. MacCallum

管理監督会



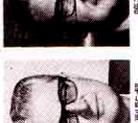
J. R. Taylor
J. R. Taylor



J. R. Taylor
J. R. Taylor



J. R. Taylor
J. R. Taylor



J. R. Taylor
J. R. Taylor



J. R. Taylor
J. R. Taylor



J. R. Taylor
J. R. Taylor



J. R. Taylor
J. R. Taylor



J. R. Taylor
J. R. Taylor



J. R. Taylor
J. R. Taylor

第一副監督
H. H. Hart, J. R. Taylor

管理監督
W. L. Bickart, J. R. Taylor

第二副監督
J. R. Taylor, J. R. Taylor

管理監督
W. L. Bickart, J. R. Taylor

さらに、合衆国に住むユダヤ人の数は、イスラエルに住む数よりも多いことを指摘し、次のように述べた。「イスラエルでは、ユダヤ人を改宗し、バプテスマを施した場合、その宣教師は罰金を科せられた上に投獄される。しかし、アメリカではそのようなことはない。ご覧のように、この国でできることはまだたくさんある。」

次に、全世界で主のみ業の発展を見ることができるようになり、キンボール大管長は、教会が急激に発展している国々では、経費の節減を考えて小さな教会堂を建築することになったことを語った。「これが、レーマン人の間でさらにみ業を推し進めるために、私たちが行なおうとしていることである。」

もうひとつの改善点は、教会が急激に発展している地域における家族や教会ユニットのために、テキストや報告書の簡易化が図られるようになったことである。これによって、教会の組織から遠く離れて住んでいても、教会の祝福を受けられるようになった。

教会評議会の新しい制度が発表になったことに関連して、キンボール大管長は次のように述べている。

「主から指示されたすべての事柄を行なうために何らかの改善が必要であるとすれば、この神権時代のこの時期になすべきすべてのことを与えられたとしても、何ら驚くにあたらない。」

また、今後個人と家族を中心とした事柄をしばしば耳にするであろうが、驚くには及ばない。私たちの基本的な責任は、個人と家族とに関わるものだからである。聖典では個人のことが特に述べられ、近代の予言者たちは家族のことを語っている。そのことから、個人と家族のことが強調される理由がよくわかる。同時に、特に現代のような時代にあっては、それが具体性をもっていることもわかるのである。私たちは数十年前に使っていた物指しを、今も使えるとは必ずしも言えない。今利用できる交通手段に、必ずしもいつまでも頼れるわけではない。教会幹部は、簡易化によって、また家族のような基本組織や基本

原則に目を向けることによって、大きな力が得られることを確信している。」

さらに、キンボール大管長は指導者たちに、教会は「多忙な教会指導者やその家族のために、ある程度の時間を解放しよう」と努めている」と語り、地方の指導者たちに「時間の余裕を持つように」と助言している。

1980年の世界記録会議の強調点は個人の記録であり、これについてキンボール大管長は、教会員、非教会員を問わず、大勢の人がこれに出席して自叙伝の書き方やまとめ方を習得するようにしてほしいと述べた。また、次のように語っている。

「私たちは皆さんの注意を喚起したい。教会員は教会の素晴らしい発行物を活用するようにする必要がある。なぜなら、これらの書物は個人と家族のために有益だからである。神殿の近くに住んでいる人にも、遠隔地に住んでいる人にも、多くの益を与えることだろう。」

科学技術の発達によりいろいろな点で便利になったが、活字は今なお情報源として欠かせないと、キンボール大管長は語る。「コミュニケーションの技術が高まり、人々の交際がおろそかにされるようなことになって、教会員は聖典や教会刊行物から離れることはない。教会刊行物を愛読し、その姿を子供に見せている善き両親は、知らず知らずのうちに子供にとって力強い模範となっているのである。」

キンボール大管長は地区代表に、救い主が指導者として示された模範に従い、指導を託されている人々のよき僕、友となるように勧め、「神の王国にあつて、私たちは責任が大きくなればなるほど、仕える者とならなければならない」と語った。

教会は「今や驚くほど発展している。主のみ業はかつてない勢いで前進している。」そして大管長はこう続けている。「しかし、全世界40億の人々に福音を広めるためには、もっともっと多くのことをしなければならぬ。……私たちにはなすべきことが多い。そして、敵の力も非常に強くなっている。この業を行なうのに疲れ切ってしまうないように、私たちは皆さんに勧告し、祈るものである。」

死者の贖いのために

日本・韓国地域
系図委員会会員 柏倉 仁

神殿の完成を1年後にひかえ、会員の皆様はその日を楽しみに待っておられるのではないかと思います。神殿が完成すると、自分自身のエンダウメントや親子の結び固めのほかに、死者のためのバプテスマやエンダウメントの儀式も行なわれるようになります。これら死者のために系図を探求して記録を作成し、神殿の儀式が施せるようにすることは、私たちこの世にいる者の責任です。これまでに世界各地の神殿で儀式を終えた死者の数は、5000万人を越えています。系図プログラムは現在、4つの基本分野に分けて推進されています。

1. 4代家族の記録の完成
2. 個人と家族の歴史の編纂
3. 神殿の儀式の執行
4. スターキ部の人名抄出プログラムへの参加

私たちは個人や家族として、1, 2, 3, の段階を推進する責任があります。また第4段階は全教会員の共同責任です。

1980年の9月には東京神殿のオープンハウス、10月には献堂式が行なわれる予定になっています。私たちはこの素晴らしい目標に向かい、個人の責任として死者のための系図記録を提出するように計画しようではありませんか。ワード部や支部の系図アドバイザーは、4代家族の記録を完成していない家族を確認し、彼らに作成を奨励するために今何をすればよいかを考えて下さい。将来東京神殿で行なわれる死者のための儀式に備えて、今から行動を起こそうではありませんか。この庄のみ業に参加する個人と家族に、また指導者の皆様にみたまの導きを与えられ、楽しく働くことができるように心からお祈りします。アーメン。

「あなたはシオン山の救い手のひとりですか」

系図部神殿サー
ビスセンター 白石 誠

兄弟姉妹の皆さん、神殿の完成も近づき、亡くなられた先祖のことを思うたびに系図と先祖の探求が気懸りになっているのではないかと思います。皆さんの系図探求は進んでいるでしょうか。ここで今一度、皆さんの系図の進行具合を確認してみましょう。

1. 自分を含めた先祖の4代系図とこれら先祖の子孫を「家族の記録」用紙と「ペディグリーチャート(系図表)」に記入する情報(戸籍謄本、除籍謄本、過去帳など)を集められましたか。
2. 4代系図を記入した「家族の言録」と「ペディグリーチャート(系図表)」を神殿儀式のために提出されましたか。
3. 1か2のどちらかで「いいえ」と答えら

れた方は、2で「はい」と答えられるまで努力して下さい。

4. 2で「はい」と答えられた方は次に進んで下さい。

キンボール大管長は、本人を1代として4代までの先祖を探求し、神殿の儀式のために「家族の記録」を提出することは教会員一人一人の責任であると述べています。個人に与えられた責任は、4代までの先祖の探求です。しかし、それ以上を提出すればさらに良いことは言うまでもありません。私は4代系図はすでに提出しているから、もう責任を果たしたと思っている兄弟姉妹はいらっしゃいませんか。あなたが4代系図を提出した後に亡くなられた先祖の方はいらっしゃいませんか。

霊界で旨を長くして代理の儀式を待っている
先祖はほかにはないでしょうか。

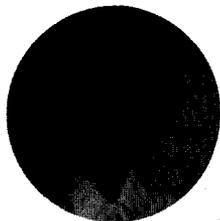
次に、今まで皆さんが提出してこられた「家
族の記録」のことですが、ソルトローク・シ
ラーの采図部東洋課 (Manual Processing
Department) または神殿サード・セクター
から、次の(1)、(2)のどちらかで皆さんのお手元に
返却された記録は、すでにハウイ神殿やソル
トローク神殿または提出者が参入した前記以
外の神殿で、代理の儀式が行なわれています。
あるいは、現在進行中か、または東京神殿で
代理の儀式が行なわれる予定になっています。
(1) 1978年6月15日以降に「家族の記録」と
して提出された記録はすべて、神殿サード
セクターから、調査完了後「家族の記録」
調査完了通知書と共に皆さんに返却されま
す。したがって、まだ返却されていないも
のは現在進行中であると考えたいだけ
ばよいと思います。
(2) 1978年6月15日以前に提出された記録に
関しては、次のいずれかに該当しなければ
なりません。

- ① 提出した「家族の記録」に対応するアー
カイブ記録 (Archive Record) に代理人
の付箋が付いたものが返却されている。
- ② 提出された「家族の記録」の中に、儀式
の施される人の名前に赤鉛筆で“C”の印
が付けられて返却されている。
- ③ ①、②どちらも返却されていない。すな
わち、「家族の記録」提出後、その記録に
関して何の知らせもない。

(2) ③に該当する方は、次のような場合です。
① 皆さんがソルトローク・シラーの采図
部に提出されたものが、神殿儀式用とし
てではなく、采図書館にソルトローク・シ
ラー用として綴じられてしまっている。この場
合は、返却されていない分を神殿サード・セ
クターへ再度提出していただかなけれ
ばなりません。
注：日本では特に過去数年間、神殿儀式用
4代采図と采図書館ソルトローク用4代采
図との区別がよく説明されておられず、
記録提出の際にその旨が明記されていな

かったため、提出者が神殿儀式用と思っ
て提出した「家族の記録」が、采図書
館にソルトローク用として綴じられてしまっ
たものが非常にたくさんあります。采図
図書館では膨大な量の「家族の記録」が
世界各国から集められ、国別を問わず名
前でABC順にソルトローク用とされています
ので、日本人の「家族の記録」だけを今か
ら抜き出して、それを神殿儀式用に切り
換えるのは実用的ではありません。
④ 提出者が記録提出後、転居したり、また
結婚により姓が変わったりして、神殿サ
ード・セクターにその旨の通知がないた
めに返却できず、この記録が神殿サード
セクターで保管されている。
過去に提出した「家族の記録」が返却され
ていないために、代理の儀式が行なわれたか
どうか不安に思っておられる方は、東京神殿
サード・セクター宛に「家族の記録」を再提
出して下さい。また、住所や姓が変わった場
合は、そのことを東京神殿サード・セクター
にお知らせ下さい。

戸(除)籍簿本を資料として作成した系図記
録上の傍系の死者(あらゆる遠戚を含める)
についても、今後神殿の儀式が施されること
になりました。したがって、簿本が廃棄処分
になる前に、資料を集めて、一人でも多くの
方々が私たちと同じ救いにあずかれるように
していただきたいと思えます。皆さんがこの
業を行なわなければ、ほかにはかれが行なっ
て下さるでしょうか。
主は、教会初期の聖徒たちに向かってこう
言われました。「さてわが親愛なる兄弟姉妹よ。
われ断言す、これは死者と生者に関する原理
原則にして、決してわれらの救いに関して軽
々に見過すべからざるものなり。それ死にた
る者の救いには必要にして、死にたる者の救わ
ることはわれらの救いにとりて必須なるこ
となり。パウロわれらの先祖に就きて言いた
る如くわれらなくば彼らは完うせらるること
なし。すなわちわれらの死にたる者なくば、
われらもまた完くたる能わず。」(教義と聖約
128:15)



日本横浜ステーキ部
町田第2ワード部
仲原 マヤ

系図探求で経験した 不思議な出会い

私が系図探求を熱心に始めようとしたのは、改宗した翌年の1971年のある日のことです。それは一家の愛の支えである夫が、神様のもとに召された時、ふたりの娘と共にこの世に残された私は、真理の福音を知りながら、毎日言い表わすことの出来ないほどに、悲しみ打ちひしがれた思いでした。その様子をご覧になった当時の岡崎伝道部長は、次の様に私達母娘を励まして下さいました。「仲原姉妹、系図探求をして3人でハワイ神殿に行きなさい。そこで神様は必ず愛する貴女達の先祖とご主人に会わせて下さるでしょう」と。不信仰な私は、系図探求をして果たして先祖の方や夫に会うことが出来るかしら、と思いつつも不承不承ステーキ部系図委員の助けを受け、系図の作成を始めました。その様な時『みたま』は私に「懸命に系図探求をしなさい」とささやきました。どれほどあつい思いに満たされたことでしょう。

ただただハワイ神殿に行けば愛する夫に会えるのだ。系図探求をしなければ……。今は亡き父母や、私をこよなく、いとおしんでくれた祖父母にも会えるのだ、と一途に思い、勇気を取りもどし系図探求の旅が始まりました。

夫の家系図を探求するのは、いとも簡単に思えました。なぜならば、夫の母や兄弟、親

戚もほとんど健在ですので、もしわからなければ、その方々に伺うことができるからです。夫は由緒正しい神社の神官の裔ですので、その神社に問えばたやすく先祖を探求できるからです。ところが私の方は、両親を幼い時に亡くしたため、そう安々と探求出来ません。一本の頼みの綱は、私の父方の先祖に関しては、父の兄たち、すなわち伯父たちが健在だということです。それでも父が亡くなってからは、私は遠縁に当たる朝倉家の養女に戸籍上も入籍したため、父方とは疎縁になっていました。まして母方とは、母の死後、完全に無縁となってしまいました。

そこには深い理由があったそうです。幼くして朝倉家の養女となった私が、そこで完全に身も心も朝倉家の者にならなければならない理由のひとつは、朝倉家は歴史上にも残る新田義貞公と戦って敗れた朝倉義景の娘の末裔であるということです。その家を継ぐことになっていたのですから、一旦入籍した以上は里心がつかないように、生家とは出来る限り交際があってははいけなかったそうです。そして落武者といえども一国一城の末裔であるその朝倉家の者として、一生を過ごさなければならぬようでした。何とかして母の本籍を探し出さなければ……と一心に思いましたが

母の本籍は、なぜか私の手元に集められた戸籍謄本上には、まったく記載されていないのです。このことは不思議でならないことでした。でも母にはたったひとりの弟がいたことを、私は幼少の頃から知っていました。この叔父を探し出せば、母方のことがすべてわかるような気がしてなりませんでした。

集められた戸籍謄本を全部引き出して、もう一度落ちて着いて入念に最初から目を通して見ました。すると、叔父の名前と住所がわかりました。「東京都芝区白金三光町 276 番地 広瀬 東雄」

どんなにうれしかったことでしょうか。でも次の瞬間、ガーン!!と叩きつけられるような思いが私の膨れ上る胸を突きました。この住所は、40年も昔のものだったのです。

あ、やっぱり駄目かも……と頭を抱え込んでいた私に、一筋の希望の光が射してきました。そして無意識のうちに、私は電話の受話器に手をかけ、叔父の新住所さがしに取りかかったのです。多くの人の手をわずらわせ、やっとわかった住所に便りを出したところ、一つの望みとしていたその叔父も、もはやこの世の人ではなく、30年前に亡くなっていました。次に心に浮かんだことは、「叔父に男の子が生まれた」という昔のうわさを頼りに、叔父の息子を探し出すことです。

叔父が亡くなっているにも、この奥さんまで世を去っていることはないかも知れない……と、なぜかそう強く思えてなりませんでした。そして戸籍上に記載されている、その奥さんの本籍地の役場宛に、叔父の息子「渉」の戸籍謄本を送って下さるようにと、手紙を書きました。

しばらくして、一通の分厚い速達を受け取りました。それは文字通り必死に探し求めた叔父の息子本人のものでした。戸籍謄本が先に送られて来るはずのものが、なぜ本人から直接手紙としておくられて来たのか、不思議でなりませんでした。それは次のような次第だったのです。

私が手紙で、叔父の奥さんを探すために出した役場の戸籍係に、その従弟「渉」が勤めていて、直接私の手紙を受け取って読み、ビックリ仰天したということなのです。

それから私はすぐに直接対面……ということになり、初めて母方の先祖の『ふるさと』である甲州路をさして旅立ちました。

こうして私は、従弟の家族や遠縁に当たる人々から、母の父、祖父のこと、またその先祖についてことごとく聞くことができました。

一心に祈りながら、すでにこの世を去られた先祖に想いをはせる時、いつも神様の大きな助けがありました。例えば、どうしても探求出来ない先祖の名前に行き合った時など、夢の中で神様は探求の方法を教え導いて下さいました。そのかいあって母娘3人が系図を手にハワイ神殿に喜びをもって参入出来ました。確かに神殿での家族の温かい永遠の結び固めの儀式の時には、愛する夫が私達のすぐ傍らに来て一緒に手を取り合うことが出来ました。どんなにうれしかったことでしょうか。もう私達には、夫から取り残されたというような悲しい想いはありません。また神殿で見た夢でこの様なことがありました。すでに霊界で福音を学び準備の出来た先祖の方々が白い衣に身をまもってバプテスマの順番を待つために列を連ねているのです。私に達は本当平安な温かい気持ちで永遠の絆を見ることが出来ました。私はもっともっと多くの先祖の方々と共に喜びを得るために、系図探求を続けたいと願っています。教義と聖約 127 章 4 節は先祖の救いを継続して中止しないようにと忠告しています。私は神殿を出る時に神様に次の様なことをお願いしました。自分自身の先祖のみならず、どうぞ「シオン山の救い手」として働かせて下さいと。私が神様のもとに帰る時、一人でも多くの方々と、心から喜び合って共に肩を抱き合えることを願います。その日を想像して、今日も私は系図探求の旅をします。神様の助けを信じて。アーメン。

天使の歌声 日本の地にひびく



▲ バスを降り、会場に入る団員たち

9月5日(水)、横浜の神奈川県民ホールを皮切りに、12日(木)、東京の普門館での公演を最後として、7日間にわたるモルモン・タバナクル合唱団の日本公演は大成功のうちに幕を閉じました。

来日したのは団員350名、随員、同伴家族100名、合わせて約450名。彼らは、私たち日本人の心に多くの感動を呼び起こしてくれました。

中でも圧巻は、団員のエネルギッシュな行動と素晴らしい歌声です。公演に聴き入る人人をただただ魅了するばかりでした。

彼らのリハーサル風景や団員の素顔等は、民間のテレビでも一部紹介され、多くの人々の目にとまりました。伝道の業に彼らが一役かったことは言うまでもありません。

団員の平均年齢は45歳。意外に高齢です。しかし、あの美しい声は、鍛えぬかれた練習もさることながら、人生も中ばを越え、円熟

したそのような年齢に達しなければ表現できないものなのかもしれません。団員としての所属年数は、20年に制限されているそうです。入団を希望する方々に少しでも門戸を広げる意味でとられている措置です。

レパートリーは讃美歌はもちろんのこと、クラシック、ポピュラー、フォークソングに至るまで幅広く、年350曲を数えるといえますからまさに驚異です。一流のプロの合唱団のレパートリーでさえ100曲前後ですので、その数の多さは比べものになりません。きびしいオーディションを受けて入る団員の力量も、このようなことからなるほどとうなずけます。

公演中、日本語で3曲が歌われました。

「恐れず来たれ聖徒」と「神よまた会うまで」、これは、末日聖徒のこよなく愛する曲です。そして「赤とんぼ」は日本人の愛唱歌です。聴衆は季節柄、郷愁をそそる何とも言い表わしがたい雰囲気になりました。

歌を聴きながら、日本人に対する選曲の配慮がこのようなところにも施されたのかと実に心暖まるものを感じました。

コーラスは言うまでもなく、私たちはオタリー兄弟とリプリンガー兄弟の指揮、またロングハースト兄弟とカンディック兄弟のピアノの演奏と、技量の素晴らしさに感嘆しました。

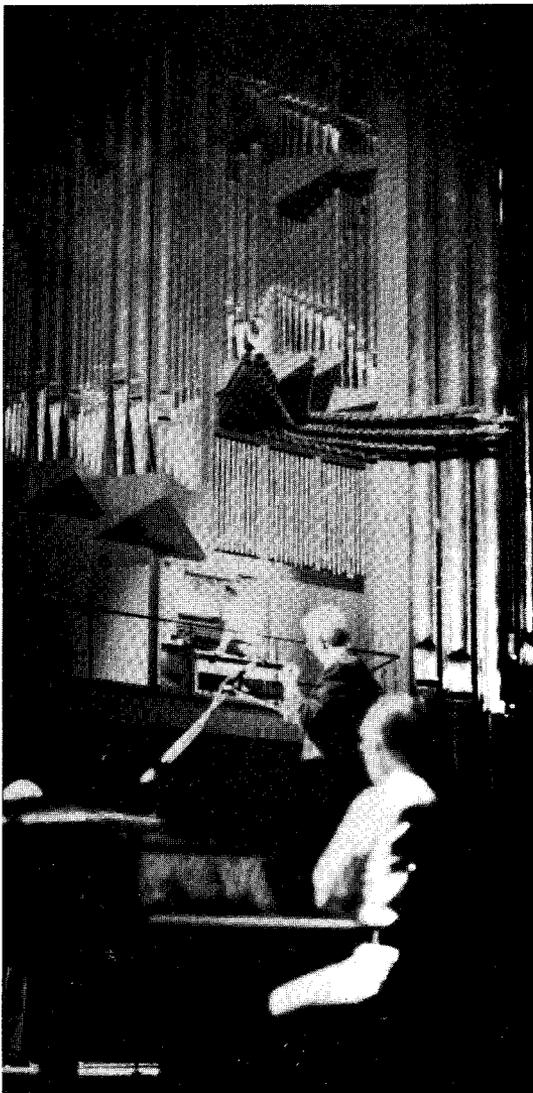
6日(木)、NHKホールでのロングハースト兄弟とカンディック兄弟のパイプオルガンによる演奏は、私たちにとって願ってもない特別なプログラムでした。NHKホールを揺るがさんばかりのパイプオルガンの音。聴衆はまさに酔いしれ、クラシック音楽の味わい深さをまざまざと思い知らされました。

公演には、遠く北海道や沖縄から来た聖徒たちもいました。彼らはモルモン・タバナクル合唱団のスピリットを得るために多くの犠牲を払って来たのです。札幌から来たある姉妹は、公演を終わっても感動の涙を押さえ切れずに、次のように語ってくれました。「素晴らしいの一語に尽きます。この経験を私ひ



▲記者会見にのぞむオタリー兄弟(左)とエバンス会長(右)

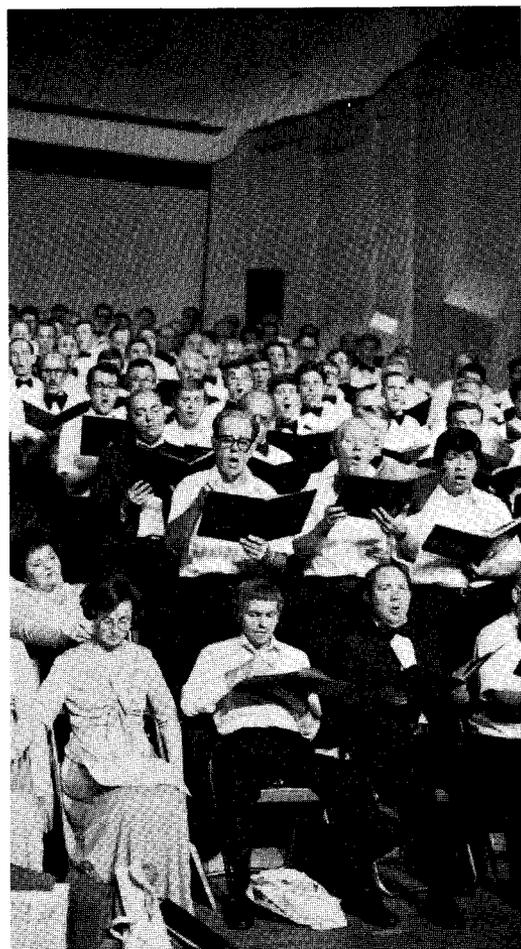
▼手前よりカンディック兄弟、オタリー兄弟、
遠方はパイプオルガンを弾くロングハースト兄弟





▲ロングハースト兄弟(右)とカンディック兄弟の連弾

▼NHKホールでのリハーサル風景



とりの祝福としてではなく、来ることのできなかった多くの人々に伝えて、共に分かち合いたいと思います」と。これは、遠方から来られた人々の偽らざる気持ちであったに違いありません。

公演の合間に、団員の方や随員の方にインタビューする機会もありました。

ある団員は「日本の公演を本当に楽しみにしていましたが、今実際、このように日本人の皆さんの前で公演できるのは夢のようです」と喜びを率直に語ってくれました。



▲指揮者のオタリー兄弟

また、ある随員の方も、「日本にははじめて来ました、このような美しい国で公演できる私たちはとても幸せです。私たちはこちらで日本の方々にとても親切にさせていただきました。本当に来て良かったです」と、うれしさを体いっぱい表現して語ってくれました。

教会員以外の方々も多数この公演に来られました。彼らもモルモン・タバナクル合唱団のプロをしのぐ力に感心していました。

モルモン・タバナクル合唱団の公演が彼らに対するの伝道にもつながることを考える時、その祝福は計り知れないものがあります。

私たちはこれを機会にさらに神さまの業を広めることができるよう願っています。

予言者スペンサー・W・キンボール大管長を通して主から与えられたこの素晴らしい公

演が、この美しい日本の地で美しい花を咲かせた今、豊かな実を結ぶのも間近いことでしょう。収護の季節を前にした9月のこのモルモン・タバナクル合唱団の日本公演は、日本の地における教会の明るい将来を象徴しているように思えてなりません。

(聖徒の道 編集部)



NHKホールでのリハーサル風景▶

▼NHKホールでのリハーサル風景



すなわちシオンはその美
と聖とを増し、その境域
は拡がりそのステーキ部
は堅うせられざるべから
ず。われ誠に汝らに告ぐ、
シオンは起ちてその美し
き衣を着けざるべからず
と。

（教義と聖約82：14）